

一色小学校区地域再生協議会 6年間の活動記録



撮影 斎田 一郎(百合が丘2)

令和4年4月

目 次

一色小学校区地域再生協議会の六年間を振り返って
一色小学校区地域再生協議会会長 岡村 昭寿

6年間の事業活動に幕 協議会だより 第94号
副会長 山本正博、副会長・事務局長 廣上正市
副会長 関口正美、会計 筧 和憲
神奈川県住宅供給公社部会長 金子久徳

6年間を振り返って 協議会だより 第95号
音楽活動部会長 三浦憲門、移動支援検討部会長 岸野 修
古民家部会長 松本篤子、散策路部会長 古矢俊雄
友情の山部会長 岡村昭寿
仲野直哉 神奈川県住宅供給公社専務理事
薮 健夫 神奈川県住宅供給公社元専務理事
志賀道郎 二宮町政策部長
小島孝紀 二宮町政策部地域政策課長

「一色小学校区地域再生協議会」を設立 二宮町記者発表資料

再生協議会事業報告
平成29年度、平成30年度
令和元年度、令和2年度、令和3年度

協議会だより
第1号(平成28年5月)——第93号(令和4年2月)

一色小学校区地域再生協議会の六年間を振り返って

一色小学校区地域再生協議会会長
岡村 昭 寿

いつも何かにせきたてられているような、「あっ」という間の六年間であった。

地域再生を標榜し、町、県住宅供給公社、地域の三者によって平成28年5月に設立された「一色小学校区地域再生協議会」(以下「協議会」という)は令和4年3月末をもって解散する事となった。

地域再生の概念は甚だ抽象的である。少子高齢化や人口減少の進行が著しく、地域コミュニティの衰退が顕著な中で、地域がどう変われば再生と言えるのか その答えは定かではない。

協議会は一色小学校区の3地域(一色、緑が丘、百合が丘)を活動範囲として、設立当初は当該地域内の地域資源の利活用や、地域交流の活性化が期待出来る4部会(友情の山、古民家の活用、文化イベントの振興、地域福祉)と、地域の課題をワークショップ等で掘り起こす地域課題検討部会、さらには県住宅供給公社部会の併せて6部会でスタートした。

また各部会の活動をボランティアで支えていただく部会員は、公募又は勧誘等によってお願いをして、各部会とも10～15人前後の方々の協力を得ることが出来た。

各部会の事業実施には、町との協議、関係者との連絡・調整、事業協力者の掘り起こし、折衝等々が必要不可欠であり、かつその内容は多岐にわたる。

これらの事を担うコーディネーターが事業の道筋をつけ、各部会の事業計画をまとめる部会長が事業推進役となり、さらには地域への意識が高い部会員等の協力によって、協議会活動は支えられてきた。

また協議会活動の広報については、町広報誌、回覧板、掲示板、PCのホームページ等を開設して発信してきた。

広報は大別すると二つある。一つは協議会全体の動きを知らせる「協議会だより」と各部会の活動内容を事前に掲示板等で広報するチラシである。中でも協議会の広報誌である「協議会だより」の発行回数は6年間で95回にも及ぶ。その内容は町との協議内容、役員会議、部会長会議、各部会の活動予定、報告等協議会の活動を克明、平易に説明している。この広報誌が協議会の名と役割を地域内外に広く知らせ、各活動の関心を高める等その果たした役割は非常に大きい。

地域を元気にしたい、地域の魅力をグレードアップしたい、協議会はこの思いだけを念頭に、地域で何をすればいいか、住民の力で何が出来るのかを模索し、様々な活動を展開してきた。

1年ごとに事業内容を検証し、部会のスクラップアンドビルドを行なうとともに、地域の重い課題(移動支援、空き家対策)にも向き合い、専門家の協力や県住宅供給公社等の支援を得て活動してきた。

これらの活動には地域内だけではなく地域外の方々も関心を示された事から、参加者は地域内外に広く波及したと言える。この事は地域間の交流が活発化し、地域コミュニティの活性化に大きな刺激を与えたと言えるのではなかろうか。

一方、各自治会助成団体(老人会、子供会等)の衰退に歯止めがかからない。担い手不足が原因と考えられるが、放任すれば団体の選択肢は解散しかあり得ない。地域コミュニティの有力団体だけに地域に及ぼす影響は大きく、単位自治会で対応するのは容易ではない。単位自治会自身も担い手不足で苦しんでいるからである。

これら地域にまたがる共通の課題には単位自治会が緩やかに連合して取り組み、対応策を見出すしかない。

しかしながら、町の地域再編に対する考えは協議会設立時の頃より後退し、地域には各々の事情や歴史があり、行政が旗振りをして一律に見直しをする事には無理があるとの見解で、積極的な姿勢は感じられない。また自治会や地区の運営には、行政は関わるべきではなく、あくまで後方支援の立場であるとの考えと思われる。

協議会の活動は国、町の助成を受けて3地域に跨がって行なってきた。この3月に解散する事になるが、この活動の存廃についての役員・部会員の意見は継続ということで衆議一決した。協議会を支えてきた会員の地域への熱い思いが感じられる。

協議会の後継組織は自立運営が原則である為、組織設立の最大の問題点はその運営原資をどう手当できるかである。そのため3自治会の代表に協議会の会議に参加していただき、議論を重ねて支援及び後継組織役員就任の合意をいただいた。

また町も生涯学習事業を対象とする新たな補助金制度を創設し、当該事業を支援する事を表明された。

後継組織設立の愁眉が開かれたのである。このことの持つ意味は非常に大きく重いもの

があると感じている。3地域が一体となって地域活性化、共通課題に取り組むベースが出来たと言うことになる。後継組織が3自治会のカスガイとなって3自治会が緩やかに連合する事は地域組織の見直し、再編の先駆けとなるのではなかろうか。

二宮町は消滅都市の恐れありと報道されて久しい。町の体育祭や継走大会等の参加チームの構成等に、高齢少子化の現象を如実に見て取れる。町は優遇策を掲げて都市住民の移住誘導に努めているが、将来の推計人口では人口減をいかに少なくするかに留められるかとしている。そうであっても町民の年代構成が少しでも若返ることを期待したい。

コロナ禍で企業がテレワーク等による働き方改革を取り入れた事で、都市住民の郊外への移住が加速され、町の紹介物件も払底したと聞いている。人口減に悩む市町村には追い風となる現象だが、この働き方が将来に亘って定着するかは不明である。

一時的な現象ではないかとの見方もある。バンデミックと称されるコロナ感染症に起因する大きな社会問題によって、人口減が一時的に改善されたとしても継続性はない。魅力ある、元気な地域に再生するには地域住民が一体となって知恵を出し、汗をかいて地道な活動を続けて行くしかない。協議会の後継組織「一色小学校区元気なコミュニティ協議会」の活躍を期待したい。

最後にこれまで協議会の運営にご指導、助言をいただいた町職員の方々、賃貸住宅の再生と魅力ある地域創生のため、ひとかたならぬご尽力いただいた県住宅公社の方々、事業活動を支え、ご協力いただいた協議会役員、部会員の方々並びに関係者の方々に心より御礼申しあげる次第です。

有り難うございました。

令和4年3月末

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

6年間の事業活動に幕

再生協議会 R3 年度決算、解散決定

地域再生協議会は3月30日(水)、令和3年度第2回本部会議を開き、事業活動、決算報告を承認するとともに、協議会組織の解散を決めた。H28年5月に「安心して住み続けられる二宮町の地域再生モデル事業」としてスタートし、地域福祉の再編、文化・音楽活動振興、古民家活用、生涯教育、公園・里山散策路整備、空き家対策など小学校区域をベースにした様々な地域課題に取り組んできた。地域住民主導の取組みとして多方面の注目を集めてきた。ただこの2年は、コロナ感染の広がりも



あって身動きが取れず、幾つかの課題を積み残したままの解散になった。

H3 年度決算は、別体系の空き家対策事業を除くと、収入、支出はそれぞれ160万円、140万円台にとどまり、最も低調な年度に終わった。前年度に続き、コロナ感染による影響をもろに受けた。解散に伴う差引収支金は約18万円。この間積み上げた資産、備品類は国のルールに沿って後継組織が引継ぐ物と町へ移管する物に別れる。

岡村昭寿会長のあいさつ(要旨)

岡村昭寿会長のあいさつ(要旨)

地域の魅力づくりにために、尽力されてきた各部会長の皆様に感謝致します。折々に指導、助言をいただいた二宮町、音楽祭や空き家対策をはじめ、共に努力してくれた県住宅供給公社にも深くお礼を申し上げます。後継組織の議論では、各自治会の理解と支援によって新たな展望を開くことができました。解散に当たって、幾つかの困難もあったこの活動にかかわった多くの方々に、改めてお礼を申し上げます。

(裏面に3年度決算書 3、4頁に役員・部会長の「6年間を振り返って」を掲載)

後継 元気なコミュニティ、24日発足

一色小学校区地域再生協議会の後継組織、元気なコミュニティ協議会の設立会議が24日(日)、百合が丘老人憩いの家で開かれる。昨年秋に準備委員会を設けており、生涯教育、音楽活動、友情の山、空き家対策など主要な事業を引き継ぐ。また新組織は、6年間の事業を停止した再生協議会だけでなく、近く解散を決める百合が丘・一色生涯学習推進会の事業理念や資産も継承してスタートすることになる。当日は規約決定、役員選出、事業計画、収支予算の審議などを行う。住民の方々のオブザーバー参加を歓迎致します。

人口減などに対応する二宮町の総合戦略(H27年度作成)の中で、そのモデルとして位置付けられていた一色小学校区での地域再生事業が、町政レベルでの何の総括もないままに終了した。スタート時点では、こうした事業・活動を全域に広げる——との想定が立てられていた。この町でいわば孤高の活動を展開してきた一色小学区協議会の主要役員、事業部会長に、「6年間を振り返って」の感慨を短い言葉で綴ってもらった。

事業部会長編は、次回「協議会だより」に掲載

再生への手応え 会長(兼友情の山部会長) 岡村 昭寿



少子高齢化がますます深まり、地域コミュニティが衰退していく中で地域を元気にする事は難題である。再生協議会の6年間に亘る活動には、多くの方の参加があり、活気あるものだった。このことは地域住民のこれら活動への関心の高さを伺わせ、地域活性化への手応えと期待を感じさせた。ところがこの2年間は積み上げてきた活動が充分に行えず、活性化への期待が尻すぼみになったのは残念でならない。

それと、三地区に跨がった協議会の運営には、各地区から選ばれた役員、部会員等の大勢の方々が関わり大変なご尽力を頂いた。その為、人的交流や相互の既存団体への理解も自然に深まり、協議会の運営そのものが無意識のうちに地域興しのような効果も生んだのではないかと感じている。

いずれにしても、地域再生の成果は、数値化がなじまないだけにその評価は難しい。協議会としては町、県住宅供給公社、地域住民等の支援、協力を頂き、精一杯頑張った結果であると割り切っている。

協議会の後継組織である「一色小学校区元気なコミュニティ協議会」が、その名のとおり各自治会、地域住民等の協力をえて地道に努められん事を期待したい。

次は「ゲンコミ」で 副会長(兼地域交流部会長) 山本 正博



協議会6年間のうち、5年間を主に地域交流部会を中心に担当。コロナ禍の2年間は自粛でした。

地域交流部会の活動の中で、様々なキャリアの方と知り合えたことが有意義でした。現役時代とはまるで違う人達、地域や高齢者の方への熱意あるサポートなどは新鮮でした。

地域のコミュニティづくりを目指す「元気なコミュニティ協議会」の生涯学習部会を通じ、皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

100人のボランティアパワー 副会長・事務局長(兼空き家対策部会長) 廣上正市



地域再生の当初提案に村田町長が頭から反対したこと、一色小こりゅうルーム借用の難交渉、地域課題検討のワークショップ、合唱団結成に110人の応募者、400人が体育館に集合した音楽祭、国交省助成金申請の難作業、コロナ感染に振り回された2年間、バックアップしないと云っていた町長の豹変、自治会結集の難しさ——6年間にはいろいろなことがありました。何よりもこの活動に、100人以上のボランティアが常時参画してきた地域パワーは我々が誇りにすべき物のひとつです。

担当してきた協議会だよりは94号に。100号を密かに意識していましたが、そうはいきませんでした。極力、客観編集を心がけ、時には町に厳しいことも書きました。しかし、二宮町の担当課は揺らぐことなく、町のHPに載せてくれたことには敬意を表します。

国・町の助成から自主自立へ。とてつもなくも大きなテーマですが、6年間の経験を生かし、もう一步前へ進みたいと思います。住民の皆様のご支援をお願いいたします。
一緒に楽しみながらこの町、この地域をアピールしていきたいものです。

後継組織で貢献 副会長 関口 正美



一色地区会の地区長になり、充て職として再生協議会の副会長を拝命することになりました。就任当時どのような組織であるのかすら良く判っておらず、しばらくは会議でも様子見状態でした。

2年前はちょうどコロナ禍の始まりで、なかなか行事も行えない状況でしたが、自分の役割を何とか探して活動して来ました。特に友情の山の「やまゆり鑑賞会」は2年とも実施出来たのは良い経験になりました。他の活動はこれといった成果も無く、部会長の皆様に申し訳なく感じています。

ちょうど「一色小学校区再生協議会」の解散に当たってしまい、後継組織の話合いを進めて行く状況でしたので、少しは貢献できたかなと思っています。後継組織は各自治会などを中心に活動することになりそうなので、次の2年間で軌道に乗せるべく協力していきたいと思っています。

「独立採算」の会計へ 会計 筧 和憲



平成6年夏に転居したのは、温暖な気候で海や山にも近く、都心へも乗り換えなしで通勤できる静かな環境が気に入ったからです。自治会役員になったのを機に、協議会のボランティア活動に係わることになりました。やまゆり合唱団、邦楽演奏とお茶の集い、一色小体育館での音楽祭、こうりゅう塾などを通じ、地域の方々と色々な交流ができました。

令和4年度からの新体制への移行準備に、役員の一人として参画しました。当初から担当してきた文化イベント振興部会(音楽活動部会の前身)とやまゆり合唱団、地域交流部会(生涯学習部会の前身)の会計や総務的な業務も引き続き担当させていただくつもりです。新協議会では、公費支援削減対策として各部会の独立採算性が強化され、これまで以上に創意工夫が求められます。各部会や事務局の方々の協力を得て本部会計としての役割を担って行きたいと思っています。

先進の「お試し移住」 県住宅供給公社部会部会長 金子 久徳



県住宅供給公社部会では、平成28年の協議会発足より、共同農園の運営、コミュニティダイニングの運営、二宮こども音楽祭の開催など、当公社の保有資産を活用した取組みを中心に活動を行ってきました。

令和2年度からはコロナ禍の影響で、各種イベントの中止など活動の制限がありました。そのような中でも、空き家対策部会と連携した「お試し移住」の開催や、音楽部会が開催する「二宮やまゆり里山音楽祭」に協賛として参加するなど、協議会の皆様が機転をきかせていただいたおかげで社会情勢に応じた効果的な活動ができました。

特に「お試し移住」に関しては、民間団体が行う移住促進の取組みとして国内でも先進的であり、令和3年度の開催時には8組の利用者募集に対して合計91件もの応募がありました。また、二宮町内で移住できる空き家が無くなるという嬉しい悲鳴もありました。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

6年間を振り返って

——続・部会長、関係者の声

二宮を代表する合唱団へ 音楽活動部会長 三浦 憲門



協議会に関わって5年、平成29年度に文化イベント振興部会(現在は音楽活動部会)の部会長を依頼されたのが始まりでした。手探りながら「やまゆり合唱団」を立ち上げ、平成29・30年度は「やまゆり里山音楽祭」を一色小学校体育館で、また一色のふるさとの家で地域の皆さまの協力で「邦楽とお茶のつどい」を開催できました。

その後、令和元年・2年は台風とコロナ騒ぎで音楽祭も中止の中、令和3年11月から練習開始にこぎつけ、今年2月12日にラディアン開館20周年記念事業として、県住宅供給公社共催で、初めてラディアンで開催することができました。コロナ感染が懸念されましたが、来場者約250名と盛況裡に終えることができたことは指導いただいた先生方初め多くの関係者のご協力の賜物と感謝しております。

やまゆり合唱団は団規約を取り決め、運営・財政面とも自立を目指してより充実した活動に取り組んでいきます。

やまゆり里山音楽祭も10月15日に決まり、5月から練習を開始する予定です。

新協議会が目指す新たなプラットフォームの上で、二宮町を代表できるような合唱団を目指していきますので、皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

新たな人脈とアイデア 移動支援検討部会長 岸野 修



再生協議会は平成28年から6年間の活動でしたが、そのうち2年間はコロナ禍により活動自粛があったために実質は4年間ほどになってしまいました。

その中で、地域福祉部会と移動支援検討部会の2つの部会を通して、地域住民だけでなく町行政を含めた多くの関係者と討議・活動を重ねてきました。興味ある共通のテーマを多くの方と一緒に考えたり、調べたり、意見を交わしたことは得難い経験でありました。

再生協議会は、自治会や社協、ゆめクラブなどの既存の地域活動とは異なり、もう少し広い地域スパンの中で、特定の共通のテーマに関心を持つ人々が、それぞれの部会を通して自由に考えたり実践したりする組織でした。これまでの同一地区の中での限られた人間関係や、既存活動とは異なる新たな人脈、新たなアイデアを得たりすることが特に有用であったと感じています。あるテーマを深掘して、地域にどう生かすかということ互いに多くの人が考えて実行する行為は、目に見えない形かもしれませんが今後の地域力向上に確かにつながると思われます。

ただ、少し残念なのは、地域を支える新規の若手メンバーの参入が、当初期待したよりも少なかったことでしょうか。これについては永遠の課題であり、なかなか簡単ではありません。後継組織であるゲンコミに、引き続き期待したいところでもあります。

布石は十分打てた

古民家部会長 松本 篤子



GNP(グリーン二宮プロジェクト)を中心に、この地の生活文化を継承する古民家を守り、生かそうとする人たちが集まった部会です。立ち上げからあつという間に6年が過ぎてしまいました。返す返すも残念なのは、活動が軌道に乗りかけた時期にコロナ感染の問題が起こり、それまでの流れを発展させることができなかったことです。

発足初年度には、国の助成金を使って水道、トイレなどの大改修を行い、長期活用への基盤整備が出来たのは良かったと思います。その後、研修や講座、音楽イベント、ワークショップなどの利用が広がりを見せ、施設の管理をやりながら事業・イベントを企画する部会員にとってやりがいを感じる時期が続いていました。洋楽コンサートなど、参加者が屋外に溢れ出すこともたびたびありました。トイレの整備などによって、散策・ハイキングの中継地としての利用も高まりました。この2年は、それらがぱったりと止まったのはご承知の通りです。

ふるさとの家の管理は新年度以降、町・観光協会の下での活動に切り替わります。これを機に、協議会活動の中で蓄積してきたものを生かしながら、町外の方々への利用をもっと伸ばしたいと思っています。

運営の簡素化へ

散策路部会長 古矢 俊雄



後半の3年間を振り返ってみると、2020年度、2021年度はコロナ禍の影響で殆ど活動ができず残念であったが、2019年度は地域のイベントウォークを5回企画し、雨天等の中止もあり3回実施できた。毎回30人前後の参加者があり、地域の活性化に貢献できたと考えている。これも部会員をはじめ、関係各位のご協力の賜物と感謝致したい。

地域再生協議会の6年間は、公的資金を活用させて戴いていた立場から、活動面において様々な制約が感じられた。後継組織はその束縛からは逃れられるので活動はやり易くなると思われるが、成果を得るには地域の諸団体、及び住民からの支持や支援を得ることが不可欠となる。また、今後は活動を支える担い手が高齢化などにより確保が難

しくなるので、運営面を簡素化し担当者の負荷を軽減することが喫緊の課題として対応する必要がある。

魅力ある地域資源

友情の山部会長 岡村 昭寿



友情の山部会は再生協議会の健康優良児である。コロナ禍をものともせず6年間に亘り部会活動を継続してきたからである。もともと活動は屋外で、コロナ感染対策を行なってとなれば中止する必要もなかった面もある。

友情の山は群生しているやまゆりの一般公開を契機として、それまでの雑木林に散策路の整備、間伐、枝払い、下草刈り等を行なって、手入れされた里山へと変身させた。その後、友情の池も整備され、児童達が自然とふれあい、自然を学び、交流する情操教育の場として利用されている。

やまゆりの一般公開は町内外から多くの人が訪れ、山野草の観賞ともども楽しまれている。

これからも地域の多くの方、一色小の先生方、PTAの方々等に支えられて、友情の山が地域の魅力ある資源として、いつまでも保全、維持管理がゆきとどいた里山でありつづけて欲しい。

町外へ発信、入居者増へ

仲野直哉 神奈川県住宅供給公社専務理事



再生協議会での6年間ご協力とご支援に対し、お礼を申し上げます。

弊社がこの取組みを始めるにあたって、地域創生、団地再生は、弊社だけでは当然なし得ることができず、何といたっても地域の皆様、地元行政のご協力が不可欠ですので、社内ではかなり議論しました。その後、皆様のご協力をいただきながら動き始め、コロナ禍の制約の中でもできることに取り組んできました。

事業採算ベースではまだまだ厳しい状況が続きますが、6年前に何もしなかったら、弊社の賃貸の管理戸数が減って、団地の活力も低減し、さらにまた賃貸住宅を集約せざるを得ないような負のスパイラルに陥ったことでしょう。いまでは、住宅への入居などにその成果があらわれ始め、この取組みをいろんな情報ツール等を使って全国に発信し、町外から人が集まり始めています。

これからも微力ではありますが、賃貸住宅跡地の活用策などをはじめ、引き続きお試し居住など、社会的企業としてできることを精一杯取り組んでいく所存ですので、ご指導、ご協力のほどよろしくお願いたします。

「まちづくり」はこれから

笹 健夫 空き家対策副部長(元公社専務理事)



一色小学校区地域再生協議会は、平成28年5月に県住宅供給公社の二宮団地再編プロジェクトとともにスタートした。公社と協議会の活動が連携して地域の活性化を進めるためである。当時公社の専務理事、また現場の事業責任者としてこのプロジェクトに関わった。

公社から見ると団地再生の事業はソフトハードにまたがり、協議会は主にソフト部分のパートナーであるが、その関係は固定的ではなく発展的で

ある。例えば、協議会が取り組む空き家対策は公社住宅のみならず、地域全体を視野に入れて移住促進から循環居住を推進する発展的・総合的な事業となっている。それだけに息の長い事業であり、相互に課題を解決しながら今後も地道に連携していく必要がある。

スタートから6年経過した中で移住者も増え、若い人たちのコミュニティもできるなど一定の成果を上げてきたが、まちづくりについてはまだ端緒についたばかりと言えよう。幸い協議会は「元気なコミュニティ協議会」に発展的に改組され、協議会の活動を引き継ぐとともに、自立化の道を進むことになった。略称「ゲンコミ」に期待したいのは、個々の活動の継続もさることながらこの地域のまちづくりのビジョンを描き共有していくことである。それが息の長い活動の原動力になるのではないだろうか。

いよいよ自主自立へ

志賀 道郎 二宮町政策部長



協議会活動に参画されてきた一色小学区の皆様、本当にご苦勞様でした。

私はH27年度の二宮町の総合戦略立案の時から、町にとって初めてのこのプロジェクトに関わってきました。この6年間、様々なテーマに取り組み、地域の皆様の知恵とパワーで乗り越えてきました。ただ、それらのことが、町内に十分に知られ、理解されていない面があるのは残念なことです。これまでの活動記録をしっかりと残し、関係者が見られるようにして欲しいと思います。

組織の解散に際し、これまでの事業継承や後継組織についての議論がありました。大きなテーマにしている生涯学習活動などでは、この地域を起点に大きく広げて欲しいと期待しています。

新組織では自主自立の活動へと移行します。これまで培った人と人とのつながりを生かし、よりたくさんの方々が参加するよう盛り上げていただきたいと思います。

地区を越えた繋がりにこそ

小島 孝紀 二宮町政策部地域政策課長



私が協議会と関わったのは、産業振興課のときに散策路部会の道標について、生涯学習課の時に地域交流部会のこうりゅう塾「もっと知ろう一色・二宮」への学芸員への講師依頼、ラディアン内への講座案内ちらしの掲示依頼でした。

地域に住まわれている方のため、地域の活性化のために熱心に取り組まれる姿に感銘を受け、さらに学芸員の活動の場を広げていただきました。その後、2年前の令和2年度に地域政策課へ異動となりましたが、その4月7日に「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が発出され、さまざまな事業を見送りながらの活動となりました。

協議会の活動実績としては、他の学校に先駆けて一色小学校がコミュニティ・スクールとなったほか、地域包括ケアシステムの第二層の協議体である一色小学校区福祉協議会の設立が一例としてあげられますが、一色地区、緑が丘地区、百合が丘1・2・3地区の計5地区における、地区を越えた人と人との繋がりは、活動を通じた財産であると思っています。

今後のさらなる活動の発展を祈念するとともに、当課としましても必要な支援をさせていただきますので、引き続きよろしくご依頼致します。

一色小学校区地域再生協議会の発足

地域・町・県公社が連携、6 部会が活動開始へ 音楽イベントの開催、山百合の公開決める

二宮町、一色小学区地域、県住宅供給公社は 5 月 20 日（金）、百合が丘地区で会合し、一色小学校区地域再生協議会の設立を決めた。3 者が協力して人口流出や少子高齢化の波が押し寄せる地域の再生計画を検討し、国の地方創生加速化交付金などを活用して新たなまちづくり事業をスタートさせる。会議では、岡村昭寿氏（百合が丘 1）を新会長に選出するとともに、文化イベント振興、地域福祉、地域課題検討など 6 つの事業検討部会の設置を決定。一色小学校裏山の山百合群生地的一般公開（7 月）、音楽イベント開催（10 月）、田植え体験会（6 月）など具体的な事業展開についても決定した。

設立会議では、新協議会の規約、役員人事、事業計画、予算、部会運営などについて審議、決定した（**裏面参照**）。規約第 2 条は「地域住民の相互の協力と連携を深め、住民の創意工夫と関係者の協働のもと、安心して住み続けられる地域の形成を目指す」と目的を明示。活動の中心をなす 6 部会の設置、部会長を正式に決めた。各部会は検討課題に沿ったメンバーを募り、6 月中にも初会合を開く。

●各部会の概要は以下の通り。

- ・ **友情の山部会（岡村昭寿部会長）** ——一色小友情の山の維持管理、山百合の保存・生育、遊歩道の整備、山百合の一般公開、地域と学校の連携方策
- ・ **文化イベント振興部会（三輪太一部会長）** ——音楽祭の開催、文化イベントの開催の検討
- ・ **地域福祉部会（岸野修部会長）** ——高齢化に対応した地域福祉の再編、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み、地域ぐるみの健康づくり
- ・ **県住宅供給公社部会（部健夫部会長）** ——共同農園・里山の運営、共同キッチンの整備運営、地域ライブの開催
- ・ **古民家活用部会（井上勝夫部会長）** ——旧ふるさとの家の改修・運営管理、イベントの開催
- ・ **地域課題検討部会（廣上正市部会長）** ——地域課題・地域活性化策の検討

●村田邦子町長のあいさつ

昨年の総合戦略の検討開始からここまで、きわめて短期間に到達することができた。二宮町を巡る環境は厳しいものがあるが、一方では新たな可能性を秘めている。可能性の開拓や再生は地域の皆さんの意思、力があってこそ前に進める。新協議会はぜひ地域再生のモデルになってもらいたい。町としても次の 5 年、10 年につながるようしっかり支援していきます。

●岡村昭寿会長のあいさつ

新協議会の目的は、この地域を元気にすること。重く、難しいテーマだが、大上段に構えるのではなく、身の回り、これまでの活動の延長線上から再生への手がかりが得られると思う。新協議会の取り組みのカギは、6つの部会の活動である。ここに参加する人材、そこで行われる議論が活性化するよう、ともに頑張っていきたい。

役員

会長・友情の山部会長岡村昭寿、副会長・コーディネーター・地域課題検討部会長廣上正市（百合1地区長）、会計兼事務局長美和悟（同3地区長）、理事・古民家活用部会長井上勝夫（一色地区長）、理事・矢島篤造（緑が丘地区長）、同・土井幹夫（百合2地区長）、理事・県公社部会長・薮健夫（県公社専務理事）、理事・鈴木伸一朗（同県西部団地創生推進室長代理）、同・志賀道郎（二宮町政策担当参事）、同・鐘ヶ江学（同教育委員会教育部長）、同・杉崎秀隆（一色小学校長）、監事・永井正義（百合1）、同・竹内龍雄（同2）、地域福祉部会長岸野修（同2）、文化イベント振興部会長三輪太一（同1）

平成28年度予算

・収入

二宮町負担金 12,000,000円

合計 同上

・支出

事業費 4,000,000円

（友情の山、文化イベント、地域福祉など6部会事業、その他イベント費）

事務費 3,500,000円（人件費、備品・消耗品費、事務費）

工事費 4,500,000円（旧ふるさとの家改修費）

合計 12,000,000円

●当面のイベント予定

・田植え 6月5日（日） 13時30分～

・一色小学校友情の山 一般公開に向けた遊歩道整備（ボランティア募集中） 6月中旬

・ 同 一般公開 7月23日（土）、24日（日）、30日（土）、31日（日）

（ボランティア募集中）

・音楽祭 10月30日（日） 一色小学校体育館

●一色小学校区地域再生協議会は今後、活動状況をお伝えする「協議会だより」を作成し、関係地区を中心に配布、回覧していく予定です。

地域再生 協議会だより

事務局 二宮町百合が丘 2-29-6 (百合が丘老人憩いの家内) *電話設置手続き中

山百合の公開、7月末に4日間 地区内有志が遊歩道を整備

一色小学校区地域再生協議会は7月23日(土)、24日(日)、30日(土)、31日(日)に一色小裏山の山百合群生地を一般公開することを決めた。同協議会友情の山部会(岡村昭寿部会長)が二宮町、一色小などと話し合いを進めていたもので、一般の人の校内裏山への立ち入りが計画的に行われるのは初めてのこと。公開時間は4日間とも10時~15時とし、期間中は友情の山部会が中心になって入場者を誘導する。

一色小友情の山の山百合群生は希少性が高いと見られているが、一般公開は見送られてきた。百合が丘自治会が創立事業の一環として公開に向けた調整を進めていたが、一色小学校区地域再生協議会の発足に伴いその業務を引き継いだ。一般公開の時期は子供たちへの影響も考慮し、夏休み期間に設定した。公開時の入場は正門、東門とし、駐車場は設けない。

同協議会友情の山部会は公開に先立ち、6月11日(土)には、地区内ボランティアによる群生地内の遊歩道整備を行った。当日は百合が丘1-3丁目、緑が丘、一色地区から各5-10人、総勢約40人がスコップなどを持って参加。専門家の指導を受けながら、擬木の埋め込み、安全ロープ張りなどを行った(写真)。



この一般公開は、同協議会の実質的な第1号事業であり、なおかつ広範の方々にも知ってもらう必要があることから、PRにも力を入れる。二宮町の協力を得て町内全域にイベント紹介の回覧を回すほか、主要な場所に広報掲示する予定。回覧ポスターの制作は、全国的な注目を集めている二宮町の紹介動画「菜の花畑のニーノ」を手掛けたササキワカバさん(百合が丘在住)に依頼しており、6月末には町内全域に回覧される。

協議会事務所、百合2に開設

一色小学校区地域再生協議会は、百合が丘2丁目の老人憩の家(旧館)に専用事務所を開設

した。2丁目老人憩の家の受付事務室の一角を事務スペースに改装し、PC、プリンター、電話機、収納棚などオフィス用品を整備する。同事務所は原則、火曜、金曜の午前中に事務担当者が常駐する。電話番号などの確定は6月末になる見込み。

なお、30日（木）には同事務所で同協議会の部会長会議を行い、事業計画書の作成、広報体制、活動経費の会計処理などについて話し合う。

各部会、相次ぎ立ち上げ

5月末の一色小学区地域再生協議会で発足を決めた6つの事業部会が、次々と活動を開始した。最も先行しているのは**友情の山部会**（岡村昭寿部会長）で、6月8日（水）の初部会で一色小裏山の山百合公開計画の進捗状況を確認するとともに、公開に至るまでの準備作業などについて協議した。正式部会の合間を縫って小さな打合せなどを重ねており、6月11日（土）の地区内有志、二宮町関係者による遊歩道整備作業も想定通り終えている。

地域福祉部会（岸野修部会長）は6月10日（金）、百合が丘児童館で初会合を開いた。公募による参加者、町健康福祉部、町社協関係者を含めた16人がメンバー。各地区社協、自治会の福祉活動の現況を紹介するとともに、地域福祉は町の今後の施策の影響を受けるとの判断から、地域包括ケアシステムに関する町の方針について説明を受けた。次回以降、これらをもとに議論を深めていく。

県公社部会（薮健夫部会長）は6月5日（日）、小田原市小竹にある公社所有地を使った田植え体験イベントを行った。小雨模様にもかかわらず、親子連れ約40人が参加し、もち米の早苗を植えた。田植えはほとんどの人が初めてだったが、地元農家の指導に従って農業体験を楽しんだ（写真）。同部会では、今秋には同じ場所での稲刈り、収穫祭の開催も計画している。

このほか、団地商店街にある店舗を使った共同キッチンについての事前打ち合わせも進んでいる。店舗活用希望者と公社は6月末までに3回の打ち合わせを行っており、7月にはこれらを整理したうえでさらに幅広い呼びかけをし、分科会を発足させることを検討している。

古民家活用部会（井上勝夫部会長）は当面、旧ふるさとの家の設備改修を中心に活動する見込みで、運営管理、イベント開催などにどう取り組むかを検討中。

文化イベント振興部会（三輪太一部会長）は10月末に一色小体育館で開催する音楽イベントの運営にめどをつけたうえで、来年以降の展開について話し合う。



地域課題検討部会（廣上正市部会長）も、公募を含めた部会メンバーの確定を終え、7月5日（火）に初会合を開く。当面、自由な意見交換を重視し、外部講師を招いた検討会の開催なども予定している。

回覧 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

友情の山・山百合に約 700 人 公開日設定などに課題も

一色小学校区地域再生協議会が 7 月末に開いた一色小友情の山・山百合公開への参加者は、4 日間で約 700 人に達した。一般の立ち入りが難しかった学校敷地内の山百合群生地公開は同協議会の第一弾事業として友情の山部会(岡村昭寿部会長)が取り組んできたもので、7 月 23、24 日、30、31 日の小学校夏休み入り後、2 回に分けて行われた。期間中の来訪者は横須賀や藤沢など町外にも及ぶなど初公開としては手ごたえのあるものになったが、公開日の設定や駐車場確保など次年度に向けた課題も残った。

友情の山部会は同協議会発足と同時に活動を開始し、6 月初めには一色、緑が丘、百合が丘の約 40 人のボランティアによる遊歩道整備を行った。その後、群生百合の支柱立て作業、公開日前日の山百合専門家の講演会も実施した。また、制作に東京ハイジを起用した開催案内ポスター(回覧併用)を町内の主要な掲示板に貼ったり、町広報を通じた PR にも力を入れた。全国紙、地方紙、タウン紙、CATV などが取り上げた効果も大きかった。町地域政策課や一色小には公開日時の確認、駐車場所などについて県内外からの問い合わせが相次いだという。



ただ、後半の 2 日間については花がしぼんでしまい、残念がる来場者が多かった。また、町外を含む広範な来場希望者からは駐車場の確保を望む声が寄せられた。一色小学校区内については回覧や掲示板を使った告知に努めたものの、十分に浸透したとは言えず、参加者もさほど多くなかったとの声もある。

友情の山部会では次回会合で第一回の事業内容を点検するとともに、次年度開催に向けた課題を整理する。その際には開催日程や期間中の誘導策などのほか、下草刈りや施肥、害虫対策、樹木の枝払いなど生育環境の管理などについても検討する。

「友情の山は、環境の整った貴重な自生地」

——富田・県植物園課長の山百合講演会開く

友情の山部会は 7 月 22 日(金)、山百合の育成・管理をテーマに講演会を開いた。講師は山百合の生態に詳しい富田裕明・県フラワーセンター大船植物園展示普及課長。会場の一色小会議室に約 50 人が集まった。富田氏は「盗掘やイノシシの被害で県内の群生地は数えるほどしかなくな

った。キンラン、エビネなど貴重な野草を含め皆さんの協力でしっかり守って欲しい」と語った。講演と質疑応答の要点は以下の通り。

- ・山百合は大輪の花と匂いに特徴がある日本特産植物で、カサブランカは国産品の改良種。
- ・自生地は乾燥した明るい雑木林、草地、傾斜地、崖地を好む。
- ・発芽から開花まで早くて6年かかる非常にデリケートな植物で、2年目は球根を作るだけ、5年経ってやっと数枚の葉が出る。きちんと咲いているのはいずれも10年以上経っているものだ。
- ・神奈川県の花であるのでかつて組織培養で群生地を増やす試みが行われたが失敗した。人工的に増やすのはきわめて難しい。
- ・自生地と言っても人間の適度な干渉が大事だ。種は2, 3センチの深さに植えること、発芽前の草刈り、病虫害・ウイルス病対策、日照への配慮などだ。支柱も球根を傷つけないように。
- ・友情の山にはキンラン、フタリシズカ、エビネなど他にも貴重な山野草がある。これらを含めて管理、育成して欲しい。



公社部会、共同キッチンの運営者募集

県住宅供給公社部会（薮健夫部会長）が百合が丘商店街の空き店舗で計画している共同キッチン（コミュニティダイニング）への参画者を募っている。共同キッチンは百合が丘地区の魅力アップの一環として計画しているもので、公社は他の地区でも同様の事業を軌道に乗せている。参画者の見通しがつき次第、店舗改装などに着手したいとしており、一色小学校区内に限ることなく募集していく。

共同キッチンの基本コンセプトは、地域住民が自由に使い、「食」「食文化」を通じて住民同士の交流を図るいわば「地域の囲炉裏端」。飲食サービスを提供するための施設、備品などは公社が整備し、運営は各事業者任せ。複数の運営者が定期的にサービスを提供するスタイルを基本形に、①買い物をした帰りにちょっとお茶を飲めるようなスペース②料理を通じてコミュニケーションを採れるような場所③食育を支援できる場所——などを事例として上げている。

これまで百合が丘地区社協など、関心を示すグループを対象に事前打ち合わせなどを行ってきたが、公募の対象を全町に広げ、事業説明に入りたい考えだ。

同部会では、この企画に関心のある方は公社二宮団地現地事務所（0463-80-9800）までコンタクトして欲しいとしている。

地域課題検討部会も始動

6つの事業部会の中で立ち上がりが遅れていた地域課題検討部会（廣上正市部会長）も7月に入って相次いで会合を開いた。7月5日（火）の第一回に続き、第2回、第3回にはそれぞれ薮健夫県住宅供給公社専務理事、野口和雄都市計画コンサルタントを講師に招いて提案を聞く。その後、外部識者の提案を踏まえたメンバー間の意見交換を本格化させる。9月中には来年度以後、数年かけて取り組むべき事業テーマの一次案をまとめたとしている。

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

一色小学区地域再生協議会・県住宅供給公社

10 月末、音楽ウイーク開く 神奈フィル、地元声楽家など続々

一色小学校区地域再生協議会は県住宅供給公社と連携して 10 月末、音楽スペシャルウイークを開催する。協議会は一色小に神奈川フィルハーモニー管弦楽団、声楽家などを招く。県公社は、「やまゆり里山音楽祭」と名づけ、ラディアンなど 4 カ所で音楽イベント、団地創生シンポジウムを行う。いずれも二宮町、同北部地区の地域おこし、文化振興をねらいにしており、今後も定期開催を目指している。

両者が連携する音楽ウイークは、10 月 22 日 (土) ~ 30 日 (日)。中心をなすのは協議会主催 (百合が丘自治会共催) が 30 日に予定している「一色小音楽祭」で、百合が丘自治会 50 周年記念式典終了後、一色小体育館で行う。神奈川フィルによる弦楽四重奏、地元出身のボーカリスト・石崎紀彦氏、地元音楽家のミニコンサートの 3 本立ての構成になっており、一色小学区内を中心に 400 人程度の入場者を見込んでいる。入場無料。詳細は以下の通り。



時間・場所 13:40~15:30 一色小体育館

- 内容 ● 桑田葉子 (ソプラノ) ・一石洋子 (同) ・高寺真美 (ピアノ) によるミニコンサート
● 「ふたり」石崎紀彦、(ボーカル) によるソロパフォーマンス
● 神奈川フィルハーモニー管弦楽団による弦楽四重奏

ミニコンサートの 3 人は百合が丘、緑が丘などに在住の声楽家、奏者。
石崎氏は一色小学校出身。



石崎 紀彦



桑田 葉子



一石 洋子



高寺 真美

県住宅供給公社、4カ所で

やまゆり里山音楽祭2016

町おこしシンポも

一方、県公社は「やまゆり里山音楽祭」のタイトルの下、4日間にわたるイベントを展開する。中心は10月28日（金）にラディアンホールで行うシンポジウムと音楽祭本公演。シンポでは町おこしで実績を残す起業家の講演、音楽祭本公演では二宮の音楽家、奏者などが登場する。

またこの前段では、川勾神社境内での音楽演奏（22日）、ラディアンロビーを使う子供向け絵本の読み聞かせ会（小さな絵本音楽会、26日）、駅周辺でのブラスバンド演奏（チンドンブラスバンド、27日）など。このほか、音楽祭のテーマソングやプロ・アマを問わず出演者も募集している。この企画には二宮町、協議会も共催者として名を連ねた。参加はいずれも無料。現段階で予定されているのは以下の通り。

●やまゆり里山音楽祭～キックオフ

10月22日（土） 15:00～18:00 川勾神社

内容：応募者による音楽演奏

●ちいさな絵本音楽会

26日（水） ①15:00～15:30 ②16:00～16:30 ラディアンロビー

対象：幼児・小学生とその保護者

内容：生演奏のバックミュージックが流れる中で、子ども向けの絵本の読み聞かせ

●チンドンブラスバンド

27日（木） ①16:00～16:30 ②17:00～17:30

二宮駅北口ロータリー、栄通り商店街

内容：ブラスバンド演奏

●団地創生シンポジウム・やまゆり里山音楽祭・本公演

28日（金） ラディアンホール

第1部：団地創生シンポジウム（町おこし先駆者による講演） 13:30～16:30

第2部：やまゆり里山音楽祭・本公演（町内音楽家等による演奏） 17:30～20:00

問合せは県住宅供給公社二宮団地現地事務所(0463-80-9800)

協議会は地域関係者、二宮町、県公社の3者協力での5月に発足し、文化イベント振興部会（三輪太一部会長）で音楽イベントの計画を練ってきた。県公社も今年から百合が丘にある二宮団地の更新計画に着手しており、今秋には改装モデルルームや空き店舗を使った共同キッチン、共同菜園オープンなどのでこ入れ策が相次ぐ。両者はこの地区での地域再生を軌道に乗せるうえで文化、イベント活動の活発化が欠かせないとみており、期間中のイベントPRや情報発信についても共同歩調をとる予定。連携による展開の成果は次年度以降、さらに発展させていくことを検討している。

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

ふるさとの家、改修に着手 運営・管理体制が課題に

一色小学校区地域再生協議会・古民家活用部会（井上勝夫部会長）は近く、一色地区にあるふるさとの家（写真）の改修工事に着手する。ふるさとの家は明治 20 年頃建築された古民家として価値が高いものの、老朽化が著しく、利用も減っている。同部会では、年内完成をめどにトイレや給排水設備の改修・更新工事を行い、町北部の地域交流施設として再生させたい考えだ。このため、改修工事と並行して施設の運営・管理、需要開拓の検討もスタートさせた。

ふるさとの家は二宮町教育委員会の生涯学習施設として位置づけられていたが、条例廃止により現在は町所有の普通財産に移行した。再生協議会はこれによって柔軟な運営・管理が可能になったため、町との間で使用貸借契約を結び、地域再生に向けた拠点施設としての活用を目指している。

このほど固まった改修工事は 5 月の部会発足以来検討してきたもので、工事内容は屋外仮設・室内トイレ、和室・縁側改修、浄化槽設置、外回りの樹木剪定など。中でも、利用者からの要望が強いトイレ関係の更新に力点を置いている。現在、工事発注の詰めに入っており、今月中に工事を開始し、12 月末に完成させる。費用は 400 万円前後になる見通し。

ただ、ふるさとの家の再活用を軌道に乗せるには、利用者の拡大と運営・管理体制の確立が大前提になると見ており、工事着手に合わせて運営・利活用体制の検討を進めている。すでに平成 26、27 年度の利用者に対してアンケート調査を行ったところ、場所が分かりづらい、駐車場が不便、トイレが使いづらいなど多くの課題が指摘された。古民家活用部会では、改修工事が終了する年明けから見学会など開いて PR していく。



第 2 回本部会議、28 年度事業計画を報告

再生協議会は 9 月末、第 2 回本部会議を開き、全 6 事業部会が今年度の計画を説明した。本部会議は全役員と事業部会長で構成し、重要事項を審議・決定する場。再生協議会発足から 4 カ月を経て各部会の計画が固まったことから、それぞれの状況を突き合わせた。

それによると、一色小山百合を一般公開した友情の山部会を除く 5 部会が年度後半に活動

の重点を置いており、文化イベント振興、県公社部会は 10 月後半の「秋の音楽スペシャルウィーク」に最大の山場を設定している。来年度以後の新事業テーマの検討に入っている地域課題検討部会では、近くテーマ案を取りまとめ、年内にも事前調査などに入りたいとしている。同時に集約した 28 年度の予算執行見込み額は 1000 万円弱に達した。再生協議会では、年内にさらに本部会議、部会長会議を開き、今年度後半の詰めと 29 年度の事業計画、予算案固めを行う予定である。

10 月末開催の「音楽スペシャルウィーク」に向け、大規模な広報 PR 作戦が進行中だ。神奈川フィルなどが出演する「一色小で音楽祭り」(30 日、一色小体育館)では、一色小学校区全域にポスターを全戸配布。広報板掲示では、県公社部会の「やまゆり里山音楽祭」のポスターとセットで町内中に貼り出された。

音楽ウィーク・大キャンペーン

スペシャルウィークで取り上げているのは、文化イベント振興部会の音楽祭りと、県公社部会が 22 日(土)から町内 4 カ所で展開する音楽祭・シンポジウム。再生協議会の広報 PR はこれらを一体として取り上げ、ポスターは全町内の家庭回覧ルートでも配布された。掲示板には回覧用よりひと回り大きい A3 版サイズを採用、すでにそれぞれ約 50 枚が貼られた。

このほか、二宮町の協力により、駅改札、ラディアン、温水プール、小中学校など町施設にも掲示され、同種のイベントの中でも目立つ存在になっている。10-11 月は町内でも多くの催事・イベントが計画されている。今回の広報キャンペーンが、集客や動員にどのような影響を及ぼすのか注目される。

友情の山で樹木間伐を検討

再生協議会・友情の山部会(岡村昭寿部会長)は一色小裏の友情の山で間伐を行う準備を始めた。友情の山では樹木が伸び放題になっており、希少価値の高い山百合群生を保護し、里山の機能を保持するためにも樹木の間伐が必要とされている。一色小(町教育委員会)、PTA などと具体化に向けた話し合いを行い、10 月中にも計画を決める。

友情の山の間伐は、今夏の山百合一般公開の前後から検討課題になっていた。神奈川県山百合専門家からは、百合の保護・育成のためには日照が少なすぎる場所の枝払いや剪定、伐採を行った方が良いとの指摘があった。雑木が伸び放題になって、周辺宅地に張り出すなどの問題も起きている。また子供たちが走り回ったり、学校の菜園や梅林なども配置されているため、住宅街の真ん中にある里山らしい環境の整備が望まれている。

同部会では外来種の棕櫚(しゅろ)やイヌシデ、クヌギなどを中心に間伐、伐採の候補樹木の選定に入っている。間伐、伐採には切った後の樹木処理作業などが伴うため、手を付ける樹木の本数、規模だけでなく、子供たちの遊びや授業への影響などを含めて関係者との話し合いを行う。こうした検討を経て 10 月末には最終方針を決め、28 年度中には作業を終えたい考えだ。

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

百合が丘社協が第 1 号店

共同キッチン、11 月 20 日オープンへ

一色小学校区地域再生協議会県公社部会（薮健夫部会長）が百合が丘商店街で計画中のコミュニティダイニング（共同キッチン）の利用者第 1 号が固まった。百合が丘地区社協部会（金子宜男部会長）が 11 月 20 日（日）の「福祉まつり」を機に喫茶店スタイルの店をオープンし、その後は毎週木曜日に営業する。公社部会では現在、共同キッチンの運営方法を検討しており、利用料は光熱費などのランニングコスト程度とする予定。百合が丘社協のような定期利用のほか、サークルや地域団体のスポット的な利用を期待しており、年末以降、積極的な活用を呼びかける。

百合が丘社協は当面、コーヒー中心のメニューでスタートし、様子を見ながら拡充する。毎木曜 10 時—15 時までの営業とし、1 日 3 名を基本に 20 名程度のボランティアが交代でサービスに当たる。商店街の買物客や通行客などの利用を想定し、地域住民の交流の場を目指す。今のところ社協の行事スペースとして活用することは考えていない。（以下裏面へ）



改装工事が急ピッチで進んでいる

友情の山部会（岡村昭寿部会長）は 11 月初めから一色小・友情の山の間伐に着手する。すでに町教育委員会、一色小、同 PTA との話し合いを終えており、間伐作業は湘南二宮・ふるさと炭焼き会（井上光正会長）と協力して進める。作業は週末、冬春休みを中心に行い、28 年度内に作業を終えたいとしている。

作業協力を得るふるさと炭焼き会は、一色地区に炭焼き釜を持つボランティア団体。町内外のみかん山、里山の保全、管理の実績がある。友情の山では間伐木の一部を除いて

友情の山の間伐始まる

炭焼き場に搬出する。

友情の山では、下草刈りを除いて計画的な樹木管理を行ってきおらず、群生する山百合の生育、里山の環境保持の両面から手入れが必要とされてきた。同部会では、一色小などとの打ち合わせに加え、山百合、里山の生態に詳しい県専門家のアドバイスを得て樹木管理計画を練ってきた。対象になるのは最も本数の多い外来種の棕櫚（しゅろ）のほか、イヌシデ、コナラ、クヌギ、桜老木、雑木など。直径 20 センチ以下が大半を占める。

県公社は共同キッチンの基本コンセプトを「食を通じて地域の住民同士が交流する囲炉裏端・縁側」とする方針を決め、関心を示す団体、個人に参画を呼び掛けてきた。現在、幾つかの組織が定期利用の検討に入っている。公社としてはこの基本コンセプトの枠内で、地域サークルや趣味の会、料理愛好家などのスポット利用も積極的に受け入れる方針だ。

対象店舗の面積は1,2階合計で80㎡強。キッチンをはじめとする飲食サービス用の施設、備品は公社が用意する。「食」を介在にした交流の場であることから、パーティーや食事会の利用が多くなると見て店舗裏にはピザ釜なども設置した。

里山遊歩道、「一色小」、地域公園

プロジェクト3候補、事前調査へ

新たなプロジェクトテーマについて議論していた地域課題検討部会（廣上正市部会長）は里山遊歩道の整備、一色小の地域交流拠点化、魅力ある地域公園づくりを取り上げることになった。部会内に3つの分科会を設け、正規の事業テーマになり得るかどうかの事前調査に取り組む。併せて、新規テーマやプロジェクトの進め方に関して子育て世代、女性の意見を反映させるワークショップを開く方向で検討している。

同部会は6月に発足し、短期間でスタートした地域再生協議会が今後、数年かけて取り上げるテーマ案件の検討に入っていた。外部識者を招いた勉強会を含めすでに6回の会合を行い、各委員の提案をもとにした案件の絞り込みを進めていた。今後、里山遊歩道の整備は、高橋哲也氏（百合が丘3）、一色小の地域交流拠点化は加藤良輝氏（緑が丘）、魅力ある地域公園づくりは渡辺貢成氏（百合が丘2）がリーダーになって進める。

3テーマのうち、里山遊歩道の整備では、地区内を巡る散策ルート・健康ウォークマップづくり、地域内の観光資源の発掘・体系化など。一色小の地域交流拠点化では、コミュニティスクール化への対応に加え、空き教室・スペースと地域コミュニティ活動の関係など。魅力ある公園づくりでは、地域内公園のあるべき姿の検討などに取り組む。

このほか、事前調査に当たっては外部識者の協力を得ながら、専門家との意見交換や先駆的事例の情報収集を行いたいとしている。検討メンバーの公募は分科会案件を正式テーマとして取り上げるめどがついた段階で実施する——などの点についても確認した。

音楽ウィーク始まる

秋の音楽ウィークの第1弾、県公社部会（薮健夫部会長）のやまゆり里山音楽祭キックオフ祭りが22日（土）、川勾神社境内で行われた（写真）。当日はサクソフォン・カルテット Adam、ウクレレ SHIN などが出演。神社境内の能舞台から現代風サウンドが響き渡った。公社部会は26日（水）のちいさな絵本音楽会（ラディアン）、27日（木）のチンドンブラスバンド（駅周辺）、28日（金）の音楽祭本公演・団地創生シンポジウム（ラディアン）と、連続開催同日午前には団地見学会を計画している。音楽ウィークの最後尾を飾るのは30日（日）の「一色小で音楽祭り」（一色小体育館）で、再生協議会が主催する。



サクソフォン・カルテット Adam



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

ワークショップ、相次ぎ開催

若手・女性の意見を吸収・反映へ

1 回目は 1 / 29 (日)、児童館で

一色小学区地域再生協議会は来年 1、2 月にかけて住民参加型のワークショップを相次ぎ開催する。来年度から新たに取り上げるプロジェクトテーマに関する意見交換と、再生協議会の活動報告が狙い。第 1 回は百合が丘児童館、第 2 回は町民センターで行う。特に一色小学校区を対象にした第 1 回では、これまで議論や活動に参加していない女性や若者などにも参加を呼びかけ、住民の総意を反映した計画づくりにつなげたい考えだ。

このほど固まったワークショップの日程は、第 1 回が 1 月 29 日 (日)、第 2 回が 2 月 22 日 (水)。第 1 回では来年度からの新規プロジェクト案に内定した一色小の地域交流拠点化、魅力ある地域公園、里山遊歩道整備の 3 テーマを意見交換のベースにする。会合では、この 3 テーマ案への意見だけではなく、新たなテーマ提案も募りたいとしている。

開催日は若い子育て世代や女性、地域外通勤者等が参加しやすい休日に設定した。このほか、子供会、PTA、サークル活動家や地域団体の新旧役員、地域行事への参加経験者など幅広い参加を見込む。併せて各部会、新規プロジ

ェクトへの参加を促す。

第 2 回目は、今夏発足した再生協議会の活動報告と今後の活動についての意見交換に主眼を置く。発足から間もないうえに、活動内容の情報発信も十分でないことからこの組織についての認知度も低く、参加者のすそ野も必ずしも広がっていない。このため、すでにスタートずみの友情の山、地域福祉、県公社、ふるさとの家、文化イベントの 5 つの部会の活動紹介をもとに、少子高齢化、人口減、コミュニティ活動のあり方などについて自由に意見を交わす場にしたい考え。開催場所を町民センターにするのは、一色小学校区以外の住民、関係者が参加しやすくするためとしている。

大盛況！音楽祭り



桑田葉子さんらによるミニコンサート

(裏面に詳細)

ワークショップは地域内のさまざまな立場の人材が参加して地域社会の課題解決に取り組む手法の一つ。住民参加型まちづくりなどによく採用されている。再生協議会では、1、2回とも4、5テーブルの議論の場を設け、数十人の参加を見込んでいる。

音楽祭りに 400 人の入場者

予想上回る盛上りに

10月30日（日）に開いた再生協議会主催（百合が丘自治会共催）の「一色小で音楽祭り」は、会場の体育館がほぼ満員になる盛況ぶりだった。入場者は約400人。ステージに最も近い場所には子供たちが座って鑑賞できるスペースが設けられ、奏者を間近に親子100人以上が楽しんだ。椅子席は体育館の在庫の全部350脚を用意したが、ほぼ埋まり、立ち見の方も出た。無料公演のため参加人数を予測できないまま当日を迎えただけに、予想外の盛況ぶりに多くの関係者が喜んでいて、当日の様様を写真で拾った。



ほぼ満席に埋まった体育館



子供たちは最前列に



熱唱する一色小OB「ふたり」 岡村会長の主催者あいさつ



最後に登場した神奈フィル四重奏



ステージと会場が一体になって



開演前から人の流れができた

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

(旧) ふるさとの家、1 月に見学会 4 月公開へ準備急ぐ

一色小学区地域再生協議会古民家活用部会(井上勝夫部会長)は、改修工事の完成を受け、「雛の吊るし飾り展」と連携した見学会を行う。H29 年 4 月からの一般公開へのつなぎと位置付けており、実施日は 1 月 14 日(土)、15 日(日)、21 日(土)、22 日(日)の 4 日間。並行して標識の更新、パンフレット作成、利用料や申込み方法など管理運営の体制整備を急ぎ、本格稼働に備える。



改修工事は順調に進んでいる



川勾神社、知足時に先駆けて雛の吊るし飾り展

見学会は、雛の吊るし飾り展を企画運営するグリーンにのみやプロジェクト(松本篤子代表)の協力を得て同時開催する。同展は川勾神社、知足寺でも開かれるが、H29 年については(旧)ふるさとの家が先陣を切ることになった。古民家活用部会では、見学会に備えて近隣の浄源寺の駐車場を借りたり、警備・誘導員、(旧)ふるさとの家の説明員を配置するなどの準備を進めている。

またこのほど開いた会合で、(旧)ふるさとの家の新名称を「古民家 ふるさとの家」とすることを決めた。今後、標識、パンフなどはこの名称に統一する。

再生協議会はふるさとの家改修費として 450 万円の予算を組んでおり、今秋から屋外仮設・室内トイレ改修、和室・縁側改修、樹木剪定など進めてきた。このほど入口進入路の補修、畳張替えなどを発注し、予定通りに進んでいる。

4 月の本番前には、1 月の見学会のほか、蕎麦打ち会、ハイキングツアーの立ち寄りなどについても調整が進んでいる。

ワークショップの概要固まる

1月は校区内、2月は全町対象で

再生協議会が1月に計画している「地域づくりワークショップ」の内容が固まった。来年度から取り上げる里山散策路整備、一色小の地域交流拠点化、魅力ある公園づくりの3テーマを取り上げ、60-70名の参加を想定している。また、2月に開催する2回目のワークショップは二宮町との共催とし、全町からの参加を見込む。

ワークショップの開催日時

<第1回>

1月29日(日) 13時30分~16時30分 百合が丘児童館ホール

対象 一色小学校区域住民。特に子育て世代、女性に呼びかける

<第2回> 二宮町との共催

2月22日(金) 14時~17時 町民センター会議室

対象 町内全域。地区長をはじめ地域づくり関わる個人、団体代表など

第1回目は、地域住民の意見をプロジェクトに反映させる狙い。冒頭に3プロジェクトリーダーが現段階での計画内容を説明。テーマごとに10人ほどで構成するテーブルを設け、テーブルを回りながら提案や意見交換を行う。第2部のワークショップでは、各テーマを掘り下げる話し合いを予定しており、最後は外部専門家、町担当、主催者も加わった意見交換にしたい考え。

再生協議会では、普段はこうした活動への参加が難しい子育て世代や女性に積極的に出てもらいたいとしている。回覧やポスターのほか、子ども会やPTAなどの組織を通じて出席を呼びかける。

第2回は二宮町との共催により、一色小学校区の活動報告をベースに、全町的視野から「地域づくり」を議論する。このため、シンポジウム形式になる可能性もあり、さらに詰める。参加者は一色小学校区内5地区に加え、他15地区から30名以上が参加する見通し。一般公募を合わせると70-80名になると思われる。

第3回本部会議、事業の進捗状況を確認

12月16日(金)、百合が丘老人憩の家で第3回本部会議を開催し、H28年度の事業進捗、予算執行見通しなどを確認した。会議には府川陽一二宮町教育長が出席し、「一色小をコミュニティスクールのモデルにする。協議会の中に地域学校協働本部的なものを設けることを検討してもらいたい」と語った。

各部会からの報告では、「間伐は順調に進んでいる。新年度には山野草の調査を計画している」(友情の山部会)。「来年度のイベントの準備に着手する」(文化イベント部会)。「地域包括ケアに向けた取り組みは軌道に乗った。来年度の展開は模索中」(地域福祉部会)。「ワークショップなどを行い新年度から3新部会の立上げを準備中」(地域課題検討部会)。

「幾つかの企画を実施したが、準備期間の問題もあって課題を残した。これらの経験を踏まえてこの地域の良さを売り込む取り組みを考えたい」(県公社部会)など。

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

散策路・ふるさとの家

案内板、誘導看板を新設、更新

地域再生協議会(岡村昭寿会長)は近く、一色小区域内の散策路や立ち寄りどころを明示した4カ所の案内板を設置する。同時に、改修工事を終えて4月から一般開放する「古民家ふるさとの家」の案内・誘導看板を更新する。いずれも3月中の完成を目指している。

散策路の案内板の設置は地域課題検討部会の里山散策路分科会が散策マップ作りと並行して手掛けている。本格的な散策路整備やマップ作成に先行して設置するのは、案内板や案内標識(道標)を一気に新設することは難しく、明らかに必要な個所を中心に段階的に進めるとの判断から。H28年度内の設置個所は一色防災コミセン、緑が丘中央公園、団地中央付近、峠公園。ガラスケースで覆われた広報掲示板仕様のものを想定している。設置個所が多くなる道標類に関しては散策コースの調査を終えた段階で設置したいとしている。



看板は相当古く、くすんでいる

一方、ふるさとの家の案内・誘導看板については現在設置済みの7カ所のすべてを差し替える方針。中には朽ちかけていたり、通りから見えない場所に据えられた物も多く、案内板の構造やデザインだけでなく、設置場所についても見直す。

そば打ち体験会

そばづくり愛好会が栽培、収穫した実を使ったそばを打ち、会食します。

日時・場所	3月19日(日)、10時～ 古民家 ふるさとの家
申し込み	地域再生協議会事務局(火、金 9時～12時) 59-9356
会費	大人 1,000円、小学生 500円
	※天ぷら・飲み物、食器等は用意します。
持ち物	エプロン、三角巾、布巾
駐車場	浄源寺駐車場、一色防災コミセン
	※駐車台数が少ないため、できるだけ徒歩で来てください。

古民家活用部会では、3月19日(日)には、「そば打ち体験会」と見学・利用方法説明会を同時に開き、4月からの一般公開につなげる。

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

ワークショップ

住民提案と事業報告、連続開催

地域再生協議会の地域課題検討部会(廣上正市部会長)は1月29日(日)、2月22日(水)に相次いでワークショップ(意見交換会)を開いた。1月末はH29年度から取り上げる事業テーマを中心に、2月開催では再生協議会のH28年度事業報告をもとにした議論が行われた。それぞれ一色小学校区内住民、全町の地区長中心にした地域リーダーが参加し、活発な意見交換、交流が行われた。再生協議会にとってはいずれも初めての試みで、これらの成果をどのように生かしていくかが課題になる。

<1月29日・百合が丘児童館>

6グループから提案が続々と

「地域づくりに知恵を貸してください」——の呼びかけで行われたワークショップには、一色小学校区内を中心に68人が参加した。日曜日開催としたせいもあって、普段はこうした会合に参加が難しい子育て世代や女性の参加も目立った。会場の百合が丘児童館では2階に託児の態勢を整え、8人の幼児を預かった。

当日は、来年度からプロジェクトテーマにする予定の里山健康ウォークマップ、魅力ある地域公園づくり、一色小の地域交流拠点化の3テーマを取り上げた。それぞれの分科会リーダーがプロジェクトの趣旨を説明した後、6つのテーブルに分かれてこれらを推進するためのアイデア提案、課題の整理などを行い、各テーブルの代表が議論の要点を発表した。



3テーマを6つのテーブルで話し合った

当日の進行は2人のコンサルタントに依頼し、参加者全員に討議資料を配布するなどの準備をして臨んだ結果、全員が議論に参加するなどの盛り上がりが見られた。各プロジェクトに対し出された提案数は内容の重複分を含めると、それぞれ60-70件に達した。これらは今後、各分科会での検討に生かされることになる。

<2月22日・町民センター>

町内の地区代表など70人が参加

「一色小学校区地域再生協議会・事業報告会」の名称の下、ワークショップ方式で行われた。再生協議会の活動が町のモデル事業とされていることから、二宮町との共催の形で進められ、地区長をはじめとする町内各地区代表者らを中心に町民センターに約70人が集まった。



各部会の活動を聞く参加者



活動展示ブースでの意見交換

冒頭、村田邦子町長が「協議会は初年度から様々な取り組みを行っている。地域活動の先行例として参考にしてもらいたい」と挨拶。各部会のH28年度事業報告を中心にしたパネルディスカッション、部会ごとの活動を展示したブース前でのポスターセッションの順に進めた。

各部会の報告では、活動成果を整理して提示する一方、「駐車場の確保が必要だ」（友情の山部会）、「取り上げる範囲が広く、まだ成果を語れる段階になっていない」（地域福祉部会）、「地域との協力の成果はまだ十分ではない」（県公社部会）、「一応の整備ができたが、利用者の拡大が大きなテーマになる」（古民家活用部会）など、29年度に向けた課題の指摘もあった。

ポスターセッションでは、協議会の部会関係者が各ブースの前での説明役に回り、参加者との意見交換を行った。当初予定では、こうしたやり取りを通じて出た意見、提案をポストイットを使って貼りだすことになっていたが、時間が足らなかったこともあって、貼り出し例は少数にとどまった。

会場参加者と協議会関係者との意見交換では、「難しいテーマになればなるほど行政との信頼関係を基にした話し合いが重要になる」「難度の高いものは次回しにし、成功の見込みが高いものから手掛けるべきだ」などの意見が出された。



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

音楽イベント 町民合唱団結成へ 今秋、一色小・ラディアンで発表会

地域再生協議会文化イベント振興部会は今秋の音楽祭に向け、一色小学校区住民を中心に混成合唱団を結成することになった。4 月から参加希望者を募り、5 月末以降練習に入る。合唱の指導は山内みどり氏 (武蔵野音大講師)、一石洋子氏 (声楽家) らが担当する。発表会は 10 月 14 日 (土、ラディアン) と 11 月 5 日 (日、一色小) の 2 回。再生協議会では、町教育委員会の支援を得て、この合唱団の発表会を毎秋の恒例行事として定着させていく計画だ。

再生協議会は今秋に計画している音楽イベントを、県住宅供給公社の計画と一体的に展開することで合意、内容の詰めを急いでいる。その骨子は、両者がそれぞれ開催する音楽イベントの広報活動を連携して行い、演奏者の相互乗り入れなどプログラムでも相乗効果を追求しようというもの。新結成の合唱団については一色小に加え、県公社主催のラディアンでも発表の機会を設ける。アンサンブル・ラディアント (二宮町)、ユースクラシック (東京) との共演も検討中。



—昨年結成の 80 周年祝典合唱団(ラディアン)

4 月から参加者募集

町民有志による合唱団では、一昨年 11 月の町制 80 周年記念式展に際し結成された先例がある。全町から 128 人が参加してラディアンで行われた記念式典で発表、高い評価を得た。今回の合唱団は再生協議会の要請を受けた山内氏、一石氏、高寺真美氏 (ピアノ) ら 80 周年合唱団の中心メンバーが核になって指導し、発表の準備を進める。山内氏は「町民合唱団の結成は、音楽活動が盛んな二宮町に新しい音楽文化を定着させる契機になる」と語っている。

合唱団結成の鍵になるメンバー募集は 4 月から始める。4 月末の「広報にのみや」に掲載するのに併せて回覧、広報掲示などを行う。このほか、町内で活動中の音楽サークルにも協力を要請し、全町域から参加者を募る。計画では、5 月末以降、月 2 回程度のペースで練習会を行い、本番に備える方向で検討している。

「ふるさとの家」に財団助成金

クラフト計画などに110万円

地域再生協議会古民家活用部会（井上勝夫部会長）が手掛ける「古民家ふるさとの家クラフト計画」に、一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団（東京、大栗育夫理事長）からH29年度110万円の助成金が支給されることになった。再生協議会は同財団の「住まいとコミュニティづくり活動助成」に応募していたもので、172件の応募の中から絞り込んだ15件選ばれた。3月21日の同財団理事会で正式決定した。古民家ふるさとの家は4月から一般利用の受付が始まる。この助成金をてこにクラフト計画などを推進し、古民家活用による地域振興を安定軌道に乗せたい考えだ。

助成金を支給するハウジングアンドコミュニティ財団は、マンション大手の長谷工コーポレーション系の一般財団法人。H5年から地域づくり活動の支援を始めており、毎年10件前後の案件に助成している。再生協議会が提出した計画は、多様な住宅問題に取り組む市民活動を助成する「住まい活動助成」部門で選ばれた。助成金は5月、11月の年2回に分けて支給される。

再生協議会古民家活用部会が出した計画の骨子は、①クラフト・ワークショップ、クラフト市の開催、②子供たちのためのファブラボ・ワークショップの開催、③地域素材を活用した発酵茶やオリーブ茶の製造、④古民家サイトの設置、運営——など。このうち、クラフト・ワークショップは二宮・一色地区の地域文化をバックにした衣食住クラフト（手工芸品）の講習、製作会やクラフト市を開催し、活性化につなげる。またみかん、オリーブなど地域色の強い地場産品の6次産業化にも取り組む。ふるさとの家を拠点にしたイベント広報や申込み受付サイトは4月中にも開設する。これらの計画を具体化するために古民家活用部会に専門チームを設けるなど推進体制の整備を急ぐことになる。

ふるさとの家「邦楽とお茶のつどい」

文化イベント振興部会は、夏期イベントとして以下の要領で「邦楽とお茶のつどい」を企画しました。内装を更新したふるさとの家の見学を兼ねて奮ってご参加ください。無料。

日時	5月28日（日）、午後2時～4時 午後1時から囲炉裏を使ったお茶席を用意（呈茶券300円）
場所	古民家ふるさとの家
演奏	・尺八（森丹山さん）、琴（城処みや子さん）の独奏、合奏 ・雅楽（橘川卓司さんほか）、琴との合奏も *駐車台数が少ないため、できるだけ徒歩で来てください
問合せ先	再生協議会事務局（火、金 9時～12時） 59-9356

回覧

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

一色小校区福祉協議会発足

町と連携、課題解決へ



岸野会長

一色小学校区地域再生協議会地域福祉部会（岸野修部会長）は 3 月末の会合で地域包括ケアシステム構築などの地域福祉対策を進める「一色小校区福祉協議会」の設立を決めた。昨夏の地域福祉部会発足当初から新組織発足に向けた検討を続けており、町内での発足第 1 号。会長に岸野氏を選ぶなど 4 月から本格活動に入る予定で、域内の福祉団体、町・町社協などと連携し高齢化の進展に伴う課題整理や解決策検討に取り組む。

再生協地域福祉部会は地域包括ケアの体制整備、地域ぐるみの健康づくり対策を H28 年度の事業目標に掲げ、毎月 1 回のペースで会合を積み上げてきた。高齢者福祉の取り組みは行政施策との連携が欠かせないことから、当初から町福祉部門、町社協をメンバーに加えて検討。3 月末の第 10 回目の会合では、同協議会の規程を承認するとともに、役員人事についても決定した。(以下裏面に続く)

プロデュース / 合唱指導に山内氏

新しく結成する「にのみややまゆり合唱団」の合唱指導を、オペラ演出などで活躍中の山内（やまのうち）みどりさんが

は同時に、11 月開催の音楽祭内定している。文化イベント振興公社の催しと一体的に展開する

内さんを中心に準備が本格化する。山内さんは武蔵野音大音楽科 H26 年から二宮町の教育委員も

ウイーン国立音大に留学。ヨーロッパを含め、多くのオペラに出演し、オペラの演出家としても知名度がある。母校で後進の指導に当たるほか、東京都内や地元二宮町でも子供たち、音楽愛好家の合唱指導をしている。「もともと音楽の盛んな地域で、一色小のコミュニティースクール計画も進んでいる。男女、世代を問わず、たくさんの音楽好きに集まってもらい、コミュニティー活動のシンボルになるような合唱団に育ってもらいたい」と語っている。



担当することになった。山内さんの企画・制作も手掛けることが部会が計画している音楽祭は県ことが決まっており、今後は山

る。講師で、二宮演奏家協会会員。務めている。武蔵野音大卒業後、

ウイーン国立音大に留学。ヨーロッパを含め、多くのオペラに出演し、オペラの演出家として

も知名度がある。母校で後進の指導に当たるほか、東京都内や地元二宮町でも子供たち、音楽愛好家の合唱指導をしている。

(続き)

規程によると、「町行政、地域住民参加による地域福祉活動の情報交換と課題解決」を目的に掲げている。事業として町主導の「二宮町お互いさま推進協議会」(2月発足)や一色小学校区内の福祉関連団体と協力した取り組み、支え合い活動の推進などを上げている。最大の眼目は、国が推進する地域包括ケアシステム構築に向けた体制づくりだが、H29年度からは「通いの場」がスタートするため、これらを巡る情報交換なども大きなテーマになる見通し。

メンバーは百合が丘、緑が丘、一色の5地区から各3名ずつ代表者を出し、このほか町、町社協、地区内福祉事業者からの17名で構成。会長には岸野氏(百合が丘2)、副会長には石黒賢路氏(緑が丘)、新田積善氏(ゆりふく会長)、金子宜男氏(百合が丘地区社協部会長)、書記には宮田勉氏(一色緑が丘地区社協部会長)らを選んだ。



福祉協を決めた地域福祉部会(一色コミセン)

同協議会は今後、隔月で定例会、役員会を開催する。組織立ち上げ後の第1回会合は4月26日。また、今後の地域再生協議会との関係では、当分の間、同協議会が再生協議会地域福祉部会を兼ねる形で活動していく。

*地域包括ケアシステム

地域に生活する高齢者の住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステム。厚生労働省が2025年をめどに実現を目指している。二宮町は町内自治会・地区社協・老人クラブなどが参画する協議体を、小学校区単位で設ける方針を打ち出している(「ニッポニカ」の解説など)

案内板、4カ所設置

地域課題検討部会・里山散策路分科会は3月末までに、地区内4カ所に案内板(写真)の設置を終えた。案内板には一色小学校区内の散策路や公園、文化史跡などをわかりやすく記したマップを載せる予定で、早ければH29年度下期から使用を開始する。



案内板の仕様は高さ180cm、幅134cmで、薄いボックスの中に掲示を貼れるようになっている。町の広報掲示板をひと回り小さくしたような体裁だ。設置場所は峠公園近接地(百合1)、団地中央葛川沿い(百合2)、一色防災コミセン、緑が丘中央公園の4カ所。

同分科会は現在、一色小学校区の散策路、ハイキングコースを次々に調べてウォークマップに載せるコースや道標設置個所の絞り込みを始めている。案内板設置はこれらの作業が終わる前に具体化したもので、この地区の散策路整備には欠かせない個所ばかりを選んだ。散策路の絞り込み、ウォークマップの制作を終えるまでは再生協議会関連のイベント紹介、広報掲示に使用する。

回覧 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

学校連携、公園・散策部会新設

29 年度本部会議 副会長に矢島、井上氏 事業予算は 510 万円

一色小学校区地域再生協議会は 4 月 19 日 (水) に本部会を開き、H28 年度の事業・決算報告を承認し、組織の再編、役員改選、H29 年度の事業計画、収支予算を決定した。組織再編では、3 つの新事業着手を受けて部会を見直し、学校連携、公園・散策路部会の発足を決めた。また地域ごとの体制を強化するため矢島篤造氏 (緑が丘前地区長)、井上勝夫氏 (一色地区長) を副会長に選任。地区長交代等に伴う理事、部会長 10 人の交代を決めた。5 月中には全 6 部会の予算を確定し、H29 年度の事業活動が始動する。

組織再編は、H28 年度の地域課題検討部会から提起された魅力ある地域公園づくり、一色小の地域交流拠点化、里山健康ウォークマップづくりの 3 テーマの検討開始を受けたもの。学校連携部会は既存の友情の山と一色小の交流拠点化を一体化。公園・散策路部会は 2 つの新テーマを扱う。古民家活用、文化イベント振興、地域福祉、県住宅供給公社の 4 部会は前年度を継承するため、部会数は前年同様 6 部会構成となる。(裏面に続く)



第 1 回本部会議で挨拶する村田町長

部会メンバーを募ります

H29 年度の 6 部会体制が決まったのに伴い、改めて各部会メンバーの参加者を募集する。募集するのは学校連携、古民家活用、文化イベント振興、公園・散策路の 4 部会で、6 月以降、それぞれの部会で実施計画づくりに参加する。このうち、学校連携、公園・散策路部会は今年度からスタートする。学校連携部会は一色小学校交流拠点づくりと友情の山山百合の一般公開、公園・散策路部会は魅力ある公園づくりと里山健康ウォークマップづくりのプロジェクトを担当する。この両部会の参加申し込みにあたっては、それぞれの希望テーマを明記してもらおう。(詳細は 5 月 9 日の回覧参照)

申し込み・問合せ 電話 0463-59-9356 (地域再生協議会 火・金午前中のみ)

メール qqzq6rm9k@shirt.ocn.ne.jp 締切り 5 月 25 日 (木)

再生協議会を牽引する部会長人事では、学校連携は加藤良輝氏（緑が丘）、文化イベント振興は三浦憲門氏（同）、古民家活用は松本篤子氏（グリーンにのみやプロジェクト代表）、公園・散策路は渡辺貢成氏（百合が丘2）が就任した。

H29年度予算では、二宮町と国からの負担金400万円と民間財団からの助成金110万円を加えた510万円強の収入をベースに事業展開する。支出では、各部会のソフト事業費200万円強、古民家活用部会向け財団助成金110万円、事務費100万円、工事費100万円が主な内訳。H28年度との比較では、国からの補助金が大きく減ったため、予算全体では700万円近く規模が縮小している。

平成28年度 一色小学校区地域再生協議会 決算書

○収入

(単位:円)

項目	予算額	決算額	比較	説明
負担金	12,000,000	11,280,058	△ 719,942	町負担金
助成金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
雑収入	0	53	53	
合計	12,000,000	11,280,111	△ 719,889	

○支出

(単位:円)

項目	予算額	決算額	比較	説明	
事業費	4,000,000	3,481,119	518,881	友情の山部会	1,891,892
				文化イベント振興部会	624,121
				地域福祉部会	33,575
				古民家活用部会	883,343
				県住宅供給公社部会	0
				地域課題検討部会	48,188
事務費	3,500,000	3,319,614	180,386	旅費	4,298
				人件費	634,739
				消耗品費	83,910
				食糧費	6,490
				修繕費	11,988
				通信運搬費	81,415
				委託費	324,324
				謝礼	8,778
				備品購入費	2,163,672
工事費	4,500,000	4,479,325	20,675	旧ふるさとの家改修費	
合計	12,000,000	11,280,058	719,942		

収 支 差引残高

53

円



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

音楽イベント開催、一色小の山百合公開、ふるさとの家改修、ワークショップ開催——。昨年発足の一色小学校区地域再生協議会(岡村昭寿会長)の活動は、勢いはまだ弱いものの、地域に新しい風を吹かせています。2年目を迎える29年度は学校連携、公園・散策路の2部会を新設し、一色小学校の交流拠点化、魅力ある公園づくり、里山・健康遊歩道の整備など新たなプロジェクトが始まります。

再生協議会は一色、緑が丘、百合が丘をより住みやすく、魅力ある地域にする活動を行っています。地域住民が対等の立場で参加、町や県公社と協力して事業を進めます。

新年度のスタートに当たって一緒に考え、行動する新メンバーを募ります。関心のある方、お手伝いをしていただける方は、各テーマの部会長に連絡してください。自分達の手で自分達の街を良くするため、多くの方々の参加をお待ちしています。締切り5月末。

29年度 あなたの知恵・意見を出してください

部会メンバー 募ります

- 学校連携部会 部会長・加藤良輝 73-3120
友情の山担当部会長・牧野士郎 71-2513
 - ・群生山百合の保存・生育、友情の山の維持・管理
 - ・群生山百合の一般公開
 - ・余裕教室を活用した学校との連携の検討
 - ・余裕教室の運用管理体制の検討
 - ・駐車場の確保についての検討



友情の山の山百合

- 文化イベント振興部会 部会長・三浦憲門 71-7032
 - ・音楽祭の開催
 - 邦楽演奏会 5月28(日) ふるさとの家
 - やまゆり・里山音楽祭
 - 10月14日(土) ラディアン・県公社と
 - 11月5日(日) 一色小体育館
 - ・文化イベントの開催検討



音楽祭には400人が集まった

(裏面に続く)

●古民家活用部会 部会長・松本篤子 72-4933

- ・ふるさとの家の運営・管理
- ・ふるさとの家を活用した各種イベント
- ・地域産品によるクラフトワークショップ開催
- ・足柄発酵茶・オリーブ茶の製造
- ・古民家サイトの設置・運営



ふるさとの家でそばづくり

●公園・散策路部会 部会長・渡辺貢成 72-5030

里山・健康遊歩道担当部会長・高橋哲也 74-5102

- ・域内 5 公園の活性化案の具体化
公園としての環境整備、イベント開催など
- ・都市公園の維持・管理・運営の検討
二宮町、地区、公園愛護会等の役割分担など
- ・域内散策ルート確定、案内マップ作成、散策ガイド育成の検討
- ・道標等の設置箇所、道普請箇所の選定



ワークショップでアイデア出し



里山の散策路調査

5月のイベント案内 (いずれも無料)

古民家コンサート

5月20日(土)

10:30~11:30

11:30~12:30

邦楽とお茶の集い

5月28日(日)

13:00~

14:00~16:00

主催) 県住宅供給公社

古民家 ふるさとの家

里山散策(雨天中止)

古民家コンサート ユースクラシック(5人の女性奏者による管弦楽)

主催) 文化イベント振興部会

古民家 ふるさとの家

抹茶サービス(呈茶券300円)

尺八・森丹山 琴・城処みやこ

雅楽演奏・橘川卓司ほか

お茶と菓子・小林宗紀ほか



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

やまゆり合唱団

6 月から練習開始

90 人超で新結成

総勢 90 人超の合唱団誕生——。一色小学校区地域再生協議会文化イベント振興部会 (三浦憲門部会長) が結成するやまゆり合唱団への参加申込者が 21 日 (月) 時点で 90 人達した。応募の締切りは 5 月末となっており、最終的には 100 人近くになる見込み。同合唱団は山内みどり、一石洋子さんの指導の下、今秋の演奏会に向けて 6 月半ばから練習を始める。大型合唱団の誕生は地域にとって明るい話題だ。



山内みどりさん



一石洋子さん

21 日時点の応募者内訳は中高年が中心で、男女比率は 37 : 63。地区別では一色小学区に力点を置いて呼びかけた結果、百合が丘 49、緑が丘 30、一色 11、その他 10% の割合。顔ぶれを見ると、初めて合唱団に加わる人が半数以上と見られる。ただ今のところ、小中学生の参加は少数にとどまっている。

文化イベント部会では、6 月から百合が丘児童館、一色小を拠点に練習を重ね、10 月 14 日 (土) ラディアン、11 月 5 日 (日) 一色小体育館での演奏会に臨む。指導は山内、一石、高寺真美 (ピアノ) さんを柱にスケジュールを固めており、地域に新風を吹き込むべく段取りを組んでいる。

絶滅危惧の金蘭 友情の山で見つかる！！

一色小・友情の山に、町内では珍しい山野草が数多く生育していることがわかった。植物に詳しい山本絢子さん、和田美乃さんに 4 月末に現地調査をお願いした結果わかったもので、絶滅が心配されている金蘭が 20 本も見つかった。(写真)

このほか、セントウソウ、ナツトウダイ、キッコウハグマなど町内でも希少性の高い野草が次々確認された。学校連携部会では、山野草の分布一覧表を作成、珍しい山野草には立札を立てる予定。群生山百合の一般公開期間中の 7 月 26 日 (水) には現地で山本さんらによる山野草説明会を開催する。



県住宅供給公社部会 里山散策&古民家コンサート開催！

県住宅供給公社が主催した古民家コンサートが5月20日(土)に古民家ふるさとの家で行われた。コンサートの前には古民家ふるさとの家を発着する里山散策、コンサートの後には地域の名産品を中心とした軽食提供も行われ、参加した90名超が里山、古民家、音楽のコラボレーションを満喫した。



散策は約2.6kmの行程。当日は好天に恵まれ、里山散策の参加者は吾妻山や相模湾、富士山などの眺望を楽しんだ。



演奏はコースクラシック。秋の音楽イベントにも出演を予定している。今回のコンサートのプログラムは魔女の宅急便やとなりのトトロといったジブリ映画の音楽や坂本九メドレーといった、ポピュラーな音楽中心。



コンサートの後はランチタイム。町内のお店で買える魚や野菜、地域の名産品などを楽しんだ。

当日の様子は県公社の「湘南二宮 さとやま@コモン」のホームページでも見られます。(「二宮さとやま」で検索可)

県公社部会のイベントは6月まで目白押し。ホームページやFacebookでもイベント情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後の予定	
5月27日(土) 田植え体験	小田原市小竹にある公社所有の水田で田植えを体験。田植え後は参加者で軽食を楽しむ予定です。
6月3日(土) 童謡レゲエライブ	百合が丘商店街にあるコミュニティダイニングにて、アーティスト“Coba-U” ^{コバユ} の童謡レゲエのライブを行います。独特のCoba-Uワールドをお楽しみください。ぜひ、親子連れでどうぞ。
6月7日(土) タケノコのお土産付！竹林整備体験	小田原市小竹にある公社所有の竹林をみんなで整備しましょう。作業をしながら、現地でその近隣で収穫したマダケのタケノコのお土産付き。



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

公社・共同キッチン

一般利用がスタート

県住宅供給公社部会 (渡辺哲部会長) のコミューナルダイニング (共同キッチン) 一般利用計画がいよいよスタートする。百合が丘商店街の公社店舗スペースを、地域団体やサークルなどの交流の場としての利用を可能にするもので、料金は光熱費相当の 300 円/時、1,500 円/日。利用時間は、平日の 9 時—17 時。キッチン、レンジ、食器などの付帯設備を揃えており、パーティや食事会など「食」を絡めたイベントスペースとしての利用を期待している。

共同キッチンの開設は昨年から準備を進めており、「【食】を通じて、地域住民同士が交流を図れる【地域の井戸端・縁側】」が基本コンセプト。一般利用受付開始に備えて昨年末からは毎水、木曜の昼前後に限ってランチスペース (無料) に開放している。このうち、毎木曜は百合が丘社協部会が利用している。また、月 1 回ペースでの歌声ダイニングやミニ音楽、昼食会等も開いてきた。

事前予約制で、申込みは公社事務所 0463 - 80 - 9800 へ。すでに何件かの問い合わせが来ており、「みんなでご飯を食べる場所として気軽に利用して欲しい」という。



時には音楽イベントも開く

盛況！ 邦楽演奏とお茶の集い



文化イベント振興部会 (三浦憲門部会長) が 5 月 28 日 (日)、古民家ふるさとの家で開いた「邦楽演奏とお茶の集い」は約 90 人が参加、盛会裡に終了した。

小林宗紀さんとお弟子さんによる抹茶とお菓子を味わいながら、浄源寺住職の森丹山さんの尺八、城処みや子さんの琴による独奏・合奏演奏を鑑賞。最後は「ふるさと」を全員で合唱した。

ふるさとの家で「越天楽」
さんらによる雅楽演奏があり、「越天楽」をはじめ普段あまり生演奏で聞くことがない優雅な調べを堪能した。当日は天候にも恵まれ、多くの皆さんが庭のテント席で心地好い風に吹かれながら憩いのひと時を楽しんだ。

休憩の後、小林宗紀さんによる茶席や花のお話、橘川卓司さんらによる雅楽演奏があり、「越天楽」をはじめ普段あまり生演奏で聞くことがない優雅な調べを堪能した。当日は天候にも恵まれ、多くの皆さんが庭のテント席で心地好い風に吹かれながら憩いのひと時を楽しんだ。
(裏面に続く)

参加希望 106 名に **やまゆい合唱団**

文化イベント振興部会（三浦憲門部会長）が募っていたやまゆい合唱団へ参加申し込みが、106 名に達した。5 月末で締め切ったもので、小中学生の参加者がまだ把握できていないことから、最終的にはさらに増える見込み。6 月 11 日（日）に顔合わせを行い、10、11 月の本番に向けてさっそく練習を開始する。

やまゆい合唱団は地域盛り上げ策の一環として回覧、掲示板、町広報などを通じ希望者を募ってきた。106 人の内訳は男性 35 人、女性 66 人、子供 5 人。地区別では百合が丘 48 人、緑が丘 34 人、一色 9 人、その他 15 人。合唱指導には山内みどりさん、一石洋子さんのほか、百合が丘在住のソプラノ歌手・桑田葉子さんが加わることになった。指揮者についても別途要請する方向で準備している。

県住宅供給公社部会イベント 5/27(土)田植え体験 6/3(土)童謡レゲエ

田植え体験

5/27(土)、晴天の中、小田原市小竹にある県公社が所有する水田で田植え体験が行われた。大人から子供まで、約 20 名が参加し、田植えをしたあと、軽食を摘みながら交流を楽しんだ。子供たちは田植えが終わった後も、カエルを捕まえるなど、里山体験を満喫した。今回植えたのはもち米で、秋の稲刈り体験やその後の餅つきなど、今後のイベントにも乞うご期待！

昨年はイノシシによる獣害にあい、ほとんど収穫ができなかったが、今年は農家の方の協力を得て鳥獣対策を行う予定。秋の収穫がとても楽しみだ。



晴天の中、親子連れて田植え作業の体験



カエル捕まえたよ



お土産はタケノコ！

Coba-U 童謡レゲエライブ

6/3(土)、晴天の中、百合が丘商店街にあるコミュニティダイニングを会場に、女性レゲエシンガーで 2 児の母である Coba-U(コバユ)のライブが行われた。当日のプログラムは童謡やポピュラーソングをレゲエ調に編曲したもの。集まったのは親子連れからお年寄りまで約 50 名。Coba-U と一緒に歌ったり、踊ったりして、タイヘンな盛り上がりを見せた。



レゲエアーティスト Coba-U

県住宅供給公社部会では、6/17(土)にもイベント「竹の子(マダケ)のお土産付き ♪竹林整備体験」を予定している。参加申込み、問合せは県公社二宮事務所(Tel.0463-80-9800)まで。



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

古民家部会 相次ぎ自主イベント

東京農大と発酵茶開発へ

古民家活用部会（松本篤子部会長）は東京農業大学と連携した発酵茶の試作、絵本読み聞かせ会、吊るし雛展開催など H29 年度中に 7 事業を推進することになった。レーザーカッターを使ったクラフト品の試作（11 月中旬）も神奈川大と連携して取り組む。また年明けからの吊るし雛展では期間中 1,300 人の来場者を見込んでいる。民間財団からの助成金を活用した企画を継続的に実施することで、一般利用を開始した「古民家ふるさとの家」の認知度を高めたい考え。

最も力を入れている発酵茶試作では、普通の茶葉と無農薬オリーブ葉を原料にした 2 タイプを手掛ける。製造過程で乳酸菌を投与する発酵茶は整腸、降血圧効果など健康食品として注目されているものの、徳島県など一部地域でしか作られていない。地域再生協議会は近く東京農大と共同研究契約を結び、オリーブ発酵茶の製造に着手する。原材料調達や諸作業は古民家部会が、製造技術の指導や製造工程でのデータ分析などは内野昌孝教授など農大関係者が担当する。再生協は研究経費の一部を負担する。出来上がった製品は試飲会などを開き、将来の商品化の可能性を探っていく。

東京農大、神奈川大との連携以外の事業はハーブ化粧石鹸づくり（7 月 23 日）、ドミノ編み靴下づくり（12 月中旬）、絵本読み聞かせ会（10 月中旬）、一色里山散策会（9 月）、吊るし雛展（来年 1 月）。会場はいずれも古民家ふるさとの家。

合同練習始まる

やまゆり合唱団

やまゆり合唱団の練習が 6 月 11 日（土）から始まった。百合が丘児童館での初回練習には 78 名が出席、初日から男声、女声各 2 パートに分かれて声を張り上げた。



80 人が声を合わせ初回練習

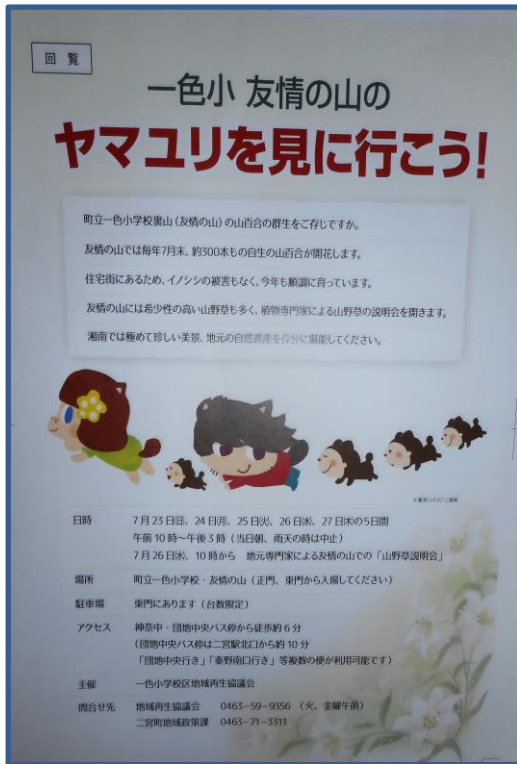
当日は岡村協議会会長、三浦文化イベント振興部会長からの説明の後、山内みどり指導リーダー（武蔵野音大講師）が指導者、ピアノ奏者を紹介。分厚い楽譜を見ながらの発声指導が始まった。その後、各パートごとの指導があり、最後は全員が揃って合唱した。

山内リーダーからは「初日には上出来。楽しく頑張りましょう」との講評があり、あっという間の 3 時間を終えた。（裏面へ続く）

山百合公開、7月末5日間

26日(水)に山野草説明会も

一色小友情の山の群生やまゆりの一般公開が、7月23日(日)から27日(木)までの5日間に決まった。公開は昨年に続く2回目で、学校連携部会(加藤良輝部会長)が準備を進めている。今年は公開日を集中させたほか、少ない台数ながらも駐車場を用意する。26日(水)には、山野草の専門家による現地説明会を予定している。今年の700人を上回る入場者を期待している。



一色小 友情の山の
ヤマユリを見に行こう!

町立一色小学校裏山(友橋の山)の山百合の群生をご存じですか。
友橋の山では毎年7月末、約300本の自生の山百合が開花します。
住宅街にあるため、インシシの被害もなく、今年も順調に育っています。
友橋の山には希少性の高い山野草も多く、植物専門家による山野草の説明会を開きます。
湘南では極めて珍しい美蓼、地元の自然遺産を十分に堪能してください。

日時 7月23日、24日、25日、26日、27日の5日間
午前10時～午後3時(当日朝、雨天の時は中止)
7月26日、10時から 地元専門家による友橋の山での「山野草説明会」

場所 町立一色小学校・友橋の山(正門、東門から入園してください)

駐車場 東門にあります(台数限定)

アクセス 神奈中・国体中央バス停から徒歩約6分
(国体中央バス停は二宮駅北口から約10分
「国体中央行き」「秦野南口行き」等乗車の便が利用可能です)

主催 一色小学校区地域再生協議会

問合せ先 地域再生協議会 0463-59-9356(火、全曜午前)
二宮町地域政策課 0463-71-3311

一色小校庭裏の友情の山には約300株のやまゆりが自生。心ない人の持ち帰りや獣害によって群生地が少なくなっている中、希少な「地域自然資産」としての評価が高まっている。学校敷地内という立地上の制約から一般公開が見送られてきたが、再生協による働きかけと一色小、町教育委員会の理解によって夏休み入りの公開が実現した。昨年は各メディアが取り上げたせいもあって、町外からの見学者も多かった。

2年目の一般公開では、山野草の見学・説明会を併せて実施する。昨年来行ってきた専門家による山野草の生育調査では、吾妻山などに比べてより自然な環境が保たれているため、希少な山野草が多く生育していることが明らかになっている。学校連携部会では、これらの植物について名入り立札を立てるなどの手を打った。現地での見学・説明会には調査に携わってきた山本絢子、和田美乃さんの2人が講師をつとめる。

東京ハイジ制作のポスター 昨年の公開以後、県の専門家の指導に沿って山百合の生育環境を改善する間伐を行っており、雑木、シュロなど65本を除去した。また、除草や施肥、殺虫などにも気をつかいつつ世話をしてきた。この結果、昨年よりも百合の生育、発芽が良くなっており、例年以上の開花が期待できそうという。

ハーブ石鹸を作ろう—夏休み、親子で

日時 7月23日(日) 時間 午前の部 10:00～ 午後の部 13:00～

募集 先着40名

費用 大人 1,000円 子供 500円(含む材料、傷害保険)

場所 古民家 ふるさとの家 持ち物 エプロン・タオル

申し込み 地域再生協議会事務局(火、金 9時～12時) 0463-59-9356

qqzg6rm9k@shirt.ocn.ne.jp

0463-72-4933(松本) miwataro@mj.scn-net.ne.jp



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

「音楽祭」相互乗り入れ

協議会・県公社の秋イベント

再生協議会と県住宅供給公社が連携して開く「やまゆり里山音楽祭」(仮)の内容が固まった。県公社は 10 月半ば、ラディアンで「子供」に焦点を絞った企画を練っており、協議会は新結成の合唱団をはじめ地域人材を重点的に起用する。また、双方の中心演者をそれぞれの企画に登場させるなど、これまでの連携関係をさらに発展させる。

音楽イベントの一体的展開は昨年からスタートし、2 年目はさらに進展させるべく話し合ってきた。その結果、協議会の目玉であるやまゆり合唱団の県公社イベントへの出演、公社企画の核になっているユースクラシック(若手奏者グループ)の協議会企画への出演、合唱団伴奏などが決まった。入場はいずれも無料。

協議会のプログラムは、ユースクラシックを除いた出演者はすべて地域関係者に絞った。昨年好評だった桑田葉子(ソプラノ)、一石洋子(同)さんらによるミニコンサートに、オカリーナ奏者・波多野杜邦(元二宮高校教諭)、サキソフオン奏者・菊池彩也さんが加わる。また、地域住民主体のやまゆり合唱団も、80 人以上の規模で月 2 回の練習を重ねている。協議会音楽祭の主な内容は以下の通り。



桑田葉子



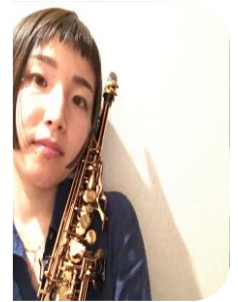
一石洋子



高寺真美



岩崎千恵



菊池彩也

日時・場所 11 月 5 日(日) 一色小学校体育館

- 内容 ●桑田葉子(ソプラノ)・一石洋子(同)
高寺真美(ピアノ)・岩崎千恵(同)
によるミニコンサート
- 菊池彩也+伴奏によるサキソフオン演奏
 - 波多野杜邦+波の会によるオカリーナ演奏
 - ユースクラシック(若手音楽集団)演奏
 - やまゆり合唱団(伴奏 ユースクラシック)

(裏面に続く)

テーマは「子ども音楽祭」

県公社 10月14日(土)ラディアンで

「やまゆり里山音楽祭」(仮)の先陣を切る県住宅供給公社の音楽祭は10月14日(土)、ラディアンホールで開催する。県公社は昨年からは百合が丘にある二宮団地のリフレッシュに取り組んでおり、音楽祭などを通じて二宮町内外に対し公社街区への関心を高めたい考え。この5月には、古民家・ふるさとの家を使ったミニコンサートも開いた。



Coba-U



サクスカルテット Adam



ユースクラシック



アンサンブル・ラディアント

今秋のイベントでは、子育て世代や子供たちに焦点を絞った「二宮子ども音楽祭」(仮)として展開する方針を固め、出演者やプログラム編成を検討中だ。具体的には、「童謡レゲエ音楽」を演じるCoba-Uを起用するほか、ユースクラシック(若手奏者グループ)、白井英治氏(バイオリン)、アンサンブル・ラディアント(管弦楽)など本格派演奏者にも親子で楽しめる曲目を演奏してもらおう。会場との交流にも新たな工夫をこらす。7月中にも最終的内容を決定する。

●出演者

童謡レゲエ歌手 Coba-U、ユースクラシック、サクスカルテット Adam、白井英治、アンサンブル・ラディアント、山百合合唱団

●プログラム

ドレミの歌、私のお気に入り、森のくまさん、赤い靴、ジュピター、ブエノスアイレスの四季、紅葉、アメイジンググレイス、上を向いて歩こう、リベルタンゴなど



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

9月にワークショップ開催

学校連携など3Pの実行案固め

地域再生協議会は9月10日(日)、百合丘児童館で第3回ワークショップ(WS)を開く。これまで検討してきた一色小の交流拠点化、魅力ある公園づくり、里山散策路整備の3プロジェクト案について参加者から意見を聞き、29、30年度の実行案に反映させる。今年1月に約70人が参加して開いた第1回WSでは、これら3テーマに対する提案、アイデアを募っているが、今回はそれらを踏まえた最終案作成の重要なプロセスと位置付けている。



1月末のワークショップ

第3回WSでは冒頭、各プロジェクトの部会長が予算見直しを含めたこれまでの検討経緯と推進案を説明。参加者は、自分が関心のあるプロジェクトグループを選択して議論に加わる。すでにアイデア出しの段階は終わっているため、各グループを順に回って各テーマに広く関わるやり方は取らない。3部会長はグループ内での議論に備え、より詳しい検討資料を準備する。

各検討グループには、加藤良輝(一色小の交流拠点化)、渡辺貢成(魅力ある公園)、高橋哲也(里山散策路)の部会長のほか、それぞれの部会員が加わるので、参加者と実質的な意見交換を行いやすいと見ている。開催日を日曜日にしたのは、働き盛り世代や女性の参加を増やしたいとの考えで、多くの地区住民の出席を期待している。

一色の文化遺産——講演と現地説明会

散策路部会(高橋哲也部会長)は9月17日(日)、郷土史家の島崎直人氏を招き、「一色の歴史と文化遺産」と題した講演会を開く。島崎氏は二宮・川勾の生まれで現在、平塚吉沢小教諭。郷土に関わる多くの古文書を読みこなし、二宮町史等の執筆にも加わった。

古墳時代以降の一色地区の歴史を振り返ったうえで、横穴古墳、神明神社、浄源寺、阿弥陀堂などの文化遺産について解説する。



島崎直人氏

講演会は古民家ふるさとの家で、10:00から。続いて10月15日(日)にはこれらの現地説明会を計画しており、郷土史や文化財に関心のある方々の参加を見込んでいる。

(裏面に続く)

発酵茶づくり始まる

8月からオリーブベースも

古民家活用部会（松本篤子部会長）が民間財団の助成を受けて取り組んでいる発酵茶づくりが始まった。7月11日（火）には部会員総出で茶葉の採取、釜茹で、3つの樽への漬け込みを行い、漬け汁の点検や天日干しへと進んでいる。8月半ばからは本命のオリーブ発酵茶に取り掛かる予定で、共同研究契約を結んだ東京農業大学の分析、評価などを経て試飲会も行いたい考えだ。

発酵茶は一般茶と違って茹でた茶葉を樽に漬け込み、微生物（乳酸菌）の力を借りて発酵させて製品化する。同部会の発酵茶づくりは、徳島県などで実績のある普通の茶葉原料タイプと、オリーブの葉をベースにしたタイプの両方を手掛ける。このほどスタートしたのは一色地区の茶葉を原料にしたもので、部会員が分担して毎日の漬け汁の点検や天日干しに当たっている。

製造工程は茶葉摘み—釜茹で—茶葉揉み—茶葉漬け—天日干しの5段階からなり、このうち茶葉漬けまでは一気に行う。7月末の段階では第1、第2樽分はすでに仕上がり、第3樽が天日干しの最中。オリーブ発酵茶も製造工程はほぼ同じで、通常茶葉ベースの仕上がりなどを点検したうえでオリーブベースに取り組む。

東京農大とは、「オリーブ茶の発酵に関する研究」に関し、研究連絡会や報告書の作成、研究経費の分担、研究成果の帰属、成果の公表など多くの項目について取り決めた契約を結んだ。主たる分担はオリーブ茶の製造やサンプル採取は再生協議会、オリーブ発酵茶の分析、技術指導は同大。実施期間は平成30年3月末までとなっている。

オリーブ茶は未踏の領域

7月半ば、古民家ふるさとの家の仕込み現場を訪れた内野昌孝東農大教授（分子微生物学）は、オリーブ発酵茶について以下のように語った。

「オリーブ発酵茶は科学的裏付けのあるデータ収集は皆無に近く、フロンティア領域と言える。乳酸菌とオリーブの相性の良さ、味覚等を調べ、安定的につくる方途を探りたい。ただ、本当に発酵するかどうかについてまだ十分わかっていない。製品化するうえでここが重要なポイントだ」



漬け汁をチェックする



オリーブ茶に向けての打合せ



内野教授



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

「空き教室利用」固まる

一色小・南棟 1 室、9 月から受付開始

学校連携部会 (加藤良輝部会長) が一色小などと調整していた「学校施設運用規則」がまとまり、9 月から一色小の空き教室利用の受付を始めることになった。一色小南棟 1 階の 1 教室を再生協議会が借り受け、協議会が窓口になって進める。当初は協議会傘下の組織中心になるが、軌道に乗れば利用者の範囲や対象を広げたいとしている。一色小は来春からコミュニティースクールへの移行が決まっており、施設利用にまで踏み込んだ地域と学校の連携が、今後どう発展して行くかに関心が集まりそうだ。

一色小の空き教室利用は、今春発足の学校連携部会が最重要施策として取り上げてきた。子供たちの安全確保、教育機能の保持を担保しながらの態勢づくりが課題になっていた。同部会が一色小、町教育委員会と調整・合意した運用規則が 7 日 (月) に開かれた同部会で報告・承認された。

使用場所は、「当分の間、南棟 1 階の 1 室」とし、授業がある平日だけでなく休日に
(裏面に続く)

やまゆり合唱団、来年 1 月に 3 度目の登壇



新結成したやまゆり合唱団の練習が 8 月から佳境に入るが、このほど 3 回目の登壇が決まった。来年 1 月 20 日 (土)、ラディアンで開かれるコミュニティースクールフォーラムへの出演で、10 月 14 日 (土) の県公社・子ども音楽祭 (ラディアン)、11 月 5 日 (日) の本番 (一色小体育館) に続くもの。町教育委員会からの要請に応じる。

一色コミセンでも練習

また、合唱団の指揮者に一色小音楽専科の中山和明先生が就くことが決定。練習後半から指導に入る。さらに合同練習への参加が難しかったり、個人練習を希望する団員向けに山内先生、ピアノの高寺さんが中心になって CD 録音を終えている。合唱曲の CD 制作には IT クラブメンバーの協力を得た。最初の登壇までの合同練習はあと 4 回ほどしかなく、CD 活用への期待が高まっている。

(続き)

についても可能にした。利用者の範囲については、「再生協議会が掌握する団体及び個人」としており、利用希望者の予約管理、学校への連絡や調整は再生協議会が行う。利用時間は午前9時～午後9時。休日や平日の午後5時以降の利用は施錠、入退室とも別体系で行う。このほか、利用時の名札の着用、鍵の管理、入室方法などについても「運用ルール」を決めている。

再生協議会では、9月から電話、メールなどを通じての申し込みを受け付けるが、無理せず利用者を増やしていく考え。現在の余裕教室利用は、コミュニティ活動の活性化を狙いに取り組んでいるが、「一色小コミュニティスクール」の展開次第でさらなる調整が必要になると思われる。

友情の山、300人にとどまる

学校連携・友情の山部会（牧野士郎会長）が実施した山百合群生地的一般公開の参加者は、約300人（去年は約700人）にとどまった。7月23日（日）から受入れを始めたが、26日（火）が雨で4日間の開催になり、うち3日が平日だったのが響いた。26日に予定していた山野草の説明会も中止になった。山百合の開花は順調だったが、開花本数は去年に比べやや少なかった感じがある。



雨の中の来訪者



ところどころに大輪も

部会では、来訪者の住所、イベントを何で知ったか——などを調べている。来訪者のうち二宮町内は全体の3分の1ほどで、小田原、横浜、平塚、鎌倉、茅ヶ崎など周辺都市からの参加が予想以上に多かった。これらの参加者はほとんどが「新聞で知った」としており、広報展開には工夫が必要と思われる。

友情の山部会は去年の一般公開終了後、山百合の日照を良くするため、シュロや雑木の間伐を実施した。草刈りや施肥などにも注意を払ってきている。神奈川県育苗専門家によると、「山百合は生育に時間がかかり、去年の間伐などの効果が出て来るのは来年以降」という。群生地の保護・育成は長期計画で進める必要があるようだ。

回覧 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)



8 月 23 日 (水)、一色小での練習後のワンショット (撮影・築取正道さん)

本番まであと 4 回 !! やまゆり合唱団

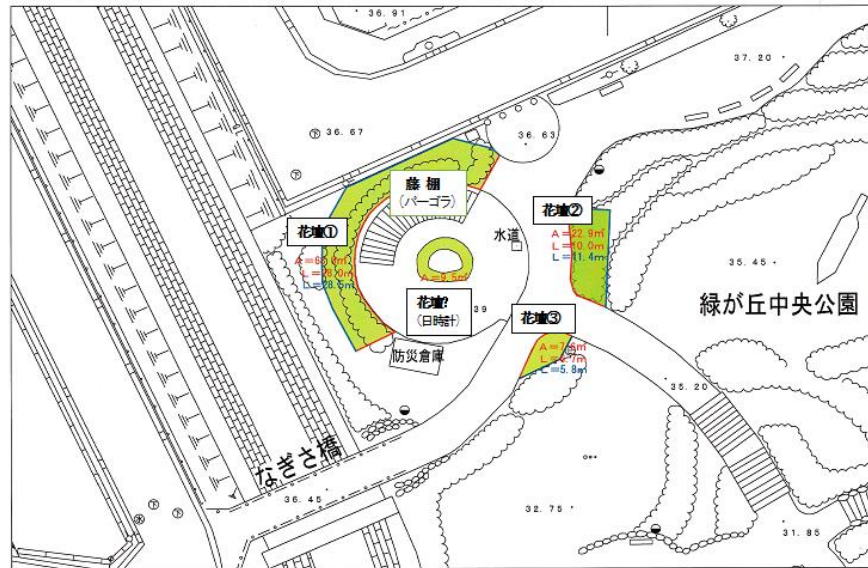
やまゆり合唱団の練習が折り返し点を迎えた。8 月 23 日 (水) には 75 名が参加し、山内、桑田、岩崎 (ピアノ) 先生の指導の下、大きな声を張り上げた。当日は練習用の CD (パート別) を販売、本番の衣装 (T シャツ) の受付も始まった。CD は用意した 70 枚が全部売り切れた。練習は本番まであと 4 回。未就学児から 97 歳までの顔ぶれが揃った合唱団が、どう仕上がっていくか。皆さん、期待してお待ちください。

緑・中央を花壇公園に

公園・散策部会——年内にも工事着手

公園・散策路部会 (渡辺貢成部会長) は、緑が丘中央公園を花壇中心の公園に改修する計画をまとめた。公園の中央部に 4 カ所の花壇を設け、季節感のある花物で飾りたいとしており、公園所有者である町都市整備課と協議を重ねてきた。9 月に開かれる再生協議会ワークショップ、地域会合などで説明し、早ければ 10 月中にも改修工事

に着手する。町では公園の統廃合・再編を進める方針を打ち出しているが、住民が目指す「魅力ある公園づくり」と連携するのは初のケース。今後の公園再編のモデルケースになりそうだ。



H6年開園、面積約5,300平方メートルの緑が丘中央公園は、一色小学区の中では最大の都市公園。しかし、緑地とさつき植栽、湧水池などが配置されているものの、住民にとって「魅力ある公園」とは言い難く、再生協議会の29年度の目玉事業の一つとして改修案づくりが進んでいた。同部会の改修案では、さつき植栽の撤去址に4カ所の花壇を新設。プラ擬木やブロックで縁取りをしながらパンジー・ビオラ、白妙菊など約1,000株の花苗を植え込み、藤棚なども整備する。併せて、藻が繁茂して魅力を失っている湧水池の浄化対策にも取り組みたい考え。

改修及び花苗購入の費用は50～60万円程度と見込まれるが、改修工事、花物の種類、完成後の維持管理などをさらに精査し、最終案を固める。現在のところ、植栽撤去や花壇の設置指導などには二宮町の協力を得たいとしている。一方、花壇の整備、花苗植え、維持管理などには公園愛護会を中心にした地域パワーの参画を見込んでおり、更なる詰めが必要と見られる。

再生協・当面の行事予定

- ・9月10日(日) 9:30～ 町づくりワークショップ 百合・児童館ホール
- ・9月15日(金) 10:00～ 第2回再生協・部会長会議 百合・憩いの家
- ・9月17日(日) 10:00～ 講演会「一色地区の歴史と文化遺産」
講師 島崎直人氏(郷土史家) 一色・ふるさとの家
- ・9月29日(金) 10:00～ 第2回再生協・本部会議 百合・憩いの家
- ・10月14日(土) 13:30～ 住宅供給公社「子ども音楽会」ラディアンホール
- ・10月15日(日) 9:30～ 一色・緑が丘・百合丘歴史散歩
講師 島崎直人氏(郷土史家) ザ・ビッグ駐車場集合
- ・11月5日(日) 14:00～ やまゆり里山音楽祭 一色小体育館
- ・11月6日(月) 9:30～ 一色里山ウォーク 一色・ふるさとの家

回覧

地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

散策路候補 8 コースに

年度内に道標設置へ

公園・散策路部会（高橋哲也担当部会長）は地区内に設定する散策路の候補を 8 コースに絞り込んだ。今月から道標の設置箇所を選定を兼ねた今年 2 回目の実地調査を行う。並行してウォーキングマップの試作にも取り組む方針で、里山散策路の決定は最終段階を迎える。

今春以来の検討作業を通じて絞り込んだのは、富士見、馬場、神社・仏閣（台山）、ゴルフ場、みかん畑、さくら、百合、吾妻山の 8 コース（いずれも仮称）。どれもが概ね一色小学校区内にあり、一色のふるさとの家を休憩地として活用することを織り込んでいる。多くは農道がベースになっており、すでに歩行距離、所要時間、ビューポイント、トイレ箇所、史跡との関係などに力点を置いた 1 回目の現地調査を終えた。

2 度目の調査はこれらを再確認するとともに、道標の設置箇所選定を目的に進める。

(裏面に続く)

富士見コース



共同キッチン 土・日・夜間の利用開始

県住宅供給公社部会（渡辺哲部会長）はコミュニティダイニング（共同キッチン）の土・日・祝日、および夜間利用を受付けることになった。これまでの平日 9 時—17 時利用を利用者の要望を受けて拡大するもので、新時間帯は土・日・祝日は 9 時—21 時、平日夜間も 21 時までになる。

このキッチン付レンタルスペースはパーティ、食事会など「食」を絡めたイベントスペースとして設けており、週末や夜間が使えるようになれば使い勝手が一層よくなる。利用に際しては施設内容を確認し、利用方法の説明を受けたうえで団体登録が必要。使用料など詳細は、ホームページ(「二宮さとやま」で検索)か、県住宅供給公社二宮団地現地事務所 (TEL80-9800) まで

再調査の1番手には最有力視されている富士見と神社・仏閣（台山）コースを予定しており、全部会員が参加する。その他の候補は分担して年内に現地踏破を終える。

富士見コースは一色防災コミセンを起点に、神明神社、みかん畑、浄源寺を経て戻る約3キロ、約1時間半の行程。途中のみかん畑には、町内でも1、2と言われる富士山のビューポイントがある。台山コースは、ふるさとの家から八坂神社を経て相模湾が一望できる台山に登り、せせらぎ公園北側の農道を散策する。

同部会では、この間、町民温水プール、百合丘3丁目の配水池脇などでショートカット経路の開設の可能性を探っているが、いずれも地権者側との調整が不調に終わった。このほか、道標の設置に際しても地権者との調整が課題になる。

神社・仏閣（台山）



富士見、みかん畑コース





地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

音楽祭 連続して 開催

10、11 月はイベントラッシュ

再生協議会各部会は 10-11 月にかけて各種のイベントを次々に開催する。ラディアンで開く「こども音楽祭」を皮切りに、音楽、文化遺産散策、民話の読み聞かせ会、稲刈りなど多彩な企画が出そろった。この期間のイベント件数は 9 つに達し、一色小学校区の秋はかつてないほどの催し物ラッシュを迎える。

10-11 月中のイベント(いずれも参加無料)

- 10/14(土) 二宮こども音楽祭 ラディアン 13:30~ 県住宅供給公社主催
- 10/15(日) 一色の文化遺産散策 ザ・ビッグ駐車場集合・9:30 島崎直人講師
- 10/22(日) 稲刈り体験会 小竹東公園集合・13:15 (定員 50 名) 県公社主催
- 11/2(木) 介護保険の説明会 百合が丘児童館 9:30~
- 11/5(日) やまゆり里山音楽祭 一色小体育館 14:00~
- 11/6(月) 一色の里山を歩こう 古民家ふるさとの家集合・9:30 橘川卓司講師
- 11/12(日) 二宮の民話・読み聞かせ会 ふるさとの家 13:30~ (幼児 30 名)
- 11/18(土) ファブラボワークショップ ふるさとの家 13:30 神奈川大道用研究室
- 日程未定 芋掘り会 二宮団地内共同菜園 (百合が丘) 県公社主催

音楽

中でも際立っているのは音楽イベント。再生協と県公社は「2017 二宮音楽祭り」の共通冠の下、「やまゆり里山音楽祭」「二宮こども音楽祭」を連携して開催する。最大の特徴はそれぞれの目玉出演者であるやまゆり合唱団、ユースクラシックが相互乗り入れ方式で出演すること。聴衆にどのようなインパクトをもたらすか

(裏面へ続く)



90 人が練習に励むやまゆり合唱団



ユースクラシックは全員が女性

が注目される。

<こども音楽祭>

- ・出演者 ササキワカバ、Coba-U、ユースクラシック、サクソフォン・カルテット Adam、白井英治、やまゆり合唱団
- ・曲目 ドレミの歌、私のお気に入り、森のくまさん、ジュピター、もみじ、アンパンマン、秋の童謡メドレー、リベルタンゴほか

<やまゆり里山音楽祭>

- ・プレコンサート ビデオ上映「もっと元気な住みよい街に」（再生協の活動）
- ・出演者・曲目
一石洋子（ソプラノ）、桑田葉子（同）、岩崎千恵（ピアノ）、高寺真美（同）
オペレッタ「こうもり」より序曲、「蝶々夫人」よりある晴れた日に他
波多野杜邦、オカリーナ波の会 ピエロのトランペット他
菊地彩也（サクソフォン） カリオカの夜他
ユースクラシック ジュピター、秋のメドレー、ブエノスアイレスの四季他
やまゆり合唱団 紅葉、アメージンググレイス、風の匂い、上を向いて歩こう
指揮：中山和明、岩間靖典
伴奏：ピアノ/吉野和真、岩崎千恵、高寺真美、ユークラシック

体験

11月6日（日）の一色の里山を歩こうは、再生協が検討中の里山散策ルート決定を先取りした企画。みかんの収穫期を迎えた里山を文化遺産をたどりつつ、富士山や相模湾の眺望を楽しむ。稲刈り体験は県公社所有の田んぼのもち米を刈り取り、束ねて干すまでを行う。子供たちには得難い体験だ。終了後、お疲れ様会も。ファブラボとはデジタルからアナログまでの機器を備えた最先端のものづくり工房のこと。描いた絵をスキャナー、パソコンで読み込み、レーザーカッターでコースター作りを楽しむ。指導は神奈川大学道用研究室。大学と連携しためったにない企画だ。



利用が増えつつあるふるさとの家



文化遺産講座に集まった人たち

学ぶ

10月15日（日）の一色の文化遺産散策は、9

月に開いた座学の後編。郷土史家の島崎直人講師が緑が丘古墳公園、浄源寺など文化遺産としての評価が高い史跡の現場を案内する。読み聞かせ会は二宮の昔話を読んだり、紙しばいを準備している。幼児から大人までどなたでも参加できる。介護保険の説明会は介護保険の仕組みと内容を町専門職員がやさしく解説する。高齢化社会を迎え、ぜひ理解しておくべきテーマの一つだ。主催は一色小学校区福祉協議会。このほか、日程は固まっていないが、県公社は共同菜園での芋掘り会を準備している。



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

緑・中央公園 住民参加呼びかけ

11/18、花苗 600 株植付け

「魅力ある公園づくり」を進める公園・散策路部会（渡辺貢成部会長）は 11 月 18 日（土）に、緑が丘中央公園で住民主導による花壇の植付けを行う。パンジーなど 600 株の植付けを計画しており、周辺の花き愛好家に積極的な参加を呼び掛ける。中央公園の改修は協議会の公園対策事業の第 1 弾。年度内に約 70 万円を投入して模様替えする。

協議会では、公園の魅力アップの柱の一つとして「花壇化の推進」を挙げている。季

裏面へ続く

デビュー やまゆい合唱団



練習を重ねてきたやまゆい合唱団が 10 月 14 日（土）、ラディアンの演奏会でデビューした。県住宅供給公社主催のこども音楽祭の最後に、総勢 79 人がターコイズブルーの T シャツで登場。四部合唱のハーモニーを響かせた。会場からは、「ブラボー！」の声もかかるなど、大きな反響があった。

この日は開場前の 12 時に集まり、リハーサル。ところが、初登壇による緊張のせいか、もう一つ乗り切れず、「大丈夫か？」の声も。当日の会場は、席に着けない観客が出るほどの盛り上がりで、これもプレッシャーになった。このため、本番直前に楽屋で再調整して臨み、司会者からは、「二宮らしい温かみのある合唱でした」。指導していただいた山内、一石先生からも「よかった。暖かく、優しく響いていた」と言われ、「一色小の本番ではもっと上手にやろう」の声が上がっていた。

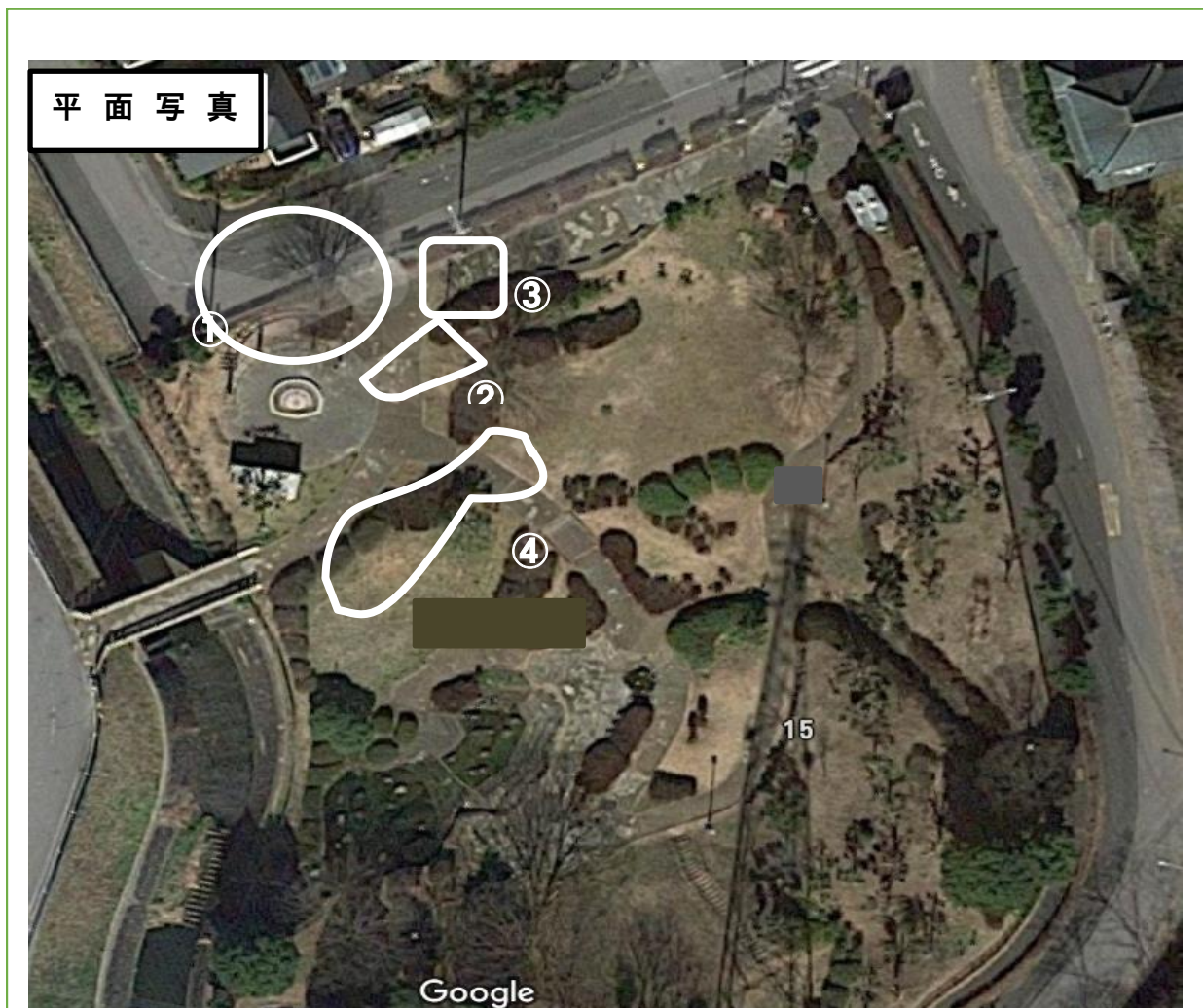
(続き)

節変化に柔軟に対応しやすく、地域住民の参加が得られやすいとの判断からで、中央公園でも模様替えを機に住民の関わりを強く働きかける。現在のところ、地区内の公園愛護会、ゆめクラブ、社協、子供会育成会、自治会などが中心メンバーになるとの期待がある。植付けは9:30に始める。参加者は、軍手とシャベルを持参して欲しいという。

同公園の改修は大きなスペースを占めるさつきの植栽を撤去し、4カ所の花壇を設けるのが中心。基盤工事は二宮町都市整備課の支援を受けながら進め、11月半ばには植付けに入れる見込み。これらの工事費用として約50万円、藤を含めた花苗購入に約16万円を充てる。このほか、湧水池の水藻の除去も計画している。

(花苗植付けに関する問い合わせは、再生協議会事務所へ)

緑が丘中央公園改修計画



① ② ③ は花壇区域

- ・つつじ、芝生等植栽を撤去し、パンジー等による花壇とする
- ・日時計内の芝生部もパンジー等の花を植え付け立体的な花壇構造とする
- ・パーゴラは、屋根部の木材を入れ替え、藤棚に改修する

④ は池区域

- ・池の水藻対策として水藻除去剤であるバクチャー剤を散布する



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

盛況!! やまゆい里山音楽祭

11/5 80 人の大合唱響く

文化イベント振興部会 (三浦憲門部会長) が 11 月 5 日 (日) に開いたやまゆい里山音楽祭は、大きな盛り上がりの中で閉幕した。会場の一色小体育館は、開場前から行列ができ、入場者は昨年とほぼ同じの約 400 人に達した。

岡村会長、村田町長のあいさつの後、プレコンサートがスタート。再生協議会の活動紹介ビデオ「もっと元気な住みよい街に」が大スクリーンに映し出された。

コンサート本番は山内みどりさんの軽妙な司会の下で進行。桑田葉子、一石洋子さんをはじめとする地域とかかわりの深い声楽家、演奏家が相次ぎ登場し、盛大な拍手を浴びた。最後は、6 月に結成したやまゆい合唱団が登場し、「紅葉」ほか 3 曲を披露した。未就学児から 97 歳まで総勢 80 人からなる 4 部合唱が会場いっぱい響き渡った。なお、同合唱団は、来年 1 月 20 日 (土) のラディアンでのフォーラムでもその歌声を披露する。



役員の方から音楽祭、合唱指導の話が持ち込まれてから約半年。住む地域の違う私が、一色小校区の皆様とともに良い仲間になりました。毎回少しずつ練習を積み重ねてきましたが、夏の辛いスランプの時期を経て、秋の本番直前にはめざましく進化しました。まさに amazing (驚き) ですね。素晴らしい方々とご一緒している感謝を、いつも感じています。

山内みどりさん (合唱指導)

一色小では来年 4 月からコミュニティースクールが始まりますが、合唱団では、「歌」を通じた地域と学校のつながりに確かな手ごたえを感じました。学校 (子供) と地域、地域の人たち同士の一体感も高まりました。台風で大荒れの日にも 70 人もの団員が集まったのには驚きました。来年以降、二宮小や山西小学区でも合唱団を立ち上げたいですね。



府川陽一教育長



やまゆり里山音楽祭でお世話になった多くの皆さまに、心からお礼申し上げます。合唱団の結成では初めて集った地域の住民が先生方の厳しくも暖かいご指導のもと、合唱練習と発表会を通じて親交を深めることができたことは大きな喜びです。音楽祭を通じて知り合い培った地域住民の力が、今後展開される再生協議会の計画・行事の成功への一助になれば幸いです。

三浦憲門さん（部会長、緑が丘）

公募で結成した合唱団なので、最初はどうか不安でした。ところが、団員の皆さんの熱い想いと、役員さんたちの頑張りで、どんどん暖かいハーモニーが生まれ、気持ちが一とつになっていきました。本番は聴衆の皆様にご感動していただける素晴らしい合唱になりました。これからも音楽を介して、地域が活性化していけたらと思っております。高寺真美さん（ピアノ）



にわか仕立ての合唱団がここまで盛り上がると思わなかった。地域を超えて集まった80人もの人たちが、一体感を持てるなどということはめったにないこと。道ですれ違っても声を掛け合う仲間が一気に増えた。素人集団をあそこまで引き上げてくれた諸先生には感謝感謝です。欲を言えば、子供の参加が少なかったことかな。

橘川修二さん（一色）

発表会からひと月近く経つのに、会う人ごとに「合唱はとても良かったね」と言ってくれます。指導の先生、支えたスタッフ、参加した方々が一体になれたのが何よりもよい結果につながったと思います。36人のソプラノの世話役をやりましたが、皆さん協力的でとてもスムーズに進みました。地域での交流の輪がもう一段広がりました。



永井二三子さん（百合が丘）



桑田葉子さん



一石洋子さん



岩崎千恵さん



オカリナーの会



菊地彩也さん



この間、月2回の練習日が楽しみでした。終わった今、張りがなくなりました。英語の歌はテープに入れ、随分と練習して何とかこなせました。日常生活の中で大きな声を出すことはほとんどないが、合唱では自分でも信じられないほど大声を出していました。迫力ある4部合唱になったのはそのせいですね。来年も皆様と大声を出すのが楽しみです。

築取正通さん（百合が丘）

地域のカラオケ会に参加している程度だったのに、アメイジングのような本格的な合唱曲を思い切り歌うことができました。指導してくれた先生たちは素晴らしかった。みんなとても喜んでいました。緑が丘以外の人たちと知り合い、一体感を持てたのもよかったです。こういう地域活動はずっと続けて欲しいですね。



山本洋子さん（緑が丘）



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

秋・新規イベント相次ぐ

「ふるさとの家」活用広がる

2 年目を迎えた再生協議会は、実りの秋を狙い打ちするように、各事業部会が新規事業を展開した。中でも大きなインパクトがあったのは、県住宅公社と連携した 2 度の音楽祭りで、ラディアンでの子供音楽祭では入場できない人が出るほど。一色小でも約 400 人が来場し、会場の体育館が満席になった。古民家活用部会も「ふるさとの家」を拠点に、ファブラボワークショップ、絵本の読み聞かせ会など年末までに 4 つのイベントを予定している。公園・散策路部会は、一色の文化遺産、晩秋の里山散策などこれまでになかった企画を具体化した。このほか、県公社部会も大小の地域盛り上げイベント、福祉部会も講演会、施設見学会を計画している。

これらのイベントはいずれも一色小学校区に焦点を当てており、地域に新しい風を吹き込んでいる。ただ、ファブラボワークショップや読み聞かせ会などのように、子供を対象にした企画は参加者の確保に苦戦しており、企画の内容や募集方法の工夫が求められている。部会ごとの主な取り組みは、以下の通り。

公園・散策路

＜緑が丘中央公園・花壇整備＞

11 月 18 日 (土)、公園・散策路部会の主催で改修工事を終えたばかりの花壇スペースに、パンジー、菜の花約 1,000 株を手植えした。同時に、2 本の藤の太株も植えこんだ。今にも小雨が降りそうな中、地元の公園愛護会、夢くらぶ、自治会、社協などのメンバー約 50 人がシャベル持参で集合。1 時間ほどで植え終えた。今後、手入れや維持管理などについても話し合う。



(裏面へ続く)

<晩秋の里山散策>

11月6日(月)、9時半に「ふるさとの家」に集合し、約5キロ歩いて午後2時過ぎに浄源寺で解散した。散策の案内役の橘川卓司さんからコース全般の説明を聞き、八坂神社―林の台―炭焼き広場―神明神社―富士ビュー広場―浄源寺のコースを廻った。参加者は20数名。昼食やトイレは炭焼き広場で。最後の浄源寺では平安時代のつくりといわれる阿弥陀三尊、屋根裏から発見された阿弥陀如来来迎図を見学し、住職の尺八演奏を聞く機会にも恵まれた。



里山散策の一行



横穴古墳の説明に聞き入る

<現場で学ぶ一色の文化遺産>

11月19日(日)、郷土史家の島崎直人先生による一色の代表的文化遺産の現地説明が行われた。9月にふるさとの家で開いた座学をもとに、現地見学をしようという企画。地元の歴史通を含め、25人が参加した。現地説明の中心は緑が丘古墳公園、神明神社、浄源寺の3カ所。

荒れ果てて訪れる人も少ない古墳公園では、もともとは33基もの横穴古墳があったこと、横穴式では神奈川でも有力な古墳の一つであることなどの説明があった。神明神社では鉄製器具類との関係、浄源寺では寺小屋の生徒たちが建てた筆子塚などの歴史史跡の話をついた。各参加者から質問が相次ぎ、解散予定時間がずれ込んでしまった。

古民家活用

<ファブラボワークショップ>

11月18日(土)、ふるさとの家で開催。参加者は子供が14名、大人が20名近く。前日から部会員と神奈川大学経営学部・道用教室の関係者が設営を行い、本番に備えた。子供たちに最先端の機器を使ったものづくりを体験してもらおうとの狙いで企画した。当日は、子供が描いた好きな絵をスキャナー、パソコンで読み込み、レーザーカッターで杉板製のコースターを作った。同教室の5人の学生が子供たちの指導に当たった。仕上げが早い子、遅い子と様々だが、学生たちや大人のサポートもあり、全員が「自分製のコースター」を喜んで持ち帰った。



自分のコースターでポーズ
「自分製のコースター」を喜んで持ち帰った。



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「地域こうりゅうルーム」始動

一色小南棟、再生協が窓口

再生協議会学校連携部会(加藤良輝部会長)は一色小の余裕教室を借り受け、「地域こうりゅうルーム」として活用を始める。利用希望者は再生協に申込み、再生協が学校に日程等を連絡する。一色小との間で同施設の運用規則についても合意した。すでに再生協の部会などが打合せなどに利用しているが、来春の一色小のコミュニティースクール移行に合わせてエアコンの設置、駐車場の拡充など利用環境の整備や定期講座の開設などの検討に入っている。



活用策の検討が始まった

借り受けが決まったのは一色小南棟 1 階の教室で、名称は「地域こうりゅうルーム」。利用対象は、「再生協が掌握する団体、個人」で、再生協を通じて電話かメールで申込み手続きを行い、北棟正面玄関から入室する。その際には代表者が学校から鍵を借りて協議会の名札を着用する。平日の午後 5 時以降や土日については「こうりゅうルーム」の南側からの出入りになる。利用料は無料。

少子化の進展に伴い、空き教室の有効活用が課題になっているが、今回のように地域団体が活用に乗出すのは町内では初のケース。再生協では、子供と地域の交流、地域住民同士の交流——の両建てで新スペースを活用する方向で検討している。

(「地域こうりゅうルーム」利用規則は裏面参照)

子育て世代が愛護会 百合3・長畑公園

リ・プレイ長畑公園——。百合が丘 3 丁目に、子育て世代による公園愛護会が誕生した。公園・散策路部会は「住民に魅力ある公園」をテーマに掲げているが、同公園近隣の有志が集まって結成、腐食ベンチの入替え、ペンキ塗りを始めた。

会の合言葉は「楽しみながらの補修・改善」。公園・散策路部会、町と協力してトイレの洋式化、幼児用便座の設置、清掃対策などに取り組む。メンバーは 8 名だが、地域の子育て世代、シニア世代にも呼びかけて改善案をまとめる。百合が丘では、同会の発足で 3 地区とも公園愛護会が整備されたことになる。



子供たちもペンキ塗り

共同キッチン、軌道に

月1・「歌声ダイニング」も定着

店舗スペースを開放した県公社部会（渡辺哲部会長）のコミュニティダイニング（共同キッチン）が軌道に乗ってきた。11月以後、週末利用は満杯状態が続いており、平日の申込みも増えてきた。同時に、同部会が月1回ペースで開く「歌声ダイニング」も、毎回20人弱の参加者あり、空き店舗を活用した賑わい演出計画は定着しつつある。

共同キッチンの利用形態は、平日夕まで、平日夜間、休前日～祝休日までの3タイプがあり、最も人気があるのは金曜夜～日曜もしくは祝休日最終日までのタイプ。平日昼間料金は300円/時だが、金曜夜からのセット利用は3,000円。スポーツや各種サークル仲間の利用が多く、11-12月はすべて予約で埋まった。利用者は食べ物を持ち込んだり、備え付けの調理器具を使って調理を楽しんでいるという。

これに対して平日利用は、子育て世代のサークルやママさんグループが中心で、料理や弁当を買ってきて一緒に食べるなどのパターンが多いそうだ。平日に関しては、毎水曜の昼前後は県公社が、毎木曜の同時時間帯は百合が丘社協がランチスペースとして開放中。それ以外の平日、夜間帯に関してはまだ予約がさほど多くない。

申込み、問い合わせは電話 0463・80・9800、<https://www.nino-satoyama.com/>

<発酵が醸し出す健康長寿>

再生協議会では、東京農業大学との連携のもと、乳酸菌による発酵茶、オリーブ発酵茶を試作するなど、発酵技術を生かした地域づくりに取り組んでいます。その一環として、専門家をお招きし、「発酵の可能性」についてやさしく解説してもらいます。

日時 平成30年2月3日（土）、13時30分～

場所 古民家 ふるさとの家（一色432番地） 定員50名

講師 穂阪 賢 氏 東京農大教授（応用生物化学部醸造科学科）

熊澤 茂吉氏 熊澤酒造株式会社オーナー

入場無料（駐車場は約25台） *講演会終了後、発酵食品による懇親会を開きます
申込み・問合せ 事務局 59-9356（火、金午前） E-mail: isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「こうりゅうルーム」利用に当たっての運用規則

- 1.（利用者の範囲） 施設を利用できる団体は地域再生協議会が掌握する団体及び個人
- 2.（使用場所） 使用できる施設は、当面の間、南棟1階地域再生協議会用の1室。体育館、その他の教室等を利用したい場合はその都度学校に申し出てる
- 3.（予約方法及び利用・利用時間帯） 学校施設利用にあたっては、地域再生協議会にて予約・管理する。利用時間は午前9時から午後9時まで。休業日と授業日の午後5時以降は、廊下側ドアを施錠し、南側ドアより入退出
- 4.（利用の不許可） 5.（損害賠償） 略
- 6.（入室方法） 授業日は北棟1階正面玄関より、夜間及び休業日は南棟1階の南側出入り口より。入室の際は再生協議会の名札を着用する
- 7.（鍵の管理） 8.（トイレ・水道等施設設備の利用） 9.（駐車場） 略
- 10.（その他） 利用の際は備え付けのスリッパ使用。学校施設内は禁煙を守ること



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

散策路に案内板・道標

まず富士見、神社仏閣コースに

散策路部会 (高橋哲也担当部会長) は富士見、神社仏閣・台山コースに案内板、道標を設置する。すでに20件近い地権者、近接者に説明を行い、了承を得た。資材は1月中にも発注し、年度内に設置作業を終える。予算総額は約23万円。同部会は全6コースの開設を内定しており、残り4コースについてはH30年度中に候補箇所の調査を済ませ、設置作業も終えたい考えた。
(裏面に続く)



合唱指導/プロデュースに 桑田葉子さん

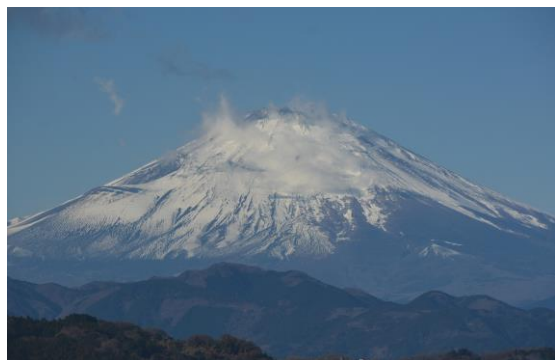
昨年結成した「にのみややまゆり合唱団」の指導リーダーに、ソプラノ歌手の桑田葉子さん=写真の就任が決まった。新んとの交代で、新しい顔ぶれは合プラノ)、ピアノが高寺真美さん全体の企画・制作を担うプロデ
桑田さんは国立音大学声楽科出演。新日本フィル、東京フィのソリストとしても活躍中。二員でもあり、二宮演奏家協会のも手掛けており、圧倒的な声質、
やまゆり合唱団は今年も数回の発
4月から月2回ペースで練習を開始する。桑田さんは「百合が丘の住民でもあり、地域の音楽振興に役立てたらうれしい。皆さんと協力して頑張ります」と語っている。



プロジェクトに取り組む山内みどりさ
唱指導が桑田さんと一石洋子さん(ソ
と岩崎千恵さん。桑田さんは音楽祭
ューサーを兼務する。
卒。オペラやコンサートに数多く
ル、神奈川フィル等の定期演奏会
期会、横浜シティオペラなどの会
中心メンバーのひとり。合唱指導
声量に定評がある。
表会を予定。3月にも新団員を募集し、

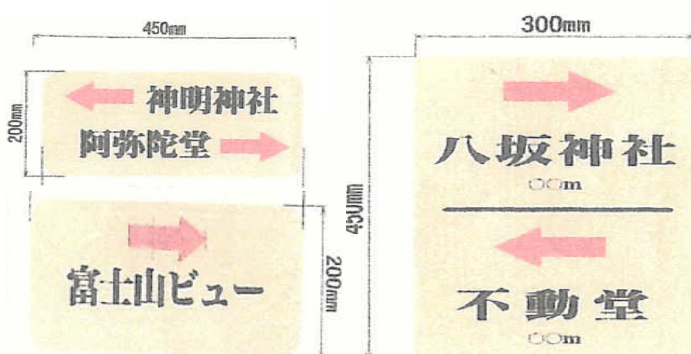
設置する表示物のほとんどが経費を抑えられる案内板で、ベースはアルミの複合材。設置箇所もカーブミラーや擁壁への取付けが多く、切削やコンクリート仕上げが必要な独立型の標識、大型案内板は来年度に持ち越す。設置箇所の地権者や近接者への説明では、ほとんどがこの取り組みに対して理解を示してくれている。

また、計画中の6コースのうち、緑が丘から平塚富士見ゴルフ方面に進む大殿畑コースの一部が崩れかけていることから、2月中に単管パイプや鋼板を使って土留め板の埋め込み工事を行う。工事は部会メンバーが担当し、材料費として10万円前後の費用を見込む。このほか年度内には、全6コースを網羅した散策路マップの試作品の制作を行い、来年度中の完成版製作に備える。



富士見コースから見た富士山(築取氏撮影)

案内板のサンプル



「やまゆい」3度目の登壇——1月20日

やまゆい合唱団は1月20日(土)、ラディアンで3度目の舞台発表に臨んだ。教育委員会主催のコミュニティ・スクールフォーラムの中で、一色小50周年の記念曲「風の匂い」、「アメイジンググレイス」など3曲を披露した。



3度目、66人の雄姿



子供たちも元気いっぱい

当日は団員66人が午前11時に集合し、山内みどり先生の指導の下で最後の練習を行い本番に臨んだ。11月初めのやまゆい里山音楽祭(一色小体育館)以来のステージになったため、相当の緊張感もあったが、指揮者、ピアノ奏者を含めたいつもの顔ぶれで会場いっぱいにきれいなハーモニーを響かせた。

同合唱団はこれでH29年度の公式発表会は終えるものの、2、3月とも練習を継続する。昨年から舞い込んでいる福祉施設からの出演要請にどう対応するかについても検討する。



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

4 月から こうりゅう塾

古正一色小校長、府川教育長招く

地域再生協議会は一色小・南棟に設けた地域こうりゅうルームを使った「一色こうりゅう塾」をスタートさせる。地域との関わりが深く、住民の関心高いテーマを取り上げ、講師と参加者の交流、意見交換の場を設ける。第 1 回は、「コミュニティスクール (CS) で何が どうなる！」の題で一色小の古正栄司校長、府川陽一町教育長を招く。講師は一色小学区にとらわれず要請し、月 1 回ペースで開きたいとしている。



古正校長



府川教育長

再生協では、こうりゅうルームを地域住民と子供たち、住民同士の交流の両立で活用する方針。第 1 回目に CS を取り上げるのは、一色小が町内 5 小中校の一番手として 4 月から CS に移行し、今後地域との関係が一層強まるにもかかわらず、その内容等が十分理解されていないとの判断から。このため、当事者である校長、教育長の話をよく聞いたうえで、保護者や住民との意見交換の機会としたい考え。

また地域と子供たちとの交流では「春休みこども囲碁教室」を計画しており、現在参加者を募集中。指導に当たるのは直井倅親・百合が丘囲碁クラブ会長を中心にした同会メンバーで、参加者数次第で定期開催を検討する。このほか、将棋、絵画教室などの開設も検討しており、子供たちを指導する地域人材を探している。

散策路の補修終える 2/15 大殿畑コース

散策路部会（高橋哲也担当部会長）は 2 月 15 日（木）、部会員 7 人による大殿畑コースの道普請を行った。計画中の散策路のほとんどが基盤がしっかりした町道（農道）であり、補修工事をするのはこれが初めて。終了まで約 6 時間かかった。

工事の内容は、緑が丘の奥から平塚富士見ゴルフ方面へつながる大殿畑コースの入口近くで、道の東側が崩れかかっている部分。東側約 30 ㎡に鉄パイプ 31 本を打ち込み、土留め用鋼板 26 枚をはめ込んだ。

必要資材は前日、町のトラックを借りて現場
(裏面へ続く)



パイプを打ち込み土留めを作る

近くまで運び、当日は橘川卓司さん、井上修二さんの指導のもとで作業を進めた。難航したのはハンマーを振るっての鉄パイプ打ち込み。岩盤に当たってハンマーがはね返される箇所がいくつかあった。それでも、夕方までに追加購入したパイプを含めてすべて打ち込み、土寄せも終えた。これで案内板の設置など次のステップに進めることになり、30年度中の全コース竣工へ大きく前進したことになる。

募ります // 30年度やまゆり合唱団

昨年誕生し、町内に新風を吹き込んだ「にのみややまゆり合唱団」(80名)が30年度の新団員を募集中です。新たな指導陣にソプラノ歌手の桑田葉子さんが加わるなど、強力な顔ぶれが揃いました。以下の要領で参加者を募ります。

名曲の4部合唱を通じ、交友を深め、地域を盛り上げましょう！

- ・曲 目 混声合唱版「赤とんぼ」「見上げてごらん夜の星を」「ハレルヤ」
- ・指導陣 合唱 桑田葉子、一石洋子さん ピアノ演奏 高寺真美、岩崎千恵さん
- ・練習日時・場所 原則第2・第4日曜日 16時～18時 百合が丘児童館
4月8日(日)～10月28日(日)
- ・発表 10月6日(土)ラディアンホール 11月4日(日)一色小体育館ほか
- ・対象 男女、年齢は問いません 参加費 大人2,000円(高校生以下無料)
- ・申込み 3月20日(火)までに、①か②の方法で
 - ①地域再生協議会事務所(火・金午前中/百合が丘憩の家)
電話 59-9356 メール isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp
 - ②ファックス 0463-73-0134(二宮町役場/地域政策課)

再生協・当面のイベント予定 (含む検討中)

<申込み締切り>

- ・春休み囲碁教室募集 3月16日(金) 一色小こくりゅうルーム
- ・やまゆり合唱団新団員募集 3月20日(火) 百合が丘児童館
- ・講演 湘南オリーブ茶の可能性 3月24日(土)開催 ふるさとの家
<公募イベント>
- ・コミュニティスクールで 何が どうなる 3月31日(土)
一色小地域こくりゅうルーム
- ・富士見・台山ウォーク——里山散策道標・案内板完成記念 4月上旬(調整中)
- ・そば打ち体験会 4月22日(日) 古民家ふるさとの家
- ・友情の山・山野草観察会 4月28日(土)、29日(日) 一色小友情の山
- ・一色里山・山野草観察会 5月4日(金) せせらぎ公園入口集合
- ・古民家コンサート 5月19日(土) 台山コースウォークとセット
古民家ふるさとの家
- ・邦楽とお茶の会 5月末 古民家ふるさとの家

*問い合わせは再生協事務局へ



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

合唱団 23 名、囲碁 31 名 新規募集に手応え

地域再生協議会が3月半ばに締め切ったやまゆり合唱団、春休み囲碁教室への参加申し込みがそれぞれ23名、31名に達した。新年度入りを控えて新規募集した合唱団は、29年度中の辞退者を差引いても団員数が100名を超えることになる。一方、春休みに限定した囲碁教室への応募も予想を大きく上回っており、文化・教養に対する地域の関心の高まりを示している。
(裏面へ続く)



山内先生の最後の練習会 (3月4日) 築取さん撮影

講師に三宅代表、村田町長

一色こうりゅう塾、4・5月

3月に始まった一色小地域こうりゅう塾の4、5月のゲスト講師が決まった。4月にはのみや子ども自然塾の三宅栄子代表、5月は一色小学区の地域再生をテーマに村田邦子町長が登場する。初回のコミュニティースクールに続き、住民の関心の高いテーマを選び、こうりゅう塾の定着を目指す。

子ども自然塾は、子供たちの遊び環境を整えたいとする子育て世代が集まって2年前に発足。東大果樹園跡地をベースに次々企画を打ち出している。隔月ごとに開く冒険遊び場には毎回100-230人の参加者がある。三宅代表には、活動の狙い、運営方法な



三宅代表



村田町長

どについて語ってもらう。

村田町長はこのテーマは「一色小学校区地域再生への期待と注文」。当再生協議会は4月から3年目を迎え、プロジェクト、参画人員、活動予算などで再検討すべき課題を抱える。協議会の一角を占める町の立場から「地域再生のこれまでとこれから」について語り、参加者と意見交換する。なお、6月には猪股篤雄神奈川県住宅供給公社理事長が講師に内定している。

(前頁からの続き)

合唱団への申し込み23名の内訳は女性16名、子供4名、男性3名。同合唱団は昨年6月発足、同11月の一色小での発表会には81名が出席し、29年度末時点で78名が継続を表明している。発足時との比較では年度末までに13名の退会者があり、このほか9名が継続か退会かをまだ決めていない。

30年度は新たにソプラノ歌手の桑田葉子さん(百合が丘)を中核指導者に迎えて、練習場所を百合が丘児童館に固定し、練習回数を増やすことを決定。合唱曲もレベルの高い「ハレルヤ」を加えるなど、意欲的な計画を組んでいる。ただ、今回の募集でも入会者は成人女性が圧倒的に多く、男性や子供たちとのバランスはよくないなどの課題を抱えている。

小学生を中心に据えた春休み囲碁教室は、一色小・地域こうりゅうルームで実施する。応募者は一色小の生徒のほか、山西小の子供たちの参加も目立つ。中には未就学児や高齢者も加わっており、指導に当たる百合が丘囲碁クラブでは直井倅親会長を中心に3名体制で準備を進めている。テキストや碁盤、碁石を追加で手当するなど、予想以上の反響に驚いている。ただ、計画中の4日間のフル参加者は比較的少なく、教え方に工夫がいりそうだ。

当面のイベント予定 (含む調整中)

- ・「コミュニティスクールで何がどうなる」 3月31日(土)
10時～ 一色小地域こうりゅうルーム
- ・そば打ち体験会 4月22日(日) 10時～ 古民家ふるさとの家
- ・「こども自然塾の活動」 4月23日(月) 三宅栄子・子ども自然塾代表
10時～ 一色小地域こうりゅうルーム
- ・山野草観察会 4月28日(土)、29日(日) 11時～ 一色小友情の山
- ・一色里山・山野草観察会 5月4日(金) 9時半～ せせらぎ公園入口集合
- ・古民家コンサート5月19日(土) 10時～ 古民家ふるさとの家
- ・「地域再生への期待と注文」 5月26日(土) 村田邦子町長
10時～ 一色小地域こうりゅうルーム
- ・邦楽とお茶の会 5月27日(日) 14時～ 古民家ふるさとの家
- ・田植え体験会 県住宅供給公社水田 未定
- ・6月・こうりゅう塾 猪俣公社理事長 一色小地域こうりゅうルーム



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

募います 5 事業部会員 3 年目、パワーアップへ

地域再生協議会は設立から 3 年目を迎えるのを機に、全 5 部会の部会員を募集する。昨年度から今の部会構成になり、下記のような事業計画を組んでいる。30 年度はどの部会も完成形に近い事業推進体制を築く狙いから部会員を強化することにした。

現在、どの部会も部会長を中心に月 1 回程度をめぐりに集まり、必要に応じ町担当課長らが加わって議論を行っている。30 年度も 400 万円の事業予算が決まっており、19 日 (木) の本部会議で事業、予算を決定する。各部会への参加希望、事業内容の問合せは再生協議会へ電話、メールでお願いします。

部会名	30 年度事業
学校連携①友情の山	<ul style="list-style-type: none"> 山百合、山野草の保全・育成 山百合の一般公開、山野草観察会 育成環境の改善
同②交流拠点化	<ul style="list-style-type: none"> 「一色小こうりゅう塾」の拡充 コムスクール事業へ積極参画 プログラミング講座の検討 駐車場確保の検討
文化イベント振興	<ul style="list-style-type: none"> 邦楽演奏会の開催 (5/28) やまゆり里山音楽祭の開催 (11/4) やまゆり合唱団合唱団百人体制 新たな文化イベントの検討
地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉協議会活動の定着化 生活支援、介護予防についての課題整理と解決策検討
古民家活用	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとの家の運営管理 〃 利用拡大イベントの開催 雛の吊るし飾り展開催
公園散策路①魅力ある公園	<ul style="list-style-type: none"> 長畑公園の整備 住民参画型維持管理の検討 公園拠点の新規イベント検討
②里山散策路	<ul style="list-style-type: none"> 全 6 ルートの道標・案内板の設置 ウォークマップの完成 健康ウォークツアーの実施 ウォーキング愛好団体との連携

「学校でつながる 地域づくり」

—こうりゅう塾スタート

3 月末、第 1 回一色小こうりゅう塾が開かれ、35 人が参加した。テーマは、「コミュニティースクール (CS) 何が、どうなる」。



講演する古正校長

講師の古正一色小校長は「地域ともにある学校づくり、学校でつながる地域づくりの両

(裏面に続く)

方を目指したい。地域行事に出る子供たちはお客さんではなく、主役として扱って欲しい」と語った。

府川教育長は、CSの狙いは「地域の力で地域の子供を育てることにある」とし、「子供たちには地域人としての成長を期待したい」と述べた。

参加者からの発言も相次ぎ、約2時間の集りを終えた。

一色小こうりゅう塾は、住民の関心の高いテーマを取り上げ、識者と参加者が懇談、意見交換する場。今月23日（月）は三宅栄子にのみや子ども自然塾代表、5月は村田邦子町長、6月は猪股篤雄県住宅供給公社理事長、7月は原道子教育委員（元一色小校長）を招くことが内定している。

盛況!! 囲碁教室——各日とも20人前後

3月末に4日間にわたって開いた春休み囲碁教室が、盛況のうちに終わった。学校連携部会が地域こうりゅうルームを使って企画した初の試みで、予想以上の反響があった。



同教室は、教材、碁石の用意から指導者派遣まで百合が丘囲碁クラブの全面的な協力を得て実現した。

初日は保護者を含めた26人が出席、その後も15-20人が参加した。出席者は低学年から中学生まで、囲碁経験もまちまちだったために、はじめは指導する側が戸惑う場面があった。その後、ビギナーと経験者に分けた指導に切り替え、一気に軌道に乗った。

テーブルを回って熱心に指導

当だった直井同クラブ会長は、「たくさんの子供が興味を持っていることがわかった。今回の経験をもとに、これからどうするかクラブ員と相談したい」と語っている。

最終日に、今後の参加意向を聞いたところ、「機会があればまた来たい」とする声が多く上がった。指導に

オリーブ発酵茶に課題——内野・東農大教授分析



古民家活用部会は3月末、ふるさとの家で内野昌孝東京農大教授による「オリーブ発酵茶の可能性」と題した講演会を行った。再生協議会と東農大のオリーブ発酵茶に関する共同研究をまとめたもので、製品化までには高効率の乳酸菌リサーチなどの課題があることがわかった。

東農大との共同研究は、古民家部会が湘南のオリーブ葉を使った発酵茶を製造し、内野教授のチームが製造指導や仕上がり品の成分分析などを行うもの。内野教授は一般入場者向け講演会に先立ち、製造に携わった古民家部会関係者に分析結果の詳細を説明した。

その要旨は、①製造品は味覚に影響する乳酸菌が望ましいとされる数量（10の6乗以上）に達していない②心筋梗塞や動脈硬化を抑えると見られているポリフェノールの含有量はほぼ適切な水準にある——というもの。このため、この先製品化へと進むには、「ポリフェノールと親和性の高い乳酸菌を探し出すことが重要だ」と結論付けている。再生協議会は東農大の分析結果を受け、今後の取り組みを協議することになる。



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

副会長に山本、露木氏

30 年度本部会議 交流 R にエアコン設置

地域再生協議会は 4 月 19 日 (木)、百合が丘老人の家で H30 年度の第 1 回本部会議を開き、29 年度事業・決算を承認するとともに、役員改選、30 年度事業計画、収支予算を決定した。役員人事では山本正博・緑が丘地区長、露木七郎・一色地区長が副会長に就任。山本氏は学校連携、石黒賢路氏が地域福祉、吉田隆信氏が県住宅供給公社の各部会長に選任された。



山本緑が丘地区長



露木一色地区長

岡村昭寿会長は「今年は発足から 3 年目。各事業をしっかりと定着させるとともに、財源面での自立に向けた努力を重ねたい」と語った。別途挨拶した村田邦子町長は「学校連携や地域福祉などでは先駆的な活動をされた。引き続き他地区のモデルになるような取り組みを期待したい」と語った。

29 年度事業では、古民家クラフトプロジェクトの推進、やまゆり合唱団の結成、イベントの多面展開などを報告し、決算を承認した。今年度は 29 年度からの 6 部会体制を継続させ、山本、露木、吉田、石黒氏のほか、小口愛子・百合が丘 3 丁目地区長、西田翔太郎・県公社副主幹、黒石徳子二宮町参事を新役員に選んだ。

裏面に続く (29 年度の支出は裏面に)

初回から全曲練習 - やまゆり合唱団



4 月 8 日、30 年度のやまゆり合唱団の練習が始まった。会場の百合が丘児童館に集まったのは 86 名。大半が昨年からの継続で、新規参加者は 23 名だった。

歌唱指導の桑田葉子さんは「声を出すのは健康にいい。これから本番まで楽しく大きな声を出しましょう」。一石洋子さんは「去年は素晴らしい成果を残した。今年度は新曲で昨年を上回る合唱にしたい」。ピアノの高寺真美さんは「岩崎さんと協力してバックアップします」と、それぞれあいさつ。80 名超の大集団は初回から全 3 曲を歌うなど、活気あるスタートを切った。11 月まで月 2 回ペースの練習会が続く。

30年度予算では、文化イベント、公園・散策路、古民家活用部会がそれぞれ50万円以上の支出計画を組んでいる。100万円の枠がある工事費では、一色小学校内の地域こうりゅうルームのエアコン設置（関連を含め70万円）、長畑公園（百合3）の整備が大きな柱。新規事業テーマとして検討中の空家問題への取り組みについては国、二宮町などの動きを見ながら結論を出すことにした。

当面のイベント予定

イベント名	日 時	場 所
山野草観察会	4月28日（土）、29日（日） 11時～	一色小友情の山
一色里山・山野草観察会	5月4日（金） 9時半～	せせらぎ公園入口集合
古民家コンサート&里山ウォーク	5月19日（土） 10時～ 里山散策 11時半～ コンサート	古民家ふるさとの家
「地域再生への期待と注文」 村田邦子町長	5月26日（土） 10時～	一色小地域こうりゅうルーム
田植え体験会	5月26日（土） 13時半	県住宅供給公社水田（小竹）
邦楽演奏とお茶のつどい	5月27日（日） 13時～お茶 14時～邦楽演奏	古民家ふるさとの家
「団地再編の中間報告」 猪股篤雄・県住宅公社公社理事長	6月9日（土） 14時～	一色小地域こうりゅうルーム
こうりゅう塾 原 道子教育委員（元一色小校長）	7月	一色小地域こうりゅうルーム

平成29年度一色小学校区地域再生協議会 決算書

○支出

(単位:円)

項 目	現計予算額	決 算 額	比 較	説 明
事業費	2,434,000	2,535,402	△ 101,402	学校連携部会 225,588
				【友情の山】 145,223
				【学校連携】 80,365
				文化イベント振興部会 828,680
				地域福祉部会 10,268
				古民家活用部会 705,357
				県住宅供給公社部会 0
				公園散策路部会 765,509
				【公園】 184,235
				【散策路】 581,274
住まいとコミュニティ活動事業	1,100,000	1,100,000	0	
事務費	1,000,000	996,316	3,684	賃金 619,226
				報償費 37,320
				保険料 10,295
				通信運搬費 89,853
				消耗品費 200,742
				食糧費 4,461
				備品購入費 34,419
工事費	1,000,000	999,216	784	友情の山整備工事 498,636
				緑が丘中央公園整備工事 500,580
合計	5,534,000	5,630,934	△ 96,934	

収 支	収入合計	5,631,008	円
	支出合計	5,630,934	円
	差引残高	74	円



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

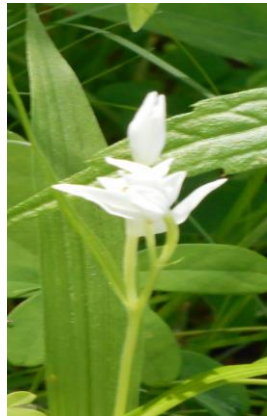
プログラミング体験講座

一色小で6月実施

ITクラブと連携、継続講座も

地域再生協議会は湘南二宮 IT クラブ (片岡健二理事長) と連携し、一色小学校生を対象にプログラミング体験講座を開く。一色小のコミュニティースクール活動の一環として計画し、6月中に2回実施する。受講生にはレベルを上げた継続講座の準備を進めている。文部科学省は2020年からコンピュータプログラミングを授業に取り入れる方針を決めており、こうした流れを地域ぐるみで先取りする。

プログラミングはコンピュータのソフトウェアをつくること。高度情報社会への移行に伴い、この分野の人材育成が国民的課題になり、義務教育段階からの導入が決まっている。今回の計画は、小学生向けのプログラミング講座の体制を整えつつある IT クラブと再生協議会、一色小学校が話し合い、一色小のパソコンルームを使って実施する。



絶滅危惧種のキンラン

クゲヌマラン

高学年向けは6月11日(月)、低学年向けは同20日(水)に開催。学校を通じて各35名の受講希望者を募集し、通常授業の終了後に行う。講習費は1人500円。
(裏面*1に続く)

山野草を愛でる

——新種・珍種見つける

一色の野山が花の季節を迎えたGWの最中、3度にわたる山野草観察会が開かれた。4月28日(土)、29日(日)は一色小友情の山、5月4日(金)は一色の台山周辺。長らく二宮の山野草を調べ続けている山本絢子さん、和田佳乃さんが講師をつとめた。再生協議会が観察会を主催するのは初めてで、3日間で約90人が参加した。



珍しい野草があった！

友情の山では、絶滅が心配されている 30 株近いキンランの開花を確認し、黄色い小花の塊りを見つけるたび歓声が上がった。当初ギンランと見られていた白小花をよく調べると、クゲヌマランであることがわかった。山本さんは、「この種類を二宮で見たのは初めて」と驚きの声。「吾妻山などではなくなっている種類がここにはある。自然を大切にしながら手入れをしているせい」（和田さん）。「学校という特別の環境だから生態系が守られている」（山本さん）というのが 2 人の感想だ。



孵化したばかりのジャコウアゲハ

一色の里山観察には、30 名超が参加した。一色地区以外からの方も多く、講師が野草の名を告げるたびにメモ帳に記入していた。樹木を含め植物の種類も様々なため、散策の列は何度も一時停止。ここでも、二宮では珍しいという種類や孵化したばかりのアゲハ蝶に出会うなど、里山の豊かな自然を存分に味わい、気分よく半日を過ごした。

*** 1** 再生協議会は講習の推進全体を、IT クラブは教材の提供、講師派遣などを担当する。講座では、国内で開発されたビジュアルプログラミング言語(ビスケット)を使う。子供たちの自由な発想、アイデアを生かしてプログラムをつくり、コンピュータの基本部分を体験する。IT クラブは、総務省が計画している地域におけるプログラミング研修事業への参加を準備中。これが確定した段階では、再生協議会の地域こうりゅうルーム（一色小）を活用し、小学生向けの講座を継続的に開くことを検討している。

当面のイベント予定

- ・古民家コンサート5月19日（土）古民家ふるさとの家 10時～里山散策 11時半～コンサート
- ・「地域再生への期待と注文」5月26日（土）村田邦子町長 10時～地域こうりゅうルーム
- ・田植え体験会 5月26日（土）県住宅供給公社水田（小竹）
- ・邦楽とお茶の会 5月27日（日）古民家ふるさとの家 13時～呈茶 14時～邦楽演奏
- ・「団地再編の中間報告」6月9日（土） 猪股篤雄・県住宅供給公社理事長
14時～ 一色小地域こうりゅうルーム
- ・「君たちはどう生きるか」を私はこう読んだ——「コペル君」と私が出会った子どもたち
原 道子教育委員（元一色小校長）7月7日（土） 10時～地域こうりゅうルーム

そば打ち—7日で申込み満杯



一色のベテランの手つきをじっと見る

子ども自然塾—「遊育」が大事



子どもの「遊び」を語る三宅代表



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

公社は「国際こども音楽祭」

秋の音楽イベント、上海から奏者

再生協議会と県住宅供給公社が開催する今秋の音楽祭の内容がほぼ固まった。県公社は 10 月 6 日 (土) にラディアンで、昨年の子ども音楽祭をさらに発展させた「国際こども音楽祭」を計画、中国の有力音楽機関である上海音楽学院と出演交渉に入った。再生協は昨年好評だった「やまゆり里山音楽祭」のスタイルを継承し、二宮に関わりの深い音楽家をずらり揃える。開催は 11 月 4 日 (日)、一色小体育館。両者は今年もやまゆり合唱団とユースクラシックが、それぞれの主催イベントに相互乗り入れすることも決めている。

県公社のイベントは午前の部 (ゼロ歳から小学校低学年向け親子コンサート)、午後 (国際・地域交流音楽会) の 2 部構成。午前の部は未就学児に焦点を当て、親子が楽しめるプログラムにする。二宮町の周辺自治体の幼稚園などにもこの催しを PR する。一方、午後の部は上海音楽学院生の出演を見込むほか、県内のインターナショナルスクールにも働きかけ、異文化が交流する国際色ある内容にしたい考え。上海音楽学院は中国の最有力音楽教育機関のひとつで、内外に数多くの奏者を送りだしている。今年には横浜上海友好都市提携の周年行事で来日の予定があるという。(裏面に続く)

やまゆり里山音楽祭の出演者



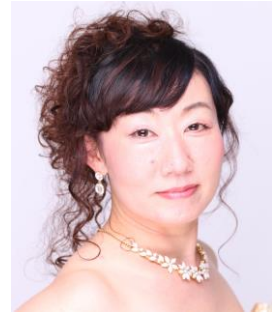
桑田葉子



一石洋子



高寺真美



岩崎千恵



白井英治



ふたり



ユースクラシック

やまゆり里山音楽祭の出演者は別記の通り。ふたりとユースクラシックを除く全員が町内在住者で、ふたりも一色小OB。ユースクラシックは両音楽祭の一体展開の流れの中で出演してもらおう。昨年結成したやまゆり合唱団（80名）は11月の本番に向け、毎月2回の練習を積み重ねている。

日時・場所 11月4日（日） 一色小学校体育館

出演者 ●桑田葉子（ソプラノ）・一石洋子（同）
高寺真美（ピアノ）・岩崎千恵（同）
●白井英治（バイオリン）
●ふたり（ソロボーカリスト）
●ユースクラシック（若手音楽集団）演奏
●やまゆり合唱団（伴奏 ユースクラシック）

盛況 散策+コンサート



準備体操を終え、さあ出発



畳に座ってうっとり聞き入る

五月晴れの19日（土）、一色のふるさとの家で古民家コンサートが開かれた。まず10時から散策路部会（高橋哲也部会長）の主導で里山を散策し、11時半からはユースクラシックの演奏を楽しんだ。参加者は散策が約50人、コンサートが約100人。

里山散策は2グループに分かれ、橘川卓司さんと大城英行さんがガイド役をつとめた。この日歩いた台山コースは距離は短いものの、行程中にはみかん畑、オリーブ畑などがあり、初夏の香りが漂っていた。

コンサートでは、クラシックから歌謡曲まで、築120年の古い家屋に親しみやすい演目が流れた。参加者は畳スペースだけでは入りきれず、土間にも椅子が並べられた。演奏終了後は、用意された軽食をほおぼっていた。

当面のイベント予定

- ・邦楽とお茶の会 5月27日（日）古民家ふるさとの家 13時～呈茶 14時～邦楽演奏
- ・「団地再編の中間報告」6月9日（土）猪股篤雄・県住宅供給公社理事長
14時～ 一色小地域こうりゅうルーム
- ・「君たちはどう生きるか」を私はこう読んだ—「コペル君」と私が出会った子どもたち
原 道子二宮町教育委員（元一色小校長）

*開催日変更注意 7月14日（土）10時～地域こうりゅうルーム



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

一色小こうりゅう R・連続講座

「もっと知ろう 一色・二宮」

9月から、全講師ほぼ固まる

学校連携部会 (山本正博部会長) は9月から、連続講座「もっと知ろう 一色・二宮」をスタートさせる。一色小南棟に開設した地域こうりゅうルームを拠点に、文化、歴史分野の識者10人超に講師を依頼し、一色地区や二宮について深く学ぶ狙い。新講座は年度内に完成する一色里山散策路の案内ガイドの養成を兼ねているが、町内全域から幅広く受講者を募りたいとしている。

同部会は今春から月1ペースで「地域こうりゅう塾」を始めており、今度の企画はそれをさらに発展させた。9月15日(土)の中山史奈子さん(町生涯学習課・文化財担当)の二宮町の全指定文化財紹介を皮切りに、月2回(原則第1、第3土曜、10時-12時)ペースで開催する。年内について下記の通り予定が固まった。(裏面へ)

<日程・講師・テーマ>

- ・9/15(土) 中山史奈子さん(町生涯学習課・文化財担当)
解説・二宮町の全13指定文化財
- ・9/29(土) 鈴木一男氏(町文化財保護委員、元大磯町郷土資料館長)
大磯・二宮の横穴墓群—その造りと副葬品
- ・10/14(日) 露木泰彦氏(町文化財保護委員) 二宮・一色の古道
- ・10/20(土) 相澤るつ子さん(画家) 戦時下の二宮の子供たち
- ・11/10(土) 中山史奈子さん 東海道線と軽便鉄道がもたらしたもの
- ・11/17(土) 森丹山・浄源寺住職 浄源寺の歴史遺産(現地集合)
- ・12/1(土) 島崎直人氏(郷土史家、町文化財保護委員)
一色の歴史と文化遺産
- ・12/22(土) 斎木邦弘氏(二宮野鳥の会顧問) 渡り鳥の越冬地二宮



中山史奈子さん



鈴木一男氏



露木泰彦氏



相澤るつ子さん



森丹山住職



島崎直人氏



斎木邦弘氏

このほか、松本岩太郎氏(グリーンにのみやプロジェクト、二宮の石仏)、石井敬士

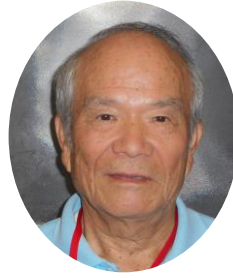
氏（元県立図書館調査部長、二宮ゆかりの文化人）、橘川卓司氏（町文化財保護委員、一色の今昔）、岡村昭寿氏（再生協議会会長、百合が丘ニュータウン開発）などの方からの内諾を得ており、来年3月までこのシリーズが続く見通し。



松本岩太郎氏



橘川卓司氏



岡村昭寿氏

応募 59 名——一色小プログラミング講座

一色小のコミュニティスクール活動として計画したプログラミング体験講座の応募者が59名に達した。5月末に締め切ったところ1-3年生が39名、4-6年生が20名。対象を一色小生に限定し、終了後の保護者付添いを受講条件に募集した。一色小生の約3割が受講することになる。開催日は6月11日（高学年）、20日（低学年）。主催する再生協議会、二宮ITクラブでは、今回の状況などを把握しながら、レベルを上げた講座、保護者やシニア向けプログラムについても検討していく。

「課題を聞きながら手伝う」——村田町長語る

村田邦子町長は5月26日（土）、地域こうりゅう塾で講演した。テーマは「再生協議会への期待と注文」。初めに再生協議会の活動ぶりなどについて語った後、40人弱の参加者と質疑、意見交換を行った。主な発言は以下の通り。

・協議会は今年3年目を迎えるが、当初想定した以上の活動ぶりだ。もともと活発な活動基盤のある地域とはいえ、一步先んじた意識、行動力の成果だと思う。今後も町づくりの課題を聞きながら、手伝っていきたい。

・定住人口は大事だが、定住につながる交流人口を増やしていくことが重要だ。他の地区、町外、県外から、幅広い世代に来て交流してもらいたい。そのために面白い活動などのPRに力を入れる必要がある。

村田町長



邦楽とお茶の集い——90人が憩う



お茶をいただきながら憩うひと時

緑風そよぐ5月27日（日）、ふるさとの家で邦楽とお茶の集い（文化イベント振興部会主催）が開かれた。午後1時から呈茶が始まり、雅楽・川句神社雅楽保存会、尺八・森丹山浄源寺住職、箏・城処みやこさん、大正琴・亜華音会が次々に登場。これだけの邦楽メンバーが揃うのはめったにないだけに、会場は約90人の参加者であふれた。小林宗紀さん中心の茶道の方々は大忙しだった。

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

空家対策、国交省へ申請 空家を出さず、利用・活用へ

再生協議会は20日(水)に部会長会議を開き、国土交通省に空家対策への取組みに関して補助事業申請を決めた。地域内での空家発生を抑えるための「家仕舞・利活用講座」を集中的に開催し、リフォーム期を迎えた住宅の利活用を促す体制を整える。初年度の事業費は約150万円を見込む。計画は国交省の審査を受け、7月中に採否が決まる。



資産が活かされず、近隣にも迷惑が

申請した事業の名称は、一色小学校区地域空家等循環再生事業。資産管理、住み替え、空室・空家の有効活用策、相続対策などをテーマにした家仕舞・利活用講座を通じた住民の啓発や相談人材の育成と、住宅が劣化する前に利活用を支援する地元専門家集団の育成が二つの柱。このほか、「家仕舞・利活用読本」の制作、東海大と組んでの地域内外からの住み替え、移り住みの実態把握にも取り組む。

事業申請が認められた際には、9月以降、一色小・地域こうりゅうルームを使って月1ペースで講座を開く。また事業推進に当たっては、特定空家、相談体制など空家対策に本腰を入れはじめた二宮町とも連携して進める。

4度のステージ内定、やまゆい合唱団

やまゆい合唱団の今年度のステージ出演が4度に及ぶことが内定した。4月から声楽家の桑田葉子さんをリーダーにした新指導体制がスタート。月2ペースの練習を重ねている。発表の場は10月の県公社主催音楽祭(ラディアン)、11月のやまゆい里山音楽祭(一色小体育館)が確定しているが、練習の成果を披露する場を増やす可能性を探っていた。その結果、このほど10月末の二宮町合唱祭(ラディアン)、来年1月の二宮町新春の集い(同)への出演見通しがほぼついた。

合唱祭は運営準備の実行委員会に加わっており、新春の集いは近く関係者との打ち合わせが始まる。合唱祭には、町内の主なサークルが登場するため、地域合唱団としての力量が問われる。



練習には毎回、6、70人が参加する

注目イベント・続々 7・8月

- ・7月21、22日 28、29日 友情の山ヤマユリ公開
- ・7月14日(土) 「君たちはどう生きるか」 原 道子先生(教育委員)
- ・8月6日(月)～10日(金) 夏休み囲碁教室

盛夏7、8月も注目すべき催しが相次ぐ。まず、一色小の夏休み入り直後に組まれた友情の山ヤマユリ群生地での公開。今年で3回目だ。この間、専門家のアドバイスを受けて2度にわたる日照対策(間伐)を行い、その効果は徐々に始まる頃だ。2回の山野草の観察会も予定しており、期間中に千人近い来場者を見込んでいる。



原道子教育委員の「君たちは——」も注目の企画。ベテラン教育者の原先生がこのベストセラーをどう料理するか。子育て世代には是非参加して欲しい催し。

囲碁教室は、春休み企画の続編。百合が丘囲碁クラブ(直井倅親会長)のメンバーが5日間にわたって指導する。ただ、子供たちの送迎には保護者責任が求められる。

「農の6次産業化」がカギ——猪股理事長が講演

二宮再生のカギは農業だ——。9日(土)のこうりゅう塾での猪股篤雄県住宅供給公社理事長の発言に、参加者は驚かされた。講演では、世界経済の流れと神奈川の住宅開発の関係を整理したうえで、県公社の団地再生の取り組みを紹介。高齢者向け住宅経営との関連で「食」分野での様々な取り組みを行い、今後も「農」周辺の拡充に力を入れていくと語った。

質疑の中では、「神奈川に農業に関心ある人をどんどん呼び込みたい。公社グループは野菜類では相当の購買力がある」「二宮は自然の豊かさや「農」に近い立地を生かし、「農」に付加価値を付けていくことで展望が開ける」などと語った。参加者は約40名。



県公社の戦略を語る猪股氏

プログラミングに熱気、一色小児童

20日(水)、一色小で学校連携部会(山本正博部会長)などが主催のプログラミング講座が開かれた。同講座は11日(月)に続く2回目。事前申し込みの全員39名が出席した。1-3年生対象だったため、マウスの操作に慣れない子も多かったが、時間が経つにつれ講座に引き込まれていった。

会場のPCには村田町長、府川教育長、同校の先生、保護者、取材記者など多くの関係者が見学に詰めかけた。「子どもたちのこんな真剣な眼差しは久しぶり」「いずれ正式科目になるなら、こんな場をもっと多く設けて欲しい」などの声が聞かれた。



子供たちの作品が大きな画面に

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

子育て世代が主導する長畑公園(百合3)の魅力アップ計画が始まった。公園部会(渡辺貢成部会長)と3丁目公園愛護会(リ・プレイ長畑公園)は、トイレの洋式化、遊具改修、顔出し看板設置などを柱にした改修計画をまとめ、町都市整備課と連携した工事に着手した。改修は今年度中に終え、再生協議会はこの計画に30万円を投入する。

子育て世代が公園改修 長畑(百合3)で始まる

7月から着手したのはニーノとミーヤの顔出し看板の設置。作者の鈴木ワカバさんの協力を得て顔出し看板を据え付ける。材料の組立てや鋸引き、釘打ちなどには愛護会員など約20人が集まった。次回の21日(土)には下絵の色付けなどを行い、完成させる。再生後は、長畑公園の売り物の一つにしたい考え。(裏面に続く)



地域の人による台座づくり



ニーノとミーヤの顔出し看板

21日(土)から、ヤマユリ公開

群生の育ち順調

恒例の一色小・友情の山ヤマユリの一般公開が21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)に行われる。21日、29日には山野草の観察会も計画している。

友情の山ヤマユリ公開は今年で3回目。今年の生育状況は昨年を上回り、一部はぼつぼつ咲き始めた。友情の山部会はこの間2度に渡って採光対策(間伐)を実施。また公開に向け防菌、防虫対策を実施する。期間中、1千人の入場を期待している。



つぼみが膨らんできた(8日)

日時 7月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)
午前10時～午後3時(当日朝、雨天の場合中止)
21日、29日10時から地元専門家による山野草観察
場所 一色小・友情の山(正門、東門から入場のこと)



続いて既存トイレを、子供たちも使えるよう洋式に切り替える工事に取り組む。8月中に具体案を固める。このほか、階段の整備、水道の時限水栓化、滑り台補修、公園看板の設置、人の目が入りやすい剪定などを行う。昨年度以来の町との話し合いの中で、滑り台の補修などは町が担当することで合意し、一部はすでに実施済み。

これら魅力アップ事業推進の中心になっているのが、リ・プレイ長畑公園（木下信一郎代表）。メンバーは子育て世代が多く、「子どもが楽しく安全に遊べる公園」を目標にしている。改修に当たっては、「自らの知恵と労力を生かす」との方針を決めており、今後も週末を中心に作業に携わる。

夏休み・**囲碁講座**—3年～中学生

学校連携部会（山本正博部会長）は春休みに続き、初心者向け囲碁教室を開く。春休みの教室の際にも、「機会があればまた参加したい」との声が多かったため、引き続き百合が丘囲碁クラブ（直井倅親会長）の協力を得ることにした。



春休み教室の様子

8月第2週の5日間、小3～中学生を対象に、8月3日締め切りで募集する。会場までの送迎は保護者責任でお願いします。メールで申し込みの方は、氏名（ふりがな）、学校名、学年、送迎保護者名、同連絡先を記入のこと。

日時・場所	8月6日（月）～10日（金）	一色小南棟・地域こうりゅうルーム
時間・募集人数	9時30分～11時30分	小学校3年生～中学生 20名程度
教える人	百合が丘囲碁クラブメンバー	参加無料
申込み先	地域再生協議会 59-9356（火、金曜午前中）	締切り8月3日（金）
	直井 090・3231・5213	isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

こうりゅうルームに待望のエアコン

再生協議会が借り上げた一色小南棟の地域こうりゅうルームにエアコンが設置される。パナソニック製の家庭用大型エアコン2台で、7月半ばには設置工事を終える。再生協議会では、同スペースを夏冬とも積極活用するためにはエアコンの設置が欠かせないと見て30年度予算に70万円の予算を計上している。昨年秋以降は町の協力で石油ストーブを持ち込んで暖を取っていた。

このほか、今春には、地域こうりゅうルームに接する廊下の両端にセキュリティー壁を設ける工事を終え、一色小との間で学校施設利用に当たっての運用規則も見直している。今回のエアコン設置によって、同スペース利用の態勢整備は終了した。



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

継続講座 10 月から

プログラミング ゲーム制作レベルに

プログラミング (コンピュータのソフト作成) をもっと学ぼう——。再生協議会学校連携部会 (山本正博部会長) と湘南二宮 IT クラブ (片岡健二理事長) は小学校高学年を対象にした新企画のプログラミング講座を始める。この 6 月に実施した体験講座 (基礎編) を発展させたもので、10 月から 6 回にわたって開催する。文部科学省の科目組み入れ決定に伴い、同分野への関心が高まっているが、地域組織同士の協力で子供たちが学べる機会を設けることにした。



こどもはとても熱心(6月講座)

新講座は、6 月の体験講座同様、ビジュアルプログラミング言語(ビスケット)を使う。6 回のうち前半では、ソフト作成の基本をおさらいし、動く模様、簡単ゲームなどを学ぶ。後半は音鳴らし、パズル作成などを経てオリジナル作品を作れるレベルを目指す。講座を通じて子供たちが自分で考え、想像し、伝える力を養うのが狙いで、最終段階では簡単なプログラムを組めるようになるという。

開講は 10 月 16 日 (火) を予定。月 1 回ペースで、一色小地域こうりゅうルームで開く。小学 3 年—6 年生を対象に、9 月半ばから 15 名をめどに参加者を募る。機材の設置や準備運営費などは講習費からねん出したいとしており、講習費は全 6 回で 5,000 円の予定。このうち、主要学習機材のタブレットを持参する場合は 3,500 円とする。機材の設置や指導は IT クラブ、申込み受付や全体運営は再生協議会が担当する。

原先生の「君たち」に 60 人

7 月 14 日 (土)、原道子教育委員 (元一色小校長) によるコミュニティ塾「君たちはどう生きるか—私はこう読んだ」が開かれた。原さんは発行部数が 250 万部 (漫画版) を突破した名作の骨子を紹介しつつ、感想や意見を述べ、参加者と懇談した。小学生から高齢者まで約 60 人が出席した。

原さんは数種類の資料を準備。作品の背景、読み物としての面白さ、格差社会、子育て環境、子供の成長などの柱建てに合わせて読後感を披露した。後半は会場とのやり取りを中心に進め、それぞれの世代からの質問や意見、感想などが語られた。そのやり取りは子育て環境、地域とのかかわり、いじめなど広範に及んだ。



「私の読み方」を語る原先生

開花ピーク一色小やまゆい

一色小友情の山の群生やまゆりの開花がピークを迎えている。21日（土）からは一般公開が始まり、山野草説明会には約40人が集まった。21日は読売、神奈川新聞が写真入りコラムで取り上げ、来場者が目立って増えた。しかし、猛暑が影響で全体としての入場者は伸び悩んでいる。



友情の山やまゆりの公開は今年で3回目。この間の雑木対策、下草除去、防菌策などもあって大輪の開花が目立つ。斜面の奥の方でも群生の兆候が見られるなど、友情の山部会（牧野士郎部会長）の努力が実を結びつつある。次回公開は28日（土）、29日（日）。開花が早かったせいもあって、この頃には相当程度散っている可能性がある。

古民家活動、部氏が報告

ハウジング&コミュニティ財団の助成事業報告会が7月19日（木）、東京御茶ノ水で行われ、古民家活用部会の部健夫氏が報告した。報告のテーマは「古民家の再生活用により郊外団地を里山クラフトパークに」で、同財団の助成金をもとにした発酵茶の試作、ファブラボワークショップ、



パワーポイントで説明する部氏

雛の吊るし飾り展示などの事業を説明。課題についても語った。住まい活動助成部門では、他の4組織からも報告があったが、古民家部会の活動が最も多岐に及んでいた。

散策路紹介

みかん畑コース

散策路部会（高橋哲也部会長）は決定済み散策路6コースについて道標・案内板の設置、マップ印刷の準備を進めている。今後、随時主要コースを紹介する。

緑が丘中央公園を起点にした約5kmの行程。成長したオリーブ畑からの相模湾、富士見平からの富士山の眺望が素晴らしい。

- ⑤ 緑が丘中央公園 ⇒ 東大果樹園跡 ⇒ オリーブ畑 ⇒ 環境衛生センター「桜美園」 ⇒ 富士見平（愛の地蔵尊） ⇒ 休憩所（天気の良い日は富士山、箱根、丹沢が一望） ⇒ みかんの花咲く道 ⇒ 馬頭観音 ⇒ ⑥ 緑が丘中央公園





地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

31年度も支援継続

村田町長が表明、「部会再編の検討」も

村田邦子町長は、再生協議会関係者との会合で「来年度以降も再生協議会活動への財政支援を続ける」との意向を明らかにした。再生協議会の部会活動を支えている国・町の助成は今年度で期限切れになるため、事業の先行きが危ぶまれていた。協議会は町長の方針表明を受け、数カ月以内に来年度以後の事業体制の再構築案をまとめる。



村田町長

再生協議会はH28年5月の発足以来、国の地方創生戦略に基づき、地方創生加速化交付金(28年度、1,200万円、国全額)、地方創生推進交付金(29・30年度、各400万円、国町各50%)をてこに活動してきた。しかし、二宮町のH32年度までを対象にした推進交付金申請が30年度までしか認められなかったことから、31年度以降は財政上の裏付けがなくなり、事業縮小か大幅な方向転換を迫られていた。

村田町長の「支援継続表明」は協議会活動を「住民活動のモデルのひとつ」として、引き続きバックアップする必要があると判断したものと見られる。ただ、支援継続に際し、「この3年間の事業総括、自治会その他地域団体との関係について十分議論して欲しい」と注文を付けている。

再生協議会はこうした方針を受けて9日(木)に新旧の事業部会長、一色学区内の地区長、自治会長による会合を開き、来年度以降の事業・資金、組織体制の在り方などについての議論を開始する。町の次年度予算作成は10月末をめどにしていることから、これらの検討も10月中に結論を出す必要がある。

空家対策、国交省採択事業に

先に国土交通省に申請していた空家対策に関して7月末、採択事業とする旨の通知があった。近く最終的な文書手続きを行い、正式決定する。再生協議会はこの通知を受けて住民の啓発、相談員の要請を狙いにした講座の開催、改修支援体制づくりの準備に入り、10月から「利活用講座」(無料)などを連続して開催していく。

採択された事業名は、一色小学校区地域空家等循環再生事業。住み古した戸建てを貴重な資産として利用・活用し、空家を出さない町づくりを目指す。国交省によると、今

年度は全国から 132 件の応募があり、厳格な審査を経て 58 件の採択が決まった。神奈川県からの採択は当協議会のほか、いずれも全県を事業領域とする 2 団体だけだった。

提出した計画では、相談員や専門家の研修・育成、地域の専門家等との連携体制の構築が 2 本柱。このほか、開催した講座をもとにした「家仕舞・利活用読本」の制作、東海大と連携した居住実態調査等を予定している。事業費の約 150 万円は全額補助。最も重視している啓発、相談員育成講座は年度内に 10 回近く予定している。改修期を迎えた家に住む人、転居や売却・賃貸を検討している人などに参加を呼びかける。講座の拠点は一色小南棟の地域こうりゅうルームで、二宮町の協力を得て広く全町内から参加者を募集する。ゆめクラブ、社協、自治会など主要団体にも事業の趣旨を PR していく。

事業スケジュール(案)

具体的な内容	平成30年度									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
家仕舞・利活用講座の企画内容検討			—							
(家仕舞・利活用講座1) 収納・断捨離術				—						
(同講座2) 資産管理 & 家仕舞期のFP(ファイナンシャル・プランニング)				—						
(同講座3) ライフサイクルに応じた住み替え & 空室・空き家の有効活用対策					—					
(同講座4) 改修工事の基礎知識						—				
(同講座5) 相続対策							—			
アメニティ・リノベーション講座とワークショップの企画内容検討					—					
(アメニティ・リノベーション講座1) 健康・エコ・持続性の向上研究						—				
(同講座2) リノベーションの事例研究							—			
専門家による断熱・省エネのDIYワークショップ開催								—		
家仕舞・利活用読本の原案作成(編集・印刷は31年度予定)									—	
居住実態調査の企画		—								
実態調査の実施と取りまとめ				—						

ピザが焼けるよ！！

バーベキューに加え、ピザもどうぞ——。古民家活用部会（松本篤子部会長）はふるさとの家庭にピザ釜を据え付け、火入れ式を行った。耐火煉瓦を高く積んだ本格派で、同時に 2 枚焼ける。材料費などに 12 万円を投じた。ふるさとの家の一般利用はバーベキューの道具貸しが多かったが、もう一つの目玉が出来た。利用料金は 1,000 円。HP で申し込む。ただ、薪は持参する。使用後は自然冷却させるなどの注意事項がある。



部会員が集まった火入れ式



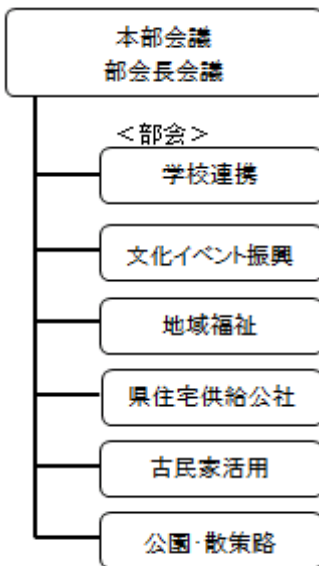
地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

新年度に向け議論

――事業・資金、組織をどうするか

現在の部会体制



村田町長が再生協議会活動の財政支援の継続方針を示したことで、31年度に向けた議論が本格化している。協議会では、8月9日（木）の拡大部会長会議で町の方針を説明して部会ごとの検討を呼びかけており、9月初めには再度部会長会議を開いて意見を集約したい考えだ。

部会長会議には新旧部会長、域内の自治会長、地区長ら20数人が出席した。その中では、町の財政支援を前提にしたうえで事業部会のスクラップ&ビルドを推進する方向を確認。町からは、事業再編と並行して少子高齢化が進む中での地域組織の在り方について検討して欲しいとの要請があった。いずれも簡単ではないが、来年度予算が固まる10月末までに詰める必要がある。

再生協議会では、来年度以降の当該事業部会の姿、現6部会体制の改革案、一色小学区における望ましい地域組織の在り方――の3点について協議するよう求めている。このため各部会ともそれぞれ段取りを進めているが、一色小地区に限定した事業にするかどうか、引き続き国の支援を得た態勢が組めるかどうかなど、詰めるべき多くの課題が残されている。

「もっと一色・二宮」始まる!!

学校連携部会（山本正博部会長）が準備してきた生涯学習連続講座「もっと知ろう一色・二宮」が9月から始まる。再生協議会の活動が3年目を迎え、地域の文化、歴史について広く深く吸収する機会を設けた。町内の識者10数人を講師に招き、来年3月まで続ける。

初回の9月15日（土）は、町内の文化財に精通した中山史奈子さん（町生涯学習課）の「やさしく解説 二宮の全13重要文化財」。茶屋の薬師如来、川勾神社の田舟など、町指定の全重要文化財について映像などを使って解説する。

同29日（土）には、考古学が専門で発掘の経験豊富な鈴木一男氏（町文化財保護委員）が、県内有力古墳群の一角を占める「大磯・二宮の横穴墓群」

の講演。「まだ知られていないことを大いに語りたい」という。会場は一色小地域こうりゅうルームに固定し、原則月2回（第1、第3土曜）、10—12時に開く。（裏面に日程）



中山史奈子さん



鈴木一男氏

「もっと知ろう一色・二宮」の日程・講師・テーマ（12月まで）

- ・10/14(日) 露木泰彦氏（町文化財保護委員） 「二宮・一色の古道」
- ・10/20(土) 相沢るつ子さん（絵本作家、画家） 「戦時下の二宮の子供たち」
- ・11/10(土) 中山史奈子さん（町生涯学習課・文化財担当）
「東海道線と軽便鉄道—湘南を走った小さな電車の始末記」
- ・11/17(土) 森丹山・浄源寺住職 浄源寺集合（13時半—15時）
「浄土宗浄源寺の歴史遺産」
- ・12/1(土) 島崎直人氏（郷土史家、町文化財保護委員）
「一色の歴史と文化遺産」
- ・12/22(土) 齋木邦弘氏（二宮野鳥の会顧問） 「渡りの越冬地二宮」

いずれも一色小地域こうりゅうルーム、10時～12時

やまゆい合唱団懇親会 8/12

やまゆい合唱団は8月12日（日）、練習拠点の百合が丘児童館で懇親会を開いた。この日は今年度9回目の練習日。いつもより早めの練習を終え、44人が和やかに歓談した。

やまゆいは最初の登壇日（県公社主催・国際こども音楽祭・ラディアン）まで2カ月を切った。そろそろ緊張感が高まってくるころ

だが、この日は桑田葉子、一石洋子両先生がデュエットで「浜辺の歌」を披露。今年の入団者の紹介や練習には欠かさず出席している男女の最高齢者・須山覚一郎さん（97）、佐藤孝子さんの独唱、合田直美さんの即興バレエの披露などがあり、すっかり和やか、打ち解けた場になった。



散策路紹介

富士見コース(約3キロ)

みかん山の天辺のポイントから臨む富士山の眺望が超一級。吾妻山からの眺望に決して引けを取らない。

㊟一色防災コミュニティセンター（標高49m） ⇒ 神明神社 ⇒ 庚申塔（同88m）
⇒ みかん畑 ⇒ 富士山ビュー（同158m）
⇒ 浄源寺 ⇒ ㊟一色防災コミュニティセンター



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

本番まであと1カ月

ピッチ上がるやまゆり合唱団

4月に新発足したやまゆり合唱団(80人)の練習が佳境に入った。10月6日(土)県公社音楽祭、同27日(土)町合唱祭、11月4日(日)やまゆり里山音楽祭に加え、来年1月5日(土)の新春のつどいへの出演が決定。ここに来て一色小音楽会(10月27日)への出演も浮上している。桑田葉子さんをはじめ、ここまで80人の集団を引っ張ってきた指導の先生方に「本番に向けて」を寄せてもらった。



桑田葉子さん

ともかく楽しく、心を込めて

4月から始めた練習、本当によく頑張ってくられました。本番の出来に、これが満点ということはありません。ただその時、自分なりにベストが尽くせたか? 一生懸命歌えたか? 大いに楽しめたか? 仲間とともに、元気に歌うことに幸せ、感謝を感じることができたか? これらに自分が納得できれば万々歳です。日本の歌は聞いている方々に言葉が伝わるよう、はっきり、心を込めて歌うこと。ともかく楽しんで頂く。良い演奏になること間違いなしです。頑張りましょう!

未来へのエールを

128人の町制80周年式典合唱を指導した縁で、やまゆりに関わっています。式典の演奏後、当時の地区長連絡協議会会長の廣上さんが「感動した!」と大声を発したことが、「やまゆり」誕生のきっかけです。町内初の町民大合唱団が、一色小校区に立ち上がったことに感謝しています。新たな道標が求められる時代に、地域の経験、良識、文化力ある方々の人間力を発信する大合唱は未来へのエールです。感謝と希望に満ちた出力です。

一石洋子さん



もう一段のギアアップ

日曜にもかかわらず、熱心な練習が続いています。男声が少ないので、バランスを心配しましたが、奮闘してくださっています。高音が大変な曲もありますが、女声陣も頑張っています。皆さんの団結力で、素晴らしい合唱になりつつあり、本番がとても楽しみです。いよいよ、練習も佳境。もう一段ギアを上げ、頑張っていきたいと思います。



高寺真美さん

力強いハレルヤに期待

何人かを除くほとんどが未経験者ですが、毎回、笑いのある和やかな雰囲気の中で上達してきました。8月からは、男声を中央に置く形に変え、ハーモニーがよく混じるようになりました。「赤とんぼ」「見上げてごらん」は、あれっと思うほど豊かな響きです。「ハレルヤ」は、難関箇所がありますが、さらに力強い響きになっていくことを期待しています。

岩崎千恵さん



いよいよ本番へ



三浦憲門部会長

練習会も、8月末で10回目。いよいよトップギアに切り替えの時期です。課題曲はどれもよく知られた名曲ですが、特に「ハレルヤ」はパートごとに難解な部分があり、慣れないオジサン方には手ごわい相手です。それでも、二宮町が誇るプロの先生方の優しく軽妙で時に厳しい指導と、各パートリーダーの協力で少しずつマスターしてきました。我々事務方も、快適な練習環境づくり、スムーズな出演準備と運営に向け、関係者のご協力を得ながら最後まで頑張っていきます。

やまゆり里山音楽祭プログラム

二宮音楽まつりの冠の下、11月4日（日）に一色小で開くやまゆり里山音楽祭のプログラムが以下の通り決まった。同音楽祭は今年で3回目。昨年同様、約400名の入場者を見込んでいる。なお、県住宅供給公社が主催する二宮国際子ども音楽祭は、10月6日（土）ラディアンで開催。近隣市町の子供たちを含め500名以上の入場者がある見通し。

11月4日(日) 一色小体育館

ナビゲーター 岩間靖典 根岸ゆき子

- ・高寺真美（ピアノ PRIMO） 岩崎千恵（ピアノ SECONDO）
ラプソディ イン ブルー（作曲/G. ガーシュイン）
- ・桑田葉子（ソプラノ） 岩崎千恵（ピアノ）
この道 （作曲/山田耕筰 作詞/北原白秋）
タイム・トゥー・セイ・グッバイ（作曲/サルトリ）
- ・一石洋子（ソプラノ） 岩崎千恵（ピアノ）
オペラ「ワリー」より 故郷を離れて（作曲/カタラーニ）
初恋 （作曲/越谷達之助 作詞/石川啄木）
- ・白井 英治（ヴァイオリン） 高寺真美（ピアノ）
チャルダッシュ （作曲/モンティ）
情熱大陸 （作曲/葉加瀬太郎）
- ・ふたり（ソロボーカル）
太陽 空へ 風の匂い 流れ星 青空
- ・ユースクラシック
盆踊 （作曲/伊福部 昭） いい日旅立ち（作曲/谷村新司 編曲/西下航平）
昴 （作曲/谷村新司 編曲/西下航平） 津軽海峡冬景色（作曲/三木たかし）
人生のメリーゴーランド（作曲/久石 譲）
- ・やまゆり合唱団 指揮：桑田 葉子 一石 洋子
伴奏：ピアノ 岩崎千恵 高寺真美 白井英治 ユースクラシック
赤とんぼ （作曲/山田耕筰 編曲/信長貴富 作詞/三木露風）
見上げてごらん夜の星を（作曲/いずみたく 編曲/古賀 藍 作詞/永 六輔）
ハレルヤコーラス （作曲/ヘンデル）



白井英治



ふたり

*前号の「やまゆり合唱団懇親会」の記事中、陶山覚一郎さんは「須山覚一郎さん」の間違いでした。おわびして訂正いたします。

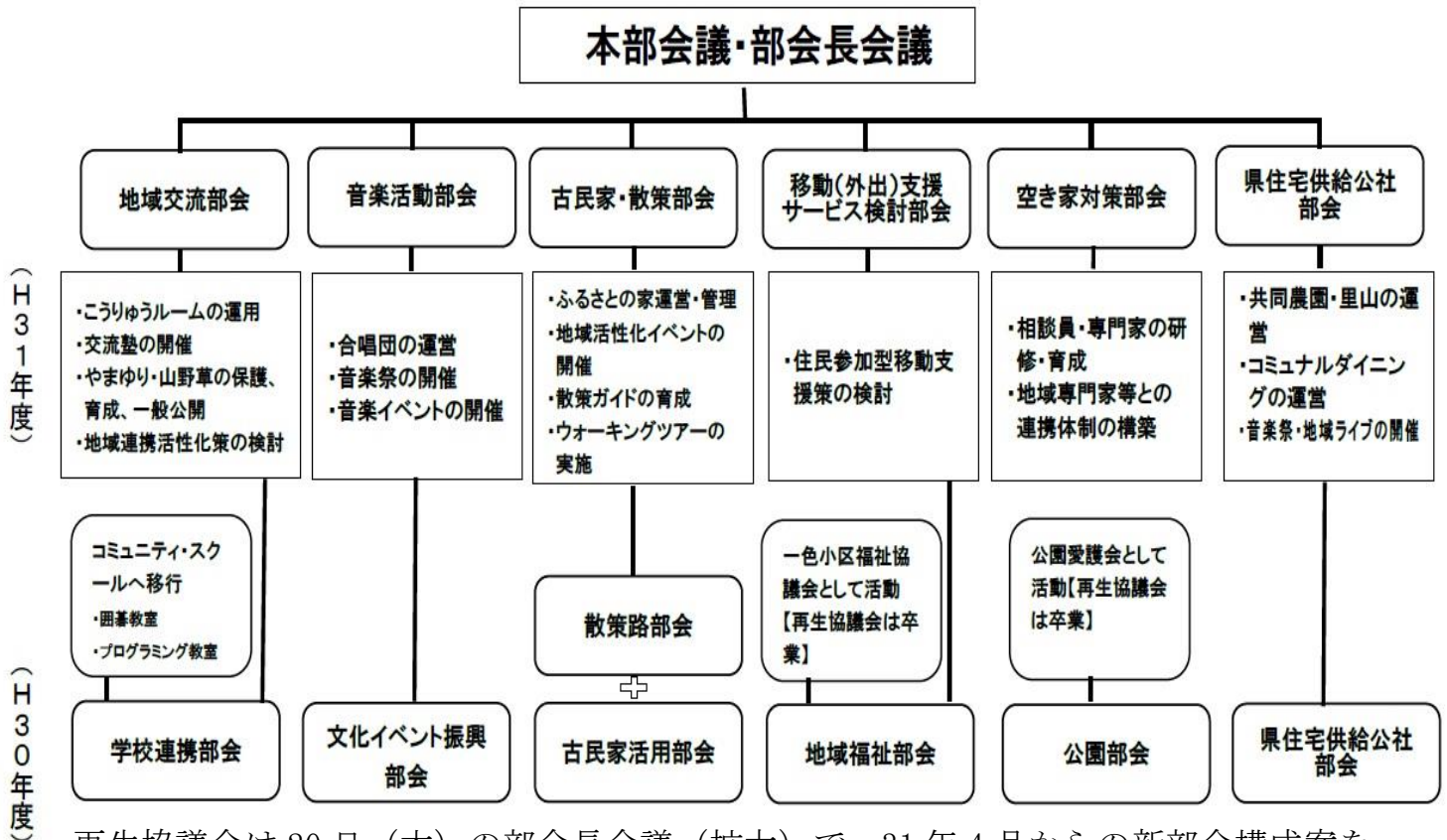


地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

再編後、6部会体制

31 年度 空き家、福祉車両を新設



再生協議会は 20 日 (木) の部会長会議 (拡大) で、31 年 4 月からの新部会構成案を了承した。27 日 (木) の本部会議で正式決定する。新体制では、発足 4 年以後をにらんで地域福祉、公園部会を発展的に移行・解消し、空き家、移動 (外出) サービス検討の 2 部会を新設する。今後、新体制に基づく予算案づくりを急ぐ。

現 6 部会のうち、現行のまま残るのは県住宅供給公社部会だけ。発展解消する地域福祉部会は、町福祉部門と連携する一色小区福祉協議会を立ち上げており、新年度



散策路の標識設置工事(17日)

からは活動そのものを移行させる。また、公園・散策路部会のうち公園部門を発展解消するのは、地区内の都市公園整備が一巡したため、各地区の公園愛護会同士の連携をとりながら町都市整備課と協働する方が成果が上がるとの判断から。散策路は設定 6 コースの標識・案内板の設置、マップ作成が年度内にやまを越し、次年度からはこれらを使ったイベント展開に中心が移るため古民家活用部会と一体化させることにした。

学校連携部会は、一色小のコミュニティスクール化に合わせてプログラミング教室の開催などに取り組んできたが、同校の学校運営協議会のスタートに伴い活動そのものを切り離し、地域交流部会に改称する。やまゆり合唱団結成など存在感を増している文化イベント振興部会は、音楽分野に絞り込んだ活動を深化させるために改称する。

新設の空き家部会は、国交省の助成を受けて活動を始めた事業を独立部会に昇格させるもの。初年度は「空き家にしないための啓発セミナー」に重点を置いているが、新部会を拠点に活動のレベルアップを目指す。移動（外出）サービス検討は、通院や買い物などの外出や移動に支障が出ている住民の支援体制の可能性を探る狙い。当面は先行事例の調査・検証を中心に活動する。新設部会は全町からメンバーを募る。

再生協議会は今年度で国の財政支援が切れるため、二宮町の「引き続き支援する」（村田町長）との意向を確認のうえで新体制を検討してきた。8月以降、地区長、自治会長にも呼びかけた3度に渡る部会長（拡大）会議を開き、町部局とも協議を重ねていた。

標識・案内板を自前設置—散策路部会

散策路部会（高橋哲也部会長）は9月17日（月）、部会員など11人で標識・案内板の設置工事を行った。今春以来候補地の絞り込み、地権者の了解取付けに動いていたが、予算を節減する狙いから部会員を動員しての工事になった。

設置は10カ所で、内容は自立型5、貼付け型3、ミラー型2。このうち、最も手間のかかる自立型は地面に50cm四方、深さ50cmの穴を掘ってセメントを流し込み、その中に単管パイプを立てて標識を取り付けるもの。前日までにセメント、骨材などの手当てを終え、当日は一気に工事を進めた。

「もっと知ろう」第1回は満席に

「もっと知ろう一色・二宮」が9月15日（土）から始まった。第1回は中山史奈子さん（町生涯学習課）が二宮町の指定文化財について講演し、約50人が熱心に聞き入った。中山講師は配布した資料とパワーポイントを使って13文化財についてていねいに解説、会場からの質問に答えていた。町指定文化財の全貌を知る機会のはめったにないだけに、一色小学校区以外からの参加者も多く、他教室から椅子を運び込んでやっと間に合わせた。この企画は来年3月まで続く。



満席のこうりゅうルーム

＜当面のイベントスケジュール＞

- ・9/29（土） 鈴木一男氏（町文化財保護委員） 「大磯・二宮の横穴墓群」
- ・10/6（土） 県公社・国際こども音楽祭（ラディアン）
- ・10/12（金） 木村 道子さん（ファイナンシャルプランナー）
「シニア世代 家計と住まいのライフプランづくり」
- ・10/14（日） 露木 泰彦氏（町文化財保護委員） 「二宮・一色の古道」
- ・10/20（土） 相沢 るつ子さん（絵本作家） 「戦時下の二宮の子供たち」
- ・10/27（土） 合唱祭（ラディアン）、一色小音楽会
- ・10/30（火） 丸山 としこさん（整理収納アドバイザー） 「整理収納術」

*音楽イベント以外の会場は地域こうりゅうルーム





地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

里山散策マップ完成

6コース織り込み、配布へ

散策路部会（高橋哲也部会長）が2年がかりで進めてきた「にのみや里山散策マップ」が完成し、関係者へ配布を始める。マップは同部会が整備した一色小校区内の6散策コースと域内の歴史文化遺産などを織り込んであり、住民の健康増進や湘南の里山の魅力アピールに役立てる。散策マップは地区団体や地域活動リーダーに配るほか、観光協会などにも配置し、町内外のウォーキング愛好者を中心にした新たな人の流れをつくり出したい考え。

完成したマップは折りたたみ式のA2サイズ、カラー両面仕上げ。今回は6,000部を印刷した。表面には富士見、大殿畑、神社仏閣・台山、みかん畑、桜、百合が丘の6コース、裏面には拡大した代表4コースが写真やイラスト付きで描かれている。土地勘のない人でもこれがあれば里山からの眺望を楽しみながら散策できる。制作作業は部会員が分担して担当した。

(裏面へ続く)



やまゆり、続々登壇へ

4月から毎月2回ペースの練習をこなしてきたやまゆり合唱団がいよいよ本番を迎える。27日(土)には、午前中に一色小音楽会、午後にラディアンでの合唱祭、11月4日(土)の協議会主催音楽祭と続く。21日(日)の最後の練習日には、健闘を誓っての記念撮影。



協議会では、これを一色小学校区内 5 地区の役員、団体などに配布し、役場、サービスプラザなどの公的施設に置く。地区団体にイベントへの利用を働きかけるとともに、散策路部会が主催する独自ツアーなども計画している。(問い合わせは協議会事務局へ)

住まいの利活用講座スタート

国土交通省の公募事業資金を活用した「住まいの利用・活用講座」がスタートした。第1回はファイナンシャルプランナーの木村道子氏による「シニア世代・家計と住まいのライフプランづくり」。シニアをとりまく現状、シニアの住まい、マネープラン、今の住まいをどう活用するかについて詳細な資料をもとに講演した。住まいについては、「持ち家の6割強が相続になるにもかかわらず、節税を含めた対策が立てられていない」「キャッシュフロー表の作成がライフプランづくりの第一歩」などの点を強調した。



木村 道子氏

「もっと知ろう一色・二宮」に熱気



鈴木一男氏



露木泰彦氏



相澤るつ子氏

週末、一色小地域こうりゅうルームで開く生涯学習連続講座が熱気を帯びている。10月末までに4回を終えたが、毎回40-60人の参加があり、教室の椅子が足らなくなることも。

考古学の鈴木氏は「二宮・一色には調査が済んでいない墓群が多く、貴重なお宝が出て来る可能性がある」。露木氏は詳細な図面をもとに町内の古道を紹介し、それぞれの歴史的背景を語った。相澤氏は、今夏刊行した自身の著作を使って戦前の二宮を描き、「よく遊び、たくましく、楽しく暮らしていた子供たち」と戦争、平和について語った。

<当面のイベントスケジュール>

- 10/27(土) 一色小音楽会、合唱祭(ラディアン)
- 10/30(火) 丸山 としこさん(整理収納アドバイザー)「整理収納術」
- 11/4(日) やまゆり里山音楽祭 一色小体育館
- 11/10(土) 中山史奈子さん(町・生涯学習課)「軽便鉄道盛衰記」
- 11/17(土) 森丹山住職「浄土宗浄源寺の文化歴史遺産」(会場・浄源寺)
- 11/21(水) 原 大祐氏(地域再生プロデューサー)「住まいと暮らしのリノベーション」
- 12/1(土) 岸田壮史氏(建築家・設計士)「住まいを快適に長持ちさせるリフォーム」
- 同 島崎直人氏(郷土史家、文化財保護委員)「一色の歴史と文化遺産」
- 12/11(火) 竹内昌義氏(東北芸術工科大教授)「住み続けるためのリノベーション」
町民センター 3B 会議室
- 12/22(土) 斎木邦弘氏(二宮野鳥の会顧問) 「渡り鳥の越冬地二宮」

*会場はいずれも一色小・地域こうりゅうルーム



地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

1-3月に10講座

「もっと一色」「空き家」盛況続く

9月から始まった連続講座の来年1-3月の内容が固まった。学校連携部会（山本正博部会長）が主催する「もっと知ろう一色・二宮」は3月までに6講座、国交省支援事業の「住まいの利用・活用」は4講座をそれぞれ一色小、百合が丘児童館で開く。中でも「もっと一」は開始以来満席状態が続いており、同部会では来年4月からの新企画の検討を急ぐ。

「もっと一」は町広報、掲示板を使って参加を呼び掛けていることから、参加者は全町に及ぶ。来年1-3月も一色、オール二宮のテーマを織り交ぜ、月2ペースで開催する。

一方の「住まいの利用・活用講座」は、協議会が国交省事業（100%補助）を直接受ける形でスタート。「空き家にしない、人と住まいの生涯学習」をキャッチフレーズに年内に5講座を開催。1-3月はリノベーションの事例紹介、相続対策、省エネ・断熱のワークショップなどを準備中だ。31年度には専門部会を新設し、国交省事業の継続確保を目指す。



やまゆり里山音楽祭 響く70人のハーモニー

11月4日（日）のやまゆり里山音楽祭は、大いなる盛り上がりの中で閉幕した。あいにくの空模様にもかかわらず、リハーサルが終わると同時に開場待ちの列ができた。今年は協議会の広報映像を止め、代わりに部会長による活動紹介を行った。高寺真美・岩崎千恵さんによるピアノ連弾に始まり、桑田葉子さん、一石洋子さんの独唱。白井英治氏のバイオリン、ふたりのソロボーカル、ユースクラシックのポピュラーメドレーと続き、最後はやまゆり合唱団が登場。70人超からなるハレルヤコーラスは一色小の体育館を揺るがし、練習を重ねてきた迫力あるハーモニーには盛大な拍手が送られた。（関連は裏面）

音楽活動部会 名称変更

文化イベント振興部会（三浦憲門部会長）は11月4日のやまゆり里山音楽祭の終了に伴い、今年度事業の大きなヤマを越えた。同部会は音楽イベント開催とやまゆり合唱団の運営が事業の柱。合唱団は今年、県公社主催の音楽祭、一色小音楽会、町主催の合唱祭などすでに4回の発表の場に登場している。この後、来年1月5日（土）のニューイヤークンサートにも希望者が参加することが決まっており、約40人が出演する見込み。同部会は31年度からさらに音楽事業を深掘りする狙いから音楽活動部会への名称変更が決まっており、近く新年度事業の検討に入る予定だ。

以下に、やまゆり里山音楽祭の主要場면을掲載する。



白井、一石、桑田さんの浜辺の歌



ユースクラシックの5曲メドレー



5人の部会長も登場した



演奏終了後の懇親会

＜当面のイベントスケジュール＞

- 12/1(土) 岸田壮史氏（建築家・設計士）「住まいを快適に長持ちさせるリフォーム」
- 同 島崎直人氏（郷土史家、文化財保護委員）「一色の歴史と文化遺産」
- 12/11(火) 竹内昌義氏（東北芸術工科大教授）「住み続けるためのリノベーション」
- 12/22(土) 斎木邦弘氏（二宮野鳥の会顧問） 「渡り鳥の越冬地二宮」
- 31年1/12(土) 石井敬士氏（元県立図書館調査部長）「二宮ゆかりの文化人」
- 1/20日(日) 加賀谷幸子氏 「健康的で心地よい住まいのリノベーション・事例紹介」
- 1/26(土) 戦時下の二宮を記録する会 「二宮の洞窟陣地」
- 1/27日(日) 高橋 大樹氏（プロサーチ副社長）「空き家トラブルを防ぐ相続対策」
- 2/2(土) 岡村昭寿氏（再生協議会会長）「百合が丘ニュータウン開発史」
- 2/16(土) 中山史奈子さん（町生涯学習課・文化財担当）「写真と映像でたどる昭和の二宮」
- 3/2(土) 松本岩太郎氏（GNP） 「二宮の石仏」
- 3/16(土) 橘川卓司氏（町文化財保護委員） 「一色のいま・むかし」

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

2、3月に、パネル、シンポ開く 発足からまる3年を総括

再生協議会は二宮町と連携して来年3月17日(日)、「二宮創生 地域づくりシンポジウム」(仮)を開く。町内の先駆モデルとして位置づけられた協議会活動は来春まる3年を迎えることから、シンポなどを通じてこれまでの活動を検証する。また、2月初めには加藤仁美・東海大教授が百合が丘で実施した住民意識調査をもとに、空き家と地域づくりを絡めたパネルディスカッションも計画している。



名和田教授

3月のシンポは、地域づくりとコミュニティーの活性化を狙いにした企画で、町内の地区・自治会役員や地域活動家などに参加を呼びかける。第1部では、地域コミュニティーに詳しい名和田是彦・法政大教授が講演。小学校区という広域エリアをベースに様々な取り組みを行っている一色小学校区地域再生協議会の活動を議論の対象にする。パネリストには村田町長、地区長代表、ボランティア活動家などを予定している。会場は町民センターホールで、詳細は今後詰める。



加藤教授

2月3日(日)、百合が丘児童館で行うパネル討論は、空き家の利活用講座の一環。加藤教授のグループが今秋、百合が丘で行った居住実態調査を材料に、関係者が空き家を出さない取り組み、地域づくりの知恵を出し合う。同調査では、「親世帯と子世帯が近所に住む近居世帯の割合が高い」ことなどが目立つという。

富士見コース散策募集 1/13

散策路部会(高橋哲也部会長)は、ふるさとの家での雛の吊るし飾り展開催に合わせ、富士見コース散策ツアーを行う。一色里山の6散策コースのマップを作成して、地域団体に利用を呼びかけているが、1月13日(日)には部会員がガイド役になって進める。同コースには富士山の素晴らしい眺望が期待できる場所があり、以下の要領で参加者を募る。



富士山ビューからの絶景

ふるさとの家の吊るし飾り展は再生協議会とグリーンにのみやプロジェクト(GNP)が協力して開いており、GNPも12日(土)には二宮駅北口からふるさとの家まで約5キロ行程のツアーを計画している。

(裏面へ続く)

散策路部会主催

- ・日時・集合 1月13日(日) 9:00 一色防災コミュニティセンター
- ・コース 富士見コース(約3キロ)
一色コミセン～神明神社～庚申塔～みかん畑～富士山ビューポイント～
浄源寺～ふるさとの家
- ・募集 40名(先着順) ・参加費 500円(損害保険、資料代)
- ・その他 雨天の場合は、翌1月14日(月・祝日)
- ・申込み 再生協議会事務局 ☎59-9356(火、金午前中)

GNP主催

- ・日時・集合 1月12日(土) 9:30 JR二宮駅北口
- ・コース(約5キロ) 駅北口～吾妻山公園～せせらぎ公園～一色里山～ふるさとの家
- ・募集 50名(先着順) ・参加費 500円(傷害保険、資料代ほか)
- ・持ち物 昼食、飲み物 ・その他 雨天中止
- ・申込み 二宮町観光協会 ☎73-1208

3月末までのイベントスケジュール

<もっと知ろう一色・二宮>

- ・31年1/12(土) 石井敬士氏(元県立図書館調査部長)「二宮ゆかりの文化人」
 - ・1/26(土) 戦時下の二宮を記録する会 「二宮の洞窟陣地」
 - ・2/2(土) 岡村 昭寿氏(再生協議会会長) 「百合が丘ニュータウン開発史」
 - ・2/16(土) 中山史奈子氏(町生涯学習課・文化財担当)「写真と映像でたどる昭和の二宮」
 - ・3/2(土) 松本 岩太郎氏(GNP) 「二宮の石仏」
 - ・3/16(土) 橋川 卓司氏(町文化財保護委員) 「一色のいま・むかし」
 - ・3/30(土) 勝山 輝男氏(生命の星・地球博物館学芸員)「神奈川県植物誌と二宮の植物」
- いずれも、一色小南棟地域こうりゅうルームで。10:00～12:00

<空家の利用・活用>

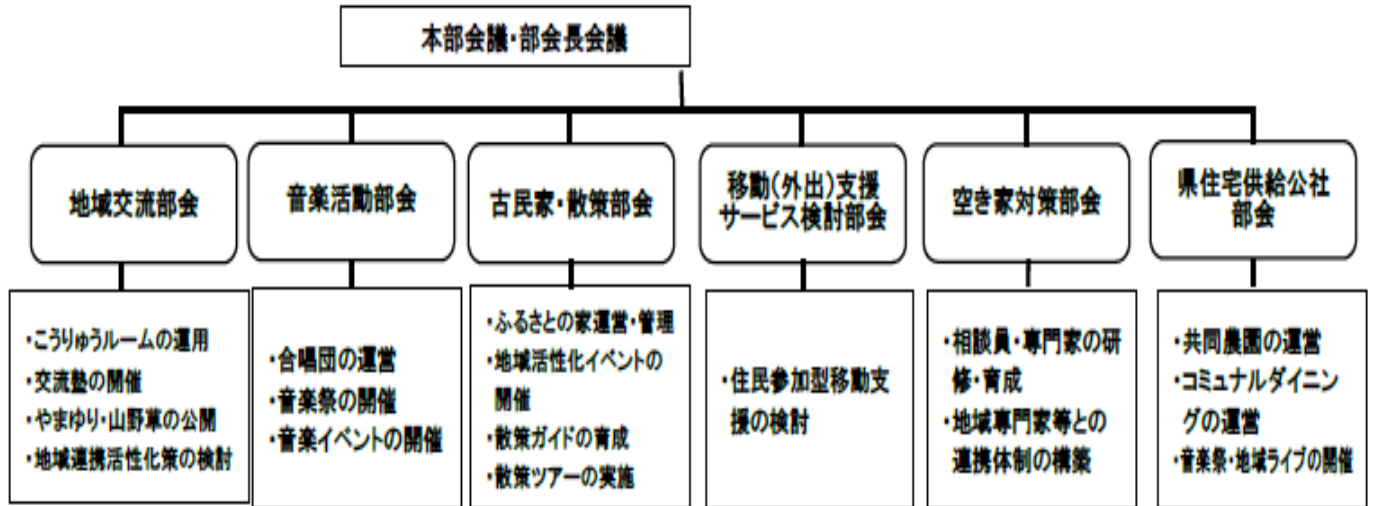
- ・1/20(日) 加賀谷幸子氏 「健康的で心地よい住まいのリノベーション・事例紹介」
- ・1/27(日) 高橋 大樹氏(プロサーチ副社長)「空き家を巡るトラブルを防ぐ相続対策」
- ・2/3(日) 「空き家の利活用——パネルディスカッション」 14:00～16:30
加藤東海大教授、原大祐氏、部健夫氏ほか
いずれも、百合が丘児童館。1/20(日)、1/27(日)は10:00～12:00
- ・2/11(月) 「断熱・省エネのためのワークショップ」
県公社住宅25号棟集合 10:00～16:00
* * * * *
- ・3/17(日) 「二宮創生——地域づくりシンポジウム」名和田法政大教授、村田町長ほか
町民センターホール、時間は調整中



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

新ステージ 4 年目へ 新部会員募る



再生協議会は H31 年度の新事業部会員の募集を始める。設立から 4 年目を迎えるのを機に、県公社部会を除く 5 部会の新発足を決定。中心メンバーを早めに固め、新年度早々から事業活動をスタートさせる。地域内の多くの方々の参画を期待しており、3 月にも取りまとめに入る。

募集対象の 5 部会のうち、全くの新設は空き家と移動サービス支援検討部会。空き家対策、交通弱者の買物、通院支援などは問題の難しさから、
(続きは裏面)

やまゆり合唱団も新団員募集

結成から 3 年目を迎える「にのみや やまゆり合唱団」(現 70 名)も 31 年度の団員を募集する。



指導は昨年と同じく桑田葉子、一石洋子さんが、ピアノは高寺真美、岩崎千恵さんが担当。百合が丘児童館を拠点に月 2 回練習する。新メンバーの締め切りは 3 月中旬。発表曲は「ふるさと」

「誰も寝てはならぬ」「ボヘミアンラプソディ」、年会費は 3 千円とする方向で調整中。今年初めには、今年度 4 度目の場であるニューイヤーコンサート(ラディアン)に子供たちと一緒に出演し、北原白秋の童謡メロディーを歌った(写真)。

取り組みを先延ばししてきた。地域交流、音楽活動、古民家・散策路部会はこの2-3年の事業を見直したうえで更なるステップアップを狙っている。協議会には現在、全部会で100人近くが名を連ねているが、部会の一新に合わせてさらに強化したい考えだ。

二宮町は協議会の3年計画を国に提出した。この計画を町予算にも盛り込み、協議会の活動成果を全町に波及させたいとしている。協議会も部会長会議を開いて新年度事業を詰めており、4月早々にも事業計画・予算を正式決定する。

(事業、部会活動の問合せは協議会事務局へ、遠慮なくどうぞ)

団地再編の中間報告会

当協議会、百合が丘自治会が県住宅供給公社に要請していた「団地再編の進ちよく説明会」が2月10日(日)13時半から、百合が丘児童館で開かれます。

県公社が3年前に着手した中層住宅28棟を18棟にする計画の進ちよく状況、廃止棟跡の利用などについて説明があります。公社住宅のあり様は百合が丘地区に大きな影響を及ぼします。近隣の方へもお声がけのうえ、ご出席ください。

パネルディスカッション ——空き家の利活用と街づくり

「どうする？ 百合が丘」

2月3日(日) 14時~16時半 百合が丘児童館

協議会は国土交通省の助成の下、昨年10月から進めてきたく人と住まいの生涯学習>シリーズのまとめとして、パネルディスカッション「どうする？ 百合が丘」を開催する。加藤仁美・東海大学教授のグループが昨秋実施した百合が丘の居住実態調査、このシリーズに関わってきた薮健夫・県住宅供給公社前専務理事の問題提起を下敷きに、原大祐氏(地域再生プロデューサー)、高橋哲也氏(元百合3地区長)の4人が議論する。

居住実態調査では、親族の近居など県内他地区とは違ったデータが出たという。また、原氏は百合が丘の望ましいあり方として「戸建て、公社エリアの循環居住の促進」を提案。薮氏は「空き家を出さないためのリノベセンター構想」について提起する。いずれも賃貸、戸建てエリアとも空き家が目立つ百合が丘地区の再生に焦点を当てており、参加者との意見交換を重視した進め方にする。

<3月末までスケジュール>

- 2/2(土) 岡村 昭寿氏(再生協議会会長) 「百合が丘ニュータウン開発史」
 - 2/16(土) 中山史奈子氏(町生涯学習課・文化財担当) 「写真と映像でたどる昭和の二宮」
 - 3/2(土) 松本 岩太郎氏(GNP) 「二宮の石仏」
 - 3/16(土) 橘川 卓司氏(町文化財保護委員) 「一色のいま・むかし」
 - 3/30(土) 勝山 輝男氏(生命の星・地球博物館学芸員) 「神奈川県植物誌と二宮の植物」
- いずれも、一色小南棟地域こうりゅうルームで。10:00~12:00
- 2/11(月) 「断熱・省エネのためのワークショップ」
県公社住宅25号棟集合 10:00~16:00
 - 3/17(日) 「二宮創生——地域づくりシンポジウム」 名和田法政大教授、村田町長ほか
町民センターホール、時間は調整中



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

公社「農」で魅力アップ 家賃割引と支援拠点の整備へ

神奈川県住宅供給公社は、入居の促進と地域の魅力アップを狙いに、アグリサポーターの募集を始める。団地に住みながら農業に従事する人には賃料を半額にするほか、賃貸を終える 4 号棟に就農支援の拠点を整備する。公社居住者中心のバックアップからスタートし、支援対象をさらに広げる方向で検討する。



県公社は二宮団地の魅力を高めるため、コンパクト化やリノベーション推進と並行して共同菜園 (左写真) や水田耕作、音楽イベント開催などを手がけてきた。今回はこれを一歩進め、入居促進、地域の魅力アップの両面で「農業」を前面に打ち出すことにした。

計画によると、二宮町周辺での就農希望者、就農者に対しては団地住宅家賃の半額、支援施設の無料貸し出し、農地確保の支援などを行う。このうち、団地中央にほど近い 4 号棟の拠点には農機具や野菜倉庫を設け、ニーズがあれば軽トラ、耕運機などを貸し出す。拠点は模様替え工事が終わる 6 月ごろから使用できる。一方のアグリサポーターには共同農園でのイベントへの協力、農園管理への参画などを求めている。 (関連 2 頁)

「ヘイ ジュード」(ビートルズ)を大合唱で やまゆり合唱団、新団員募集

「ヘイ ジュード」「ふるさと」「誰も寝てはならぬ」——。やまゆり合唱団の 31 年度の曲目が決まった。「ふるさと」「誰も寝てはならぬ」についてはすでに固まっていたが、最もアピール性の高い 3 曲目については調整が続いていた。



桑田さん



一石さん



高寺さん



岩崎さん

やまゆりは今年、結成 3 年目。正統派の合唱曲に加えて初年度は「アメイジンググレイス」、2 年目は「ハレルヤ」を挑戦曲と位置づけ、練習に励んできた。ポール・マッカートニーの作品をどうこなすか、関心呼びそうだ。指導は写真の 4 先生。

「住まいの利活用講座」閉幕

パネルD、ワークショップで盛り上げ

昨秋から展開してきた「住まいの利活用講座」は今年度の事業を終えた。「空き家にし



ない、人と住まいの生涯学習」をテーマに合計9回の講座を計画。総集編として「空き家の利活用ーパネルディスカッション」(左写真)、「断熱・省エネワークショップ」を相次いで開いた。

冒頭に、加藤仁美東海大教授が百合が丘地区住民の居住実態報告を行い、薮健夫前県公社専務理事がこれまでの講座の要点を説明した。

パネルでは、「親族の近居居住が多いことに注目すべき」(加藤教授)、「企業のサテライトオフィス誘致、子育て支援のサイクルらなる拡充が必要」(原大祐氏)、「10年ほど前に横浜から移住し、その後子供たちも相次ぎ越してきつつある」(高橋哲也氏)、「ライフサイクルに合わせた賃貸と戸建ての循環居住の推進」(薮氏)などの発言があった。出席者からは、この地区の地形上の制約、交通弱者の移動対策などについての質問があった。出席者は約40名。

また、2月11日(月)、公社住宅25号棟で行われたワークショップには約25名が参加。窓やドア、壁の断熱対策をDIY方式で行い、施工前後の数値変化を確認した。ここでの体験を機に、簡易工事に取り掛かりたいとする参加者も出るなど、盛り上がりがあった。

団地再編、3年早まるー県公社中間報告

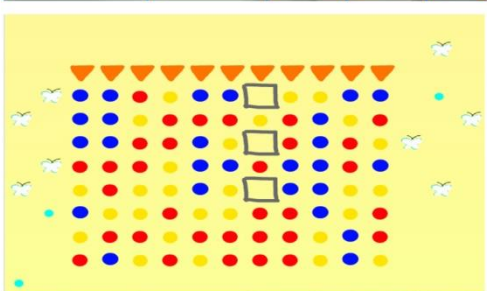
再生協議会、百合が丘自治会は2月10日(日)、公社団地再編の進ちょく説明会を開いた。席上、県公社は集約棟からの移転が順調に進み、当初より3年早いH33年度にも廃止棟からの移転が終わるとの見通しを明らかにした。最近は入居者が30件/年を上回っており、集約後の入居率を75%程度にまで引き上げるとしている。

当日は約40名が出席。説明では、事業開始のH28年春からの3年で、廃止予定10棟の居住130超世帯について、移転に同意するメドが得られた。二宮団地内の他棟移転が最も多く、第1段階の計画は大きなヤマを越えつつある。

計画が早まったことについて公社は、移転対象世帯、新規入居者とも、この間実施してきたセルフリノベーション展開、音楽祭、共同菜園などのイベント開催、地域の魅力アップ作戦がプラスになったと見ている。計画が前倒しになったことで、賃貸終了棟の解体、跡地の計画への取組みが早まる見通し。しかし、跡地利用に関しては白紙状態で、空き店舗が目立つ商店街の再生とともに大きな課題が残る。

一色小・プログラミング講座、終了

「続けてやりたい」が子供たちの声



学校連携部会（山本正博部会長）が湘南二宮ITクラブと連携して一色小生を対象に実施してきたプログラミング講座「ニーノビスケットラボ」（全6回）が2月半ばに終了した。3—5年生14名が授業終了後、ランドセルを持ったまま地域こうりゅうルームに集まり、「ビスケット」という文字を使わない方式を学んだ。

最終日は、自分で考えたタイトルやルールなどをまとめた「設計図」に基づいてプログラミングを行い、全員の前で作品（左）の内容、工夫した点などを発表した。どの作品も相当なレベルの出来栄えと言われ、保護者や一色小の先生たちは子供たちの成長ぶりに驚いていた。同講座は、昨年6月の全学年向け体験講座を引き継いだもので、昨年10月からスタートしていた。

講座修了後のアンケートでは、ほとんどの子供が（プログラミングを）「やりたい」「すごくやりたい」と答えており、続けて学ぶことに対して極めて積極的だ。指導に当たったITクラブの川島美穂子さんは「子供達が自分で考え、想像し、伝える力を養うという講座の狙いはそれなりに達成できたと思う」と語っている。

長畑公園(百合3)を改修

公園部会（渡辺貢成部会長）は2月半ば、トイレ更新を中心にした長畑公園の改修工事を計画通り実施した。洋式トイレへの切り替えは専門業者に発注したものの、それ以外の作業は3丁目公園愛護会（リ・プレイ長畑公園）が中心になって進めた。



親子が揃って参加



新装のトイレ

工事は2日間にわたって行われ、両日とも地域住民20人以上が参加した。今回の改修は「子どもも大人も楽しめる公園」がテーマで、企画、設計から工事まで子育て世代が数多く参加している。総費用40万円弱の大半は子供が使いやすい洋式トイレへの入替えに充て、トイレ床のタイルカットと貼り込み、壁の板張り、換気扇・シーリングライトの取付けなど周辺作業は参加住民が担当した。愛護会関係者は、「ヒノキの香のある素敵なトイレが出来た。大人も子供も入り乱れての楽しい作業でした」。

新年度も継続、有料化へ

地域こうりゅう塾「もっと知ろう一色・二宮」を開催してきた学校連携部会（山本正博部会長）は31年度も同講座を継続する。昨秋以降、ほぼ月2回ペースで開いているが、毎回40—60名の参加があり、一色小学校区以外からの出席も増えている。新年度からはマイク、スピーカー、スクリーンなど講座の受講環境を整えたうえで、テーマ次第では有料化（資料作成費）することにした。

同講座は町生涯学習課の協力を得て、生涯学習連続講座のサブタイトルを付けて開催してきた。昨年9月から今年度末までの開催数は15回に達し、時折、会場の教室が満杯になることもある。講師は町内の有識者を中心にお願いし、毎回テーマを変えて回を重ねてきた。最近のアンケートでは、受講回数が「はじめて」の人に加え、「3回以上」とする回答が多くなっており、講座の定着ぶりがうかがえる。

学校連携部会では、同講座が地域の人が学び、交流する場として存在感が増すと見ており、継続の決定を機に音響や映像環境を充実させる。また、各講師作成の、充実した資料を無料配布してきたが、新年度からは内容を見ながら300円をめぐにした受講料を求めることを決めた。受講料は資料作成費など講座の自立運営に充てる。

5月末までの講座スケジュール

いずれも、一色小南棟地域こうりゅうルームで。10:00~12:00

- 3/2 (土) 松本 岩太郎氏 (GNP) 「二宮の石仏」
- 3/16 (土) 橘川 卓司氏 (町文化財保護委員) 「一色のいま・むかし」
- 3/17 (日) 「二宮創生一地域づくりシンポジウム」
名和田法政大教授、村田町長ほか

*町民センターホール 14:00~16:00



松本氏



橘川氏



名和田教授



村田町長

- 3/30 (土) 勝山 輝男氏 (生命の星・地球博物館学芸員)
「神奈川県植物誌と二宮の植物」
- 4/20 (土) 依田久司氏 (かながわ福祉移動サービスネットワーク副理事長)
「高齢者の外出支援サービスの可能性」
- 5/18 (土) 原 道子氏 (町教育委員) 「小中一貫教育って何？」
- 5/25 (土) 岡野 俊彦氏 (日産自動車総研研究員) 「電気自動車のしくみ」

問合せ 協議会事務局 ☎59-9356 (火、金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

広域化へのワンステップ

地域づくりシンポ 「新年度から取り組む」(村田町長)

再生協議会は 17 日 (日)、二宮町と共催で「地域づくりと活性化」をテーマにシンポジウムを開いた。第 1 部で名和田是彦法政大教授は「単位自治会を超えた枠組みで課題に取り組むことは重要。小学校区は一つの括り方だ」。第 2 部では、町内の 3 団体の代表が持論を述べ、村田邦子町長は「人口減は避けられない。新年度から地域と力を合わせて取り組む」と語った。



名和田教授

このシンポは、再生協議会が発足 3 年を迎え、改めて「地域活動の広域化」を考える狙いで企画された。会場の町民ホールには、町内 20 地区から地区役員など 145 人が集まった。

第 2 部のパネル討論では、脇一男地区長連絡協議会会長が「31 年度は、広域化への問題意識をさらに発展させる」。町外からの移住に取り組む高見利和氏は「若い層は地域よりもテーマ別の活動に関心がある」と発言。



村田町長と地域団体代表

一方、再生協議会の廣上事務局長は現在展開中の多様な事業活動を紹介したうえで、「小さな地区組織では取り組めない課題を取り上げてきた。この路線をもっと強めたい」と語った。

参加者に「地域づくりに向け、最も優先して取り組むべきこと」をアンケートで聞いたところ、「自治会など地域団体の連携強化」

「地域団体の事業見直し、効率化」「町内 20 地区の再編」がそれぞれ回答の 2 割前後を占め、改革に向けた意識の高まりが明らかになった。

「議会だより」の協議会活動記述

松崎議員に誤りの訂正求める

「訂正の必要なし」との回答

再生協議会は、「湘南にのみや議会だより」12 月定例号に掲載された松崎健議員による記述が事実とは全く異なることから、同議員と掲載した「議会だより」に対し、訂正を求めた。誤りとしたのは、「(協議会活動が) イベントの開催に軸を置き」「問題提起されていた

(交通弱者対策)が却下されている」など、松崎議員が昨年12月の町議会の一般質問で取り上げた記述3カ所。3月8日付けで訂正を求める文書を送付した。これに対し、松崎議員からは「町などの説明に基づいたものであり、訂正の必要はない」、町議会からは「当該議員の判断を待って対応したい」旨の回答があった。

これらの回答に対し岡村昭寿会長は、「協議会の活動自体を俎上に乗せるにもかかわらず、事実確認をしていない。すぐわかることすら確認せず、協議会の信用に傷をつけたのは極めて遺憾だ」としている。

協議会が主要役員と協議のうえで訂正申し入れに踏み切ったのは、町、県公社と協力して続けてきた地域課題への取り組みについて重大な事実誤認があり、活動そのものを歪めて伝えているとの判断から。こうした誤った記載が、「議会だより」という公的媒体に載り、町内全世帯に配布されたことも重大視した。同誌が配布された2月末以後、部会活動参加者から問い合わせや対応に関し、意見が相次ぎ寄せられている。

松崎議員の記述のうち、当方が訂正を求めた箇所(下線部)とその理由、同議員の回答は以下の通り。(H31年2月25日発行の「湘南二宮議会だより」8頁参照)

Q 「なぜ、イベントの開催に軸を置き (①)、前述の地域課題解決に不可欠な交通弱者問題に取り組まないのか。問題提起されていたが却下されている (②)」

① (事実誤認の根拠) →協議会では学校連携など6つの部会がそれぞれ活動しており、イベントといえる大型行事はその一部。この3年間の活動の中心は、話し合いを含めた地味で小さな取り組みの積み重ねである。

(松崎議員) →小職の見解を述べた。

② (事実誤認の根拠) →協議会では住民、参加者が対等の立場で議論、知恵を出し合っており、「却下」などあり得ない。当然のことながら、たくさんの提案からテーマを絞り込む過程で賛同が少なく選択、採用されなかったものは他にもいくつもある。

(松崎議員) →当時の記録を確認したうえで発言した。却下されたためその後検討されていない。

Q 「どれだけの人がイベントへの参加を希望しているのか。(中略) イベントに参加するための交通弱者対策には賛成できない (③)」

③ (事実誤認の根拠) →31年度に、交通弱者対策を含めた移動支援検討部会を設けることを決めたのは昨年9月。部会活動は今年4月からスタートする予定であり、何をどう扱うかの議論はまだ全く行っていない。

(松崎議員) →議会での町当局、町長答弁にもとづく発言である。

5月末までの講座・催しスケジュール

- ・4/20(土) 依田久司氏(かながわ福祉移動サービスネットワーク副理事長)
「高齢者の外出支援を考える」
 - ・5/18(土) 原道子氏(町教育委員)「なぜ小中一貫校を目指すのか」
 - ・5/25(土) 岡野敏彦氏(日産自動車総研研究員)「どうなる? クルマの未来」
- 以上、一色小地域こうりゅうルーム 10:00~ 参加費 300円(資料代・運営費)

・5/4(土) 里山の山野草観察会 集合 9:30~ 参加費 300円

・5/26(日) 一色里山散策「みかん畑コース」 集合 9:00~

募集 20名 参加費 500円(傷害保険、試飲ワイン代)

問合せ 協議会事務局 ☎59-9356(火、金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

内閣府 第2期再生計画を採択 2021年まで、事業費760万円

再生協議会が二宮町を通じて内閣府に提出していた第2期再生事業計画（横展開タイプ）の採択（3月29日付）が決まった。今回選ばれた神奈川県内の事業では、神奈川県、横浜市など政令指定都市のプロジェクトに続くもの。横展開タイプは期間3年で、2021年までの事業費760万円の半分を国が助成し、残りを神奈川県、二宮町と協議会自身が負担する。計画期間中に、この3年の成果を踏み台にした新規事業の展開、事業運営費の自立化を柱にしており、いよいよ地域再生の最終ステージを目指すことになる。

採択事業の名称は、第2期安心して住み続けられる地域再生（一色小学校区地域再生協議会の新展開）。諸課題への取り組みを通じ、活力ある地域づくりを進めるとともに、活動の成果を全町に広げることが求められる。

計画の骨子は、①空き家対策、交通弱者の外出支援体制づくり、地域組織再編への取り組みなどの新規事業 ②古民家・散策路活用、音楽・文化イベントなどこれまでの活動をさらに発展・拡大させる事業一の2本立てになっており、推進部会体制も刷新した。一方、この間の事業経費は2019年・280万円、2020年・240万円、2021年・240万円と第1期に比べ減額になった。工事を含むハード事業を対象から外し、「3年間で自立する事業運営」を最優先にしたことが背景にある。再生協議会では、国の決定を織り込んだ新年度事業の準備に入っており、4月10日（水）に開く本部会議を経て各事業部会の活動が本格化する。

こうりゅう塾 21回、900名突破



教室があふれた「二宮の植物」

4月から300円(資料代)/大人に

こうりゅう塾「もっと一色・二宮」への参加者が30年度末で932名に達した。昨年後半から本格化した同シリーズはすでに21回の開催。3月末の「植物講座」では約80名もの出席があり、開始が遅れる場面もあった。

主催する地域交流部会（山本正博部会長）では、新年度も歴史、文化遺産、自然分野を中心に15回以上の開催を予定している。運営の自立

を目指して1人300円（高校生以下無料）の負担をお願いし、資料作成費に充てる。取り上げる一マ次第では、ラディアンなどにも会場を設ける。

友情の山 山野草ガイド本 発行へ

カラー版、一色小 55 周年に協賛

友情の山部会（牧野士郎部会長）は一色小と協力し、2019 年度末をめぐりに「友情の山の山野草たち」（仮）と題したガイド風冊子を発行する。同校裏の友情の山は西湘南地域の自



和田さん（左）と山本さん



岩間さん



ヤマユリと希少種のキンラン

然環境がそのまま残り、ヤマユリや希少性の高い山野草の群生地として知られる。今年は一色小が創立 55 周年を迎える。これを機に、ヤマユリを中心にした植生や子供たちと山の関わりなどを一冊の本にまとめることにした。

同部会は現在、冊子の編集案を詰めており、今夏から編集作業に入る。執筆者はこの 2 年間、植生観察を続けてきた山本詢子さん（百合 2）、和田美乃さん（百合 1）とライター岩間靖典さん（同）が担当する。大まかな内容としては、前半で樹木や 150 種類もある山野草を図鑑形式で紹介。後半では、友情の山のふもとにある池の整備の様子、保全活動に携わる地域の人々、一色小の子供たちと山の関わり合いを物語風に取り上げる。

協議会では、2019 年度予算で約 20 万円の制作費を計上。このほか外販部数を多くして編集・制作費を捻出する。体裁は A5 判、カラー刷り。発行部数や価格は調整中。

5 月末までの講座・催しスケジュール

- ・4/20（土） 依田久司氏（かながわ福祉移動サービスネットワーク副理事長）
「高齢者の外出支援を考える」
 - ・5/18（土） 原 道子氏（町教育委員）「なぜ 小中一貫校を目指すのか」
 - ・5/25（土） 岡野 敏彦氏（日産自動車総研研究員）「どうなる？ クルマの未来」
- 以上、一色小地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円（資料代・運営費）

-
- ・4/28（日） 一色小友情の山・山野草観察会（雨天中止）
集合 11:00 一色小東門 参加無料
 - ・5/4（土） 一色里山・山野草観察会（雨天は 6 日に延期）
集合 9:30～ せせらぎ公園入口 参加費 300 円（資料・保険代）
 - ・5/12（日） 古民家コンサート&里山ウオーク（雨天中止）県住宅供給公社主催
若手音楽家 5 人からなるユースクラシックの演奏 参加無料
集合 ふるさとの家 里山散策 10:00 コンサート 11:30
 - ・5/26（日） 一色里山散策「みかん畑コース」 集合 9:00～
募集 20 名 参加費 500 円（傷害保険、試飲ワイン代）

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

3年で自立目指す

31 年度本部会議

「空き家」「移動支援」を立上げ

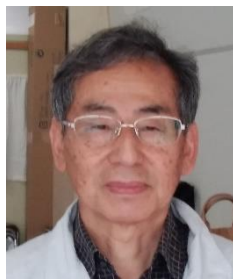
地域再生協議会は 4 月 10 日 (水)、百合丘老人の家で H31 年度第 1 回本部会議を開き、



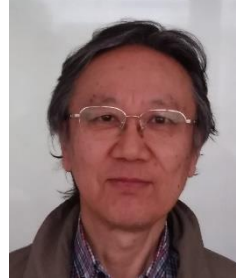
西園部会長



渡邊部会長



古矢部会長



岸野部会長

30 年度事業・決算を承認するとともに、役員改選、新年度の事業、収支予算を決定した。役員人事では志賀道郎町政策担当部長、渡邊聡県公社県

西地域創生事務所長 (県公社部会長)、西園治雄百合 2 地区長 (友情の山部会長) の理事就任、廣上事務局長の空き家対策部会長兼務、古矢俊雄散策路部会長、岸野修移動支援検討部会長をそれぞれ決めた。

内閣府の事業採択、二宮町の 31 年度予算成立を受けた事業予算は、昨年度比約 40 万円減の 535 万円。国、県、町からの支援は約 110 万円減るものの、講座や散策ツアーなどの有料化による自主収入の拡大でその分をカバーする。予算審議に当たっては、今後の事業展開のベースになる「第 2 期安心して住み続けられる地域再生計画 (一色小学校区地域再生協議会の新展開)」について詳しく検討。挨拶した岡村昭寿会長は「協議会活動は新段階に入る。課題は多いが、3 年間かけ事業の自立を目指したい」と語った。

6 事業部会はそれぞれ 20-77 万円規模の予算を組んでおり、空き家対策では昨年度と同じく、国交省予算を独自に獲得すべく準備する。このほか、年度半ばスタートを目標に地域情報ポータル体系の整備に取り組むとの報告があった。裏面に 30 年度歳出表

一色・「ホタル復活作戦」始動



散策路部会 (古矢俊雄部会長) は、一色・鉄炮田湿地でホタルの増殖に取り組む。ホタルと言えませせらぎ公園が有名だが、数は少ないとはいえ、一色里山の麓でもその存在が確認されている。同部会は、せせらぎ公園で 6 年間にわたって生育に携わってきた関口勇さんの指導を受ける。このほど緑が丘に近い山麓の湿地を選び、ホタル幼虫の餌のカワニナ (巻貝の一種)、カワニナの餌クレソンを撒いたり、放流したりした (写真)。

関口さんによると、この地区ではかつてゲンジボタルがたくさん飛んでいた。ホタルの幼虫ではなく、まずはカワニナやクレソンを増やすことから始めることにした。ホタルが飛ぶ頃の様子を見つつ、年間を通じた増殖作業を行う。果たして、成果は出るか――。

6月末までの講座・催しスケジュール

- 5/18 (土) 原 道子氏 (町教育委員) 「なぜ 小中一貫校を目指すのか」
- 5/25 (土) 岡野 敏彦氏 (日産自動車総研研究員) 「語ろう!! クルマの未来」
以上、一色小地域こうりゅうルーム 10:00 参加費 300 円
- 5/4 (土) 一色里山・山野草観察会 (雨天は 6 日に延期)
集合 9:30 せせらぎ公園入口 参加費 300 円
- 5/12 (日) 古民家コンサート&里山ウォーク (雨天中止) 県住宅供給公社主催
若手音楽家 5 人からなるユースクラシックの演奏 無料
集合 ふるさとの家 里山散策 10:00 コンサート 11:30
- 5/26 (日) 一色里山散策「みかん畑コース」集合 緑が丘中央公園 9:00 (雨天中止)
募集 20 名 参加費 500 円 (傷害保険、試飲ワイン代)
- 6/1 (土) そば打ち・試食会 一色コミセン 10:00~ 募集 30 名
大人 1,000 円 (小中学生 300 円)
- 6/2 (日) 邦楽演奏とお茶の集い ふるさとの家 14:00 (呈茶 13:00~)
雅楽保存会、森丹山浄源寺住職、小林宗紀さんほか 呈茶券 300 円
- 6/8 (土) 渡邊 恒文氏 (NEDO AI プロジェクトマネジャー) ラディアン M2
「AI は人間を超えるか?」 参加費 300 円 (資料代・運営費)
- 6/30 (日) 野澤 千絵 東洋大学理工学部教授 「家が老いても衰えない街へ」
百合が丘児童館 13:30~15:30 無料

平成30年度 一色小学校区地域再生協議会 決算書

○歳出

(単位:円)

項 目	当初予算額	決 算 額	比 較	説 明
事業費	2,332,000	1,966,151	365,849	学校連携部会 332,201
				【友情の山】 25,559
				【学校連携】 306,642
				文化イベント振興部会 574,973
				地域福祉部会 29,947
				古民家活用部会 504,411
				公園散策路部会 524,619
				【公園】 175,813
【散策路】 348,806				
空き家対策の担い手強化・連携事業	0	1,431,390	△ 1,431,390	
事務費	1,000,000	1,381,882	△ 381,882	賃金 618,298
				報償費 60,000
				保険料 44,418
				通信運搬費 90,346
				消耗品費 256,723
				食糧費 6,483
				備品購入費 300,650
				交通費 2,964
				賃借料 2,000
				交流ルームエアコン設置工事 678,764
長畑公園トイレ改修工事 297,956				
合計	4,332,000	5,756,143	△ 1,424,143	

収 支	歳入	5,756,235	円
	歳出	5,756,143	円
		92	円

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

令和ここまですやいます！元年 ——部会長からの 200 字メッセージ

令和元年がスタートしました。再生協議会にとっては多分、今の組織形態では最後になる 3 年計画 (第 2 次) のスタート年。それぞれの事業部会のリーダーは今年度、何をどうやろうとしているのか。8 人の部会長に 200 字メッセージを寄せてもらいました。

地域交流部会 山本正博

「こうりゅう塾」の自立化



昨年から本格化した一色小での「地域こうりゅう塾」(もっと知ろう一色・二宮)を一層充実させます。地域の歴史や文化、自然の在り様など、話題性あるテーマを次々取り上げ、経費面でも自立する運営を目指します。もう一つの目標は、地域区割りの広域化、コミュニティ組織の在り方についての方向付けですが、これは行政サイドと連携が必要です。何のための広域化なのか、まずそこから抑える必要があります。

友情の山部会 西園治雄

「友情の山・山野草たち」の発行



新しく担当になりました。大事な地域資産である一色小学校・友情の山をもっと知ってもらうために、3つの活動に力点を置きます。①7月20日(土)からのヤマユリの一般公開に向けた活動を協力して行い、多くの皆さんに鑑賞していただく②ヤマユリを中心にした樹木・山野草類についての小冊子(友情の山の山野草たち(仮))を編集し、年度内に発行します③一色小が計画中の池のビオトープ化をサポートします。

音楽活動部会 三浦憲門

大合唱団「やまゆい」、今年も健在



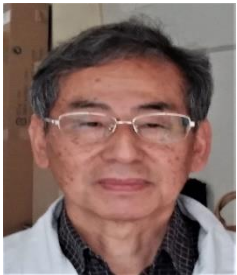
「文化イベント振興部会」は4年目を迎えて「音楽活動部会」に改称しました。総勢70名からなる「やまゆい合唱団」は先月から早くも練習を開始しました。指導は二宮町が誇るプロの先生方。今年も10月5日、12日の音楽祭をはじめ、4~5回の発表を行います。経済面でも自立化を目指して頑張ります。まずは6月2日(日)、「ふるさとの家」で開く「邦楽演奏とお茶の集い」。皆さまのご来場をお待ちします。

古民家部会 松本篤子 **バーベキューも、イベントも**



県内にはほんの少ししか残っていない明治の民家・ふるさとの家（一色）を管理し、皆様に使っていただく活動をしています。ここを使うことで、子供たちにも明治の生活文化を知って欲しいですね。幸い、家族連れのBBQ、餅つき、音楽会、種々のワークショップ、雛の吊るし飾り展などのイベントや散策拠点としての利用が増えています。HP経由で他県からの申し込みもあります。地域再生の一助となればと、草取りにも頑張っています。

散策路部会 古矢俊雄 **「里山ウオーク」を売り込む**



これまでに整備した道標・案内板、散策路マップを活用したイベントを企画するほか、社協や子供会などの散策行事をサポートします。一色の里山に親しんでもらうだけでなく、健康増進や住民同士の交流にもつながります。広報戦略を強化し、ボランティアガイドの養成、史跡・みかん・オリーブなどの地域観光資源との連携にも取り組みます。ホテル復活作戦も、どんな成果が出るか注目してください。

移動（外出）支援検討部会 岸野 修 **もっと便利に、気軽に**



二宮町の一色小学校区はとても住みよい街ですが、車がないと不便な地域でもあります。車をお持ちでない方や免許を返納された方は、公共交通を利用しても、買物・病院・各種施設へのお出かけなどには苦勞をさせられます。高齢化に伴い、この傾向はますます強くなっていきます。皆様がもっと便利に、気軽に出かけられる仕組みが作れないかを検討し、実現に向けての基礎固めが出来ればと思っています。

空家対策部会 廣上正市 **空家を出さない知恵、仕組み**



空き家対策は今や国民的課題。どう取り組んだらよいか、切り札がありません。まして住民主導ともなるとなおさらです。かといって眼前で進行中の大課題を放っておくわけにはいきません。昨年の「空き家にしない、出さない活動」を踏み台に、不動産事業者、地域金融、県公社などの知恵と力を借りながらもう一段の高見を目指します。目下のところは、昨年が続いて国土交通省の支援を得られるよう、この地域の実情に沿った提案を検討中です。

県公社部会 渡邊 聡 **テーマは「地域の魅力づくり」**



4月から県公社二宮事務所長になりました。県住宅供給公社部会では、「地域の魅力づくり」に公社資産などを活用。音楽ライブや水田・竹林を利用した自然との触れ合いなど、地域の皆さま、二宮町と連携をしながら取り組み、町内外へ情報発信を行っていきます。

是非、皆さまのご参加、ご協力をお願いします。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

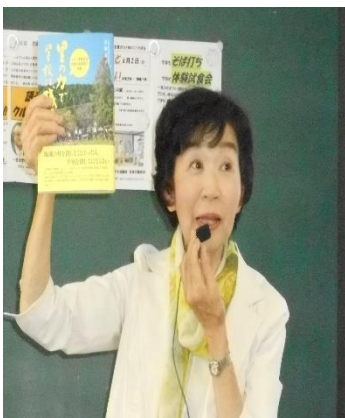
一色小と西中を統合

教育委・再編案 「小中一貫教育校」を推進

3年後・施設分離型一貫教育校スタート、7年後・一色小と西中を統合——。二宮町は23日(木)の教育委員会議で、町内小中学校の再編成(小中一貫教育校設置計画)案を決めた。現在の5校を10年余をかけて一色小と二宮中を拠点とする小中一貫2校に集約するもので、今夏の町民説明会を経て年度内に決定する。一色小は西中、山西小を事実上吸収し、北の拠点校の役割を担う。今回の大規模再編は今後の町づくり、地域再生の取組みに大きな影響を与える。

令和4年4月 (5校)	令和8年4月 (4施設5校)	令和12年4月 (2施設4校)
一色小学校	一色・二宮西小中学校	一色・山西・二宮西小中学校
二宮西中学校		
山西小学校	山西小学校	二宮小中学校
二宮小学校	二宮小学校	
二宮中学校	二宮中学校	

再編成案は、①—③の3ステップで進める。①令和4年(2022)に5校は一色小・山西小・西中、二宮小・二宮中の2グループの施設分離型一貫校に移行②同8年(2026)に西中、一色小が統合し、一色小校舎で施設一体型小中一貫校をスタートさせる。一色、緑が丘の生徒はこの一貫校に通う。山西小は統合校と分離型一貫教育を行う③同12年(2030)に山西小を一色小・西中統合校に、二宮小を二宮中に統合する。(裏面に続く)



「なぜ一貫校を目指す？」こうりゅう塾開く

地域交流部会(山本正博部会長)は18日(土)、原道子教育委員を迎え「なぜ一貫教育校を目指すのか」をテーマにこうりゅう塾を開いた。このテーマは住民の関心も高く、65人が会場に詰め掛けた。原講師は長年の教職経験をもとに、「一貫教育推進」の立場から持論を展開。講演では、子供を巡る状況変化に対応しきれない学校システム、「中1ショック」、6・3制の課題などを幅広く取り上げ、先行実践校の具体例を紹介しながら、期待される成果について語った。

「9年間をつなぐ切れ目のない教育」は国、県レベルでの動きが始まっている。二宮町はH29年度から本格研究に着手し、30年度には地域代表、保護者、有識者などからなる研究会を設けて検討してきた。少子高齢化や人口減、学校施設の老朽化などの要因もあって「小中一貫」をてこに現5校体制を刷新することにした。

再編案で北の拠点になる一色小は、5校の中でも最も少子化の影響を受けており、ピーク時には1,200人いた生徒数は198人（今年5月）に激減してる。ただ、町北部にある立地、交通アクセスなどの優位性もあって拠点校として位置付けられたと思われる。

神奈川県 百合が丘で農業講座

神奈川県農政局は県住宅供給公社と協力し、百合が丘で農業講座を開く。水稻、野菜栽培の基本を学ぶ基礎講座と小田原などの農家で実地作業を手伝う援農希望者向けの二本立てで参加者を募集し、6-11月にかけて各5回ずつ行う。県住宅公社を中心に「農」による地域の魅力づくの動きが出ていることから、この地区を中心に「親農人材」を発掘し、県西地区の農業支援に結び付けたい考え。

講座は専門家が講師になる基礎編と実地研修があり、基礎編では果樹を含めた栽培の基礎知識を習得。百合が丘児童館で6月23日（日）から各月開催する。各回とも30名程度の受講者を見込んでいる。実地編の今年度は、水稻農家での実作業体験を中心に据え、5-10名の参加者を対象に、年間5-8回実施したいとしている。研修先は農家、農業法人などで、作業に対する報酬もある。

神奈川県は県西地区における農業人口の高齢化が著しいことから、農業従事者の支援体制を検討してきた。二宮町の北部では県公社の農業分野への取り組みが動き出し、住民の関心も高まっているとみて百合が丘で新たな試みを始めた。来年以降、野菜や果樹栽培での実地研修も検討する。（問合せ 県農政局生産振興グループ 045 - 210 - 4427）

7月末までの講座・催しスケジュール

- ・ 6/1（土） そば打ち・試食会 一色コミセン 10:00～
大人 1,000円（小中学生 300円）
- ・ 6/2（日） 邦楽演奏とお茶の集い ふるさとの家 14:00（呈茶 13:00～）
雅楽保存会、森丹山浄源寺住職、小林宗紀さんほか 呈茶券 300円
- ・ 6/8（土） 渡邊 恒文氏（NEDO AIプロジェクトマネジャー）ラディアンM2
「AIは人間を超えるか？」 参加費 300円（資料代・運営費）
- ・ 6/30（日） 野澤 千絵東洋大学工学部教授 「家が老いても衰えない街へ」
百合が丘児童館 13:30～15:30 無料
- ・ 7/13（土） 門脇義昭・葛川をきれいにする会代表ほか
「魚道を、遊歩道を！ 葛川を親水空間に」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300円（資料代など）
- ・ 7/21（日） 富田 裕明氏（神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所次長）
「神奈川県花<ヤマユリ>の全てを語る」 場所など同上

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

春期イベント山越す

全16件、有料化の定着へ

再生協議会が春期に狙いを絞って準備していた講座・イベントが大きなヤマを越えた。この間の各事業部会の企画は3月・4件、4月・2件、5月・6件、6月・4件の合計16件。参加者も順調に増えており、かつてない盛り上がりとなった。こうりゅう塾や散策路部会はこの機に300円/人をめどに有料化に踏み切った。年度後半に向けて町中央部での開催、広報・PRの新展開など、もう一段の強化策を検討している。



そば打ち体験会

「みかん畑」コース散策

「語ろう クルマの未来」

3-6月・15件の内訳をみると、こうりゅう塾が7件と半分近くを占め、その他は散策ツアー・そば打ち4件など。個別企画では、公社部会の古民家コンサートには前半の里山散策に約40人、コンサートに約100人が集まった。会場に収容人員が40人程度のこうりゅう塾でも、毎回35-65人の参加者あった。5月末の「みかん畑コース」散策も募集人員を大幅に上回る40人超が集まった。交流部会や散策路部会は、「経費面での自立化の手掛かりは得られた」としている。
(裏面に続く)



7月20日(土)~ 23日(火)に決定

友情の山・山百合

4日間の連続公開

(左は広報掲示ポスター)

(表面からの続き)

その一環として考えているのがラディアンや町民センターでの講座開催。6月8日(土)の「AIは人間を超えるか?」はそのテーマの広がりからラディアンM2に会場を移した。また、10月に開催する白井英治氏の「わたしのバイオリン人生」(仮)は町民センター大ホールを予定している。広報戦略の強化についても、二宮ITクラブの協力を得て新展開を検討中だ。

歌声ダイニング 30回へー県公社部会

県住宅供給公社が、百合が丘商店街で開いている「歌声ダイニング」が今夏、30回を迎える。この企画は二宮団地の改修が始まったH28年にスタート。予約不要、どなたでも



もどうぞ——の呼びかけで毎月1回、途切れなく続いている。“定例イベント”としてすっかり定着し、もっと多くが入れる会場の確保なども検討されている。

5月末に開かれた第28回をのぞくと、参加者は30人。会場として初回から使ってきたコミュニティダイニングだけでは入りきれず、商店街の通路に椅子が持ち込まれた。

プロの奏者とボーカリストがリードし、童謡、フォーク、歌謡曲など10曲余りを歌う。1曲ごとその曲にかかわるエピソードを紹介し、参加者とのやり取りを織り込み、楽しい時間を過ごす。かつての歌声喫茶の雰囲気そのままだ。

かつての歌声喫茶の雰囲気そのままだ。

県公社は住民同士の交流の場、商店街の賑わいづくりをねらいにこの企画を始めた。参加者のほとんどは近隣の住民。女性の数が多いが、中には夫婦での参加も2組ほどいた。「友人と誘い合ってきた。ここで新しい友達もできたよ」「2、3割は毎回参加する人。大切な気分転換の時間になっている」などの声が聞かれた。

7月末までの講座・催し

- ・6/8(土) 渡邊 恒文氏(NEDO AIプロジェクトマネジャー) ラディアンM2
「AIは人間を超えるか?」 参加費300円(資料代など)
- ・6/30(日) 野澤 千絵東洋大学理工学部教授 「家が老いても衰えない街へ」
百合が丘児童館 13:30~15:30 無料
- ・7/13(土) 門脇義昭・葛川をきれいにする会代表ほか
「親しめる水辺に! 葛川をきれいにする活動」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~ 参加費300円(資料代など)
- ・7/21(日) 富田 裕明氏(神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所次長)
「神奈川県花<ヤマユリ>の全てを語る」 場所など同上
- ・7/28(日) 空き家シンポ 「売買相場を知り、地域価値を上げよう!」
——二宮北部の土地・建物の相場動向を踏まえて
宮戸淳氏(太平洋不動産店長)、四家俊英氏(不動産鑑定士)ほか
百合が丘児童館 13:30~15:30 無料

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「やまゆり」4連続出演

2019音楽まつり、骨格固まる

県住宅供給公社と連携して進める2019二宮音楽まつりの概要が固まった。県公社は10月5日(土)・ラディアンで、協議会は同12日(土)・一色小で開く。この2大イベントを目指して練習中のやまゆり合唱団(70名)はこれらに続き、同26日(土)・一色小音楽会、11月3日(日)・二宮合唱祭に次々と出演することになる。



町外からの呼び込みにも重点を置く。

協議会の「やまゆり里山音楽祭」は、公社企画との一体性を打ち出すため、10月前半に日程設定した。地域合唱団を指導するソプラノ歌手の桑田葉子、一石洋子さん、ピアノ奏者の高寺真美、岩崎千恵さんに加えて、加藤知志さん(バリトン)、公社交流で登場のユースクラシックなどの顔ぶれが固まった。プログラムの拡充と並行して有料化についても検討中だ。やまゆり合唱団は一連の音楽イベントで、「ふるさと」、「誰も寝てはならぬ」、「ヘイジュード」を披露の予定で、この4月以来、月2回のペースで練習中だ。

ホタル復活か！ 鉄砲田で16匹確認

一色の里山の麓・鉄砲田湿地でホタルの増殖に取り組む散策路部会(古矢俊雄部会長)は6月13日(木)、16匹の平家ホタルの飛翔を確認した。5月末から飛翔数をチェックしていたが、まとまった数の確認は初めて。復活への朗報かどうかに関心が集まっている。

同部会は今春からかつては相当砲田湿地でカワニナの散布、クレその作業は数回に及び、成果が詳しい関口勇さんによると、例年いう。増殖作業との関連について「う少し様子を見たい」と語っている。高まっている。



数のホタルが見られた鉄ソンの定植を行って来た。目されていた。ホタルに比べ飛ぶ時期が遅いとは「即断はできない。もるが、本格復活への期待

移動支援 5T に分け立案へ

移動支援検討部会(岸野修部会長)は全部会員をバス公共交通の見直し、移動支援ニーズ



調査、移動支援モデル立案の3グループ、5チームに分け検討作業を進める。4月以来、二宮町の交通対策、他地区における移送サービス事例などを取り上げてきたが、9月をめどに個別テーマに沿った素案作りに入ることにした。

6月19日(水)の会合では、バス公共交通の見直し(リーダー岸野氏)、ニーズ調査(同石黒賢路氏)のほか、具体的モデル検討では畑中啓治氏、高見澤秀男氏、梁井幸次氏の3リーダーと各チームメンバーを決めた。しばらくはチームごとの検討を行い、9月以降絞り込む。

夏休み 囲碁講座 今年も募集

百合が丘囲碁クラブ(直井倭親会長)は、7月末締切りで「子ども囲碁教室」の参加者を募集する。昨年まで協議会学校連携部会の主導で実施してきたが、協議会の組織再編やコミュニティスクールのスタートに伴い、同クラブが独自開催することになった。協議会は募集広報、会場利用などの面で支援する。

協議会は昨年、プログラミング教室・継続講座などを開いてきたが、今年はこれも自主開催が難しくなっている。囲碁教室と同様に、プログラミング教室も学校、保護者の評価が高いことから教育委員会が主催する放課後子供教室の中で継続するよう働きかけている。

日時・場所 8月5日(月)~9日(金) 一色小・地域こうりゅうルーム 9:30~11:30
対象者・人数 小学校3年生~中学生 15名程度
教える人 囲碁クラブメンバー 参加無料
申込み先 百合が丘囲碁クラブ・直井(なおい) 090・3231・5213 naoi@mj.scn-net.ne.jp

7月末までの講座・催し

- ・6/30(日) 野澤 千絵東洋大学工学部教授 「家が老いても衰えない街へ」
百合が丘児童館 13:30~15:30 無料
- ・7/13(土) 門脇義昭・葛川をきれいにする会代表ほか
「親しめる水辺に! 葛川をきれいにする活動」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~ 参加費 300円(資料代など)
- ・7/21(日) 富田 裕明氏(神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所次長)
「神奈川県花<ヤマユリ>の全てを語る」 場所など同上
- ・7/28(日) 空き家シンポ 「売買相場を知り、地域価値を上げよう!」
——二宮北部の土地・建物の市場動向を踏まえて
宮戸淳氏(太平洋不動産店長)、四家俊英氏(不動産鑑定士)ほか
百合が丘児童館 13:30~15:30 無料

回覧

地域再生 協議会だより

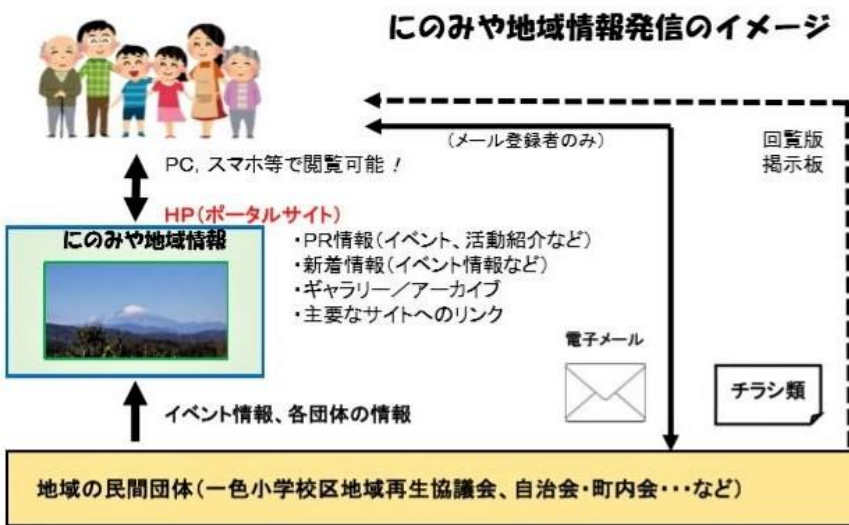
百合が丘 2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

地域情報 電子掲示板立上げ

9月から nino-community-info.com

地域再生協議会は湘南二宮 IT クラブ (片岡健二理事長) と連携し、「にのみや地域情報サイト」を9月からスタートさせる。協議会は各部会の動き、行事・イベント案内などを

発信、PC、スマホの登録者とのやり取りにも活用する。システムの運営は IT クラブが担当し、自治会、地区社協部会、ゆめクラブなどにも参画、情報提供を呼びかけてコミュニティ活動情報を一体的に扱う電子掲示板を目指す。紙ベースでの発信をデジタル化によってレベルアップさせるもので、いずれ町内全体を網羅する情報サイトに発展させたい考え。



協議会と IT クラブは新体系の展開に際し、①協議会はシステムを企画・発注し、率先して情報発信するほか、他団体へ参加呼びかけ、イベント情報受付などを行う *裏面 1へ

まず、売買相場を知ろう!! 一空き家シンポ

7月28日(日) 13:30~15:30 百合が丘児童館

利用・活用検討の第一歩は資産価値の把握から。中古住宅相場が低迷する中で百合が丘、緑

が丘の戸建てはどう評価されているか。第一線の実務家が最新の売買、取引事例を紹介し、近い将来を予測。資産価値の引き上げについても知恵を出す。参加無料。直接、会場にお越しください。



宮戸 順氏

(太平洋不動産店長)



四家 俊英氏

(不動産鑑定士)



蒔 健夫氏

(元県住宅供給公社専務理事) *裏面に講師メッセージ

(宮戸講師)

人気のあった緑が丘も開発から時間が経ち、特別な存在ではなくなった。中古市場は楽観できる状況ではないが、物件が出れば売れている。百合が丘を含め、たくさんの売買事例を紹介したい。断熱対策など、やりようによって展望は開けることを知ってほしい。

(四家講師)

平塚に拠点を構え、地価調査、鑑定を重ねてきているので県内の動向、湘南の事情はよく分かっているつもり。これまで蓄積してきたものを時系列的に紹介し、日ごろ感じていること、これからのことについて話したいと思っています。

(蔀 講師)

県内の空き家、高齢者世帯動向のデータを紹介する。横浜、藤沢など立地上優位な地域でも中古や空き家が増えてくるので、何もしていないでいるとこの地域の資産価値は目減りするばかりでしょう。地域の資産価値を上げていくために何を、どうすればよいか——しっかり議論したいですね。

*表面からの続き

②ITクラブはシステムの開発・運営、掲載情報の更新、メールマガジンの作成、紙ベース媒体の作成受託などを行う③サイトのドメイン名は nino-community-info.com とする——などで合意した。

ITクラブではすでにサーバー手配などを進めており、協議会情報の発信は9月から始める。二宮町、観光協会、県公社などのHPとはリンクを張り、関連情報へのアクセスを容易にする。行事・イベント情報に関しては日付、場所、カテゴリー別などに整理し、使いやすいよう工夫する。

協議会は協議会日より、回覧、広報掲示などを通じた発信だけではなく、IT環境の整備に合わせた広報戦略の強化を検討していた。新サイトは、紙ベースでの情報を無理なく転用できるうえに、追加、関連情報の発信も容易になる。また、登録者との情報交換など双方向への道が開ける点に期待している。

ITクラブは地域活動団体の支援を検討していたが、採算性や他団体との折衝上の課題もあって具体化していなかった。今回の取り組みによって、人員、技術面からデジタル化に二の足を踏んでいる小さな組織、団体にも活用の道が広がると見ている。

9月末までの講座

- ・7/13 (土) 門脇義昭・葛川をきれいにする会代表ほか
「親しめる水辺に！ 葛川をきれいにする活動」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円(資料代など)
- ・7/21 (日) 富田 裕明氏(神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所次長)
「神奈川県花<ヤマユリ>の全てを語る」 場所など同上
- ・9/14 (土) 森 教育長 「二宮町の小中学校再編をこう進める」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00～ 無料
- ・9/21 (土) 斎木邦弘氏 「二宮で子育てする夏鳥一ツバメの子育て調査から」
同・地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円(資料代など)

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

10/12 やまゆり里山音楽祭

出演者、演目決まる

有料化(500円/大人)に踏み切る

2019 二宮音楽まつりの中心イベント、やまゆり里山音楽祭 (10月12日、一色小体育館) の出演者と演目が決まった。開催4年目の今年は、桑田葉子 (ソプラノ)、一石洋子 (同) さんら町内音楽家に加え、新進のバリトン歌手・加藤知志さんを招き、日本歌曲からオペラアリア、ピアノ連弾などを揃え、多くの方に楽しんでいただけるよう大幅に拡充した。後半に登場するユースクラシック (弦楽・ピアノ)、やまゆり合唱団 (70名) も曲目を一新して臨む。県公社主催の「二宮こども音楽祭」(10月5日、ラディアン) も午前、午後2回のコンサートを準備し、町内外から多数を呼び込む。昨年を上回る盛り上がりが見込めそう。

(やまゆり里山音楽祭のプログラムは裏面に)



桑田葉子



一石洋子



加藤知志



高寺真美



岩崎千恵

やまゆり里山音楽祭は、内容の大幅拡充と並行して初めて有料化に乗り出す。大人は500円 (中学生以下無料) の入場料をお願いする方針を決め、入場料にふさわしい中身にすべく検討中。この時期に有料化にするのは、国の認可を得た第2次地域再生事業 (最終令和3年度) では、助成金なしでの事業展開を求められ、地域音楽祭を継続していくには経費面での自立努力が欠かせないとの判断から。これらの点について参加者や関係者の理解を得つつ、町内では唯一の地域音楽祭を盛り上げたい考え。

10/19(土) 白井先生(バイオリン)の講演会



湘南出身の著名バイオリニスト、白井英治氏の講演「わがバイオリン人生—音楽は世界の共通語」が10月19日 (土)、二宮町町民センター大ホールで開かれる。再生協議会地域交流部会 (山本正博部会長) 行事の一環で行われるもので、バイオリン演奏、ピアノとの合奏も予定している。やまゆり合唱団も出演する。

白井氏は国内外で活躍する一方、小田原、二宮、平塚な(裏面へ)

ど湘南エリアでも音楽家の養成、音楽文化の振興に貢献。小田原音楽連盟会長、二宮演奏家協会会長などの要職に在り、月初には小田原の音楽ファンの後押しで「古希コンサート」を開いたばかり。講演では幼少時からのバイオリンとの関わり、音楽家としての転機、生まれ育った湘南への想いなどを演奏を交えて語る。参加料 300 円。

再生協議会では、この講演会も「二宮こども音楽祭」(10/5)、「やまゆり里山音楽祭」(10/12) に続く 2019 二宮音楽祭り第 3 弾と位置付け、多数の参加を呼び掛ける。

2019 やまゆり里山音楽祭 プログラム (予定)

- ・里の秋 齋藤信夫作詞 海沼 実作曲 桑田 葉子(ソプラノ) 高寺 真美(ピアノ)
- ・鎌倉は子守唄 寺島尚彦作詞 作曲 加藤 知志(バリトン) 高寺 真美(ピアノ)
- ・落葉松 野上 彰作詞 小林秀雄作曲 加藤 知志(バリトン) 高寺 真美(ピアノ)
- ・箱根八里は(馬子唄) 山田耕筰編・作曲 一石 洋子(ソプラノ) 岩崎 千恵(ピアノ)
- ピアノ連弾 組曲「くるみ割り人形」より チャイコフスキー作曲
行進曲 ~ 金平糖の踊り ~ トレパックの踊り ~ 花のワルツ
岩崎 千恵(PRIMO) 高寺 真美(SECONDO)
- オペラ「リナルド」より ヘンデル作曲
・私を泣かせてください 一石 洋子(ソプラノ) 岩崎 千恵(ピアノ)
- オペラ「カルメン」より ビゼー作曲
・ハバネラ 桑田 葉子(ソプラノ) 岩崎 千恵(ピアノ)
- ・闘牛士の歌 加藤 知志(バリトン) 岩崎 千恵(ピアノ)
- オペラ「アイダ」より ヴェルディ作曲
・勝ちて帰れ 一石 洋子(ソプラノ) 岩崎 千恵(ピアノ)
- オペレッタ「メリーウィドウ」より レハール作曲
・ヴィリアの歌 桑田 葉子(ソプラノ) 高寺 真美(ピアノ)
- ・愛のワルツ 桑田 葉子(ソプラノ)加藤 知志(バリトン) 高寺 真美(ピアノ)
- ユースクラシック (演奏曲 検討中)
- やまゆり合唱団
指揮:桑田葉子 一石洋子 伴奏:ピアノ 高寺真美 岩崎千恵 ユースクラシック
・ふるさと 高野辰之作詞 岡野貞一作曲 源田俊一郎編曲
・誰も寝てはならぬ オペラ「トゥーランドット」より G.アダミ・R.シモリ作詞 G.プッチーニ作曲
・ヘイジュード ポール・マッカートニー作詞 作曲



9月の講座

- ・9/14 (土) 森 英夫 教育長 「二宮町の小中一貫教育とコミュニティスクール」 一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~ 無料
- ・9/21 (土) 斎木邦弘氏

やまゆり合唱団とユースクラシック 「二宮で子育てする夏鳥一ツバメの子育て調査から」
同・地域こうりゅうルーム 10:00~ 参加費 300 円 (資料代など)

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

ふるさとの家 オータムフェスタ

9/23 ピザ体験、里山散策、キッチンカーなど

古民家・散策路部会（松本篤子、古矢俊雄部会長）は9月23日（月）に、新企画イベント「オータムフェスタ&里山ウォーク」を開催する。ふるさとの家に設置した専用窯を使ったピザ作り体験と里山ウォーキングを組み合わせ、二宮カフェなどキッチンカーを招いて賑わいを演出する。ふるさとの家ではこれまで古民家コンサート、雛の吊るし飾り展など全町を対象にしたイベントを開いてきたが、新企画を秋季の定例催事に育てたい考え。近隣を中心に100名程度の参加を見込む。



設置済みピザ窯



里山ウォーキング

ピザ作りは、主として家族連れを想定した企画。ピザ生地は事前に仕込んでおき、参加者はそれを成形し、トッピングする。これらを体験してもらい、担当者の指導の下、昨年設置した専用窯で焼き上げる。午前9時30分頃から始め、2回にわたって各15枚程度焼く。価格は1,000/1枚で、希望者は17日（火）までに申し込む。

もう一つの里山ウォークは、一色防災コミセン（9:30集合）を起点に、大殿畑コース（約3.5キロ）を散策し、ふるさとの家で他のイベントと合流する。案内・誘導は部会員が担当し、参加費は300円。ピザ体験と同じく、事前申し込みが必要だ。

キッチンカーを中心に据えた「古民家マルシェ」には、CoCoPARADISE（有機野菜、玉子）、八百屋コウタ（果物、スイーツ）、二宮カフェの出店が内定している。このほか、地元農家による野菜販売、生ビール・ドリンク類の店なども出る。問合せ・申込み再生協議会事務所まで。

協議会、「黒岩知事との対話」に出席 10/17

再生協議会は、10月17日（木）に藤沢市で開かれる知事との対話の広場・湘南版に事例発表者として出席することになった。同企画の今年度は「みんなが元気になる地域コミュニティづくり」がテーマになったことから、当協議会に要請が来た。当日は藤沢市の市民活動支援組織とともに発表し、黒岩知事、会場参加者と意見交換する。（裏面に続く）

対話の広場への出席は、二宮町経由で要請があった。地域におけるコミュニティづくりの事例紹介、誰もが元気で笑いあふれる100歳時代の実現に向けた方策——の2点について提起してもらいたいという。今後、関係者と打ち合わせたうえで、発表資料を整理し、事務局長が代表して説明する。

当協議会活動についてこのところ、他地区からの訪問が相次いでいる。7月末には川崎市市民団体（麻生ヤマユリ栽培普及会）の事務局長が来町し、友情の山部会の活動について意見交換した。また8月半ばには、大磯町・石上台自治会が当協議会の活動全体についての説明を求め、3人の役員が来られた。

国交省 空き家対策申請を採択

2年連続、200万弱の助成

再生協議会が国交省に提出していた空き家対策事業の助成申請について、7月末付けで採択の通知があった。協議会は昨年度も同制度の支援を受けており、2年連続の採択になる。今年度から空き家対策部会（廣上正市部会長）を設け、5地区長が部会員になるなど態勢を強化している。今後、事業予算を含めた詳細チェックを経て正式決定になる。

申請していたのは「空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」で、令和元年度は全国から111件の応募があり、うち60件が採択になった。協議会が提出した事業名は、「二宮一色小学校区・地域空き家等循環再生事業」。この中で、①空き家にしないための利活用講座、断熱リノベーションワークショップの開催②循環居住支援ツールの検討、専門家による支援組織の構築③逆相談マニュアル（仮称）作成、移住コンダクター制度（仮称）の検討・導入④住まいの終活・利活用読本の取りまとめ——などを骨子とする提案をしている。申請時の事業予算は200万円弱で、国交省からは1,880千円の上限額が示されている。

10月末までの講座・イベント

- ・9/14（土） 森 英夫教育長 「CSと小中一貫教育校の推進」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00～ 無料
- ・9/21（土） 斎木 邦弘氏（二宮野鳥の会顧問）「二宮で子育てする夏鳥」
場所 同上 10:00～ 参加費300円（資料代など）
- ・9/23（月） オータムフェスタ&里山ウォーク ふるさとの家
9:30～ ピザ作り体験、里山ウォーク、古民家マルシェ
- ・10/5（土） 二宮こども音楽祭（主催県住宅供給公社）ラディアン 無料
午前（事前申し込み制）11:00～ 午後14:00～
- ・10/12（土） やまゆり里山音楽祭 一色小体育館 14:00～ 500円
桑田葉子、一石洋子、加藤知志、やまゆり合唱団ほか
- ・10/19（土） 白井英治氏（二宮演奏家協会会長）「わがヴァイオリン人生」
町民センター大ホール 10:00～ 300円（資料代など）

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

10/12 やまゆり里山音楽祭

「期待してください！」 出演者からメッセージ

第3回のやまゆり里山音楽祭(10月12日、一色小)が1か月後に迫った。今年のスールスポイントは、地元に関わりの深い音楽家が前面に出るプログラムを組んだこと。有料化など来年以降の開催への布石を打ったこと。桑田葉子、一石洋子さんをはじめとする皆様に、この音楽祭に向けた意気込みを寄せてもらった。

桑田葉子 (ソプラノ)

百合が丘に思いを込めて



今年も再生協議会の皆様のご尽力により、第3回目の音楽祭を開催できる運びとなりました。今回、我が愛するやまゆり合唱団は、イタリア語と英語の歌詞で歌うことに挑戦しました。猛暑を乗り越え、皆さんの努力が実を結び、期待してもらえる仕上がりになったと思います。お楽しみに！

私は、百合が丘に住んでまる25年になります。素晴らしい方々との出会いに感謝を込め、必ず喜んでいただける音楽祭となるよう、頑張ります。どうぞ、よろしくお願ひ致します。

一石洋子 (ソプラノ)

格調高い名曲を



この音楽祭は、地域コミュニティの風情を感じさせる大好きなコンサートです。演目の1曲目はヘンデルの「私を泣かせて下さい」。シンプルで美しい不滅の旋律をお楽しみください。山田耕筰が伸びやかに編曲した「箱根八里」では、お馴染みの山嶺を思い描いて欲しいですね。

3曲目のヴェルディ作曲「アイダ」からのアリア「勝ちて帰れ」は、ローマやヴェローナの野外劇場の定番プログラムです。古代エジプトの荘厳な神殿と、ナイルの大自然を思い起こさせる格調高い名曲をお聴きください。

加藤知志 (バリトン)

大先輩と重唱、楽しみ



この度、ご縁があつてやまゆり里山音楽祭に出演させて頂けること、とても嬉しく思っております。ソロ曲は、秋を感じされる味わい深い歌詞を持つ一曲「落葉松」、私が生まれ育った鎌倉を舞台にした知られざる名曲「鎌倉は子守唄」。さらに、有名オペラアリア「闘牛士の歌」をお届け致します。

重唱曲では、尊敬する皆様と共演させて頂けることに今から胸を躍らせております。皆様のご来場を、心よりお待ち申し上げております。

高寺真美（ピアノ）、岩崎千恵（同） 「くるみ割り人形」のピアノ連弾



4月から、やまゆり合唱団の皆さんとともに、頑張ってきました。今回は日本語、イタリア語、英語と原語はさまざまで、オペラアリアやビートルズにも挑戦しました。今年のコンサートは2部構成で、第1部だけでも数多くの名曲が登場するステージになります。

私たちのピアノ連弾は、チャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」からの抜粋で、4曲を演奏します。ご存知のメロディーがたくさん出て来ます。どうぞお楽しみに。

陶 旭茹・ユースクラシック代表

民謡からラテン4分野で



この音楽祭の出演依頼を受け、とても喜んでます。今回演奏する曲目は、日本民謡、正統派クラシック、ジブリ音楽、ラテン音楽から選曲しました。皆さんと一緒にできる時間の中で、ピアノ五重奏の魅力や様々なジャンルの音楽を楽しんで頂けたら嬉しいです。弦楽器の4人は、やまゆり合唱団とのコラボを予定しており、1年ぶりの共演も楽しみにしています。

三浦憲門・音楽活動部会長

英語、イタリア語をクリア



再生協議会活動も自立化が求められる中、今回は有料化に挑戦です。男性プロにも参加いただき、先生方の時間と演目を大幅に増やし、一段と充実させました。やまゆり合唱団(70名)も最後の追い込み中です。慣れないイタリア語の「だれも寝てはならぬ」、早いテンポの「ヘイジュード」、ゆったりとした童謡「ふるさと」が予想外に難しい。それでも、二宮町が誇るプロの先生方の優しく軽妙で時に厳しい指導と、各パートリーダーの協力でなんとかマスターできそうです。

11月末までの講座・イベント

- ・9/14（土） 森 英夫教育長 「コミュニティスクールと小中一貫教育校の推進」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00～ 無料
- ・9/21（土） 斎木 邦弘氏（二宮野鳥の会顧問） 「二宮で子育てする夏鳥」
場所 同上 10:00～ 参加費 300円（資料代など）
- ・9/23（月祝） オータムフェスタ&里山ウォーク ふるさとの家
9:30～ ピザ作り体験、里山ウォーク、古民家マルシェなど
- ・10/5（土） 二宮こども音楽祭（主催県住宅供給公社） ラディアン 無料
午前（事前申し込み制）11:00～ 午後 14:00～
- ・10/19（土） 白井英治氏（二宮演奏家協会会長） 「わがヴァイオリン人生」
町民センター大ホール 10:00～ 300円（資料代など）
- ・11/2（土） 鈴木 一男氏（町文化財保護委員） 「遺跡破片に見る二宮の歴史」
地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300円（資料代など）
- ・11/9（土） 浅川 岳夫氏（富士通スパコン開発者） ラディアン M2 会議室
「スパコン「京」「富岳」の開発とAI新時代」 10:00～

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

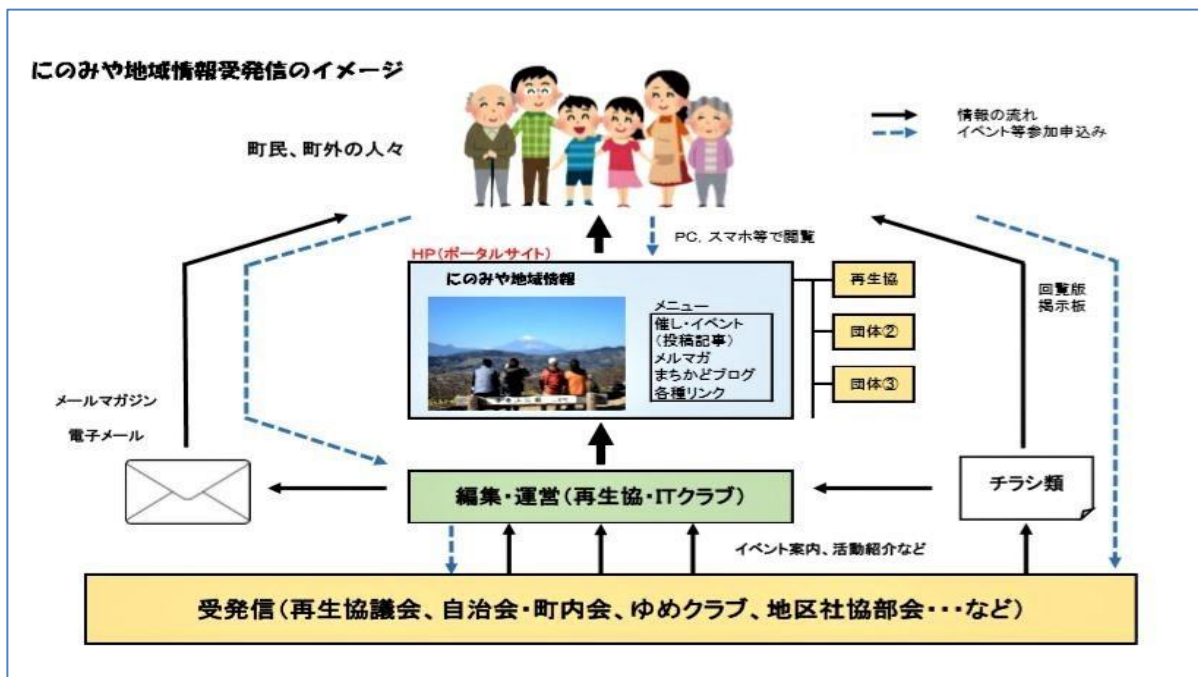
始動

にのみや地域情報サイト

年度内無料、団体利用を呼びかけ

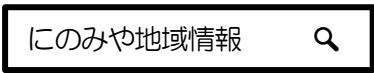


コミュニティ団体の活動を支援する「にのみや地域情報サイト」が始動した。地域再生協議会と湘南二宮 IT クラブ (片岡健二理事長) が連携して準備してきたネット活用の新情報体系で、従来のペーパー中心の情報共有を補強する。まず、再生協議会が活用の先陣を切り、今後自治会、社協、ゆめクラブなどに利用を呼び掛ける。

催事・イベントを中心にしたコミュニティ活動全般をカバーする“地域電子掲示板”をめざす。



(裏面へ)

<ここからアクセス！>

①Google、Yahoo からキーワード入力	②スマホ、タブレットから	③パソコンから
	このみや地域情報 →   -地域再生協議会	このみや地域情報 https://nino-community-info.com 地域再生協議会 https://saisei.nino-community-info.com

事業・サービス内容

イベント、催しに力点

このみや地域情報は、各団体のイベントや活動を紹介し、発信するサイトと、それらの情報を集約したポータル(玄関)サイトで構成。催し・イベント、メールマガジン、まちかどブログなどのメニューを揃える。イベントや事業活動の紹介では、新たな手間を省くために、各団体が通常作成しているポスター、チラシ類などの情報をそのまま活用し、インターネット経由で配信することを基本にする。メールマガジンは各団体の情報を整理・編集し、登録者に定期的に配信する。地域在住のライターによる街の話題の掲載(まちかどブログ)も売り物の一つにする。

一番手として発信を始める再生協議会では、地域交流、古民家・散策路、音楽活動など6つの部会の動きやイベント、講演会情報などを随時発表し、これまで回覧や広報版掲示、協議会だけに偏っていた広報活動をてこ入れする。

特徴・利点

専門人材はいらず

このみや地域情報を使った広報・受発信には、以下のような明確な利点が想定される。

- ・HP 中心のネット活用には編集、管理、フォローの専門人材、もしくは外部委託が必要になるが、これらを地域情報が担うので規模の小さな団体も活用しやすい。
- ・すでに手掛けているチラシ、ポスター類を転用できるので、新たな手間・コストがかからない。
- ・回覧など紙媒体による広報は認知度が低いうえに、忘れられやすいのが難点。スマホやタブレットの普及に合わせた広報活動が可能になる。
- ・イベント、催しでは地域外にもアピールする必要がある、低コストで広範な発信ができる。

利用料など今後

年度内は試用期間(無料)

このみや地域情報サイトを展開するうえでの課題は、利用団体と視聴者の拡大で、いずれも一色小学校区内を拠点に広げていく。すでに有力自治会、社協、ゆめクラブ、一色小学校などを対象にした説明会を開いており、さらに利用呼びかけの範囲を広げる。

利用の拡大に当たっては、利用料設定の必要があるが、来年3月までは試用期間とし、新しい発信手段の可能性を探ってもらうことにする。利用料は期間中にコストチェックを行い、小規模団体でも利用しやすい体系にする。

また、同サイトに関する情報掲載基準を設けるほか、二宮町、観光協会、県住宅供給公社HPへのリンク、まちかどブログライター(投稿者)の増員などにも取り組む。さらに、公益性の高いイベント・催し情報の収集、掲載の是非などについても考え方を整理し、様々な地域情報を網羅する魅力あるサイトに発展させたいとしている。

回覧

地域再生 協議会だより

59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp <https://saisei.nino-community-info.com>

移動支援に3案浮上

車両、経費確保など可能性詰める

移動支援検討部会（岸野修部会長）での半年間の検討を経て3つの実行案が浮かんできた。①社会福祉法人との協力による買い物ツアー、②町社協「たすけあいネットワーク」の拡充による買い物ツアー、③利用の少ない時間帯のタクシー割引新設で、今後、町、社協などと協力して具体化に向けた課題を整理する。このほか、路線縮小の心配があるバス交通の利用者減少対策についても提案したい考え。



買物、通院に不充する人は多い

3案のうち①は、社福法人メゾンの送迎車の空き時間を高齢者の移動支援に充ててもらおうというもので、週1回、町外のSC向けに運行。利用者から参加費を徴収し、メゾンには車両、運転者の無料提供を要請している。②は「外出支援」を社協の事業メニューに加えることで、金銭徴収に制限をかけている道路運送法上の制約を回避する。ボランティアによるワゴン車の提供をもとに週1回程度の運行を見込んでいる。また、③はタクシーの利用客が少ない昼間時に、ワンコイン（町内限定、500～600円）の料金体系を設定し、余剰タクシーを有効利用する。

同部会は4月からスタートし、上期途中からは小グループでの検討を進めている。今年度は立案と検討、利用者のニーズ調査などに力点を置く。買物支援案では、車両の調達、ボランティアの確保、推進主体の確定などが固まっていない。またタクシーの昼間割引導入案では、交通事業者の同意を得なければならず、まだ相当時間がかかると思われる。

5週連続公演スタート 合唱団

5週連続公演——。文化・芸術の秋の到来とともに、「やまゆり合唱団」の活動が本番を迎える。皮切りは10月5日（土）の「二宮こども音楽祭」（県公社主催、ラディアン）午後の部。その後は12日（土）（一色小体育館）、19日（土）（町民センター大ホール）、26日（土）（一色小音楽会）、11月3日（日）（町・合唱祭、ラディアン）と続く。このうち、12日と19日は再生協議会の主催。中でも12日の「やまゆり里山音楽祭」は、音楽活動の基盤強化を狙って（以下裏面へ）



有料化（大人 500 円）に踏み切ることから、入場券販売など例年とは違った緊張の中で準備が進んでいる。

合唱団 70 名は桑田葉子さんら 4 先生の指導の下、4 月以降、月 2 回の練習を積み重ねてきた。三浦音楽活動部会長は「練習はしっかりやった。成果を見てもらいたい」。

友情の池ビオトープ工事始まる

再生協議会が協力している一色小「友情の池」のビオトープ化は、8 月の池さらいに続き、今月半ばには「一色小おやじの会」による基礎工事が 2 日間にわたって行われた。今後もボランティアによる砂利敷き、デッキ設置、水生植物の定植などを進め、10-11 月には完成させる。

友情の池は一色小友情の山に隣接する小池で、普段はほぼ放置されたまま。一色小の提案から国土緑化推進機構の緑化助成資金 50 万円が得られることになり、この資金を使ってビオトープ化することになった。



「おやじの会」による池さらい

古正校長は学区運営協議会（CS 推進母体）、再生協、PTA、地区内公園愛護会などの支援で完成させたいとしており、岡村昭寿再生協会長が中心になって工事プランをまとめた。池の水管理、水生植物の育成環境整備などの難題に直面したものの、教育委員会や専門事業者の支援を得て完成への道筋をつけた。

完成後は生態系の観察、環境教育の場として活用する一方、自生ヤマユリで知られる友情の山とともに地域に公開していきたいとしている。

12 月末までの講座・イベント

- 10/5（土） 二宮こども音楽祭（主催県住宅供給公社）ラディアン 無料
午前（事前申し込み制）11:00～ 午後 14:00～
- 10/12（土） やまゆり里山音楽祭 一色小体育館 14:00～ 500 円
桑田葉子、一石洋子、加藤知志、やまゆり合唱団ほか
- 10/19（土） 白井英治氏（二宮演奏家協会会長）「わがヴァイオリン人生」
町民センター大ホール 10:00～ 300 円（資料代など）
- 11/2（土） 鈴木 一男氏（町文化財保護委員） 「遺跡破片から見た二宮史」
地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円（資料代など）
- 11/9（土） 浅川 岳夫氏（富士通スパコン開発者） ラディアン M2 会議室
「スパコン「京」「富岳」の開発と AI 新時代」 10:00～
- 12/7（土） 御法川直樹氏（蝶研究家） 「二宮の魅力的な蝶々」
地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円（資料代など）
- 12/14（土） 河崎民子氏（全国移動ネット副理事長） 「動き出す交通弱者支援」
場所など 同上

回覧

地域再生 協議会だより

百合ヶ丘 2 - 29 - 6 (老人憩の家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp



音楽祭、来年はラディアンで 開館 20 周年公演団体に決まる

H29 年から開いてきたやまゆり里山音楽祭は来秋、ラディアンホールで開く。町教育委員会が募集したラディアン 20 周年記念事業「ホールを活用した文化振興事業」への採用が決まったためだ。来年で第 4 回目を迎える音楽祭にとってはステップアップのチャンスになる。「音楽による地域盛り上げ」で連携する県住宅供給公社とも相乗効果を生むプログラム編成などについて話し合いを始める。

ラディアン 20 周年記念事業は「町の文化向上への寄与」を条件に募集し、二宮演奏家協会、スタジオ・ピーアチェ、20 周年記念合唱団実行委員会の採用が決定した。やまゆり里山音楽祭以外はいずれもキャリアある団体で、プロ集団の一角にやまゆりが食い込む形になった。採用決定に伴い、本番時のホール使用料の減免などの特典が得られる。

(裏面に続く)

<のぞいてみませんか！> 地域の話、協議会の動き

Google・Yahoo から	スマホ・タブレットから	パソコンから
<p>にのみや地域情報</p>	<p>にのみや地域情報 →</p>  <p>←地域再生協議会</p> 	<p>にのみや地域情報</p> <p>https://nino-community-info.com</p> <p>地域再生協議会</p> <p>https://saisei.nino-community-info.com</p>

黒岩知事対話で事例発表—協議会の活動

「黒岩県知事との対話の広場・湘南」が 17 日 (木)、藤沢市で開かれ、再生協議会の廣上事務局長が「活力あるコミュニティを目指して」と題したの事例発表を行った (写真)。



藤沢市の市民団体とともに、神奈川県への要請に基づいて発表したもので、会場には約 200 人が集まった。

対話のテーマは「笑いあふれるコミュニティづくり」。事例発表では、再生協議会が重点的に取り組んできた生涯学習講座、友情の山・やまゆりの公開、音楽祭開催・合唱団活動、里山ウォーキング、地域福祉対策などについて説明し、参加者の関心を集めた。また、現在進行中の健康団地づくり (百合 3・県営団地の更新計画) について県の積極的な関与を

要請した。会場には高校生の出席者も多く、環境や福祉、関心の薄い住民をどう巻き込むかなどについて意見が交わされた。

音楽活動部会（三浦憲門部会長）主催の音楽祭は一色小体育館を拠点にしており、傘下のやまゆり合唱団が町内の各イベントに参加してきた。ラディアンホールに会場を移すことになれば、公演プログラムの編成、合唱団の参加者募集などにも影響が及ぶ。三浦部会長は、「今年の音楽祭は残念ながら中止になったが、来年のラディアン開催は吉報。その先にもつながる準備をしたい」と語っている。

なお、やまゆり合唱団は、来年1月7日（火）の町行事・「新年のつどいとニューイヤーコンサート」への出演が決まった。中止になったやまゆり里山音楽祭を除き10月中の3回、11月3日（日）の合唱祭への出演で年度内の活動を終える。

空き家対策、下期に集中

空き家対策部会（廣上正市部会長）の取り組みが、年末から来年2月に集中する見通しになった。国交省の採択決定以後、細目の調整などがずれ込んだため、住まいの終活準備講座、空き家にしない循環居住の支援検討、相談体制整備などを並行して展開する。

口火を切るのは12月1日（日）開催の終活準備講座。ライフサイクルと住宅の更新サイクルをどうするか——のテーマを木村道子（ファイナンシャルプランナー）、高橋大樹氏（家族信託コーディネーター）らを招いて解説してもらう。売却、賃貸など、空き家にすることなく住居の継承に成功した事例紹介などに力点を置く講座、戸建て住宅の断熱リフォームのワークショップはそれぞれ来年1月末に予定している。



高橋大樹氏

このほか、今年度事業の目玉になる賃貸・戸建て・域外流入者を絡めた「循環居住の支援体制づくり」の検討は年内に検討チームを発足させる。このチームでは関西などの成功例を調べるほか、地域金融機関、不動産事業者、移住支援組織などとも連携して新スキームの可能性を探る。来年2月には、昨年度以来の講座の成果をまとめた「住まいの終活・利活用読本」の制作、「地域価値」に焦点を当てたシンポジウムを開催する。



木村道子氏

12月末までの講座・イベント

- 11/2（土） 鈴木 一男氏（町文化財保護委員） 「遺跡破片から見た二宮史」
地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円（資料代など）
- 11/9（土） 浅川 岳夫氏（富士通・スパコン開発者） ラディアン M2 会議室
「スパコン「京」「富岳」の開発と AI 新時代」 10:00～
- 11/16（土） 秋の里山ウォーク&みかん狩り 一色コミセン 9:00 集合
富士見コース散策+井上農園みかん狩り 参加費 400 円
持ち帰り 1 人 2 kg 協議会へ電話かメールで申込み
- 12/7（土） 御法川直樹氏（映像作家・蝶研究家） 「二宮の魅力的な蝶々」
地域こうりゅうルーム 10:00～ 参加費 300 円（資料代など）
- 12/14（土） 河崎民子氏（全国移動ネット副理事長）
「支え合い・助け合いによる高齢者の移動・外出支援」
場所、時間など 上に同じ

回覧

地域再生 協議会だより

百合ヶ丘 2 - 29 - 6 (老人憩の家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

1/12「地域 de カフェ」開催

サークル・団体の紹介と新たな交流の場

地域交流部会（山本正博部会長）は地域サークル、活動団体の紹介と住民交流をねらいに新企画「地域 de カフェ・地域 de 笑顔」を開く。百合ヶ丘や緑ヶ丘は住民活動が比較的活発と見られているが、一方では参加のきっかけをつかみかねている住民も目立つ。活動のマンネリ化を打破するために新規人材を募るサークルなども多く、協議会が中心になって“出会いの場”を設けることにした。開催は来年 1 月 12 日（日）、百合ヶ丘児童館。「お茶のみ気分で顔を出して欲しい」と参加を呼びかける。



手塚明美さん

この催しの主たる対象者は、リタイア前後の世代、地域活動との関わりを持ちたい人、趣味や教養、健康サークル、活動団体について知りたいと思っている人たち。地区内にどんなサークル、活動組織があるかをリストやパネルで紹介し、必要に応じて説明を行う。会場の児童館ホールには飲み物や軽食を用意し、くつろぎながら情報を得たり、おしゃべりを楽しめる運営にする。存在を積極的にアピールしたいサークルには、パネルや PR 資料の作成を求める。（裏面に続く）

やまゆい音楽祭、3 月末に



1 番手に登場、会場を圧倒した合唱団

19 号台風の影響による開催中止の決定後、多くの方から時期をずらしての開催を求める声が上がっていた。会場の一色小は春休み中であり、桑田葉子さん、ユースクラシックをはじめとする出演者も日程調整の見通しがついたことから、延期開催が決まった。年明け以降、ポスター、回覧などで再度広報活動に取り組む。やまゆい合唱団は 3 月末に向け、練習を再開する。

なお、来年度のやまゆい里山音楽祭は 10 月 17 日（土）、ラディアンでの開催が決定済み。やまゆい合唱団は新年度の団員募集を行い、地域合唱団として態勢をさらに強化する。

台風で中止したやまゆい里山音楽祭を来年 3 月 29 日（日）に開催することになった。会場の一色小、出演者などとの調整ができたため、10 月開催で準備してきた内容をほぼその通り実施する。ただ、3 月末開催では、当初予定していた入場料の徴収を見送る。

今年度の音楽祭は年度当初から準備に取りかかり、やまゆい合唱団なども 4 月から月 2

(続き)また、市民活動の組織化や盛り上げに実績のある手塚明美さん(NPO 藤沢市民活動推進機構事務局長)をコーディネーターに招き、参加者同士、あるいは手塚さんが加わった交流の場を用意する。このため、開催時間はやや長くなる見込みで、その間は出入り自由とする。こうした活動参加のきっかけづくりイベントはあまり例がなく、どのような反響があるかに関心が集まっている。

盛況!! 11月の3イベント



11月に開かれたイベントは、いずれもかつてないほどの盛り上がりになった。2日(土)開催の「遺跡破片」(鈴木講師)では町内で発掘された縄文破片の感触を直接確かめた(写真下段)。9日(土)の富士通・浅井講師による「スパコン」には、目新しいテーマにもかかわらずラディアン会場に60人が集まり、質問が相次いだ(上段右)。

また16日(土)の「ウオーク&みかん狩り」には、小春日和の中、30人強が参加。井上農園で袋にいっぱいみかんを詰め込んだ。最後は、富士山ビューで記念写真をパチリ。

来年1月末までの講座・イベント

- 12/1(日) 高橋 大樹氏(不動産相続アーキテクト社長)、木村 道子氏(ファイナンシャルプランナー)ほか 「マネープランと利活用、相続」
百合が丘児童館 13:30~15:30 無料
- 12/7(土) 御法川直樹氏(映像作家・蝶研究家) 「二宮の魅力的な蝶々」
地域こうりゅうルーム 10:00~ 参加費300円(資料代など)
- 12/14(土) 河崎 民子氏(全国移動ネット副理事長)
「支え合い・助け合いによる高齢者の移動・外出支援」
場所、時間など 上に同じ
- 1/12(日) 地域 de カフェ・地域 de 笑顔
地域サークル、団体のパネル展示・紹介、住民交流の場
手塚 明美氏(NPO 藤沢市民活動推進機構事務局長)
百合が丘児童館 10:00~15:00(出入り自由) 無料
- 1/25(土) 阪上 和美氏(丹沢病院精神科医)「認知症とはどんな病気か」
地域こうりゅうルーム 10:00~ 参加費300円(資料代など)

回覧

地域再生 協議会だより

百合ヶ丘 2 - 29 - 6 (老人憩の家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

協議会「第2次以後」を議論

事業継承、組織のあい方が焦点に

地域再生協議会（岡村昭寿会長）は、来年当初から現協議会、及び一色小校区における住民組織の在り方についての議論を始める。二宮町の総合戦略をバックに、国の財政支援を活用した活動が 2021 年度で期限切れを迎えるためだ。再生協では現役員に各地区長、自治会長らで構成する検討の場を設け、来年度半ばにも方向付けをしたい考えだ。

〈これまでの成果〉

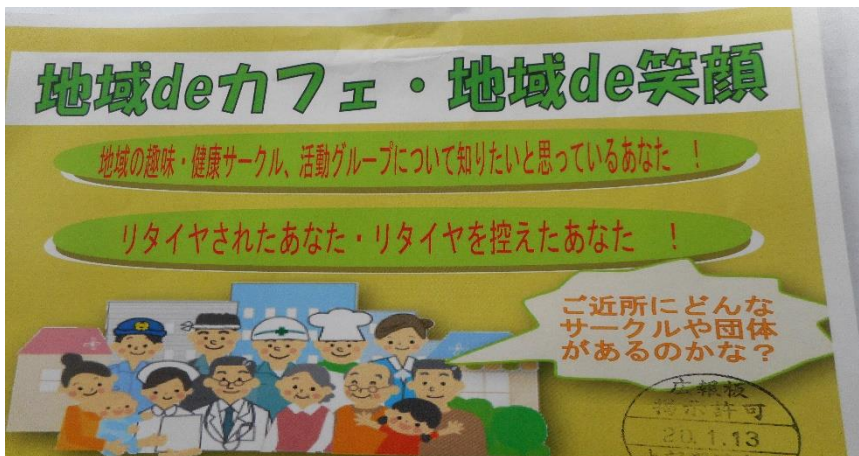
- ・地域こうりゅう塾の定着
- ・定期音楽祭の開催・地域合唱団の結成
- ・県花ヤマユリの保存・育成・公開(一色小)
- ・里山散策路の整備・活用
- ・ふるさとの家の管理・活用
- ・地域福祉協議会の立ち上げ

再生協の事業は 2016 年からスタートし、第 2 期事業は 2021 年度まで。各年とも 240-280 万円規模の計画が認可を受け、6 部会が活動している。この間、各地区、自治会単独では取り扱いが難しいテーマを取り上げ、幾つかの成果を積み重ねてきた。

（裏へ続く）

30 サークルのパネル展示

1 月 12 日（日）に開く「地域 de カフェ」でのパネル展示が 30 団体（サークル）になる見通しになった。このイベントはコミュニティの盛り上げを狙いに企画されたもので、多くの参加者の来場が期待されている。



活動内容を紹介するパネル展示は趣味、教養、健康サークルと地域活動団体が中心で、百合ヶ丘児童館、憩の家を拠点にしているところが目立つ。当日は、住民活動をサポートする手塚明美さん（藤沢市民活動推進機構）の進行で参加者トーク、憩談会などを予定している。軽食やお茶も用意する。

のぞいてみよう!! [にのみや地域情報]

身近な街の話題 イベントがすぐわかる <https://nino-community-info.com/>

期間中に財政面での自立展開が求められ、各部会とも自主収入の確保に努力し、財源自立まであと一歩のところまで来た部会も出ている。来年の議論では、①事業予算の確保を含めた各部会事業の継承、再編②一色小校区を基盤にした地域組織のあり方が焦点になる。再生協は町の広域的取り組みのモデルとして活動してきた経緯があり、二宮町の地域づくりの方向にも深く絡んで来ると見られる。

県営住宅(百合3)に大型コミュニティ

神奈川県は県営テラス（二宮団地、百合3）の建替えに際し、広域活用型のコミュニティルーム、コミュニティ広場を設ける。現テラスを健康団地として更新する説明の中で明らかになったもので、すでに基本設計に着手した。完成は数年先になるが、百合が丘地区での新たなコミュニティスペースの誕生は地域活動にも影響を与えそうだ。



建替えが決まったテラス

児童館ホールを上回る規模。また、隣接の広場は駐車場としても利用できる仕様にする。

県は健康づくり、コミュニティ活動の推進を柱にした健康団地計画を打ち出し、老朽化した県営テラスについても再生協議会などに対し、要望事項の聞き取りを行っていた。今回の基本設計案はすでに提出済みの要請をある程度取り入れた内容になっており、完成以後は自治会など地域組織に運営管理を委ねることを検討している。

建替え計画の概要は、現敷地内に3階建て4棟（100戸超）を新設し、併せて公園、駐車場、コミュニティ広場、集会機能を備えたコミュニティルームを整備する。このうちコミュニティルームは最南端棟の1階部分をフル活用する。間仕切りを外した収容能力は教室形式で100人超、椅子配置で130人超と、現在の百合が丘

2020年2月末までの講座・イベント

- ・ 1/12(日) 地域 de カフェ・地域 de 笑顔
地域サークル、団体のパネル展示・紹介、住民交流の場
手塚 明美氏（NPO 藤沢市民活動推進機構事務局長）
百合が丘児童館 10:00～15:00（出入り自由） 無料
- ・ 1/25(土) 阪上 和美氏（丹沢病院精神科医）「認知症とはどんな病気か」
地域こうりゅうルーム 10:00～12:00 参加費 300 円（資料代）
- ・ 1/26(日) 原 大祐氏（地域再生プロデューサー） 鈴木 聡氏（編集者）
長尾謙一郎氏（漫画家）「空き家と街の編集術」
百合が丘児童館 13:30～15:30 無料
- ・ 2/11(火) 中山史奈子氏（町生涯学習課・文化財担当）「菜の花—吾妻山物語」
ラディアン M2 10:00～12:00 参加費 300 円（資料代）
- ・ 2/22(土) 丸山尚子氏（県湘南地域県政総合センター所長）「二宮町への期待」
ラディアン M2 10:00～12:00 参加費 300 円（資料代）
- ・ 2/29(土) 岸田壮史氏（建築家）加賀谷幸子氏（野原住環境） 無料
「健康に暮らすための断熱ワークショップ」10:00 コミュナル D 集合

回覧

地域再生協議会だより

百合ヶ丘2-29-6 (老人憩の家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

3/29・やまゆり里山音楽祭

延期乗り越え、一色小で無料開催



音楽活動部会（三浦憲門部会長）はやまゆり里山音楽祭を3月29日（日）、一色小体育館で開催する。昨秋、台風の影響で一旦は中止を決めていたが、出演者をはじめ関係者の協力が得られたことから、当初計画通りの内容で開催する。入場無料。やまゆり合唱団のほか、町内外の音楽家がそれぞれ得意の演目を披露する。

音楽祭の主催は今回が第3回。やまゆり合唱団（70名）の運営を含め、音楽

祭の開催に向けた準備を進めてきた。台風の影響による中止決定後、年度内開催に向けた働きかけを行った結果、音楽家、一色小などの理解が得られた。出演者、演目などは一部を除いて変わっておらず、地域内を中心に「3/29開催」を積極的にPRしていく。

新年度 合唱団員募集 始まる

同部会は併せて、令和2年度のやまゆり合唱団の新団員の募集を始める。新年度は里山音楽祭を10月半ばにラヂアンで開くことが決まっており、これを機に一段と活動内容を充実させる。曲目を一新するほか、団員の募集範囲も全町内に広げる。町広報、広報掲示版、協議会HPなどを参照してください。

空き家対策、3銀行と第2回会合

空き家対策部会（廣上正市部会長）は16日（木）、二宮町に拠点を置く横浜銀行、さがみ信金、中南信金の3銀行と打ち合わせを行った。住み替え支援、移住受け入れを支援する態勢づくりの検討を進めており、3行との話し合いは昨年末以来2回目。

3行とも二宮支店長が出席し、地域再生への取り組みの説明があった。業態の違いにより各行の取り組みに違いはあるものの、「地域づくりに関与したい」との意向は強い。次回会合では、協議会側から態勢整備の検討項目などを提示する予定。



「地域 de カフェ」、初の試み盛り上がる



地域交流部会(山本正博部会長)が12日(日)、百合が丘児童館で開いた地域サークルや活動団体を紹介するイベントが、予想以上の盛り上がりを見せた。午前10時—午後3時という長丁場の企画だったが、最後まで人だまりが絶えず、延べ80人以上が参加した。ただ、参加者の中心は活動紹介パネルの展示関係者が多く、地域活動に新たに入りたいという住民の呼び込みには課題を残した。

イベントは受け付けやチラシ・アンケートの配布でスタート。コーディネーターの手塚明美さんと松崎俊子さんら活動経験者らとのトークが始まる段階で参加者が50人ほどに。手塚さんがパネル展示団体の話を引き出しながら、「地域活動に関わる幾つかの話」を披露し、会場を盛り上げた。午後からは一般入場者とパネル展示団体との対話に力点を置く設計だったが、一般入場者の数が期待したほど伸びず、出展団体、サークル同士の交流の場面があちこちで見られた。

地域の人たちをサークル、団体活動へ誘導するイベントの開催は目新しく、部会の中に高橋哲也氏(百合3)ら5地区のメンバーで構成する実行委員会を設け、各地区と調整を取りながら準備を行ってきた。その結果、パネル展示団体が30近くになるなど、大きな関心を集めた。

のぞいてみよう!! [にのみや地域情報]

街の身近な話題 イベントがすぐわかる

<https://nino-community-info.com/>

3月末までの講座・イベント

- 2/11 (火) 中山史奈子氏 (町生涯学習課・文化財担当) 「菜の花—吾妻山物語」
ラディアンM2 10:00~12:00 参加費 300円 (資料代)
- 2/22 (土) 丸山尚子氏 (県湘南地域県政総合センター所長) 「二宮町への期待」
ラディアンM2 10:00~12:00 参加費 300円 (資料代)
- 2/29 (土) 岸田壮史氏 (建築家) 加賀谷幸子氏 (野原住環境) 無料
「健康に暮らすための断熱ワークショップ」 10:00 コミュナルD集合
- 3/7 (土) 散策イベント「軽便鉄道の軌跡を巡る」 9:30 二宮駅北口集合
二宮—中井間を歩く。ラディアンで動くジオラマも 参加費 300円
- 3/15 (日) シンポジウム「ビジョンの共有が地域の価値を高める」 百合が丘児童館
市来広一郎、原大祐氏ら 「熱海の復活」を例に地域再生を考える 無料
百合が丘児童館 13:30~16:00 無料
- 3/21 (土) 岩間靖典氏、山本絢子氏、和田美乃氏 「友情の山は山野草の宝の山」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~12:00
参加費 500円 (カラー冊子「友情の山の山野草たち」代金)

回覧

地域再生 協議会だより

百合ヶ丘2-29-6 (老人憩の家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「友情の山の山野草たち」発刊



一色小 55 周年協賛 3 年間の調査生かす

昨春から準備してきた「友情の山の山野草たち」が3月半ばにも刊行される。サブタイトルは「一色小と地域をつなぐ自然遺産」。一色小が開校から55年を迎えるのを機に企画され、取材・編集、レイアウト、写真・データ提供など発刊までのすべて作業を地域の人たちが分担している。限定500部を500円(原価)で販売する。

冊子の前半は、ヤマユリに代表される西湘の豊かな植生が残る友情の山を3年間にわたって調査・観察してきたデータや写真を収録する図鑑編。後半では、友情の山の整備に関わってきた人々、「友情の池」の整備、一色小の子供たちなど、いわば人モノ編。植生については他地区にも目配りし、二宮町内の全体像がわかるよう

な編集上の工夫をした。刊行後、この冊子を使った観察会や講演会を予定している。

「二宮への期待」中止、音楽祭も検討—「コロナ」の余波

地域交流部会(山本正博部会長)は、22日(土)にラディアンM2で予定していた生涯学習講座「二宮への期待」の開催を中止した。新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から国、県とも数多くの人が集まる催しの開催について再検討を求めていることから、関係者と相談のうえ、見送りを決めた。決定後直ちに、掲示中の広報チラシに「中止します」のシールを貼り、関係者に連絡した。当日、会場に来られた方にも事情を説明した。

協議会では毎週のように講座やイベントを開いており、3月29日(土)には一色小体育館で「やまゆり里山音楽祭」(入場無料)の開催を予定している。例年、300~400人の入場者があることから、開催の是非などについて慎重に検討している。大きな方針変更がある場合には、早急に告知することになる。

のぞいてみよう!! [にのみや地域情報]

街の身近な話題 イベントがすぐわかる

<https://nino-community-info.com/>

歌声ダイニング、4年目へー県住宅供給公社

県住宅供給公社が、住民交流をねらいに開いている「歌声ダイニング」が4年目に入る。百合が丘団地の改修を機に月1ペースで開いており、1月29日(水)には36回を終えた。同公社は県内の多くの個所で事業展開しているが、こうした企画は百合が丘が初めてで、異例ともいえる長寿イベント。地区内外の根強いファンを引き付けている。

まる3年に当たる1月末の歌声ダイニングは、百合が丘商店街の空き店舗を会場に開かれた。参加者は約30人。前回からそれまでのコミュニティダイニングから、広いスペースの空き店舗に移している。主催者が、「今回は36回目」と告げると、会場がどっと沸いた。女性の出席者が8割近くを占め、ご夫婦での参加もある。公社が派遣するプロ歌手とキーボード奏者のリードで、いつもの通り、約1時間かけて10曲以上を歌った。「ほぼ半分はいつもの顔ぶれ。長く続いているところに意味がある」。県公社は今後も継続する。なお、2月末の開催については新型コロナウイルス感染対応で、急きょ開催を見送った。



空き家対策の成果発表——国交省助成金

国交省の助成を受けている空き家対策部会(廣上正市部会長)は2月17日(月)、東京日本橋で令和2年度の成果発表を行った。発表は昨年度に続くもので、テーマは「地域空き家等循環再生事業の展開」。この日は、全国から60団体が出席。再生協議会の発表は、①住まいの利活用講座開催②地域金融機関との連携体制の検討(コンソーシアムの構築、循環居住支援ツールの検討)③相談実務の実施準備(逆相談マニュアル、移住コンダクターの導入検討)が柱。このうち、②③は来年度に向けた大きな課題として位置付けている。(詳細は、このみや地域情報に掲載)

4月末までの講座・イベント(予定)

- ・ 2/29 (土) 岸田壮史氏(建築家) 加賀谷幸子氏(野原住環境) 無料
「健康に暮らすための断熱ワークショップ」10:00 コミュナルD 集合
- ・ 3/7 (土) 散策イベント「軽便鉄道の軌跡を巡る」 9:30 二宮駅北口集合
二宮一中井間を歩く。ラディアンで動くジオラマの見学も 参加費 300円
- ・ 3/15 (日) シンポ「地域の価値を知り、高めるビジョンを描こう」 百合が丘児童館
市来広一郎氏、原大祐氏ら 「熱海の復活」を例に地域再生を考える 無料
百合が丘児童館 13:30~16:00 無料
- ・ 日程検討中 岩間靖典氏、山本絢子氏、和田美乃氏「友情の山は山野草の宝の山」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~12:00
参加費 500円(カラー冊子「友情の山の山野草たち」代金)
- ・ 検討中 「やまゆり里山音楽祭」桑田葉子、一石洋子、高寺真美氏、ユースクラシックほか
一色小体育館 14:00~16:00 入場無料
- ・ 4/18 (土) 「一色・春の里山ウォーク」 9:30 一色防災コミセン集合(雨天中止)
定員20名(4/17締切り) 参加費 300円
- ・ 4/25 (土) ソプラノ歌手・桑田葉子氏の「楽しく学ぼう 発声健康法」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~12:00 参加費 300円

回覧

地域再生協議会だより

百合ヶ丘2-29-6 (老人憩の家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

二宮団地 「入超」定着へ

3年間で約200人 入居率81%に

県住宅供給公社二宮団地(百合が丘)の令和2年度の入居戸数は56戸、同人数は82人になる。入居戸数、人数とも再編に着手して以来増加が続いており、その大半が町外から、しかも30-40代が中心。県公社では「この間の努力が実ってきた。次は、第2段階の活性化策に取り組みたい」(猪股篤雄理事長)と自信を深めている。

県公社は2016年度後半から、賃貸棟の集約、リノベーションの推進、地域と連携したエリアの魅力アップ作戦を推進中。集約では、28棟を18棟・580戸に。

魅力アップでは、音楽祭の開催、農園・田植えイベントなど他団地では例のない

取り組みを行ってきた。

この結果、入居戸数、人数ベースとも2018年度から著しく好転。戸数では2017年度に退去数を上回り、32戸(17年度)、44戸(18年度)、56戸(19年度)に。人数も49人、56人、82人と年々伸びている。内訳も、30-40歳代が最も多く、若返りが進んでいる。平塚、小田原、横浜などからの転入が多く、入居率も再編前の50%台から80%台に上昇した。



猪股俣理事長



頻繁に行われてきた見学会

二宮町の中でも百合が丘地区は高齢化、少子化が著しい。現時点では、二宮団地の「入超」と百合が丘全体との関係は明確ではないものの、地区内のビレッジハウス(旧雇用促進住宅)の入居増とも相まって、地区全体の下降傾向に歯止めをかける役割を果たしていると思われる。

ラティアンで歌おう!!

3曲目は「ジュピター」—やまゆい合唱団

「フニクリ・フニクラ」、「少年時代」、「ジュピター」——。指導の4先生との話合いでやまゆい合唱団の新年度の歌唱はこの3曲に決まった。「フニクリ・フニクラ」、「少年時代」については新団員の募集開始時に決めていたが、3曲目は「検討中」としていた。「ジュピター」は合唱曲を多く手掛けたイギリスの作曲家グスターヴ・ホルストの作品で、平原綾香らが歌い、よく知られている。3曲とも思い切り声を出せる曲で、多くの団員を抱えるやまゆいの特性を考えて決定した。

なお、町有施設の休館・閉鎖が4月27日(月)まで延長されるため、合唱団の練習は5月10日(日)からになる。入団希望は随時受け付けています。

4月から町内の全掲示板情報



松根自治会のホームページも

にのみや地域情報には4月から、町広報板掲示物のほとんどが掲載される見通しになった。主催団体が町広報部門に掲示板の利用手続きをする際に、ネット掲載の是非について意向を聞き、了解が得られれば同サイトに載せる。町と協議会は掲載料は無料とすることでも合意している。

町内に90ヶ所ある広報板は主にイベント案内を中心に使われているが、見落としやスペースの制約などもあり、ネット時代に合った補完の仕組みが求められている。サイトを運営する再生協議会、ITクラブ側もコンテンツの拡充が課題になっている。広報板掲示物の電子データをネット上に掲載することで、コストを抑えつつ町民サービスを強化できると見ている。

また松根自治会(森川和彦会長)との間で、にのみや地域情報に独自のHPを開設することでも合意した。4月から同自治会のHPがスタートする。同サイトにHPを開くのは地域再生協議会に続くもので、外部団体利用の第1号。松根自治会では、自治会や地区内情報、役員連絡、町からの連絡などの情報を掲載する。協議会では同自治会の活用状況を見ながら、他団体にもコストを抑え、運用の手間を省けるローカルサイトの活用を呼びかける。

<ここからアクセス!>

Google、Yahoo からキーワード	スマホ、タブレットから	パソコンから
<p>にのみや地域情報</p>	<p>にのみや地域情報 → </p> <p> -地域再生協議会</p>	<p>にのみや地域情報 https://nino-community-info.com 地域再生協議会 https://saisei.nino-community-info.com</p>

5月末までの講座・イベント(予定)

開催中止・4/18(土) 「一色・春の里山ウォーク」 9:30 一色防災コミセン集合(雨天中止)
定員 20名(4/17 締切り) 参加費 300円

延期(時期未定)・4/25(土) ソプラノ歌手・桑田葉子氏の「楽しく学ぼう 発声健康法」
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~11:30 参加費 300円

延期(時期未定)・4/26(日) 「友情の山は山野草の宝の山」岩間靖典氏、山本絢子氏ほか
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~12:00

参加費 500円(カラー冊子「友情の山の山野草たち」代金)

・5/4(月) 一色里山「山野草観察会」 9:30 せせらぎ公園入口集合(雨天中止)
山本絢子氏、和田美乃氏 定員 30名 5/1 締切り) 参加費 300円

・5/23(土) 「老人ホーム最新事情」月岡祐一氏(株)ケア・ドゥ シニアライフアドバイザー
一色小・地域こうりゅうルーム 10:00~12:00 参加費 300円

***延期(時期未定)**は町広報に掲載済みなもの、施設の休館・閉鎖の延長によって開催が困難になったもの

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家)59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

収支・コロナで大幅な狂い！

R2 年度本部会議 事業費 250 万、自主収入 40 万円に止まる



副会長 関口氏



会計 寛氏

地域再生協議会は令和2年度の第1回本部会議を開き、同元年度事業・決算を承認するとともに、役員改選、同2年度事業計画、収支予算を決定した。新型コロナウイルス感染対応のため、PC利用による書面会議を行った。第2期3年計画の初年度は国・町の助成金減と新型コロナウイルス対応の影響が大きく、空き家対策、合唱団運営を除く事業規模は約4割減の248万円に縮小した。特に力を入れていた自主収入の拡大は講座やイベントの中止によって40万円に止まるなど大幅な狂いが生じた。役員人事では関口正美・一色地区長が副会長、寛和憲氏（緑が丘）が会計に就任し、畑野米男・百合が丘1丁目地区長ら5名を新理事に選んだ。（裏面参照）

令和2年度はコロナ感染のいくえが見えていないものの、前年度並みの事業規模を想定し、自主収入を5割増の64万円に引き上げた。各部会とも協議会活動の最終年度（同3年度）に焦点を当てた事業活動・予算を組み、財政自立に向けての取り組みを強化する。

岡村昭寿会長は「自主運営に向けた基盤強化が最重要課題。各部会の活動とともに、陣容を厚くした拡大部会長会議での議論を通じて、ポスト再生協議会の在り方に道筋をつけたい」としている。（裏面に令和元年度決算書）（詳細はにのみや地域情報HPに掲載）

イベント総崩れー音楽祭は1年延期

2月以後、再生協議会の講座・イベントが完全にストップしている。5月末までの町施設の閉鎖、会合の自粛が求められており、その間の中止案件は講座が6件、音楽催事が2件、散策イベントが4件にもなる。とりわけ大きな打撃を受けているのは音楽活動部会で、300人以上の入場者を見込んでいた3月末のやまゆり里山音楽祭が中止に。今年10月半ばのラディアン開館20周年記念音楽祭も、1年先延ばしが決まった。70人の部員を擁するやまゆり合唱団の活動も休止したまま。

こうりゅう塾も一色小、ラディアンの両方で開く予定を次々中止している。中には時期をずらすことが可能な企画もあるが、講師との調整や会場確保も簡単ではない。散策イベントの場合は、ほとんどは季節性があり、すべて練り直しになる。

協議会内の活動も停止状態で、3月末に発刊した「友情の山の山野草たち」の購入申し込みなどに対応しているだけ。例年は各事業部会とも4月末にかけて相次ぎ部会を開き、事業執行の検討を進めているが、今は全く身動きが取れない状態が続いている。

令和2年度・新任役員名(敬称略)

副会長 関口正美(一色地区長)、会計 笥和憲、理事 畑野米男(百合が丘1地区長)
 同 梁井幸次(百合が丘自治会長、同2地区長、同地区社協部会長)
 同 青野吉雄(緑が丘自治会長)、同 間瀬よね子(県営テラス自治会長)
 同 村田遼介(県住宅供給公社県西地域創生事務所副主幹)

議案第 / 号

令和元年度 一色小学校区地域再生協議会 決算書(案)

○歳入 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比較	説 明
負担金	2,685,000	2,072,819	△ 612,181	町負担金
各部会収入	401,500	404,891	3,391	地域交流部会 131,550円
				地域交流部会(友情の山) 10,000円
				音楽活動部会 63,810円
				移動支援検討部会 1,800円
				古民家・散策路部会(散策路) 50,700円
				古民家・散策路部会(古民家) 147,031円
雑収入	0	15	15	預金利子 15円
繰越金	0	92	92	前年度繰越金 92円
合計	3,086,500	2,477,817	△ 608,683	

○歳出 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比較	説 明
事業費	2,186,500	1,584,249	△ 602,251	空き家対策部会 131,505
				移動支援検討部会 4,094
				地域交流部会 402,034
				地域交流部会【友情の山】 457,414
				音楽活動部会 175,502
				古民家・散策路【散策路】 86,603
				古民家・散策路【古民家】 327,097
事務費	900,000	831,632	△ 68,368	賃金 506,955
				労働保険料 1,863
				保険料 50,370
				通信運搬費 93,187
				消耗品費 133,486
				食糧費 6,407
				備品購入費 39,364
				合計

収 支
 歳入 2,477,817 円
 歳出 2,415,881 円
 61,936 円

【空き家対策の担い手強化・連携事業】

○歳入 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比較	説 明
補助金	2,000,000	1,776,248	△ 223,752	空き家対策の担い手強化・連携事業補助金

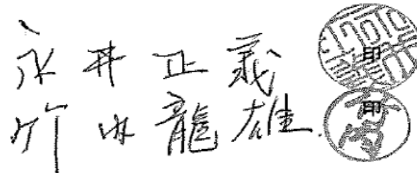
○歳出 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比較	説 明
空き家対策の担い手強化・連携事業	2,000,000	1,776,248	△ 223,752	

【監査報告】

この決算書類を監査したところ、適正に処理されていることを報告いたします。

令和2年3月31日


 梁井正義
 畑野米男

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

住まいの終活・利活用読本を制作

空き家対策部会、希望者に配布へ

「空き家を出さない街づくり」に取り組む空き家対策部会（廣上正市部会長）が、「住まいの終活・利活用読本ー大切なマイホームを空き家にしないために」を制作した。この2年間にわたって開いてきた利活用講座のエキスを綴じ込み冊子に再編集した。住民との接触機会の多い地区長、自治会役員、民生委員に配布して活用してもらうほか、希望者には無料で手渡しする。



読本は A4 判、30 頁。薮健夫氏（元県住宅供給公社専務理事）中心に編集を進め、100 部印刷した。制作費は国交省の助成金を充てた。内容は副題の「大切なマイホームを空き家にしないために」に沿って高齢者の人生設計の見直し、健康と住まいの関係など課題別に整理した。第1部では「住まいの終活」、第2部ではライフプラン、健康寿命、リフォーム、利活用や相続対策を取り上げた。利活用講座の講師が提示した図表を随所に組み込んでいる。特に最近広がりつつある「住まいの終活」はていねいに取り

上げ、その概念整理、開始時期、手順などを解説し、「元気なうちから準備する」ことの重要性を説いている。

この読本は令和元年度事業の中で制作し、2年度中の講座、講演会などで活用する。自治会役員など地域活動の主力メンバーや関心を持つ個人には無料で配布する。必要に応じて増刷を検討中。
(入手を希望される方は協議会事務所まで)

カラー冊子「友情の山の山野草たち」

増刷決定ー町外の注文約 100 冊に

3 月半ばに発行したカラー冊子「友情の山の山野草たち」（80 頁、500 円）の増刷が決まった。二刷りは初版と同じ 500 部。発刊以来、



タウンニュース、読売新聞に取り上げられたところ、購入の申し込みが相次ぎ、販売部数は 400 冊近くに達した。最近では横浜、藤沢など町外の申し込みが多く、対応に大わらわだ。

「友情の山の山野草たち」は一色小裏山（友情の山）での3年にわたる植生調査をベースに、二宮町の樹木や野草の全体像を図鑑風にまとめた冊子。百合が丘在住の植物愛好家、ライター、デザイナー、写真愛好家が編集した。完成後、一色小、教育委員会、図書館などに寄贈するとともに、協議会HPや回覧で紹介し、販売してきた。

売れ行きに火が付いたのは、3月末のタウンニュースの紹介記事。これを見た町内、大磯町の住民から電話が数多くあり、協議会事務所のほか、百合が丘児童館にも受け渡しの窓口を設けた。この冊子を使った講演会や観察会が中止になったこともあってその後は伸び悩んでいたが、読売新聞が神奈川版で取り上げた5月半ばから再び申し込みが殺到。協議会の電話は鳴りっぱなしだ。横浜、川崎など町外からの注文が多くを占め、この1週間余りの申込数は100件近くに達した。中には複数冊の購入希望もあり、町外購入者に対しては郵便局の定額小為替やレターパックで対応している。

増刷は月内に発注し、3週間ほどで仕上がる見込み。初版の訂正を反映させ、索引も手直しする。協議会では、この冊子が「一色小地区だけでなく、二宮町を含めた西湘南一帯の植生や草木名をわかりやすくまとめたハンディ図鑑」である点をPRし、さらに多くの方に利用してもらいたいとしている。

販売場所は協議会事務所と百合が丘児童館(いずれも火、金曜午前中)

ブログ寄稿者募集!!

協議会とITクラブが運営するにのみや地域情報（略称にのっち）中の「まちかどブログ」の寄稿者を募ります。「まちかどブログ」はにのっちの目玉企画の一つです。町内のあちこちのちょっとした話題、知らせたい・知ってもらいたい話、楽しく元気の出る話題を随時、写真付きで掲載するコーナーです。

具体例は、にのっちを開いて見てください。

現在のところは寄稿者が限られており、もっと多く、バラエティーある話題を載せるねらいからライターを増やします。寄稿文字数は400字以内、1、2枚の写真付き（必ず）。

コミュニティを元気にするコーナーづくりに、ぜひ手を上げてください。

問合せ、投稿先は isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp 0463-59-9356(火・金曜午前)

のぞいてみよう!! にのっち(にのみや地域情報)

街の身近な話題 イベントがすぐわかる <https://nino-community-info.com/>

回覧

地域再生 協議会だより

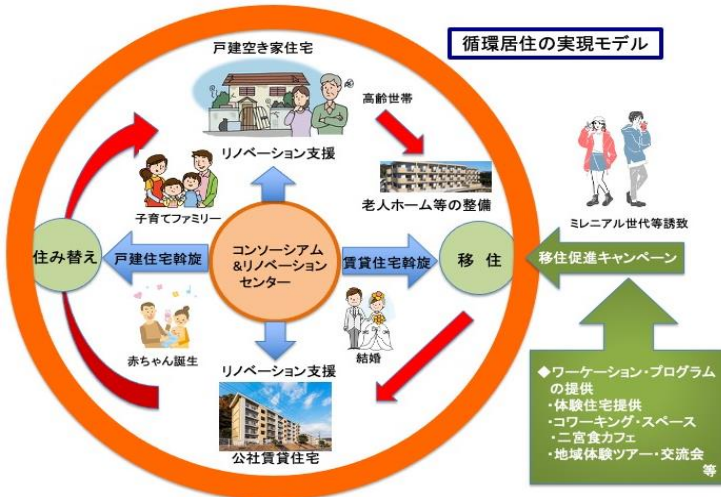
百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

空き家対策 町外から呼び込み

国交省に R2 年度事業申請

再生協議会はリモートワークへの関心の高まりなどを受け、町外移住者の受け入れに力点を置いた空き家対策に取り組む。2年前から続けてきた講座開催や啓発活動を一歩進めて、移住希望者向けのリモートワーク、体験居住スペースなどを整備し、不動産事業者なども加えた支援体制づくりを立案。このほど国土交通省に、2020年度事業の助成申請を行った。8月中には採否が決まる。

申請事業名は、一色小学校区地域空き家等循環再生事業（全国共通課題の解決部門）。



内容は、移住者向けワーケーションプログラムの提供と、移住・循環居住支援体制づくりの2本立て。ワーケーションとはワークとバケーションを組み合わせた造語。自宅でのリモートワークを想定し、県住宅供給公社の空き家を使ったショートステイハウス、会議ソフト付きスペース、地域食カフェの整備・提供などがテーマになる。

また支援体制づくりは昨年度から着手しており、実施主体の協議会を中心に、二宮町、県公社、専門家、地元金融機関、不動産事業者などが随時話し合う場を設ける。本年度の事業は、新型コロナウイルス対策の動向を見ながら、順次進める。
 (裏面*に続く)

そろい始動まず「友情の山ヤマユリ」から

再生協議会は6月半ばからの町有施設の利用制限緩和を受け、26日(金)に拡大部会長会議を開く。新型コロナウイルス問題が浮上して以降、事実上活動を停止しており、公式の会合はほぼ3か月ぶり。同日の会合ではコロナウイルス警戒下での部会活動、協議会の第2期事業終了(令和3年度)後の方向などについて話し合う。

事業活動の場である町有施設の休館などが緩められたとは言え、利活用に当たっては多くの制約がある。マスク、手洗い、換気はもちろん、各施設とも部屋ごとの利用人数が

絞られる。ウイルス汚染の第2波、第3波も懸念されている。このため各事業部会とも再開のタイミングやそのスタイルについては関係者と協議しつつ、慎重に判断していくことになる。



こうした中で、数年来続いてきた「友情の山のヤマユリの一般公開」については、一色小の授業が7月から正常化することもあり、7月23日(木)からの4連休中の開催が決まった。24日(金)と26日(日)にはヤマユリの増殖・管理、山野草に詳しい竹内龍雄さん、山本絢子さん、和田美乃さんを囲む質問・説明会を行う。

4日間とも地域の関係者が3密対策などに配慮した案内・誘導にあたるほか、会場では増刷したばかりのカラー冊子「友情の山の山野草たち」の販売を予定している。

二宮町や西湘南の植生、草木を図鑑風にまとめた「友情の山の山野草たち」の第2版が出来上がった。初版と同じく、500部印刷した。定価500円。数か所の訂正を反映させ、3頁の索引を追加している。この地区の自然がほぼそのまま残る一色小・友情の山での植生調査をもとにした全頁カラー仕様で、調査や編集、制作はすべて地元人材が担当した。協議会事務所、百合が丘児童館などで販売する。

(＊表面からの続き)

協議会が、「空き家を出さない循環居住」事業の対象を移住希望者へと広げるのは、コロナウイルスへの対応や働き方改革の推進に伴い、リモートワークへの流れが強まるとの見通しから。過密居住から住環境、家賃水準などの条件が整った近郊に移りたいとする動きはしばらく続く。県公社が推進中の二宮団地(百合が丘)のリフレッシュ事業では、この3年間に町外から約200人が移り住んだ実績がある。受け入れ側の取り組み次第では、二宮町内の戸建て住宅全般にも影響が及ぶと見ている。

のぞいてみよう!!

わが街の話題・イベント

にのっち(にのみや地域情報) <https://nino-community-info.com/>



再生協議会 <https://saisei.nino-community-info.com>



「お知らせ」

再生協議会とITクラブが運営する上記「にのっち(にのみや地域情報)」か「再生協議会」の「まちかどブログ」にアクセスすると、やまゆり合唱団が歌う「上を向いて歩こう」をYOUTUBEで楽しめます。ぜひ試してみてください。「まちかどブログ」への投稿(写真付)も歓迎します。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

二宮団地 温浴施設で再生案

「あくまで調査、実施は未定」(県公社)

神奈川県住宅供給公社は、二宮団地（百合が丘）を対象にした「コミュニティ創生のための公民連携プロジェクト調査」をまとめ、国土交通省に提出した。その中では、温泉・湯治施設を核にした交流拠点の整備、廃止賃貸住宅棟・跡地の利活用、リノベーションセンターの検討などが盛り込まれ、中でもサウナ中心の温浴施設構想に多くのスペースを割いている。ただ、この調査の扱いについては「あくまで事業調査の一環。実施は決

めていない」としており、今後の展開は見えていない。

調査は国交省の先導的官民連携支援資金を活用し、この3月に完了報告書（全92頁）を提出済み。中心をなす「二宮団地創生モデルプランの検討」では、温泉・湯治施設を核とした交流拠点事業、廃止住棟・跡地の利活用、公民連携によるリノベセンターの検討、団地で農業暮らし支援事業の4本柱で構成。



想定される新交流拠点の中心街区

H28年以来の団地再編の成果を発展させ、引き続き子育て世代（ミレニウム世代）を呼び込むために、サウナ中心の中規模温浴施設、フィットネススタジオ、飲食・物販施設、コワークスペース、分散型宿泊施設などの交流ゾーンを設けるとしている。(モデルプランイメージは裏面) これらの立地は現在の商店街跡を想定し、民間連携による事業手法の提示、収支試算も行っている。(裏面*に続く)

ヤマユリ満開・23日(木)から4日間

2月以来の協議会事業・友情の山（一色小）ヤマユリ公開がいよいよ始まる。長梅雨、日照不足の影響が心配されたが、すでに開花が始まっている。海の日からの4連休中は



ちょうど真っ盛りになりそうだ。

今年は200株が蕾をつけた。新型コロナウイルス問題もあって外出を控えている方も多いと思われるが、マスクの着用、3蜜対策を順守して華やかなヤマユリの開花と山野草の山を楽しんでいただきたい。

(*表面からの続き)

二宮団地創生プランのイメージ



このほか、廃止住棟の利活用では、民間の提案を紹介するとともに、社会福祉法人との提携などを打ち出している。リノベセンターでは、地区内住宅の更新支援、空き家の流通システムなどを提起。農業支援では、農産物の付加価値向上の検討を行っている。

調査は、住棟再編後の第2ステージの方向を示したものだ。今後のプロジェクトスケジュールについても触れているが、調査案通りに進むのは難しいと見られる。新ウイルス感染問題によって事業環境が様変わりしており、「今は先の見通しが見えない状態。将来方向についての幾つかの調査のうちの一つ」という位置づけにとどまるようだ。

音楽活動部会が Zoom ミーティング

音楽活動部会(三浦憲門部会長)は8月9日(日)、テレビ会議ソフト Zoom を使った部会を開く。一堂に会するのは簡単でないとの判断から、企業などで幅広く使われ出した Zoom ミーティングに切り替える。案件は、今秋以後のやまゆり合唱団の活動について、17人の部会員が参加する方向で準備している。

Zoom ミーティングの開催は、6月末の会合で決まった。合唱団を指導する4先生を含めた17人の部会員のうち約半数が Zoom 体験者で、未経験者は事前練習などを行って本番に備える。「初の試みだが、準備をして実りあるミーティングにしたい」(三浦部会長)と張り切っている。

のぞいてみよう!!

わが街の話題・イベント

にのっち(にのみや地域情報) <https://nino-community-info.com/>



再生協議会 <https://saisei.nino-community-info.com>



回覧

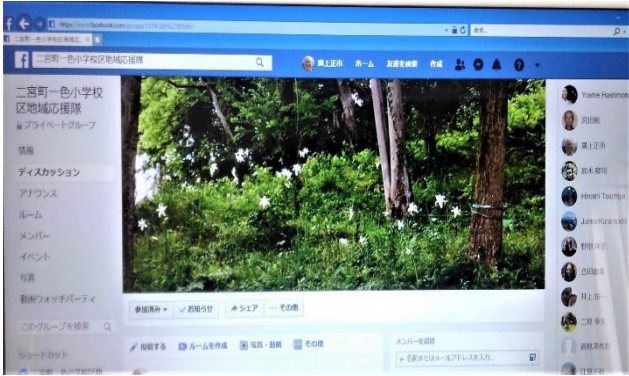
地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

Facebook に「地域応援隊」

参加型のネットコミュニティ目指す

再生協議会は SNS の Facebook に、グループページ「二宮町一色小学校区地域応援隊」を立ち上げた。これまで講座やイベント開催を中心に活動してきたが、スマホの急速な普及などに合わせて住民同士が SNS 上で情報を共有し、参加・交流する場を設けることにした。Facebook に登録すれば、誰でも閲覧し、投稿できる(もちろん無料)。多くの方に利用してもらい、「元気な住みよいまちづくり」に役立てたい考え。



「応援隊」のトップページ

「地域応援隊」は8月半ばにスタート。スマホやパソコンから Facebook に入り、「二宮町一色小学校区地域応援隊」を検索すれば見ることができる。写真やメッセージを投稿するのも難しくない。すでに50人がメンバーになっており、まずは100人以上を目標にする。協議会の廣上正市事務局長と橋本由恵・一色小コミュニティスクール運営協議会会長が運営に携わる。

協議会は昨秋、二宮 IT クラブとともに「にのみや地域情報(にのっち)」を開設し、協議会のHPや「まちかどブログ」を運用中。毎日60-70件のアクセスを確保している。ただ、イベントや会合開催の制約によって住民交流の機会がしばむ中で、日常生活を含めた身近な情報を共有できる仕組みが必要との声が出ていた。この地域ネットインフラは一色小学校区をベースにするものの、対象を二宮町全体に広げていく。

協議会だよりを読まれた皆様、まずは Facebook で検索してみてください。

「ポスト協議会」の議論始まる



第2期事業終了(R3年度末)後の協議会活動についての議論が本格化している。検討の場である拡大部会長会議の顔ぶれを拡充するとともに、議論を取りまとめる三浦憲門議長(写真)を選出。三浦議長のもと、第2回会合から部会長説明を下地にした議論が始まった。

8月5日の第2回では、地域交流、友情の山、空き家対策の3部会長が新型コロナウイルスによる今年度の事業停滞を踏まえたR3年度末時点の見通し、それ以後の方向について説明。「一色小地域こうりゅうルームを拠点にしたこうりゅう塾などは自立へ踏み出しているが、協議会解消後に会場費の負担が生ずるのであれば難しくなる」(地域

交流部会)。「稀少ヤマユリ・山野草の保護育成の推進役を一色小CSに移すのが望ましい。活動費の捻出などを含めた詰めが必要になる」(友情の山部会)。「空き家対策は大きなテーマで、地域主導で突破できるとは思えない。現在は町との連携が十分とは言えず、今年度事業の手ごたえを見てその先どうするか考えたい」(空き家部会)などの発言があった。9月初めの第3回は残りの部会長説明をもとにフリートーキングを続ける。

国交省の空き家対策助成・190万円が確定

国土交通省に提出していたR2年度空き家対策助成申請が、7月29日付で確定した。空き家対策部会(廣上部会長)の申請について採択内定が得られていたものの、事業内容や経費の細部についてやり取りが行われ、このほど正式申請が受理された。同事業の助成は3年連続。今年度は「町外居住者の呼び込み」を組み込んだ内容になっており、人口漸減の課題を抱える二宮町と連携をとりつつ、事業実施に踏み切る。

助成対象事業名は、一色小学校区地域空き家等循環再生事業。支給上限額は1,901千円。国

■応募事業の補助の期間内の事業実施工程		令和2年度												令和3年度											
事業項目	具体的な取組内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
		①	研修会・シンポジウムの企画・交渉(新型コロナ対策含む)																						
①	研修会・シンポジウムの広報・開催																								
③	移住促進キャンペーンのための協力組織結成																								
③	コンソーシアムの目指す方向性の企画																								
③	循環居住支援のためのコンソーシアム形成																								
③	ワーケーション・プログラム全体の企画(新型コロナ対策含む)																								
③	広報・募集活動																								
③	ショートスティ型ゲストハウス(体験住宅)の確保・提供																								
③	コワーキング・スペース&二宮食カフェの提供																								
③	地域体験ツアー、交流会等の企画実施																								

交省によると、今年度は117件の応募があり、採択されたのは59件。計画では、①「住まいの終活・利活用読本」を活用した研修会・シンポの開催 ②移住・循環居住を支援するコンソ

ーシアムの形成 ③ワーケーションプログラムの提供による移住促進——を柱にしている。9月初めに部会を開催し、ウイルスの収束状況をにらみながら、図にある事業を手掛ける。

来年のラディアン・やまゆり里山音楽祭・11月6日(土)

新型コロナウイルスで開催が延期になっていたラディアンでのやまゆり里山音楽祭の開催日が、R3年11月6日(土)に決まった。ラディアンの開館20周年を記念した企画で、これまで一色小学校で開催していた音楽祭を全町化する。町内の有力タレントを中心にプログラムを組み、やまゆり合唱団なども出演する。本番まで相当時間があるので、プログラム、出演者など周到に準備する。

一色小・ヤマユリ公開、来場者320人

友情の山部会(岡村昭寿部会長)が7月末に開いた一色小・ヤマユリの一般公開は、降雨による日程短縮、外出自粛による影響があったものの、ほぼ予定通り開催できた。23日(木)からの4連休開催のうえ、咲き具合がよかったこともあり、4日間の入場者数は320人に達した。リピーターや近隣市町から来られた方も多く、町外からは全体の3割程度に達した。

会場内の誘導は百合1、2、緑が丘、一色の公園愛護会がマニュアルに沿って対応した。入場者へ注意を払いつつ、カラー冊子「友情の山の山野草たち」も展示し、80冊近く販売できた。

回覧

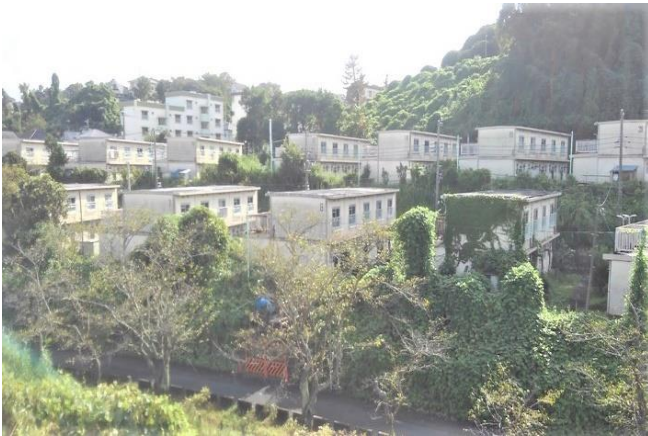
地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

県営 106 戸、来年着工

1号棟に、「開かれた」大型コミュニティ

神奈川県県土整備局は県営テラス自治会、再生協議会を窓口にした地域団体に、県営テラス団地の建替えの概要を説明した。現在の敷地の半分を使って鉄筋コンクリート地下2階、地上3階建て4棟(106戸)を新築する。来年下期から解体工事を始め、令和8年度までに工事を終える。南端の1号棟には居住者だけでなく、周辺地域に開かれた200㎡規模の集会所(コミュニティルーム含む)を開設する。住民の健康づくりやコミュニティ活動の拠点としての活用を提案しており、今後は地域ぐるみでこの新スペースの活用、運用態勢づくりを検討することになる。



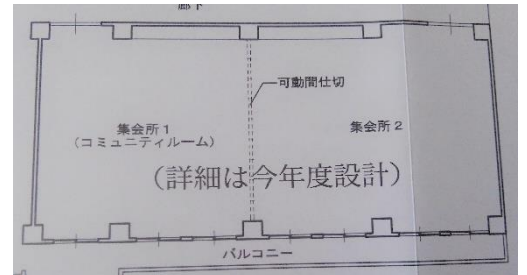
来年から建替えが始まるテラス棟の再生計画が出そろったことになる。

神奈川県は昨年、同団地を少子高齢化の進展を見据えた「健康団地」として建て替える方針を決め、基本設計に入っていた。計画では、現在のテラス22棟を解体し、第1期工事(令和4年度新築着手)で2棟、第2期(同7年度着手)で残り2棟を新築する。敷地北側の残地(約9,300㎡)は入居者の移転用地とし、計画終了後に売却の見込み。百合が丘では現在、県住宅供給公社が28棟を18棟・580戸に集約する工事を進めているが、現在の規模をほぼ半減させる県営住宅の建替えが確定したことにより、町北部における公的住宅

(裏面に完成後の土地利用計画図)

敷地内には公園や広場、花壇、菜園などを整備するが、注目されるのは1号棟1階のコミュニティルームを含む集会所やコミュニティ広場の開設。集会所の約半分を周辺住民も利用できるようにし、団地自治会との連携により新たな大規模施設として一体使用が可能な設計になっている。一体使用する場合の面積は、詳細設計次第では現在の百合が丘児童館ホール(124㎡)より広くできる可能性もある。

入居者が関わる団体で、住民の交流促進、健康増進など公益的な活動であれば、このスペースの使用許可を与え、使用料も減免する、としている。コミュニティ広場は、利用者のための臨時駐車場としても活用できる。最大駐車台数は50台ほど。



1号棟の200㎡集会所概念図

神奈川県は説明の中で、新スペースの使用・管理主体として、現在の再生協議会のような組織をイメージしている模様。ただ、再生協議会は令和3年度末で組織解消される見通しで、取りまとめの態勢づくり、県営自治会との協力関係などを早い時期に固める必要がある。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

お試し移住スタート

11月から4回・12家族、「二宮暮らし」を体験

再生協議会空き家対策部会(廣上正市部会長)は、11月半ばから4回に渡って2泊3日のお試し移住をスタートさせる。新型コロナウイルス汚染対応、リモートワークの広がり背景に郊外移住への関心が高まって



おり、ショートステイを通じて住み、働く場としての二宮町の良さを体感してもらう。近く募集を開始し、最大12家族を受け入れる。大都市居住者を呼び込む動きが活発になっているが、お試し移住にまで踏み込む事例はあまりなく、どのような反響があるかに関心が集まっている。

* 写真は募集PR表紙

募集対象は、「二宮暮らしに興味があつて移住を考えており、週2日以上はテレワークで働く方」。実施日は11月20日、同27日、12月4日、同11日からの各3日間(金土日)で、各回とも3組を募集する。40歳以下のカップルやファミリーの応募を期待しており、県住宅供給公社住宅と民間施設に宿泊してもらう。宿泊費は無料(食事等は自己負担)とする。協議会、県公社、「結婚したら二宮に住もう」や不動産会社などの協力団体、既存移住者などのHPやSNSを使って積極的に広報する。応募締め切りは11月13日(金)。

(裏面へ続く)

Facebook「地域応援隊」参加100人へ

再生協議会がFacebookに立ち上げたグループページ「二宮町一色小学校区地域応援隊」の参加者が100人に迫っている。ほぼ毎日、一色・二宮の新しいコミュニティ情報が写真付きで載っており、60-70人の高いアクセス率を確保している。「withコロナ」下でのコミュニティ活動が定着すれば、さらに参加メンバーが増える見通しだ。



「地域応援隊」はネット上での地域情報の共有を目指し、8月半ばにスタート。参加者は開始から1か月で50人超になり、その後も参加者による友人への声掛けもあり順調に伸びている。

「一色、二宮」と情報ターゲットを明確にしているため、メンバーの意識、アクセス率も高いのが特徴だ。オリジナル写真はもちろん、投稿に対するコメントも多く寄せられ、「元気な住み

よい地域づくり」につながる情報共有の場が出来つつある。

* 写真はトップページ

パソコン、スマホとも、フェイスブックページからアカウント登録(基本情報入力)し、「二宮町一色小学校区地域応援隊」を検索すれば参加できる。退会も容易だ。

ぜひ一度、のぞいてみてください。もちろん、すべて無料です。

お試し移住者には初日のガイダンスで独自編集の「おすすめマップ」をもとに二宮暮らしのポイントを説明し、魅力ある場所の訪問、公社住宅や民間戸建ての見学などを求める。既存の町外移住者、地域住民との交流の機会も設ける。ただ、新型コロナウイルス対策への配慮から、当初考えていた屋内でのリモートワークや集合型の体験ツアーは見送る。初日のガイダンス、最終日の体験発表・交流以外は各自で行動してもらうようにする。

POST 再生協議会、議論はやま場に

―――年内にも方向付け

再生協議会の組織がなくなる令和 4 年度以後の事業継承についての議論が山場を迎えた。地区内の自治会長を加えた今夏以来の 4 回の拡大部会長会議を通じ、全 8 部会長の意見表明が終わり、11 月 1 日(日)には二宮町幹部との意見交換を行う。これらを踏まえて年末までに方向をまとめた考えで、その結論は今後のコミュニティ活動に大きな影響を与える。

各部会長の報告の要点は以下の通り。

<地域交流部会>

毎回 30～50 名の参加がある「こうりゅう塾」は収入基盤も整いつつあり、「地域でカフェ」を含めて継続したいが、それ以外の事業は難しい。こうりゅう塾を含め、会場費などその他経費の捻出のめどは立っていない。にのみや地域情報(にのっち)、FB「地域応援隊」も見通し難。



<友情の山部会>

ヤマユリ・山野草の保護育成、一般公開は地域の支援人材の動員を含め、一色小コミュニティスクール活動の中に組み込む方向で調整する。活動に必要な経費の捻出は課題。

<空き家対策部会>

過去 3 年間は活動費を国土交通省の助成金で賄ってきた。もともと経済的自立の概念がなじまない領域であり、組織解消とともに事業活動を停止する。

<移動支援検討部会>

広範な高齢福祉の一角にある課題であり、自立展開はなじまない。関係者の合意形成のうえ、町社協を核にした活動への移行を模索中。

<音楽活動部会>

やまゆり合唱団(70名)は会費をもとにした活動継続へ進みたい。ただ、やまゆり里山音楽祭、邦楽とお茶の会などは会場費負担もあり、料金収入をもとにした活動継続の見通しはついていない。

<散策路部会>

里山の散策路整備などハード面の活動を終え、健康づくり、交流などイベント開催に重点を移しているのではほぼ自立できるそう。イベント開催を超えた新たな魅力づくりの活動は困難。

<古民家部会>

部会の中核の GNP は引き続き保全管理に携わる方針を決めたので、部会の解消後は町の直轄事業として残っていくことになる。

<県住宅公社部会> 現在のところ、未定。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

お試し移住2倍の申し込み

11月末から12家族が来町

11月20日(金)から始まった「湘南にのみや・お試し移住」に24家族の応募があり、12組を選定した。空き家対策の一環としての呼びかけに予想以上の反響があり、在宅勤務、テレワークの普及に伴う郊外移転ニーズの高まりが明確になった。ウイルス対策に配慮しつつ、当初計画通り3家族ずつ4回にわたって実施する。選定に漏れた家族への対応についても検討する。



応募状況を見ると、東京都内が圧倒的に多く、横浜、千葉なども目立つ。ほとんどが「二宮暮らしに興味があり、週2日以上はテレワークで働く」という募集条件に沿った50歳代以下のファミリー。今春以降、大都市郊外や地方への居住に対する関心が高まっているが、シ

ョートステイまでの仕組みを整えて取り組む事例は少なく、関心を呼んだものとみられる。新聞、テレビからの取材申し込みも相次いでいる。

第1組は20日にガイダンスを行い、県公社住宅に宿泊。22日(日)まで3日間を物件案内やおすすめスポット見学で過ごした。最終日には、百合が丘商店街で先輩移住者と懇談する機会もあった(写真)。懇談の場には、お試し組の友人なども加わるなど、和やかな交流の場が広がった。

村田町長と懇談 「組織解消後も発展を期待」

「一色小地区は例外」町のバックアップには触れず



地域再生協議会の拡大部会長メンバーは11月1日(日)、「再生協解消以後の地域活動」をテーマに村田邦子町長との意見交換(移動町長室)を行った。これまでの議論の要約を説明し、「広域的地域づくりのモデル」と位置付けられてきた活動の総括、方向付けなどについて話し合った。村田町長は、「協議会の枠組みがなくなっても工夫した活動を期待したい」と語り、広域的取組みについては「一色小地区の事例は町内他地区にはあてはまらない」との認識を示した。

やり取りの中でも、町総合戦略下での総括、組織解消後の町のコミットについては触れず、「プラットフォーム的なものが課題であることは理解した」としている。

<意見交換の要点は以下の通り>

——現在の部会活動は、消えていくものと残っていく可能性があるものがある。一色小学校区という小さな地区を超えた枠組みの中で取り組んできた活動について、この取り組みを提起した町としてどう考えるか意見をいただきたい。

村田町長 活動の集大成の時期にコロナ問題に直面したのは残念だが、各部会の活動がこれからどう発展していくか楽しみだ。(協議会の解消によって)枠組みにとらわれることなく、連携し、変化していくのではないか。一色の協議会は域内5地区の特徴がかみ合っとうまくいった。これを、二宮の他の地区にあてはめることはできない。ここの地区の特徴が成果である。そのことを自信をもってアピールして欲しい。衣更えし、次につながるのは大きな意味がある。

——活動終了以降、行政がかかわっていかないとバラバラになり、途切れるものが出てくる。

村田町長 ある意味、自由にやったらいいのではないか。

——協議会というプラットフォームがなくなる時、活動の原点、目指したものは何だったのかが気になる。新しいプラットフォームを設け、この地区の経験を全町に広げていくという考え方もある。これまでの活動を町全体の中で整理し、どう発展させていくか、別な動きを考えていくかが重要だ。

村田町長 わかりました。プラットフォームが問題なのですね。何かしら、つなげたものを作っていくのも一つだと思うが、果たしてどうか。

——移動支援などのテーマは、他市の事例をみると、自治体か社協が手がけるのが一般的だ。

村田町長 大事なテーマだと思う。町の担当課と取り組んだらいい。

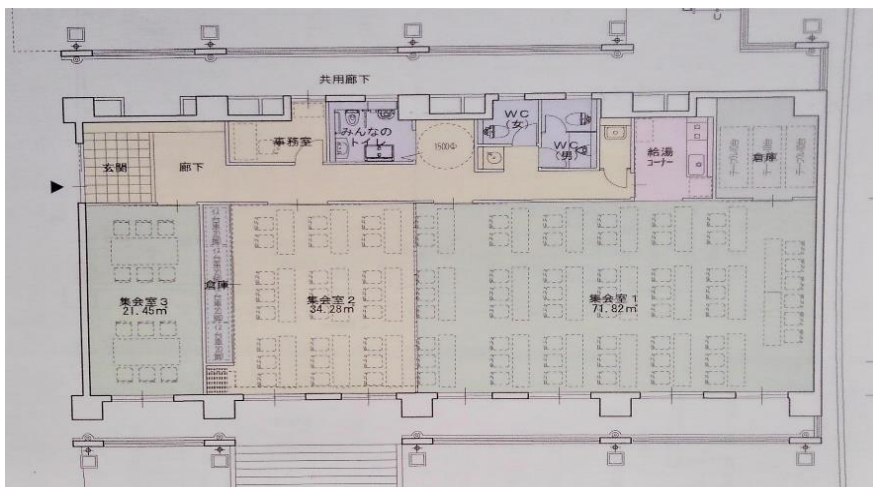
——再生協議会という組織がなくなると、ほとんどの部会は継続できないだろう。継続させるなら新プラットフォームが必要だ。企画管理機能を持つ組織を、町がバックアップして残せないものか。

村田町長 皆さんの関心はプラットフォームということですね。この5年間、自立に向けてやってきた。それがここに来て急に変わったわけではない。新たな要望が出てきたと理解していいですね。

——活動は本来、行政がやるべきものが含まれている。取り上げてきたのはこの地区だけの問題でない。現協議会の名前から、「一色小学校区」を削除し、全町的なものに発展させたらどうか。

村田町長 プラットホームという課題が出たことは理解した。

概要固まる一県営健康団地に3集会室



建替え後、県営健康団地に新設される200㎡規模の大型集会所の概要が固まった。

神奈川県要請で、県営テラス自治会と地域団体が活用方法をにらんだ設計案を話し合っていたもので、これをもとに詳細設計を進める。新設の健康団地1号棟1階に3部屋とそれらをつなぐ共用スペースを設け、県営テラス自治会と周辺の地域

団体が協力して地域福祉、コミュニティ活動に使う。

最大の特徴は移動間仕切り壁を取り払えば、約110㎡と現在の百合が丘児童館大ホールに匹敵する集会室が出来ること。利便性の良い立地であり、町内でも数少ない大型のコミュニティ活動拠点になる見通し。駐車場も併せて整備される。令和4年度に着工し、令和5年度に完成する。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

CS 組入れと「生涯学習」再編

POST 再生協議会、2本立てで検討へ

二宮町は12月15日(火)に開かれた拡大部会長会議の席上、再生協議会の解散後のあり方



について、「一色小コミュニティスクール(CS)を足場に活動の継承を考えたい」とする意向を明らかにした。その具体案を検討するため、町(地域政策課)、教育委員会、地域の3者で話し合いを始めたいとしている。一方、地区内からは現在の百合が丘・一色生涯学習推進会(露木孝夫会長)を新たな活動母体にする案も出ている。今後、この二つの動きをベースに協議会事業の

継承についての議論が進む見通しになってきた。

(裏面に続く)

You Tube 二宮こども音楽祭

県住宅供給公社部会が準備していた「二宮こども音楽祭・2020」の収録版が完成、youtube で公開中だ。2016年から毎年開催しているが、今年はコロナ対策に配慮し、演奏をディアンでの収録に切り替えた。毎年、協賛出演している「やまゆり合唱団」は昨年の映像を使い、後半に登場する。三浦部会長もゲスト出演した。

例年通り、ユースクラシックのメンバーを中心に編成した見ごたえのあるプログラム。恒例のイベントを何とか継続しようとの意欲が感じられる試み。パソコンの場合はチラシにあるURLをクリック、スマホの方はQRコードから視聴できる。ラディアンにいる気分を味わってください。



のぞく* * 地域応援隊 * * 参加する



フェイスブックの「一色小学校区地域応援隊」をご存じですか——。一色小学校区や二宮町内の“ちょっといい話”をスマホやパソコンで手軽に見れる。町広報12月号にスマホのQRコードが載りました。パソコンはアカウント登録のうえ、ページを検索する。再生協議会、一色小コミュニティスクール関係者が運用管理している。投稿を歓迎します。現在の登録メンバーは110人。元気の出る情報でこの町を盛り上げましょう。

二宮町は先月の会合では、「(組織解消後は)自由にやってもらいたい」(村田邦子町長)と、町はコミットしないとしていたものの、関係者からの異論もあり、検討を継続していた。小島孝紀地域政策課長によると、「CS には学校を核にした地域づくりという考え方がある。CS の枠組みを使って再生協議会が蓄積してきた地域づくり、生涯学習などの可能性を検討したい」。ただ、現段階では具体案を示すには至っておらず、「教育委員会も入った関係者の協議」の提案にとどまっている。協議会の部会には CS とは畑違いの活動もあり、考え方の整理や方向付けは簡単ではなさそうだ。

もう一つの生涯学習推進会の改変は、百合の球根配布など現在の事業を洗い直し、併せて事業領域を緑が丘も含めた一色小学区全域に拡大しようというもの。現在の活動が担い手、事業の両面で転機を迎えており、組織目標が再生協議会と似通っていることから、「再生協の受け皿になりうる」との考えが浮上。百合が丘自治会とは事業見直しと支援の継続について合意している。

再生協議会の事業は令和 3 年度で終了することから、今年度中に同 4 年度以降の姿をまとめる方針。これまでの話し合いでは、「町の考えを聞いたうえで方向を出す」(岡村昭寿会長)としており、今回の CS 組入れ案と生涯学習推進会の改編案をもとに可能性を探っていくことになる。同日の会合では、年明け以降、人数を絞って具体案を詰めて行くことを確認した。

お試し移住に 11 ファミリー

空き家対策部会が実施した 4 週にわたる「湘南にのみや・お試し移住」(2泊3日)は 12 月 13 日(日)、最終の 3 家族を送り出し、計画通り終了した。初回では病気による欠席が出たものの、期間中に延べ 11 家族が来町し、「二宮生活」を体験した。今回の参加者からはすでに移住を決め、物件契約に入った家族が出ている。

この企画には東京 23 区 11 組、同 23 区以外 5 組、神奈川県 4 組、埼玉県 3 組など 25 組



の応募があった。滞在中には物件案内以外は自由に過ごしてもらい、コロナ対策に配慮しながらも極力、先行居住者と交流する機会を設けた(写真)。

応募理由(複数回答)を見ると、「西湘周辺で探している」13 組、「自然・アウトドアが好き」7 組、「子供の教育環境」9 組、「仕事がテレワーク」13 組、「知り合いの紹介」3 組など。応募者は西湘周辺への移住や二拠点居住を希望しており、これと合わせて自然環境やアウトドア生活へのニーズが高い。またファミリー世帯は子供育て環境への関心も高い。「週 2 日以上テレワークできる方」を募集条件にしたこともあり、応募の背景にはテレワークの普及があることが明確になった。

参加者の反応で共通するのは、ネットの情報ではわからない人の良さ、町の雰囲気、山あり海ありの自然環境の豊かさ、町民の暮らし方に直に触れたことが良かったと評価している。終了後の懇談やアンケートなどを見る限り、どの家族も好印象を持って帰った感じ。今後、可能な限り参加者の動向をフォローしていく。

回覧

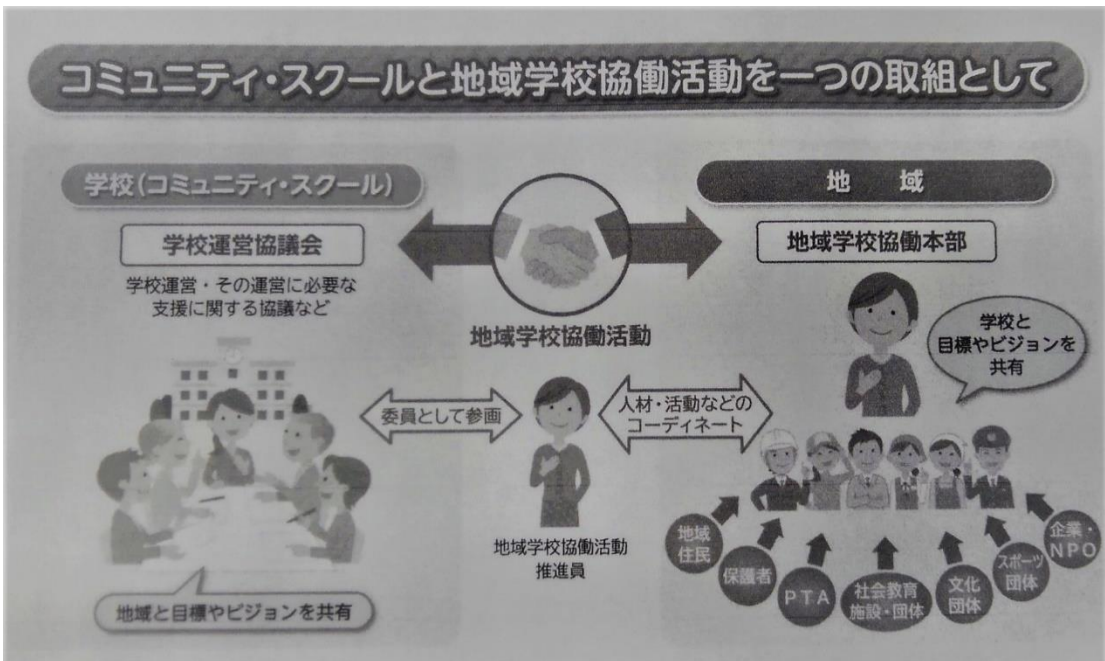
地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「地域学校協働本部」浮上

再生協の事業継承で町から提案

再生協議会の後継として「一色小(学校)を核とした地域づくり」を目指す組織案が浮上してきた。具体的には、一色小コミュニティスクール(CS)を支援し、連携して活動する地域学校協働本部



(仮称)を設け、その中に協議会が蓄積してきた事業活動を取り込むもの。協議会ではこの町提案をベースに意見調整をはかり、2月中に方向付けしたい考えだ。

地域学校協働本部は文部科学省が推進しているコミュニティスクールの強化策。自治会

など域内団体からなる新組織を設け、「地域とともにある学校」を目指すCSと連携して学校づくり、地域づくりを一体的に進める施策。二宮町は、CSが先行してスタートした一色小 (以下裏面へ)

CSと地域学校協働本部のイメージ図(文科省)

友情の山、稀少樹木を追加

友情の山部会(岡村昭寿部会長)は、一色小・友情の山で追加的な植樹を行う。このほど補植する場所と樹種を決める調査を行った。PTAなどが計画している桜の補植と歩調を合わせ、3月中に終わらせる。

友情の山はヤマユリや山野草の自生種が豊かに残ることで知られ、地域住民が学校、子ども達と協力して保護・管理している。ただ、枯れたり、折れた樹木も目立ち、ユリや山野草の生育に影響しない範囲での植樹が必要になっている。

事前調査では数名の部会員が山全体を見て回り、樹種は稀少性の高いこの地区の固有種を中心に選ぶことにした。現在のところ、クロモジ、モクレイ、マユミなど子供たちにとってもなじみの薄い樹木が候補にあがっている。



学区にこの施策を導入することで、CS活動と地域づくりをともに前進させる契機になると見ている。

平成28年発足の再生協議会は、現在の友情の山部会、こうりゅう塾、やまゆり合唱団など当初から一色小を拠点の一つとし、「学校を拠点にした活動、交流の活発化」を志向してきた。また一色小CSも学校運営協議会を中心に、町内では最も活発に動いているものの、地域のバックアップにはまだ課題を残している。

ただ、この地域学校協働本部案は現在、対象にする事業活動の範囲、構成団体、運営体制や運営上の財政基盤など肝心の部分はまだ明確になっていない。これらについてどこまで詰めることができるかが、地域内でのコンセンサス形成の鍵になると思われる。

「お試し移住」の追加実施、見送り

空き家対策部会(廣上正市部会長)は、検討していた「湘南にのみや・お試し移住」の追加実施を見送ることにした。昨秋初めて実施したお試し移住には町外25家族の応募があり、12月にかけて計4回、11家族を二宮町に招いている。ただ、応募にもかかわらず、“落選”した家族が10組以上出たことから、今年1月にも追加実施する可能性を探っていた。ここに来てコロナ対応の緊急事態宣言が出るなど、具体化には無理があると判断した。

「お試し移住」まとめ(参加者アンケート)

空き家対策部会は昨年11-12月に実施した「湘南にのみや・お試し移住」への参加者の概要と、体験家族のアンケートをまとめた。ほとんどがこの事業を前向きに受け止め、「二拠点居住」を含めた移住を決めるうえでの手掛かりが得られたとしている。要点を紹介する。

1 応募25家族の状況

- (1)地域別 東京16組(うち23区11組)、神奈川県4組、埼玉県3組、千葉県2組
- (2)応募理由(複数回答)「西湘周辺で探している」13組、「仕事がテレワーク」13組、「子供の教育環境」9組、「自然・アウトドアが好き」7組、「知り合いの紹介」3組など。

2 実施後のアンケート結果から(回答は10組)

(1)この企画をどこで知ったか(複数回答あり)

太平洋不動産のHP4、「知人の紹介」4、「スマホのニュース速報」1、「知人から応募サイトを教えてもらった」1、「Twitterで神奈川の移住サイトを検索して」1、「Googleニュースサイト」1など

(2)参加して良かった点

・ネットの情報ではわからない住民、町の雰囲気、密度感、小山あり海ありの自然環境の豊かさを実感できたこと。町のお店の人たち、オリーブ栽培者、先輩移住者など町民の暮らし方に直に触れたこと。

・宿泊してみて地元のスーパーの相場感、新鮮でお手頃な値段の魚屋の存在など、実際に生活する上でのシミュレーションになった。

(3)改善してほしい点(抜粋) 宿泊施設についての情報が不足、ガイダンス・町内案内の拡充、戸建て物件案内を増やす、先行移住者との交流など。

(4)期間中に訪れた場所 略

(5)プログラム参加後、移住に対する気持ちは?

参加の全11組が「移住への気持ちが高まった」と回答(1組は「移住を決定」と記入)



回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) issniki-saisei@grace.ocn.ne.jp

自治会基盤の新組織へ

再生協の後継で方向付け

地域再生協議会(岡村昭寿会長)は2月10日(水)に本部会議を開き、令和4年度に地区内自治会を基盤とする後継組織の発足を目指すことを確認した。当日は、これまでの議論、町との調整を踏まえて作成した事務局提案をもとに議論。従来の国・町からの資金助成を前提にした組織を自治会ベースに切り替え、地域づくりとコミュニティスクール(CS)・生涯学習の支援を中心に活動する方向を打ち出した。各自治会での意見調整と新組織の形態、町のバックアップ内容などを詰めたうえで、今秋までに新発足のめどをつける。(以下、裏面へ)

<再編の骨格>

- ・一色小学校区で町、教育委員会の支援・協力を得て、「地域とともにある学校づくり」と社会教育を含めた「学校を核とした地域づくり」に取り組む
- ・学校づくり(CS支援)、住民の生涯教育に力を入れ、「自立運営」を目標にした「地域・まちづく活動」を継承する
- ・新組織は、地区内自治会主体の構成とし、その他の広域的課題についても連携・協力する



「フニクリ フニクラ」「少年時代」「ジュピター」

——やまゆい合唱団の新課題曲決定

音楽活動部会(三浦憲門部会長)は新年度の合唱課題曲を上記3曲とすることを決め、やまゆい合唱団員に楽譜を配布した。ウイルス感染の鎮静化、練習会場の確保など安心して活動が再開できる見通しがつき次第、練習に入る。

同合唱団は昨年春以来活動を停止したまま。パート別練習などこれまで何度か再開の可能性を探ってきたが、いずれも見送ってきた。現時点でも再開のめどは立っていないが、練習環境が整い次第動きだせるように曲目や練習スケジュールなどを関係者に伝えた。

課題曲は、イタリア民謡「フニクリ フニクラ」、井上陽水・詩曲の「少年時代」、ホルスト作曲「ジュピター」というバランスを重視した構成。指導は桑田葉子、一石洋子、高寺真美の3先生。練習日は原則第2・第4日曜の午後4時～6時とし、場所は百合が丘児童館ホール。新規団員は現団員を通じて呼びかける。発表の機会も、一昨年同様に年度内に4、5回を予定している。

提案によると、新組織の仮称は一色小学校区地域・学校づくり協議会。百合が丘、緑が丘、一色地区の全自治会(含む地区会)を核に、その他地域団体、県住宅供給公社、有力個人などに参加を呼びかける。中心的な活動は、現在の協議会事業を引き継ぎ、CS 支援、友情の山、こうりゅう塾(生涯学習)、音楽活動、健康散策などテーマごとに部会を設ける。併せて、活動全般を調整する態勢も必要としている。

事業活動は、部会ごとの自律的運営を前提とし、自治会などからの助成金もその中に組み入れる。これら構成主体の形成やバックアップの資金調達に関しては、百合が丘自治会、一色地区会が助成してきた生涯学習推進会を再編して新組織の下地とする、との案が検討されている。

また二宮町では、CSの目標である「地域とともにある学校づくり」を、「学校を核にした地域づくり」へと展開する方向を検討しており、新組織による CS 支援に加え、住民の生涯学習、社会教育分野での支援、連携が期待できる見通し。ただ、これらの具体的な中身はまだ流動的で、各自治会での意見調整とともに、最終案が固まるまでには時間がかかると思われる。

当日に出された主な意見は以下の通り。

- ・「新しいステージでの継続には、組織は地域が担い、町は活動をバックアップする形が良い」
- ・「安定的に活動を続けるには、事務局のような機能が大事になる」
- ・「自治会の理解、協力が鍵になる。しっかりやれば、将来の連合自治会へとつながっていく」
- ・「自治会中心と言っても、その合意を取り付けるのは簡単ではない。経費だけでなく、取りまとめの機能も重要だ。役員の交代期でもあるので、新年度に入ってからしっかり議論したい」
- ・「活動資金をどうするか、事務局をどうするかがポイントだ」
- ・「町から地域活動助成金が出ているので、自治会も地域振興に関わる必要がある。具体的にどうするかは簡単ではない」
- ・「一色小のCSは3年目を迎え、着々と進んでいる。放課後子供教室などはメニューもほぼそろっており、新しくやる余地はそんなに多くない」
- ・「町からの提案にある生涯学習の分野はほとんど手がついていない。高齢化が進む中で重要だ」
- ・「今後、町の窓口はどこになるのか。行政の支援の中身、連携・協力の内容を早くまとめるべきだ」
- ・「組織、人の問題などを詰めないと次のステップに進めない。夏休み明けまでにははっきりさせたい」

友情の山の補植、「ハンカチの木」も



一色小・友情の山で計画している補植の樹種が決まった。コブシ、クロモジ、マユミなど 12 種類で、3 月 13 日(土)に植え付ける。先月末に行った樹種調査をもとに一色小、森林コーディネーター、地域の植物愛好家などと打ち合わせていた。その結果、一色小児童の自然教育に役立てるためには、友情の山にはない湘南の固有種、子ども達の興味を引く種類を中心に選ぶことにした。

12 種の中を見ると、比較的めずらしい方ではオオシマザクラ、ヤマボウシ、ユズリハ、ヤマナシなど。希少種では、白いハンカチのような花を咲かせるハンカチの木(写真)などが入った。13 日には、友情の山部会員が作業に当たる。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

動けなほま R2年度 終る

お試し移住と「後継組織」のみ

地域再生協議会(岡村昭寿会長)は26日(金)に令和2年度を総括する部会長会議を開き、4月の本部会議では活動最終年度の事業方針を議論する。R2年度は年間を通してコロナ感染の影響をまろに受け、ほとんどの事業活動が見送りになった。実施できたのは空き家対策部会のお試し移住、友情の山部会の植栽補植などがごく一部にとどまる。自立運営に向けた取り組みも積み残した。ただ、「POST 再生協」に関しては、地域代表が加わった議論を繰り返し行い、新たな対応方向をまとめることができたのは大きな成果である。(各部会の事業展開は裏面参照)

今年度は年度当初から全部会の活動にストップがかかり、講演会やイベントの開催、内部打ち合わせのほとんどが中止・休止に追い込まれた。主力の地域交流部会は12回予定していたこうりゅう塾を一度も開けず、音楽活動部会もやまゆり合唱団の練習を含めたすべての計画を見送った。音楽活動は年半ばかりたびたびオンライン部会を開いて練習再開や新卒の工夫について検討してきたが、その手掛かりをつかめずにいる。散策部会も内部会合を一度行っただけ。

そんな中、空き家対策部会がコロナ対応を進めながら取り組んだお試し移住事業は、郊外部への人に流れを先取りする試みとして各方面から注目を集めた。友情の山の補植も10年後をにらんだもの。また、「友情の山の山野草たち」は販売開始から数か月で250冊近く売り上げた。R4年度は各部会とも今年度分の遅れを取り戻すべく対応を練っている。



オレンジベスト 里山めぐりをサポート



散策部会(古矢俊雄部会長)は3月16日(火)、一色小6年生が里山を巡る「一色探検隊」に協力スタッフとして参加した。中止になった修学旅行の代わりに企画の一つで、7つのグループに分け、一色の里山の巨樹・巨木を巡った。散策部会の散策マップの台山、富士見コースを使い、部会員はそれぞれのグループに同行して見守り、誘導、説明などを行った。今後も計画している学校や地域団体との連携の先行事例になりそうだ。部会員は、お揃いのオレンジベストをつけて参加した。このベストは1年前に手当てしていたが、すべての企画がストップしたためこの日が初披露になった。

＜各部会の事業展開＞

部会名	2年度計画	実施状況	3年度予定
地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ・こうりゅう塾 12回(有料、5回はラディアン) ・「地域 de カフェ」年2回に ・「にのっち」の拡大と自立運営化の検討 ・「拡大部長会議」でR4年度以後を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・「拡大部長会議」を重ね、自治会を基盤にした新組織の方向を打ち出す ・「にのっち」に町掲示板情報の掲載開始とFB「一色地域応援隊」の頁開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうりゅう塾 12回(有料) ・「地域 de カフェ」開催 ・「にのっち」の再編と存続検討 ・「拡大部長会議」で新組織の準備
地域交流 ・友情の山	<ul style="list-style-type: none"> ・「山野草」冊子を活用した広報・PR活動 ・R4年度以後の保全・育成態勢の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマユリの一般公開(7月末)と冊子の拡販 ・コブシ、山桜、ツツジなど12種を補植 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度計画を継承し、R4年度以後の保全・育成・管理態勢を検討
空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ・利活用の啓発講座 ・2泊3日のお試し移住 ・町と連携した循環居住の支援体系づくり(いずれも国交省助成事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お試し移住に特化し、11家族を招く 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の活動をレベルアップ
移動支援検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査、バスの利用拡大策の検討 ・社福法人との連携による買物ツアー試行 ・「白タク方式」の可能性検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・町社協事業への組み入れの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・町社協事業への組み入れフォロー ・百合が丘社協での試行運行
音楽活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ラディアン20周年事業に参加 ・邦楽演奏会の再編 ・協賛など外部資金確保の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・ラディアン周年事業に参加(R3年度末で調整) ・協賛確保など自立活動の準備
古民家活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保全管理に加え、R4年度以後の保全管理体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な保全管理活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全管理に加え、R4年度以後の体制検討
古民家・散策	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度事業に加え、散策ガイドの養成と諸団体行事へのスタッフ派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・巨樹巨木巡りの調査と一色小CS支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度計画を継承
住宅供給公社	<ul style="list-style-type: none"> ・共同農園、コミュニティダイニングの運営 ・地域ライブの開催・町外からの入居者確保 		<ul style="list-style-type: none"> ・前年度計画を継承

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

楽しく、活動しませんか!!

――3部会長からメッセージ

令和3年度がスタートし、「コロナ以後」の活動再開が徐々に見え始めています。地域を、参加者を、元気にする地域交流、音楽活動、散策路部会のリーダー（部会長）が、「一緒に楽しく、活動しませんか」と呼びかけています。

何を、どうやっているのか――一度、のぞいてみませんか。

音楽活動部会 三浦憲門 「やまゆり」、今年も3曲に挑戦



昨年度のやまゆり合唱団は活動できない日々が続きましたが、団員はコロナ後に向け元気に待機しています。今年度は桑田葉子さんらの指導の下、「フニクリ フニクラ」、「少年時代」、「ジュピター」に挑戦します。練習の本格再開に備え、自宅でも練習できるようパート別の音源を作成し、オンライン配信やCD配布などの準備に入っています。町内はもちろん、県内でもユニークな存在の地域合唱団を目指して活動していきます。新団員、部会員を随時募っています。ぜひ、仲間にお入りください。

「生涯学習」をフランニング 地域交流部会 山本正博

地域交流部会の中心事業のひとつに、生涯学習連続講座「もっと知ろう 一色二宮」の開催があります。自分たちが住む地域や文化についての知識、教養を深め、お互いが高め合う生涯学習の場を用意しようというものです。コロナ禍による休止以前は、年間20回強の講座・講演会を開き、多くの来場者を集めてきました。一色小学校内に設けた「地域こうりゅうルーム」を拠点にしています。生涯学習の場を一層拡充するため、講座・交流イベントの企画、運営に関心のある方の参加をお願いします。



散策路部会 古矢俊雄 「里山ウオーク」を楽しもう



東西を小高い山に挟まれた二宮町の北部には、新旧の住宅地が広がり、果樹畑とともに今なお里山の風情が色濃く残っています。散策路部会はこの地域の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたく、散策コース・道標の整備や「里山散策路マップ」の作成などに取り組んできました。現在は「散策路」から「散策」に重点を移し、ウォーキングイベントの開催、ボランティアガイドの養成、新たな地域の魅力づくりなどに取り組んでいます。コロナ禍で人混みに出るのを逡巡されている方は、ぜひ当部会への参加をご検討ください。屋外で一緒に自然を楽しみましょう！

連絡・問合せは 事務局 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

にのみや地域情報(にのっち)のメニュー再編

――スマホの「一色地域応援隊」を見てください

一昨年秋からサービスを始めたにのみや地域情報サイト(にのっち)の提供メニューを手直すことになった。協議会と湘南二宮 IT クラブ(片岡健二理事長)が連携して提供中のサービスで、中心に据える各団体のイベントや活動を紹介、発信するページをコンパクトにするほか、地域話題を写真入りで紹介する「まちかどブログ」は中止する。「まちかどブログ」に掲載してきた話題ものは今後、フェイスブックの「一色小学校区地域応援隊」ページに誘導していく。

収容情報の中心に据える町内のイベントや催事はコロナ感染の広がり以降、中止や延期が相次ぎ、にのっちの当初構想は大きく狂っている。昨春からは町の広報掲示板に貼られるもののほとんどを掲載する態勢に移行しているが、アクセス数は期待していたほど伸びていない。町内の活動団体に呼びかけたホームページの開設もごく少数の利用にとどまる。ただ、イベントや催事についてはコロナ対策の進展とともに復活してくると見ており、この部分を中心にもっと見やすく、利用しやすい内容にする方向で準備している。



FBの「応援隊」コード

なお、FBの「一色小学校区地域応援隊」は登録メンバーが120名に達しており、毎月じわじわと増えている。それぞれのサービスを使ってみてください。

<ここからアクセス！>

Google、Yahoo から	スマホ、タブレットから	パソコンから
 にのみや地域情報 (にのっち)	にのみや地域情報 →   地域再生協議会	にのみや地域情報 https://nino-community-info.com 地域再生協議会 https://saisei.nino-community-info.com

GW の山野草観察会見送りへ

友情の山部会、散策路部会がそれぞれGW前後に計画していた山野草の観察会は、コロナ感染対応の見通し難から開催を見送る。一昨年は4月末から5月初めにかけて一色小友情の山、一色の里山を舞台にキンランなどの山野草、みかんの花など観察する目的で多くの人が集まっていた。両部会とも新年度の一番手行事と位置付けていたが、一般に呼びかけるのはまだ早い、と判断した。

「お試し移住」番組のアクセス 2,000 超

フェイスブックの大磯二宮なかよしTVからの声がかかりで収録した、空き家対策部会の「お試し移住事業紹介」が15分番組になって放映中。放映開始からほぼ1週間でアクセス数が2,000件を突破した。シンプルな内容のトーク番組であり、取り組みに対する関心につながればとの思いで協力した。FBで「大磯二宮なかよしテレビ」を検索するか、下のhttpsをたたけばつながる。

https://fb.watch/4vF9ACA_kI/

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

後継組織、今秋めどに

村田町長、一転「支援の継続」を表明

地域再生協議会は13日(火)、令和3年度の第1回本部会議(役員会)を開き、令和2年度の事業・収支を承認し、3年度の事業計画を決めた。会議には村田邦子町長が出席し、「協議会活動の蓄積を発展的に継続して行けるよう、新たな組織、事務局体制と一緒に考えていきたい」とあいさつした。昨年11月の移動町長室では、現組織解散後の町の関わりについて消極的な姿勢を見せていたが、ここに来てバックアップする意向を明確にした。今後、二宮町、自治会など小学校区内団体とともに、今秋をめどに新体制案を固めることになる。



第1回本部会議の議題は、R2年度の事業・収支報告、監査報告、3年度役員改選、3年度予算・事業計画など。このほか、協議会解散後の組織体制、にのみや地域情報(にのっち)の再編などについて話し合った。

第2期3年計画の中間年に当たる前年度は、コロナ感染への対応からほとんどの計画が見送られた。歳入、歳出とも200万円を大きく下回り、国・町に20万円近くを返還することになった。役員人事では、新理事就任は志賀正也・百合1地区長など3名と、小幅の異動にとどまった。

協議会の活動が最終年度を迎える令和3年度は、6年間の事業の総仕上げと組織解消後への備えが大きなテーマになる。このうち、後継組織の準備は年度前半にも終える必要がある。また事業活動は、各部会とも未実施のR2年度事業を練り直したうえで臨んでいるものの、年度当初からの着手が困難になっており、年度途中での修正は避けられそうにない。

(R2年度決算、R3年度計画などは裏面、協議会 HP <https://saisei.nino-community-info.com> 参照)

ラディアン音楽祭、来年2・12に変更

音楽活動部会(三浦憲門部会長)が計画中のラディアン20周年記念協賛音楽祭は、11月の予定を来年2月12日(土)に変更する。ウイルス感染の広がりに伴う練習、演奏環境の悪化などを受けたもので、町教育委員会との話合いで延期が決まった。同音楽祭には4団体の出演が決まっているが、他団体も開催時期をそれぞれ年度後半に移す。

音楽活動部会はこれまで一色小体育館で開催してきた「やまゆり里山音楽祭」を町中央部に移し、これを契機に有料化に踏み切る方針を決めている。しかし、今のところ半年程度の練習期間が必要な合唱団も活動再開が難しく、会場利用上の制約もあって年度後半への変更を決めた。

令和3年度・新任役員名(敬称略)

理事 志賀 正也(百合が丘1丁目地区長)、同 河崎 道子(県営テラス自治会長)
同 金子 久徳(県供給公社部会長、県供給公社県西地域創生事務所)色地区長)

議案第1号

令和2年度 一色小学校区地域再生協議会 決算書(案)

○歳入 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比 較	説 明
負担金	1,685,000	1,495,238	△ 189,762	町負担金
各部会収入	642,000	324,500	△ 317,500	地域交流部会 0円 地域交流部会(友情の山) 284,000円 音楽活動部会 0円 移動支援検討部会 0円 古民家・散策路部会(散策路) 4,000円 古民家・散策路部会(古民家) 36,500円
雑収入	0	11	11	預金利子 11円
繰越金	61,936	61,936	0	前年度繰越金 61,936円
合計	2,388,936	1,881,685	△ 507,251	

○歳出 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比 較	説 明
事業費	1,531,000	1,087,763	△ 443,237	空き家対策部会 0 移動支援検討部会 0 地域交流部会 243,200 地域交流部会【友情の山】 343,892 音楽活動部会 0 古民家・散策路【散策路】 0 古民家・散策路【古民家】 500,671
事務費	822,000	673,951	△ 148,049	賃金 477,413 労働保険料 1,192 保険料 11,000 通信運搬費 97,380 消耗品費 85,808 食糧費 1,158
予備費	35,936	0	△ 35,936	
合計	2,388,936	1,761,714	△ 627,222	

収 支
 歳入 1,881,685 円
 歳出 1,761,714 円
 差引収支 119,971 円(翌年度繰越金)

【空き家対策の担い手強化・連携事業】

○歳入 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比 較	説 明
補助金	2,000,000	1,675,296	△ 324,704	空き家対策の担い手強化・連携事業補助金

○歳出 (単位:円)

項 目	当初予算額	決算額	比 較	説 明
空き家対策の担い手強化・連携事業	2,000,000	1,675,296	△ 324,704	

【監査報告】

この決算書類を監査したところ、適正に処理されていることを報告いたします。

令和3年3月31日

監事

永井正義



監事

竹内龍雄



回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘2-29-6 (老人憩いの家) 59-9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

最終年度 そろい 再開へ！ ——8 部会長からのメッセージ

コロナ対応を引きずった令和3年度がスタートしました。平成28年度から始まった再生協議会の活動はいよいよ最終年度になります。決して無理することなく、どうしたら総仕上げにふさわしいものにできるか——を考えつつ、再開のタイミングを探っていきます。最終年度を見据えた8人の部会長にメッセージを寄せてもらいました。

地域交流部会 山本正博 「秋口」を目指す



「こうりゅう塾」は昨年2月までの1年半に35回開催し、約1500名の方に参加いただきました。一色、百合が丘、緑が丘にとどまらず、二宮町には知的好奇心が旺盛な方々がたくさんいらっしゃることを、こうりゅう塾を通して知りました。人生100年時代が言われ、知的交流を深める学びの場はますます重要になると思います。コロナのいくえを見定めながら、秋口での再開を目指します。皆さんにお目にかかれることを楽しみにしております。

友情の山部会 岡村昭寿 7月にヤマユリ公開

再生協議会の始動以来続けてきた一色小「友情の山」ヤマユリの一般公開は今年も、7月下旬に行なうよう準備しています。貴重な群生ヤマユリ、山野草の保護・育成には、保全、管理のていねいな継続が欠かせません。様子を見ながらの枝払いや間伐、下草刈りなどの手入れも必要になります。協議会の活動が終わる令和4年度以降、この活動の担い手をどうするか、必要な費用をどうねん出するかについて町などと話し合います。



音楽活動部会 三浦憲門 来年度以後にも備え



今年度はまだ活動を始めるに至っていませんが、総勢70名からなる「やまゆり合唱団」は健在です。今年11月6日に予定していたラディアンでの「やまゆり里山音楽祭」は、来年2月12日(土)に延期することにしました。協議会の最終年度を飾るイベントとすべく、一日も早く活動を再開できるよう準備しています。協議会の後ろ盾がなくなる「やまゆり」は来年度以降も、経済的自立を視野に入れながら、特色ある合唱団として活動できるよう頑張ります。

古民家部会 松本篤子

再開へ準備万端



一色の里山のふもとにある「ふるさとの家」は築 130 年、この地域の古きよき時代の生活様式を体感できる空間です。この大事な資産を継承し、地域の賑わいにつなげるべく活動しています。昨年度は利用がほとんどない辛い時期でした。その間も週1の簡易清掃、月1の全部会員による清掃、維持管理の作業を続けてきました。利用者がいつ戻ってきても十分対応できる状態です。「屋内は 10 名、屋外の庭は 20 名程度」という制約が緩めば、バーベキューやイベントの利用が増えることを期待しています。申し込み状況は HP を見てください。

散策路部会 古矢俊雄

しばらくお待ちを！

散策路部会では春秋を中心にウォーキングイベントの企画・開催を行なってきましたが、新型ウイルス感染の拡大に伴い、昨年からの活動を止めています。不特定の方が集まる集団でのウォーキングは、屋外とはいえまだ不安が残ります。町内の巨樹・巨木めぐりなど、新企画も検討中です。今後の感染状況やワクチン接種状況を見ながら、秋頃から再開したいと考えています。それまで、もうしばらくお待ちください！



移動(外出)支援検討部会 岸野 修

具体化の方向探る



移動支援の検討を始めて 2 年余りたちました。1 年目にはいろいろな事例研究と我々の地域での実現可能性を検討しましたが、法的制約やボランティア確保に大きな課題があることが分かりました。2 年目は、コロナの影響でほとんど何もできませんでした。今年もまだコロナの影響が残りますが、福祉の面から何か継続性を保った仕組みができないかを引き続き検討、試行していく考えであります。

空き家対策部会 廣上正市

「人」と「住み良さ」アピール

私の家(百合 1)の近くではこのところ、4 軒ほどの空き家の売却が決まりました。転入者には子育て世代もおります。我々がこの問題に取り組んできた成果などとは思いませんが、コロナ感染への対応、リモートワークの広がりによって、「どこに住むか」をめぐる流れが明らかに変わっています。空き家対策を取り上げてから 4 年目。今年度も国の助成制度を活用し、一色小学校区、二宮町の人と自然、住生活環境の良さを多くの人にアピールしたいと思っています。



県公社部会 金子久徳

お試し移住に力



4 月より県公社二宮現地事務所に勤務となりました。コロナ禍で見通しが立ちづらい状況ではありますが、昨年実施し好評だった「お試し移住」の開催など、公社資産を活用した取組みを検討・実施してまいります。今秋には、「二宮こども音楽祭」も予定しています。これらの取組みには、地域の皆様のご協力が必要不可欠です。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

お試し移住中心に **空き家対策**

「コワーキングスペース」を開設

地域再生協議会(岡村昭寿会長)は国交省に対し、「お試し移住」を中心にした R3 年度空き家対策事業への応募書を提出した。昨年度から始めた町外からの短期滞在(月 1 回、2 泊 3 日)を半年間にわたって実施するほか、県住宅供給公社の協力を得て商店街にテレワークスペースを新設する。併せて、この取り組みを来年以後も継続する方策についても検討していく。

■応募事業の期間内の事業実施									
事業項目	具体的な取組内容								
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
①	お試し移住全体の企画の練り直し								
	お試し移住用住宅の整備								
	コワーキングスペースの整備								
	コワーキングスペースの運営								
	広報・募集								
	ガイダンス&町案内		★	★	★	★	★	★	★
	物件案内		★	★	★	★	★	★	★
	先輩移住者等との交流会の実施		★	★	★	★	★	★	★
	アンケートの実施		★	★	★	★	★	★	★
②	協働組織の今後のあり方検討								
③	お試し移住のガイドライン(原案)作成								

国交省事業への応募は、H30 年度に空き家対策部会(廣上正市部会長)を設けて以来 3 度目。空き家を出さない啓蒙活動からスタートし、昨年からは町外からの転入者を呼び込む「循環居住」へと進んでいる。

申請案は、反響の大きかったお試し移住を中心に据え、これに自宅外でのテレワークが可能なコワーキングスペースの整備を加えていること。お試し移住は9月から来年2月にか

けて毎月末、2ファミリーずつ、合計 12 ファミリーを迎え入れる。県公社百合が丘団地にリノベ済み住宅 2 戸を確保する。昨年は年末の 2 か月に集中実施したが、町案内、物件案内、先輩移住者との交流会などを拡充するため、実施期間を長くした。募集広報をていねいに行い、昨年(25 組)以上の応募者を得たい考え。事業経費は約 200 万円。

コワーキングスペースはお試し移住期間中だけでなく、常設的なスペースにできるよう検討する。

U 字構撤去、友情の山の整備進む



一色小・友情の山の登り口にあった U 字構の残骸が、5 月 23 日(日)の関係者の共同作業によって撤去された。この残骸は山で遊ぶ児童だけでなく、山野草観察のお年寄りにとっても邪魔物。コミュニティスクール関係者の呼びかけで、PTA、おやじの会、再生協議会など様々な関係者と子供たち 30 人ほどが撤去作業や池の周

辺清掃を行った。撤去した U 字構は土留め箇所や池の回りに再設置され、有効活用されています。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「町民大学 北部版」

協議会後継に、町から新提案

二宮町は、再生協議会が検討中の後継組織に対して、生涯学習分野に限って支援したいとの意向を明らかにした。町教育委員会が手がける「町民大学の北部版」の新設に当たる。この案では、現行の地域交流部会(山本正博部会長)の生涯学習講座(こうりゅう塾)のほぼ全体をカバーできそうだが、その他の事業部会は対象から外れ、しかも新組織、各部会の管理運営費の支援はできないという。こうした条件下で新組織の活動を担保できるかどうか—についての検証が次の焦点になってきた。

町は協議会の公的支援がなくなる令和4年度以降について、「支援しない」(村田町長)から「支援を継続したい」(同)へと、この4月に方針転換した。その要点は①一色小学校区、地域自治会、地域公民館をベースに推進する「生涯学習」について助成する ②助成はあくまで講座等のテーマごととし、事務費や運営費は対象外 ③町民活動補助などとは別の推進要綱をつくる—など。

この提案の下地になっている「にのみや町民大学」の平成30年度事業実績を見ると、講座回数は23回、参加延べ人数380人、年間町支出約22万円(収入約9万円)。各講師に1回5千円程度の謝金が出ており、資料、材料費などを含め1講座当たり1万円弱を助成している。今のところ、一色小学校区での講座に対しても同じ基準を適用すると見られる。

協議会では、町長の方針転換を踏まえた提案であることから、これを下敷きにして継承組織が成り立つのかどうかについて検討し、今夏にも結論を出したいとしている。

7月23日(金)～26日(月) 一色小ヤマユリ公開



恒例の一色小・友情の山のヤマユリ公開の日程を決めました。7月23日(金)から26日(月)までの4日間。一色小が夏休みに入った直後。自生のヤマユリは毎年、少しずつ増えています。何かと鬱陶しい日々が続いていますが、県内ではめったに見られない群生ヤマユリに親しみ、気分を一新してください。

主催する協議会友情の山部会は、一色小学校区5地区の愛護会メンバーが皆様をお迎えいたします。密にならないよう、マスクをしていただくよう、検温をしていただくよう—などなど、コロナシフトを敷きつつ、稀少なユリの女王の姿を楽しんでもらいます。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「生涯学習」案 追加検討要請

自治会の関与など議論

再生協議会は2日、8回目の拡大部会長会議を開き、R4年度以降の体制について議論した。その結果、町からの生涯学習分野でのバックアップ案について、より現実的な内容へと手直しするよう要請することを決定。町の追加検討案を織り込んだ事業計画を作成し、域内自治会への説明に臨むことを確認した。



存続の焦点になっている地域の学びの場

これまで検討を重ねてきた後継組織では、町から提案の生涯学習事業、いわゆる「町民大学北部版」(仮称)が中核になる。しかし、今のところ、その中身は、「ラディアンでの町民大学を、補助事業の形で一色小地区にあてはめたい」とする程度しか明らかになっていない。町民大学での実例を、協議会のこれまでの講座(こうりゅう塾)にあてはめた試算によると、ボランティアによる労務提供を前提にした場合でも、1講座当たり5,000円以上の赤字が出る心配がある。

その理由は、現方式のままでは講師謝礼の上限(5,000円)、全経費への補助率適用、会場費負担などが足を引っ張る要因になるからだ。町では、今度の北部版を町内に広げていく方向を模索しているが、これらの点はその際にも大きな障害になる見通し。

「お試し移住」一国交省助成 180万円内定

協議会空き家対策部会が国土交通省に申請していたR3年度事業計画について、採択内定の通知があった。昨年度から始めた二宮町での「お試し移住事業」(2泊3日)を中心にした計画案を提出しており、採否の審査が続いていた。通知では、年間180万円(全額補助)を上限に事業採択するというもので、9日にも一部を組み直した計画案を提出する。

当日は、存続候補事業の見通し、支援が必要な自治会への説明案についても話し合った。存続候補事業は、いずれも「独立採算」を前提に検討した。音楽活動では、多くの団員を抱えるやまゆり合唱団中心の運営に移行。もう一つの柱である音楽祭の開催に関しては、入場料収入など独自財源を手当てしたうえでの開催継続、県公社音楽祭への相乗り、開催中止の3方向が考えられる、としている。散策路部会は、活動目的を再検討したうえで、活動中止、新組織への組み替え、他組織との統合などの選択肢を示している。また、新組織が内外との調整、広報など最小規模の

事務局機能を持つ場合には、中核となる生涯学習事業の設計と大きく絡むものの、年間 15 万円ほどの経費が必要との報告もあった。

一方、自治会への説明案では、別紙のような案(別掲参照)が示された。これまであいまいだった活動体制については、①生涯学習、コミュニティスクール支援、地域づくりの3分野を柱とする②生涯学習分野には、生涯学習、音楽活動、散策ツアー一部会。CS 支援には友情の山、CS 支援部会(窓口)。地域づくりでは空き家対策、県公社部会を置く③自治会代表、部会長による話し合いで活動方針を決め、円滑な事業推進のための事務局機能を置く——となっている。事業活動の助成体制では、町・教育委員会と地区内自治会が両輪になり、町からは生涯学習領域の支援。自治会からは現在の百合が丘・一色生涯学習会への支援継続をベースに活動資金の助成を要望している。

この中で、地区内自治会がどの範囲で新組織にどう関わっていくか——について議論が交わされた。これらは後継組織の存続、事業活動の成否にかかわる大きなテーマであることから、生涯学習分野での町の追加検討が明らかになる今月末以後に再度、話し合うことになった。

後継組織についての提案

再生協議会の後継組織と活動について(案)

<趣旨>

一色小学区における再生協議会の事業蓄積を継承し、「元気なコミュニティ」づくりに取り組む地区内自治会を基盤にした新組織を発足させる。町、教育委員会の協力を得て、コミュニティスクール(CS)の支援、住民向け生涯学習をはじめ、「自立運営」を目標にした事業活動を展開する。魅力あるコミュニティとしての一体感を醸成しつつ、その他の広域的課題についても連携・協力する

<名称>

一色小学校区・元気なコミュニティ協議会(仮称)

<構成主体>

- ・地区内全自治会(百合が丘、県公社、県営、緑が丘各自治会、一色地区会)
- ・県住宅供給公社、その他地域団体

<活動体制>

- ・生涯学習分野——生涯学習、音楽活動、散策ツアー一部会
- ・CS 支援——友情の山、CS 支援部会(窓口)
- ・地域づくり——空き家対策、県公社部会
- ・自治会代表、部会長による方針決定と、円滑な事業推進のための事務局機能

<事業活動助成>

(1) 二宮町・教育委員会

- ・生涯学習及びその周辺領域の活動について補助事業として支援する
- ・CS 支援及びその周辺活動は、その内容に沿って放課後子供教室方式による支援を行う
- ・町が所有・管理する施設・スペースの利活用、その他公益性のある事業での協力

(2) 地区内自治会

- ・各自治会は各事業部会長らと組織運営、事業展開について協議し、決定する
- ・「生涯学習」をテーマに活動してきた百合が丘・一色生涯学習推進会を後継組織に吸収し、これを機に緑が丘自治会に参画を要請。助成資金は事業活動の基礎資金に充てる

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

「お試し移住」、正式採択

180万円、ワークスペースも開設

再生協議会空き家対策部会(廣上正市部会長)が提出していたお試し移住事業が7月5日付で国土交通省から採択された。補助金交付上限額は180万円。空き家事業の採択は4年連続。県内では各自治体が移住・定住策に力を入れているが、民間主導はほとんど例がない。町外からの移住・定住のきっかけづくりになることが期待される。

事業の正式名は、一色小学校区地域空き家等循環再生事業。今年度の特徴は、「お試し移住」を重点的に取り上げ、実施回数を9月―来年2月の6回に増やしたこと。県住宅公社からリフォーム済みの2住戸を借り受け、合計12ファミリーが2泊3日実際に住んでもらう。関係費用のほとんどを補助金で賄う。応募者へのガイダンスとともに、町案内や居住物件の紹介も行う。昨年好評だった先輩移住者との懇談会も計画している。

新規の計画では、お試しでの来町者だけでなく、定住住民も利用できるワーキングスペースを開設する。テレワークの普及が大都市からの人の流れを促していることから、常時利用できるワークスペースを設けることで、移住候補地としての魅力を高めたい考え。今のところ、百合が丘商店街の空き店舗の活用などを検討中。

最初の実施月の9月に向け、町外への広報PRの準備を急ぎ、29日(木)の部会で詳細を決める。昨年作成の募集サイトを補強し、県公社、民間事業者、メディアなどへも協力を要請する。



ヤマユリ開花 ピークに

友情の山(一色小)のヤマユリの開花が、一斉公開を控えてピークを迎えつつある。今年の開花は23日(金)―26日(月)4日間。少し前には公園愛護会メンバーが散策路の草刈り、支柱立てなどを行った。朝日、読売、神奈川新聞などメディアからの取材も相次いでいる。

開花の中心は例年通り、友情の池の上部辺り。約100株ほどが花開き、中には5、6もの花弁をつけたものもある。ヤマユリの開花は1週間ほど。去年は天候不順に見舞われ、実質2日の公開に終わった。今年は今のところ安定した日々が続くと見られ、数多くの来場を期待している。

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

講師謝礼 1万円に

「生涯学習」町提案 経費の自主確保の余地増す

二宮町は、懸案となっている生涯学習領域での助成についての具体案を明らかにした。年間補助限度額 20 万円、補助率 4/5 以下、講師謝礼は 1 万円まで認めるとするもので、当初案に比べ現実感が強まり、自助努力による経費確保の道をひらくものになった。再生協議会は地域交流部会、拡大部会長会議を相次ぎ開き、後継組織についての方向を取りまとめた考えだ。

町新提案のポイント

<対象団体> ・町内各小学校区において複数の地区により組織している。
・営利を目的とせず、地域住民の啓発等に寄与する、など <補助金額> ・限度額 200 千円/年
<補助率> ・補助対象経費の 4/5 以内、もしくは総事業費から当該事業の参加料を控除した額の少ない方

提案のあった(仮称)地域生涯学習振興事業補助金概要(案)のポイントは上囲みの通り。小学校区をベースにした団体が前年度中に事業案を提出し、実施年度に事業報告を出して清算する。補助対象経費は講師謝礼、印刷製本、施設賃借料など他の町民活動助成とほぼ同じ。焦点になっていた講師謝礼については 1 万円/回(現行 5 千円/回)まで認めるとしており、これらによって開催経費の持ち出しをなくせる可能性が出てきた。また、全体補助についても対象経費の 4/5、もしくは総事業費ー参加収入の少ない方——としており、経費管理の自主努力の余地が広がった。

後継組織を設ける場合は、生涯学習事業が中核にならざるを得ないと見られる。関係者の会合で今回の提案について議論したうえで、後継組織問題についての最終方針を固めることになる。

ヤマユリ公開550人、半数以上は町外



7月23日からの一色小・友情の山のヤマユリ公開(4日間)が予定通り終了した。各日とも地区内の公園愛護会メンバーが受付け、誘導を担当。4日間とも天候に恵まれ、入場者総数は過去2番目に多い約550人に達した。入場者リストを確認したところ、総数のうち306人が二宮町外からの来場だった。ほとんどが、「新聞ニュースで知った」としており、朝日、読売、

神奈川新聞で取り上げてもらったことが幸いした。別な言い方をすると、町内、一色小学校区内からはあまり来ておらず、PR、広報面でのさらなる工夫が必要なことがわかった。

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

再生協、後継にメド

「生涯学習」核に、「元気なコミュニティ」目指す 地区自治会に支援要請へ

地域再生協議会は24日(火)、9回目の拡大部会長会議を開き、一色小域内の住民、地区、自治会が協力して新組織を発足させることで合意した。町・教育委員会の協力と助成制度を活用し、コミュニティスクール(CS)の支援、住民向け生涯学習、音楽活動など自立運営を原則にした活動を行う。地区内自治会に対しては活動の基礎資金面での支援を要請する。昨年夏から議論を重ねてきた後継問題は、今回の合意成立によって大きなヤマを超えたことになる。

<事業活動体制>

生涯学習分野

- ・生涯学習(含む散策)
- ・音楽活動部会

コミュニティスクール支援

- ・友情の山
- ・CS支援部会(窓口)

地域づくり

- ・空き家対策
- ・県住宅公社部会

来春発足を目指す新組織は、一色小学校区・元気なコミュニティ協議会(仮称)。当日配布された資料によると、構成主体は有志住民、地区内全自治会(百合が丘、県住宅公社、県営テラス、緑が丘の各自治会、一色地区会)、県住宅供給公社、その他地域団体など。活動の柱として生涯学習、CS支援、地域づくりの3つを掲げており、中核をなす住民向け生涯学習では先に町から提案のあった「生涯学習振興補助」(上限20万円/年)をフル活用する。その両脇を、自立展開あるいは活動資金のねん出が見込めるCS支援や地域づくり事業で固める。立ち上げ時以降は、必要に応じて部会構成を再編する。

会長、事業部会長以下の役員を置き、住民有志、地区、自治会代表、事業部会長らの協議をもとに進める。当初、連合自治会的性格を持たせるために主要役員を含め自治会が屋台骨を背負う案も検討されたが、役員などは「互選」の方向で進むことになった。役員構成、事業運営、それらを支える事務局はコンパクトな形にする。

最大の懸案になっていた財政面での下支えは、町・教育委員会の生涯学習振興補助と地区自治会からの助成金。自治会については百合が丘、一色地区にはこれまでの生涯学習会に対する助成の継承、緑が丘自治会には新規の助成を要請する。地区内自治会の中には、24日の合意を読み込んで議論を進めているところもあり、今回のコンセンサス形成によって検討がもう一段進むと見られる。

回覧

地域再生協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

後継組織 準備委立ち上げ

百合、緑、一色自治会の支援固まる

地域再生協議会は役員会を開き、後継組織(仮称・元気なコミュニティ協議会)の設立に向けた準備委員会の発足を決めた。百合が丘、緑が丘自治会、一色地区会が後継組織に対する財政面での支援方針を固めたことから、来年4月の発足を目標に準備を急ぐ。10月半ばにも第1回会合を開き、細目を詰める。

準備委のメンバーは、現協議会の3役と山本・地域交流部会長、三浦・音楽活動部会長、古矢・散策路部会長、金子・公社部会長、橋本・一色小CS学校運営協議会会長の9名。今後、月1ペースで会合し、新組織・事務局体制、運営方法、規約作成、事業計画・予算などを検討。拡大部会長会議、本部会議にかけて決めて行く。事務局体制、規約などは抜本的に見直すことになる。

事業骨格については合意が得られ、懸案の事業資金も基礎部分は地区内有力3自治会が助成する方向でコンセンサスが出来上がった。3自治会とも来年初めの自治会総会で正式決定する。新組織はこの自治会支援と町の生涯学習補助をもとに活動することになり、事業規模、運営体制の大幅なスリム化が求められる。

一方、現協議会は事業の閉じ方、移行する部会は自立を前提にした活動プランの検討に入る。また組織解散に伴う所有資産の整理、譲渡、処分などの作業も並行して行う。今のところ、散策路に設置した案内・誘導パネルなどは町に譲渡し、こりゅう塾用の器材、事務機器などは極力後継組織が継承する方向で調整したいとしている。

お試し移住など11月から コロナ禍で動き取れず



今年度の協議会事業はご承知のような状況下で止まったまま。町有施設の閉鎖が続いており、10月以降の利用の見通しが立たないためだ。9月から実施予定のお試し移住(空き家対策部会)も募集を棚上げにしたまま。非常事態宣言の終了後の動きを確認し、11月末からの開始を見込んでいる。(写真はお試し移住用の県公社居住スペース)

音楽活動、地域交流などの部会もコロナ対応を見守りながら再開のタイミングを探っている。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

音楽祭 県公社と共同開催へ

「やまゆり」11月から練習再開

再生協議会は、発足以来続けてきた音楽祭を県住宅供給公社と共同開催することになった。来年2月、ラディアンでの「やまゆり里山音楽祭」を手始めに、来年度以降もこの関係を継続する。出演者の調整、プログラム編成、広報活動などを分担して進める。協議会の後継組織での音楽祭開催が不安視されていたが、県公社との連携によって、地域主導の大型音楽イベントを継続できる



見通しになった。

協議会は音楽活動による地域の魅力アップを柱のひとつに掲げ、やまゆり合唱団の活動と独立音楽祭開催に力を入れてきた。一方、県

またこの勇姿が見られるか (写真は2019年県公社主催音楽祭)

公社も二宮団地の再編に合わせて国際こども音楽祭、古民家コンサート、歌声ダイニングなどを開いて地域の盛り上げに貢献してきた。ただ、これらの事業はコロナ禍、団地再編の進展で修正を迫られ、今年度はすべて中止したまま。そんな中で協議会音楽活動部会(三浦憲門部会長)のラディアン20周年音楽祭だけは開ける可能性が高く、両者間で話し合いが進んでいた。

来年2月の「やまゆり里山音楽祭」は、11月中にも出演者やプログラムを決める。出演者では、協議会は地元演奏家と合唱団、公社はユースクラシック中心の構成を検討中。なお、コロナ禍で活動を停止していたやまゆり合唱団は、11月からの練習再開を決め、準備に入った。2月の音楽祭に焦点を合わせた練習曲の選定、ウイズコロナ下での練習方法などを検討している。

お試し移住の応募、50組に迫る

10月から始めた空き家対策部会(廣上正市部会長)のお試し移住募集が極めて順調だ。23日(土)までの申し込みが、4組募集に対して10倍超の47組に達した。応募締め切りの11月5日(金)までにはさらに増える。今回の募集は11、12月末の2泊3日枠であり、来月には来年1、2月末実施の日程を決め、さらに募る。応募が多くなっているのは、コロナ禍でのテレワーク就業が大きな流れとして続いていることが背景にあると思われる。



地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前)

isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

後継組織 大筋固まる

規約、事業、組織など。準備委員長に廣上氏

再生協議会は17日、後継組織検討の第2回会合を開き、新規約、事業・事務局体制などの概要を固めた。12月初めにも3自治会代表が入った拡大部会長会議に説明する。また、来春の立ち上げに向けて細目を詰める準備委員長に廣上正市氏(現協議会事務局長)を選出し、スムーズな組織移行を目指す。

現事業部会の新組織移行

地域交流部会	継承	生涯学習部会に。町補助事業	古民家部会	解散	古民家管理は町に移管
友情の山部会	〃	友情の山の維持・管理費は町負担	散策路部会	〃	生涯学習部会に組み入れ
音楽活動部会	〃	音楽祭は県住宅公社との共催に	移動支援部会	〃	町社協、地域社協と協議中
空き家対策部会	〃	お試し移住の実施(国交省補助)	県公社部会	〃	部会から協力団体に

後継組織の大枠を定める規約では、目的として「一色、緑が丘、百合が丘地区住民の生活・居住・文化環境、健康・福祉の向上等に関して、住民が相互に協力し、親睦を図りつつ、活力あるコミュニティ、魅力ある地域の形成を目指す」ことを明記。事業に携わる住民、地区自治会、県公社から役員を選び、連携協力して活動することをうたっている。

来春のスタート時点での事業体制では、地域交流、友情の山、音楽活動、空き家対策は現在の部会活動の基本形を引き継ぎつつ、完全自立型に切り替えていく。古民家、散策路、移動支援は独立部会としては一旦解散し、町への移管などを進める。県住宅公社部会は独立部会としての旗は降ろすものの、音楽活動、空き家対策を中心に活動に積極的にかかわっていく。

事務局は、事業規模の縮小と部会の独立運営化に伴いコンパクト化する。機材や電子機器、設備、備品などは町へ移管する一部を除き、新組織が引き継ぐことで最終調整中。準備委員長は残りの案件を詰めるほか、来春に向けた役員選任、事業予算、事業計画づくりを主導する。

お試し移住 2次募集開始。1次応募54組

空き家対策部会(廣上正市部会長)は12月21日(金)締め切りで「お試し移住」(2泊3日)の第2次募集を始める。令和4年1月、2月末に合計4組の家族に「湘南・にのみや暮らし」(宿泊費無料)を体験してもらう。第2次の実施日は、令和4年1月28日(金)～30日(日)、2月25日(金)～27日(日)。各回とも2組(1組4人以下)の募集。

2ヶ月遅れでスタートした第1次は4組募集に対して54組の応募があった。今月26日(金)に最初の組を迎え、ガイダンスなどを行う。テレワークの広がりなどを背景にこの地域への関心が高まっている表れと見ており、県住宅供給公社と連携し、移住希望家族を迎える準備を進めている。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

ラディアン音楽祭の全容

2/12 桑田・高寺さんら出演 有料化(ワンコイン)へ



来年2月12日(土)、ラディアンで開催するやまゆり里山音楽祭の全容が決まった。前半は桑田葉子、高寺真美さんら地元音楽家、後半は若手演奏者集団のユースクラシックとやまゆり合唱団中心の編成。これまでは一色小で開いており、ラディアンへの進出は初めて。県住宅供給公社と

の連携やワンコイン入場料の設定(高校生以下無料)によって、有力な出演者を招聘し、運営基盤の強化を狙っている。

＜出演者と演目＞ 桑田葉子(ソプラノ)・オペラ「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」、「ゆりかご」「おかあさん」「アヴェ・マリア」ほか。加藤知志(バリトン)・「鎌倉は子守唄」「可愛い口元」「明るい表通りで」。高寺真美(ピアノ)・F.ショパンの作品など。桑田・加藤の二重唱・「冬の旅」、オペラ「カルメン」より「ハバナセラ」「闘牛士の歌」。ユースクラシック・「人生のメリーゴーランド」「リベルタンゴ」ほか。やまゆり合唱団「フニクリフニクラ」「少年時代」「明日があるさ」「翼をください」。

会場をラディアンへ移すのは、全町民を対象にした地域主催イベントへと発展させたいとの思いから。今回はラディアン開館20周年記念への応募のために経費を抑えられるが、これを恒例化するには有料化が欠かせないと判断した。音楽活動部会では、「出演者の実力、演目などから見て十二分に満足してもらえる」(三浦憲門部会長)としており、400人の来場を目標に働きかける。

「元気なコミュニティ」に決定 略称「げんコミ」

協議会は12月の拡大部会長会議で、来年4月発足の後継組織名を「一色小学校区元気なコミュニティ協議会」とすることを決めた。高齢化、少子化、人口減などのマイナス材料が目立つ中でも域内自治会を基盤にした活動を積み重ね、元気で活力ある地域づくりを進めるという発足の趣旨をそのまま名称にした。略称は「げんコミ」。このほか、「いちコミ」を推す声もある。

お試し移住第2次 応募、38組

21日(火)に締め切った空き家対策部会(廣上正市部会長)のお試し移住・第2次募集(令和4年1、2月実施、募集枠4家族)は東京を中心に38組の応募があった。11、12月募集の54家族には及ばないものの、10倍近い高い競争率。応募動機などを精査し、年内に結果を連絡する。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

閉幕に向け最後の力

音楽祭、お試し移住、ヤマユリ整備など

コロナ感染による混乱が続く中、協議会は3月末の活動終了に向けた最後の事業展開に注力している。2月12日(土)には予定通り「やまゆり里山音楽祭」(ラディアン)を開催し、国交省支援



のお試し移住も予定通り実施する。予算上の制約がきつくなる前に計画していた友情の山の生育環境整備も予定通り実施。また会員減によって活動継続が危ぶまれている地区内子ども会の新方向など、令和4年度に向けた新たなうごめきも始まっている。

協議会の事業は、仕上げ期間に当たるこの2年間はほぼ活動を停止したまま。コロナ感染の広がりによる会合・イベントの開催が困難になり、事業予算の返上を余儀なくされている。現在、終幕に向けて取り組んでいる主事業はやまゆり里山音楽祭の開催(音楽活動部会)、お試し移住の実施(空き家対策部会)、友情の山の生育環境整備(友情の山部会)の3つ。

このうち、音楽祭は二宮町がまん延防止へと移行する中でも、ラディアンなどの使用制限強化を見送ったことにより開催が可能になった。入場者確保などで無理することなく進むよう準備している。お試し移住は多くの人数が関わらないようにし、11、12月に続いて実施する。ただ、最終日の先輩移住者との懇談会は中止する。2月6日(日)にはシンポジウムを計画中。友情の山のヤマユリ、山野草の育成環境整備は今月中に、伝染病枝の除去と下草刈りを2段階に分けて実施する。

このほかの部会は、元気なコミュニティ協議会への引継ぎ、あるいは事業清算に向け作業中。そんな中で、一色小学校区内の子ども会の活動の在り方が新たな地域課題として浮上しており、協議会、自治会が関与する中で方途を見いだせないかについて議論が始まっている。

コミュニティダイニング 無料開放

県住宅供給公社が商店街のコミュニティダイニングの無料で利用できるサービスを始めた。毎週木・金曜日、第4土・日曜日の9時～15時。2月27日(日)まで継続する。希望者、サークルなどは隣接の「湘南お菓子部ICI」で受付手続きを行う。同スペースは無料Wi-Fi、トイレを備えており、4名(各テーブル1名)が利用可能。ただ、マスク着用、食事の禁止、アンケート記入などの約束事がある。無料利用に期限を設けるのは、3月以降に新たな活用計画があるためとみられる。

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

地区内子ども会が連携

「ゲンコミ」に子ども会部会を新設へ

新設の元気なコミュニティ協議会(ゲンコミ)を舞台に、百合が丘子ども会、一色・緑が丘子ども育成会が連携して活動する見通しになった。両会は新年度から地元での活動と並行して新たな協働活動の推進について合意した。ゲンコミは「子ども部会」を設けてこれらを支援する。また、ゲンコミが中心になって子ども会の古紙回収事業を一色・緑が丘にも広げることで一致した。

協議会が加わった3者の合意は、①従来の独自活動のほか、一色小学校区をベースにした連携・一体化活動を検討・推進する ②ゲンコミは子ども部会を新設し、連携・協力による相乗効果発揮を後押しする ③百合が丘子ども会はゲンコミのもとで活動。一色・緑が丘育成会は現体制を続けるが、連携・協力、協働活動について検討し、利点を確認できるものから具体化していく。

3者は今後、両地域の行事・イベントの相互乗り入れ、行事の一体化検討(新入生歓迎会、6年生を送る会など)、新規の協働行事・大型イベントの検討、活動支援者・グループの掘り起こし、役員負担軽減策の検討(SNS活用、役員・役割分担の見直し)などを検討する。今年5月の1年生歓迎会は合同開催することにした。

地区内の子ども会は会員数の減少に直面。百合が丘は10人前後、一色・緑が丘も30人台にとどまっている。



コロナ感染対応もあって活動は停滞し、両者とも上部団体の子育連からの脱会を決めたほど。百合が丘子ども会が長い間手がけてきた古紙回収事業は、ゲンコミが調整役になって一色、緑が丘へ拡大する。新規スタートは5、6月頃を予定。

250人入場・大盛況の音楽祭

2月12日(土)のやまゆり里山音楽祭は大盛況のうちに閉幕した。「ラディアン開館20周年」を記念し、県住宅供給公社の協賛を得て主催する今年度最大のイベントだったが、入場者は想定以上の250人に達した。「久しぶりに音楽を楽しめた」「合唱団の発表がとても良かった」などの声が上がっていた。音楽活動部会は昨年11月から練習を再開。併せて延期になっていた音楽祭の準備をしてきた。神経を使ったのはコロナ対策で、舞台上の人数構成、入場者の把握、安全対策は最後まで時間をかけた。新年度は合唱団を再編成し、秋ごろをめどに2度目の開催を検討中。